

八ヶ坪遺跡(第10地点)

大島遺跡(第3・第4地点)

中島遺跡(第1・第2地点)

人形原遺跡(第1地点)

山家地区圃場整備事業関係  
埋蔵文化財調査報告書

筑紫野市文化財調査報告書第23集

1990

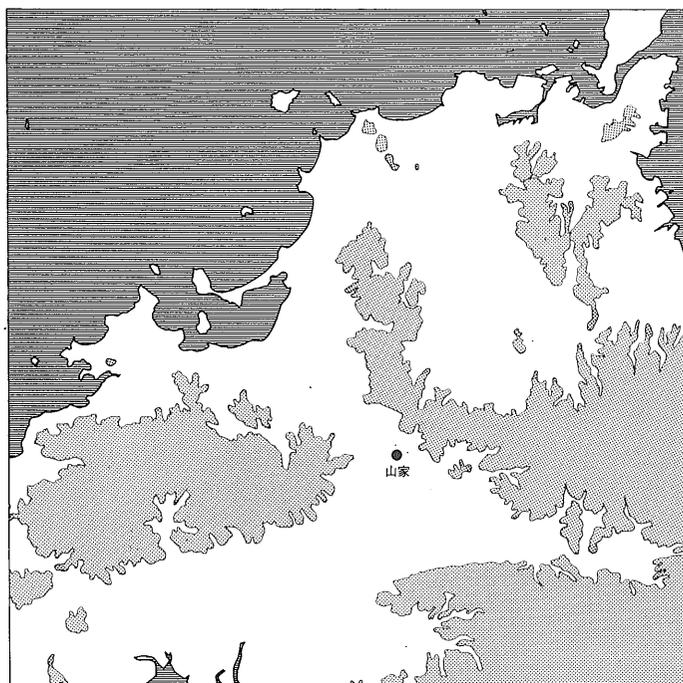
筑紫野市教育委員会

八ヶ坪遺跡(第10地点)

大島遺跡(第3・第4地点)

中島遺跡(第1・第2地点)

人形原遺跡(第1地点)



1990

筑紫野市教育委員会

## 序

本市は福岡市のベッドタウンとして、急速に都市化して行く反面、農業の近代化に伴い、圃場整備事業も進行するという顔をもっています。

今回の山家地区の圃場整備事業につきまして、文化財の予備調査を実施しました所、これまで当市で実施してまいりました御笠地区や西小田地区と同様に、貴重な文化財が包蔵されていることが明らかとなりました。教育委員会では、これらの文化財を後世に残すべく、現況のまま残すことを基本に取り組んでまいりましたが、やむをえず掘削、削平する部分につきましては、発掘調査を実施し、記録を取ることに致しました。この発掘調査の結果、長崎街道の宿場として栄えたこの地域が、一万年以上前から人々が営々と暮らしを立ててきたこと、弥生時代や奈良時代には大きい集落が存在していた事などが明らかになりました。

以上のような発掘調査の成果や文化財の多くが保存できましたのも、関係機関や地元の皆様のご指導、ご協力の賜物と存じ、衷心よりお礼申し上げますと共に、今回の成果が郷土の文化財に対する関心を深める縁ともなれば幸甚に存ずる次第でございます。

平成2年3月31日

筑紫野市教育委員会

教育長 永 渕 正 敏

## 例 言

1. 本書は県営圃場整備事業山家地区に伴い、筑紫野市教育委員会が実施した昭和62・63年度埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. この調査は筑紫野市教育委員会が、国宝重要文化財等保存整備費の補助を受け、不足額について福岡県（福岡農林事務所管）と工事委託協定書を締結し、発掘調査に当たった。
3. 事業名称は山家地区遺跡発掘調査である。
4. 現地での発掘に係る実測・写真撮影は62年度が奥村俊久、向田雅彦、63年度が奥村が担当し、さらに大島遺跡第3地点B・C地区と同第4地点を除く区域は、国際航業株式会社に写真測量を委託した。
5. 出土遺物の実測は土器を森部順子が主に行い、磨製石器を奥村、打製石器を渡辺和子が行った。
6. 製図は森田くみ子が主に実施した。
7. 赤色顔料については本多光子（福岡市埋蔵文化財センター）に分析等をお願いした。
8. 本書の執筆は鉄器を渡辺が、その他を奥村が担当し、編集は奥村が行った。
9. 発掘に際し、ハヶ坪遺跡、大島遺跡等の検出遺構番号を通して付し、また、整理の関係上、住居跡と溝状遺構について遺跡ごとに番号を振りなおした。また中島遺跡についても土壙・土壙墓番号を一部変更した。図面および遺物のナンバーリングとの対照は下記のとおりである。

### 大島遺跡住居跡（S J）

新番号	旧番号	8	32	16	37	24	36	32	14	40	18
1	3	9	28	17	21	25	25	33	17	41	9
2	5	10	27	18	19	26	42	34	18	42	25
3	33	11	26	19	40	27	45	35	12	43	6
4	34	12	23	20	35	28	43	36	11	44	26
5	31	13	24	21	20	29	44	37	7	45	2
6	30	14	22	22	38	30	13	38	8	46	4
7	29	15	39	23	41	31	16	39	10		

### 大島遺跡溝状遺構（S M）

新番号	旧番号	1	SM 4	2	SX 1	3	SX 2	4	SM 5	5	SM 6

以降の番号は変更なし

中島遺跡土墳墓関係 (B D)

新 番 号	旧番号	1 号 木 棺 墓	S D 7	7 号石蓋土墳墓	B D 11	16号石蓋土墳墓	B D 9
1 号 土 墳 墓	S D 1	2 号 木 棺 墓	B D 22	8 号石蓋土墳墓	B D 2	17号石蓋土墳墓	B D 8
2 号 土 墳 墓	S D 2	1号箱式石棺墓	B D 1	9 号石蓋土墳墓	B D 15	18号石蓋土墳墓	B D 11
3 号 土 墳 墓	S D 3	1号石蓋土墳墓	B D 12	10号石蓋土墳墓	B D 17	19号石蓋土墳墓	B D 4
4 号 土 墳 墓	S D 4	2号石蓋土墳墓	B D 13	11号石蓋土墳墓	B D 18	20号石蓋土墳墓	B D 5
5 号 土 墳 墓	S D 8	3号石蓋土墳墓	B D 14	12号石蓋土墳墓	B D 16	21号石蓋土墳墓	B D 6
1 号 住 居 跡	S D 5	4号石蓋土墳墓	B D 23	13号石蓋土墳墓	B D 19	22号石蓋土墳墓	B D 7
1 号 井 戸	S D 6	5号石蓋土墳墓	B D 21	14号石蓋土墳墓	B D 10	23号石蓋土墳墓	B D 24
2 号 井 戸	S D 9	6号石蓋土墳墓	B D 20	15号石蓋土墳墓	B D 3		

## 本文目次

	頁
I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	2
III 八ヶ坪遺跡の調査	9
1. 調査の概要	9
2. 遺構	9
3. 出土遺物	10
IV 大島遺跡の調査	12
1. 調査の概要	12
2. 遺構	12
3. 出土遺物	43
V 中島遺跡の調査	92
1. 調査の概要	92
2. 遺構	97
3. 出土遺物	106
VI 人形原遺跡の調査	110
1. 調査の概要	110
2. 遺構	110
VII 小 結	112
附編 1	115
附編 2	117

## 挿 図 目 次

	頁
第 1 図 山家周辺遺跡分布図	4
第 2 図 八ヶ坪遺跡 1 号住居跡実測図 (縮尺 1/60)	10
第 3 図 八ヶ坪遺跡出土土器実測図 (縮尺 1/3・1/4)	11
第 4 図 大島遺跡 1 号・2 号住居跡実測図 (縮尺 1/60)	13

第5図	大島遺跡3号・5号・6号住居跡実測図 (縮尺1/60)	14
第6図	大島遺跡7号・8号・9号住居跡実測図 (縮尺1/60)	16
第7図	大島遺跡10号・11号・12号住居跡実測図 (縮尺1/60)	17
第8図	大島遺跡17号住居跡実測図 (縮尺1/60)	18
第9図	大島遺跡20号・24号住居跡実測図 (縮尺1/60)	折り込み:19/20
第10図	大島遺跡29号・30号住居跡実測図 (縮尺1/60)	20
第11図	大島遺跡31号・32号住居跡実測図 (縮尺1/60)	21
第12図	大島遺跡35号・36号・37号住居跡実測図 (縮尺1/60)	23
第13図	大島遺跡38号・39号住居跡・39号カマド実測図 (縮尺1/60・1/30)	24
第14図	大島遺跡40号・43号住居跡実測図 (縮尺1/60)	25
第15図	大島遺跡1号掘立柱建物実測図 (縮尺1/60)	28
第16図	大島遺跡1号・2号・4号・5号土壙実測図 (縮尺1/60)	29
第17図	大島遺跡3号土壙実測図 (縮尺1/40)	30
第18図	大島遺跡7号・8号・9号・10号・11号・12号土壙実測図 (縮尺1/40)	32
第19図	大島遺跡13号・14号・15号・18号・19号・20号土壙実測図 (縮尺1/40)	35
第20図	大島遺跡21号・23号・24号・25号・29号土壙実測図 (縮尺1/40)	36
第21図	大島遺跡1号甕棺墓、1号・2号木棺墓実測図 (縮尺1/40)	38
第22図	大島遺跡1号・4号・5号・7号溝状遺構実測図 (縮尺1/30・1/60)	39
第23図	大島遺跡2号・3号溝状遺構実測図 (縮尺1/30・1/60)	40
第24図	大島遺跡12号・13号溝状遺構実測図 (縮尺1/40)	43
第25図	大島遺跡45号・46号・43号・37号・41号・39号・36号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	45
第26図	大島遺跡35号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	46
第27図	大島遺跡31号・21号・17号・13号・11号・7号・6号・5号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	47
第28図	大島遺跡8号・14号・24号・26号・28号・27号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	49
第29図	大島遺跡20号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	折り込み49/50
第30図	大島遺跡20号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	50
第31図	大島遺跡20号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)	51
第32図	大島遺跡2号・3号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)	53
第33図	大島遺跡3号・4号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)	54
第34図	大島遺跡5号・6号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)	56

第35図	大島遺跡 6号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	57
第36図	大島遺跡 7号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	58
第37図	大島遺跡 7号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	折り込み:59/60
第38図	大島遺跡 7号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	60
第39図	大島遺跡 8号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	61
第40図	大島遺跡 9号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	62
第41図	大島遺跡11号・12号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	63
第42図	大島遺跡13号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	64
第43図	大島遺跡15号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	65
第44図	大島遺跡15号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	66
第45図	大島遺跡15号・16号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	67
第46図	大島遺跡21号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	68
第47図	大島遺跡23号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 4)	69
第48図	大島遺跡23号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 4)	70
第49図	大島遺跡23号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 4)	71
第50図	大島遺跡23号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 4)	72
第51図	大島遺跡25号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	73
第52図	大島遺跡27号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	74
第53図	大島遺跡28号・32号・36号土壙出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	76
第54図	大島遺跡 5号・7号・17号・13号・28号溝状遺構出土土器実測図(縮尺 1 / 3)	77
第55図	大島遺跡 2号溝状遺構出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	78
第56図	大島遺跡 2号溝状遺構出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)	79
第57図	大島遺跡ピット出土土器実測図 (縮尺 1 / 4)	80
第58図	大島遺跡 1号甕棺実測図 (縮尺 1 / 8)	81
第59図	大島遺跡車輪文叩き、押形文土器実測図 (縮尺 1 / 2)	81
第60図	大島遺跡土製品実測図 (縮尺 1 / 3)	83
第61図	大島遺跡土製品実測図 (縮尺 1 / 2)	83
第62図	大島遺跡石器実測図 (縮尺 1 / 2)	84
第63図	大島遺跡石器実測図 (縮尺 1 / 3)	11
第64図	大島遺跡石器実測図 (縮尺 1 / 1)	85
第65図	大島遺跡鉄器実測図 (縮尺 1 / 2)	85
第66図	中島遺跡住居跡実測図 (縮尺 1 / 30)	98
第67図	中島遺跡井戸実測図 (縮尺 1 / 30)	99

第68図	中島遺跡土墳墓・木棺墓実測図（縮尺1／30）	100
第69図	中島遺跡甕棺墓実測図（縮尺1／20）	101
第70図	中島遺跡箱式石棺墓・石蓋土墳墓実測図（縮尺1／30）	102
第71図	中島遺跡石蓋土墳墓実測図（縮尺1／30）	103
第72図	中島遺跡石蓋土墳墓実測図（縮尺1／30）	104
第73図	中島遺跡石蓋土墳墓実測図（縮尺1／30）	105
第74図	中島遺跡石蓋土墳墓実測図（縮尺1／30）	106
第75図	中島遺跡出土土器実測図（縮尺1／3）	107
第76図	中島遺跡1号甕棺実測図（縮尺1／8）	108
第77図	中島遺跡出土石器実測図（縮尺1／1）	109
第78図	人形原木棺墓・土墳墓実測図（縮尺1／40）	111
第79図	山家圃場整備地域小字図	折り込み118／図版

## 図 版 目 次

図版 1	山家地区航空写真
図版 2	八ヶ坪遺跡 2号溝状遺跡／八ヶ坪遺跡 1号住居跡
図版 3	大島遺跡第 3 地点 A 地区／大島遺跡第 3 地点 B・C 地区
図版 4	大島遺跡第 4 地点
図版 5	大島遺跡 1号住居跡／大島遺跡 2号住居跡
図版 6	大島遺跡 6号住居跡／大島遺跡 5号住居跡
図版 7	大島遺跡 7号住居跡／大島遺跡 8号住居跡
図版 8	大島遺跡 9号住居跡／大島遺跡10号住居跡
図版 9	大島遺跡11号住居跡／大島遺跡13号住居跡
図版10	大島遺跡17号住居跡／大島遺跡20号住居跡
図版11	大島遺跡20号住居跡／大島遺跡23号住居跡
図版12	大島遺跡24号住居跡／大島遺跡29号住居跡
図版13	大島遺跡30号住居跡／大島遺跡31号住居跡
図版14	大島遺跡33号住居跡／大島遺跡35号住居跡
図版15	大島遺跡36号住居跡／大島遺跡37号住居跡
図版16	大島遺跡39号住居跡／大島遺跡43号住居跡
図版17	大島遺跡 1号掘立柱建物／ 1号甕棺墓／ 1号土墳

- 図版18 大島遺跡2号土壙／大島遺跡6号土壙／大島遺跡7号土壙
- 図版19 大島遺跡8号土壙／大島遺跡10号土壙／大島遺跡11号土壙
- 図版20 大島遺跡12号土壙／大島遺跡14号土壙／大島遺跡15号土壙
- 図版21 大島遺跡18号土壙／大島遺跡27号土壙／大島遺跡23号土壙
- 図版22 大島遺跡1号貯蔵穴／1号木棺墓／2号木棺墓
- 図版23 大島遺跡12号溝状遺構／大島遺跡12号・13号溝状遺構／大島遺跡1号溝状遺構断面
- 図版24 大島遺跡2号溝状遺構遺物出土状況／大島遺跡2号溝状遺構断面／大島遺跡3号溝状遺構
- 図版25 大島遺跡4号・5号溝状遺構／大島遺跡4号溝状遺構断面／大島遺跡5号溝状遺構断面
- 図版26 大島遺跡出土土器 (4・6・7・8・20・21・22・26・27・32)
- 図版27 大島遺跡出土土器 (34・35・39・43・44・45・46・48・49・50)
- 図版28 大島遺跡出土土器 (51・52・53・54・55・59・69・68)
- 図版29 大島遺跡出土土器 (70・71・72・74・89・90・96・103・110・117・120・122・126・136・140・142)
- 図版30 大島遺跡出土土器 (143・148・165・177・188・198・202・205・206・209・222・226)
- 図版31 大島遺跡出土土器 (229・230・231・235・237・239)
- 図版32 大島遺跡出土土器 (58・240・242・243・244・245)
- 図版33 大島遺跡出土土器 (282・303・308・309・312・310・313)
- 図版34 大島遺跡出土土製品
- 図版35 大島遺跡出土石器
- 図版36 中島遺跡1号住居跡／中島遺跡1号井戸／中島遺跡2号井戸
- 図版37 中島遺跡1号土壙墓／中島遺跡2号土壙墓／中島遺跡3号土壙墓
- 図版38 中島遺跡4号土壙墓／中島遺跡1号木棺墓／中島遺跡5号土壙墓
- 図版39 中島遺跡2号木棺墓／中島遺跡石蓋土壙墓群／中島遺跡1号甕棺墓
- 図版40 中島遺跡1号箱式石棺墓 (検出状況)／中島遺跡1号箱式石棺墓 (内部状況)／中島遺跡1号石蓋土壙墓
- 図版41 中島遺跡2号石蓋土壙墓／中島遺跡3号石蓋土壙墓／中島遺跡4号石蓋土壙墓
- 図版42 中島遺跡5号石蓋土壙墓／中島遺跡6号石蓋土壙墓／中島遺跡7号石蓋土壙墓
- 図版43 中島遺跡8号石蓋土壙墓／中島遺跡9号石蓋土壙墓／中島遺跡10号石蓋土壙墓
- 図版44 中島遺跡11号石蓋土壙墓／中島遺跡12号石蓋土壙墓／中島遺跡13号石蓋土壙墓

- 図版45 中島遺跡14号石蓋土壙墓／中島遺跡15号石蓋土壙墓（検出状況）／中島遺跡15号石蓋土壙墓（内部状況）
- 図版46 中島遺跡16号石蓋土壙墓／中島遺跡17号石蓋土壙墓／中島遺跡18号石蓋土壙墓
- 図版47 中島遺跡19号石蓋土壙墓／中島遺跡20号石蓋土壙墓／中島遺跡21号石蓋土壙墓
- 図版48 中島遺跡22号石蓋土壙墓／中島遺跡23号石蓋土壙墓（検出状況）／中島遺跡23号石蓋土壙墓（内部状況）
- 図版49 中島遺跡1号甕棺上・下
- 図版50 人形原遺跡全景／人形原遺跡1号・2号木棺墓

## 付 図 目 次

- 付図1 山家地区圃場整備事業地内発掘調査地点（縮尺1／3,000）
- 付図2 八ヶ坪遺跡第10地点遺構配置図（縮尺1／200）
- 付図3 大島遺跡第3地点遺構配置図－A地区・B地区・C地区－（縮尺1／200）
- 付図4 大島遺跡第3地点遺構配置図－D地区－（縮尺1／200）
- 付図5 大島遺跡第3地点遺構図－D地区－（縮尺1／100）
- 付図6 大島遺跡第3地点遺構配置図－E地区－（縮尺1／200）
- 付図7 大島遺跡第4地点遺構配置図①（縮尺1／200）
- 付図8 大島遺跡第4地点遺構配置図②（縮尺1／200）
- 付図9 中島遺跡遺構配置図①（縮尺1／200）
- 付図10 中島遺跡遺構配置図②（縮尺1／200）
- 付図11 中島遺跡石蓋土壙墓群遺構配置図（縮尺1／40）
- 付図12 人形原遺跡遺構配置図（縮尺1／200）

# I 調査に至る経過

山家地区の県営圃場整備事業は事業地が筑紫野市と朝倉郡夜須町にまたがっている。圃場整備事業自体の主管は事業計画の経緯から筑紫野市が実施したが、文化財の措置については両市町が個別に対応することとなった。予備調査の結果を踏まえ、文化財の包蔵地は基本的には盛土を実施し保存することとし、水路及び区画の上でやむおえず削平される部分について発掘調査を実施した。筑紫野市側の発掘調査は昭和60年度から筑紫野市教育委員会を調査主体とし発掘調査を開始した。昭和60年度は八ヶ坪遺跡の内2地点、昭和61年度は昭和62年度発掘調査予定地の予備調査を実施した。昭和62年度は当初八ヶ坪遺跡と大島遺跡付近の水路予定地1,200㎡を実施する予定であったが、調査途中で圃場整備事業計画が変更となり次年度以降に予定されていた水路の延長部分さらにその北側の削平部分6,300㎡を調査した。昭和63年度は予定地東側の丘陵裾部6,564㎡を調査した。発掘調査にかかる予算は国庫補助金を当て、昭和62・63年度は更に県農林事務所と協定書を締結し、費用の提供を受けた。

なお、調査組織は下記のとおりである。

## ●昭和62年度

総括	筑紫野市教育委員会	教育長		松田康男
庶務	筑紫野市教育委員会	社会教育課	課長	山村茂
		社会教育課	文化財係	係長 山野洋一
		社会教育課	文化財係	主事 奥村俊久
発掘調査	筑紫野市教育委員会	社会教育課	文化財係	主事 奥村俊久
			嘱託	向田雅彦

## ●昭和63年度

総括	筑紫野市教育委員会	教育長		松田康男（前任）
		教育長		永淵正敏（現任）
庶務	筑紫野市教育委員会	社会教育課	課長	川原孝之
		社会教育課	文化財係	係長 山野洋一
		社会教育課	文化財係	主事 奥村俊久
発掘調査	筑紫野市教育委員会	社会教育課	文化財係	主事 奥村俊久

## Ⅱ 位置と環境 (第1図・附図1)

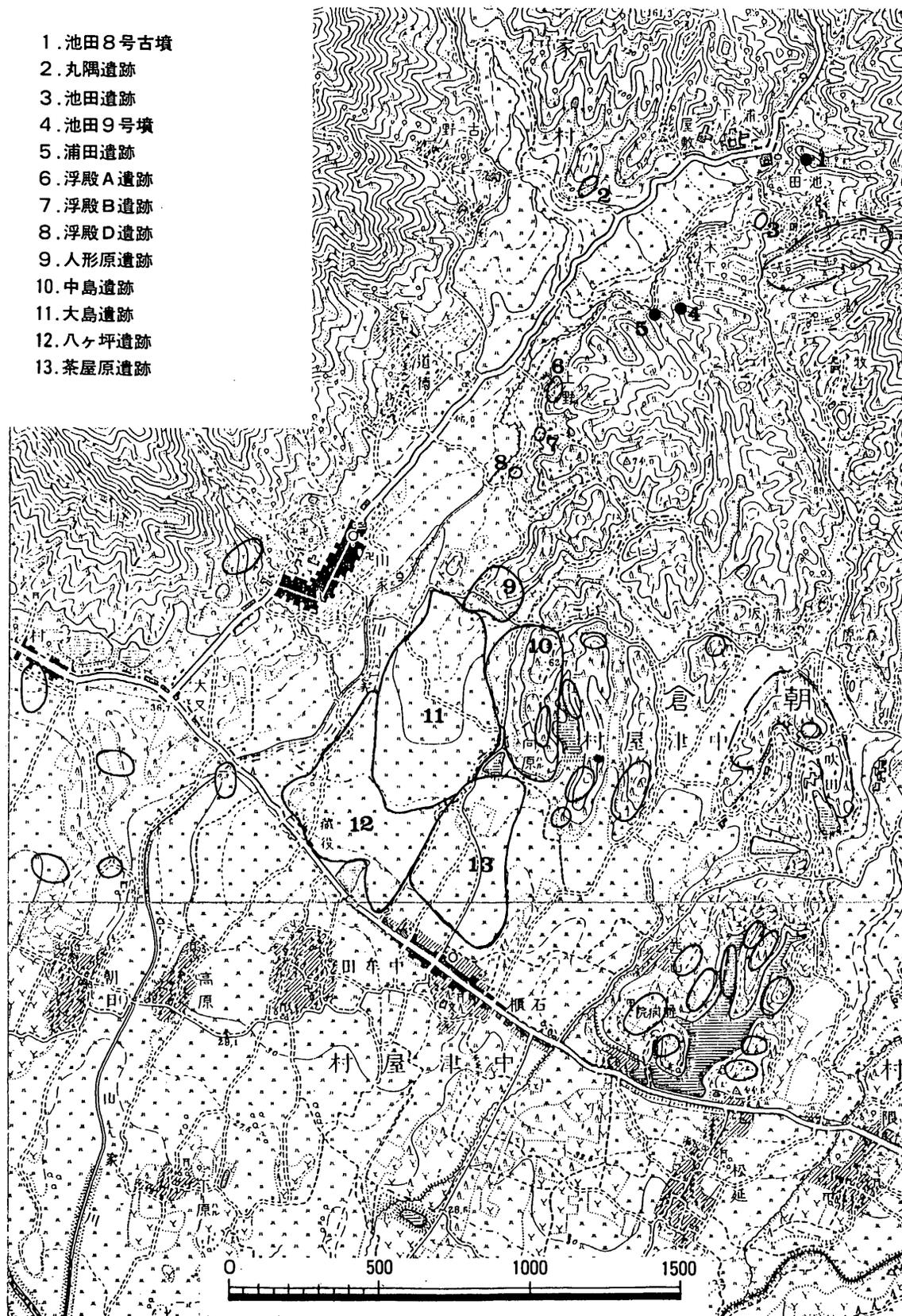
筑紫野市は、福岡市と久留米市のほぼ真中に位置し、筑後国と肥前国と境を接す。西に背振山塊、東に三郡山塊が迫り、その間に狭長な筑紫野の平野があり、古くから交通の要衝であった。市内の北西には鷺田川が流れ、御笠川と合流して博多湾に注ぐ。東には筑紫平野北部を潤し、筑後川と合流して有明海に注ぐ宝満川がある。宝満川やその支流沿いには数多くの遺跡が所在する。宝満川上流域では蘆城駅家と推定される遺構群や、弥生時代後期から古墳時代初頭を主体とした集落跡が検出された御笠地区遺跡、兩岸の山麓には割竹形木棺の中より鏡片や29本の銅鏃や鉄剣、鉄鏃、鉄斧、鉄鋸等が出土した阿志岐古墳群B群26号墳をはじめとして数多くの古墳群が分布する。弥生時代終末から古墳時代前半の集落跡と考えられる日焼遺跡を東に見ながら下ると、やがて常松遺跡の東で九千部山に源を発す山口川と合流する。ここで川は南から南東の方向に流れを変える。さらに3 kmほど下ると、首長墓クラスの甕棺墓をはじめ弥生時代から近世までの遺跡が確認された隈・西小田遺跡と、やはり首長墓クラスの甕棺墓が発見された夜須町峰遺跡のほぼ中間で山家川と合流する。この川岸には12世紀代を中心とする時期の豪族の居館跡と考えられる遺跡の一部も調査されている。宝満川は曾根田川との合流部からまた流れを南に変え、その流域には津古から三沢にいたる大遺跡群がある。

宝満川と同じように、大根地山(662m)、宮地岳(337m)を挟み、宝満川上流域の東側をほぼ平行して流れる山家川流域も数多くの遺跡が所在する(第1図)。山家川は山家冷水道沿いに下り、沖積平野を形成しつつ、筑前六宿のひとつである山家宿の東側を流れ、福岡平野から筑紫平野へ続く平野部へ出るとほどなく宝満川と合流する。遺跡は山家川中流域に多く分布し、河岸段丘上には特に集中してみられる。近年この地域にも開発の波が押し寄せ、数多くの発掘調査が実施されるに至った(表1)。国道200号バイパス建設に伴う発掘調査において、この地域では大島遺跡、八ヶ坪遺跡という遺跡の発掘調査がなされていたものの、昭和60年度の圃場整備事業に伴う発掘調査や送電線鉄塔建設に伴う発掘調査、また地形の状況から周辺一帯に埋蔵文化財が包蔵されていると推定され、当時、この地域全体を筑紫野市教育委員会では山家地区遺跡とし、各調査地点に通し番号を付していた。しかし、この流域が筑紫野市と夜須町にまたがるため、調査組織や調査地点の行政区域の違いによって、遺跡名が異なる等の混乱が生じて来た。このため、福岡県教育庁北筑後教育事務所、筑紫野市教育委員会、夜須町教育委員会による協議を実施し、本報告の調査結果も含めたその後の調査結果を踏まえて、遺跡名称の統一を図った(図2)。この詳細は本報告の内容も拘るため後段に譲ることとする。

註

- 註1 【御笠地区遺跡】 筑紫野市文化財調査報告書第15集 1986 筑紫野市教育委員会
- 註2 【阿志岐古墳群Ⅱ】 筑紫野市文化財調査報告書第12集 1985 筑紫野市教育委員会
- 註3 【阿志岐シメノグチ遺跡】 筑紫野市文化財調査報告書第1集 1972 筑紫野市教育委員会  
【杉の谷古墳群】 筑紫野市文化財調査報告書第2集 1979 筑紫野市教育委員会  
【阿志岐古墳群】 筑紫野市文化財調査報告書第7集 1982 筑紫野市教育委員会  
小田富士男 【西日本における発生期古墳の地域相】『古文化談叢』1987 九州古文化研究会
- 北九州—
- 註4 【日焼遺跡】 筑紫野市文化財調査報告書第20集 1989 筑紫野市教育委員会
- 註5 【福岡県筑紫郡筑紫野町常松遺跡調査報告書】 別府大学考古学研究報告書第1集 1970 別府大学文学部
- 註6 【国道200号線バイパス関係埋蔵文化財調査概報】 福岡県文化財調査報告書第67集 1984 福岡県教育委員会  
限・西小田区画整理事業に伴い筑紫野市教育委員会を調査主体として昭和58年から本調査を実施している。
- 註7 【峰遺跡】 現地説明会パンフレット 夜須町教育委員会 1985
- 註8 【冷水バイパス関係埋蔵文化財調査報告】 1982 福岡県教育委員会
- 註9 【八ヶ坪遺跡】 筑紫野市文化財調査報告書第22集 1989 筑紫野市教育委員会
- 註10 【山家地区遺跡】 筑紫野市文化財調査報告書第19集 1987 筑紫野市教育委員会

1. 池田8号古墳
2. 丸隅遺跡
3. 池田遺跡
4. 池田9号墳
5. 浦田遺跡
6. 浮殿A遺跡
7. 浮殿B遺跡
8. 浮殿D遺跡
9. 人形原遺跡
10. 中島遺跡
11. 大島遺跡
12. 八ヶ坪遺跡
13. 茶屋原遺跡



第1図 山家周辺遺跡分布図 (縮尺1/25,000)

表1

番号	遺 跡 (地点) 名	所 在 地	遺 跡 の 内 容	調 査	文 献
1	池田 8 号古墳	筑紫野市大字山家 3304-1	円墳 (7.2~7.9m) 単室 横穴石室 6世紀後半	福岡県教委 バイパス関係 昭和56年3月	①
2	池田遺跡	筑紫野市大字山家 3442-2	縄文時代早~前期 歴史時 代 不整土壇・ピット群	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年6~7月	①
3	池田 9 号古墳	筑紫野市大字山家 3720-3	円墳	福岡県教委 バイパス関係 昭和57年3月	①
4	浮殿 A 遺跡	筑紫野市大字山家 3686-4 -5	古墳時代 箱式石棺 2 基 中世代 地下式横穴 1 覆 石土壇墓 1	福岡県教委 バイパス関係 昭和56年11~12月	① 未報
5	浮殿 B 遺跡	筑紫野市大字山家4100	縄文時代後・晩期 土器片 時期不明 (中世代) 地下 式横穴 1	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年9月 昭和56年7月	①
6	浮殿 C 遺跡	筑紫野市大字山家4113	中世以降の小道	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年9~10月	①
7	浮殿 D 遺跡	筑紫野市大字山家4114 4116	縄文時代後・晩期 弥生時 代中期 土器 石器 奈良時代末~平安時代初頭 掘立柱建物 1 土壇 3 ピット群	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年10~12月	①
8	大島遺跡	筑紫野市大字山家4178 4180-3 4181	縄文時代後期 土器・石器 片 弥生時代前期~中期 竪穴 式住居跡 4 貯蔵穴49 土 壇14 竪穴 2 溝 1	福岡県教委 バイパス関係 昭和56年6~8月	①
9	八ヶ坪遺跡 第1地点 (八ヶ坪遺跡)	朝倉郡夜須町大字中牟 田字八ヶ坪	弥生時代後期 溝 3 古墳時代中期 竪穴式住居 跡 2 古墳時代以降 溝 4 時代不明 溝 1	福岡県教委 バイパス関係 昭和55年7~10月	①
10	浦田遺跡	筑紫野市大字山家3720	時期不明の石組施設内蔵の マウンド状遺構 (径10m)	筑紫野市教委 鉄塔関係 昭和63年10月	②

番号	遺跡(地点)名	所在地	遺跡の内容	調査	文献
11	大島遺跡 第2地点 (山家地区遺跡 第3地点)	筑紫野市大字山家 4176-1 -6	弥生時代前期～中期 竪穴 式住居跡4 貯蔵穴4 土 壙15 木棺墓3 中期甕棺 墓26 古墳時代前期～中期 竪穴 式住居跡4 縄文時代早期～前期 後期 ～晩期 土器 石器	筑紫野市教委 鉄塔関係 昭和61年2～5月	③
12	八ヶ坪遺跡 第5地点 (山家地区遺跡 第4地点)	筑紫野市大字山家 4191-2 4192-22 -27 -28	縄文時代前期～晩期 土器 片 時期不明 土壙1 溝2	筑紫野市教委 鉄塔関係 昭和61年1月	③
13	坂井田遺跡 A地点	朝倉郡夜須町大字朝日 字坂井田	古墳時代前・後期 奈良時 代 土壙 ピット群 時期不明 溝1	夜須町教委 鉄塔関係 昭和62年4月	④
14	宮ノ上遺跡	朝倉郡夜須町大字朝日 字宮ノ上	弥生時代後期～終末 竪穴 式住居跡12 掘立柱建物12 円形周溝遺構	夜須町教委 鉄塔関係 昭和62年度	未報
15	丸隈遺跡	筑紫野市大字山家 1906-1	中世代 土壙1 ピット群	筑紫野市教委 宅地関係 昭和61年5～6月	⑥
16	人形原遺跡	筑紫野市大字山家	弥生時代 木棺墓1 土壙 墓1	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和62年	本書
17	中島遺跡第2地点	筑紫野市大字山家	弥生時代終末 石蓋土壙墓 23 箱式石棺墓1 甕棺墓 1 奈良時代 竪穴式住居跡1	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和63年	本書
18	中島遺跡第1地点	筑紫野市大字山家	時期不明 畝状遺構 ピッ ト群	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和62年	本書
19	大島遺跡第3地点	筑紫野市大字山家	弥生時代中期前半代 竪穴 式住居跡 土壙 奈良時代 土壙 掘立柱建物	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和62年	本書
20	八ヶ坪遺跡第10地点	筑紫野市大字山家	弥生時代終了～古墳時代初 頭 竪穴式住居跡	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和62年	本書

番号	遺 跡 (地点) 名	所 在 地	遺 跡 の 内 容	調 査	文献
21	大島遺跡第4地点	筑紫野市大字山家	時期不明 ピット群	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和62年	本書
22	八ヶ坪遺跡 第6地点 (山家地区遺跡 第1地点)	筑紫野市大字山家 3930-1 3931-1 4188-1 4189-1 8299 9161	弥生時代後期～終末 竪穴 式住居跡18 掘立柱建物5 古墳時代中期 竪穴式住居 跡5 時期不明 土壙2 溝5 竪穴式住居跡4	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和60年9～12月	⑨
23	八ヶ坪遺跡 第7地点 (山家地区遺跡 第2地点)	筑紫野市大字山家 4186-2 4187-1 4190-1 4190-2 4192-1	古墳時代後期～奈良時代 溝28 土壙8 不明遺構4 時期不明 ピット群	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和60年8～9月	⑨
24	八ヶ坪遺跡 第8地点 (サヤノ本遺跡)	朝倉郡夜須町大字朝日 字サヤノ本	弥生時代後期末～古墳時代 前期 竪穴式住居跡 土壙 溝 ピット群	夜須町教委 圃場整備関係 昭和60年6～8月	未報
25	八ヶ坪遺跡 第9地点 (坂ノ下遺跡?)	朝倉郡夜須町大字朝日 字坂ノ下 (大字中牟田字八ヶ 坪?)	弥生時代後期末～古墳時代 前期 竪穴式住居跡 掘立 柱建物 溝	夜須町教委 圃場整備関係 昭和60年6～8月	未報
26	坂井田遺跡 B地点	朝倉郡夜須町大字朝日 字坂井田	弥生時代後期～古墳時代中 期 竪穴式住居跡5 掘立 柱建物1 弥生時代終末～古墳時代初 頭 方形周溝墓4	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年度	未報
27	八ヶ坪遺跡 第2地点 (八ヶ坪遺跡 A地 点)	朝倉郡夜須町大字中牟 田字八ヶ坪	弥生時代終末 掘立柱建物 1 大溝2 古墳時代前期 土壙5 弥生時代～平安時代 溝11	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年4～5月	⑤
28	八ヶ坪遺跡 第3地点 (八ヶ坪遺跡 B地 点)	朝倉郡夜須町大字中牟 田字八ヶ坪	弥生時代前期～中期 大溝 1 時期不明 溝7	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年4～5月	⑤
29	八ヶ坪遺跡 第4地点 (八ヶ坪遺跡 C地 点)	朝倉郡夜須町大字中牟 田字徳生毛	時期不明 土壙1 溝4	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年4～5月	⑤

番号	遺 跡 (地点) 名	所 在 地	遺 跡 の 内 容	調 査	文献
30	茶屋原遺跡 第1地点	朝倉郡夜須町大字中牟田字茶屋原	弥生時代終末 竪穴式住居跡1 溝1 古墳時代中期 竪穴式住居跡6 中世代 井戸1 時期不明 土墳墓1 土墳11 溝10	夜須町教委 圃場整備関係 昭和63年5～8月	⑦
31	茶屋原遺跡 第2地点	朝倉郡夜須町大字中牟田字井科字楠木町	時期不明 溝8	夜須町教委 圃場整備関係 昭和63年5～8月	⑦
32	茶屋原遺跡 第3地点	朝倉郡夜須町大字中牟田字鯉ヶ淵	弥生時代終末 竪穴式住居跡1 古墳時代中期 竪穴式住居跡1 中世代 溝7 時期不明 土墳2	夜須町教委 圃場整備関係 昭和63年5～8月	⑦
33	杓野遺跡	朝倉郡夜須町大字中牟田字杓野/字長田	弥生時代後期後半 竪穴式住居跡29 掘立柱建物3 弥生時代終末 溝1 平安時代～鎌倉時代 溝3	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年11～12月	未報
34	下杓野遺跡	朝倉郡夜須町大字中牟田字下杓野	弥生時代後期～古墳時代初頭 竪穴式住居跡70 掘立柱建物3 古墳時代前期 方形周溝墓1 中世代 溝2 井戸1 時期不明 周溝状遺構3	夜須町教委 圃場整備関係 昭和61年1～12月	未報

## Ⅲ 八ヶ坪遺跡の調査

### 1. 調査の概要 (附図1)

発掘調査は対象地の性格上幅4mのトレンチ状を呈せざるをえないが、この調査地点を「八ヶ坪遺跡第10地点」とする。

調査対象地の北部、大島遺跡との境近くに南東に開く谷が認められ、遺構はこの南側に認められる。住居跡は2軒、溝状遺構2条、その他ピットが検出された。全般に遺構の依存度は低い。

### 2. 遺 構

#### (1) 住居跡

##### 1号住居跡 (第2図)

方形プランを呈す竪穴式住居跡で、約1/3ほどを発掘した。確認しえた一辺は4.8mを測る。検出した部分の中央に柱穴があり、主柱穴は2本と考えられる。又東側と南側の2辺にはベット状遺構が認められ、南側のものが5cmほど低くなっている。

##### 2号住居跡

1号住居跡の北東に隣接して検出された住居跡である。残りが極めて悪く、方形を呈すプランの1コーナーしか確認し得なかった。

#### (2) 溝状遺構

##### 1号溝状遺構

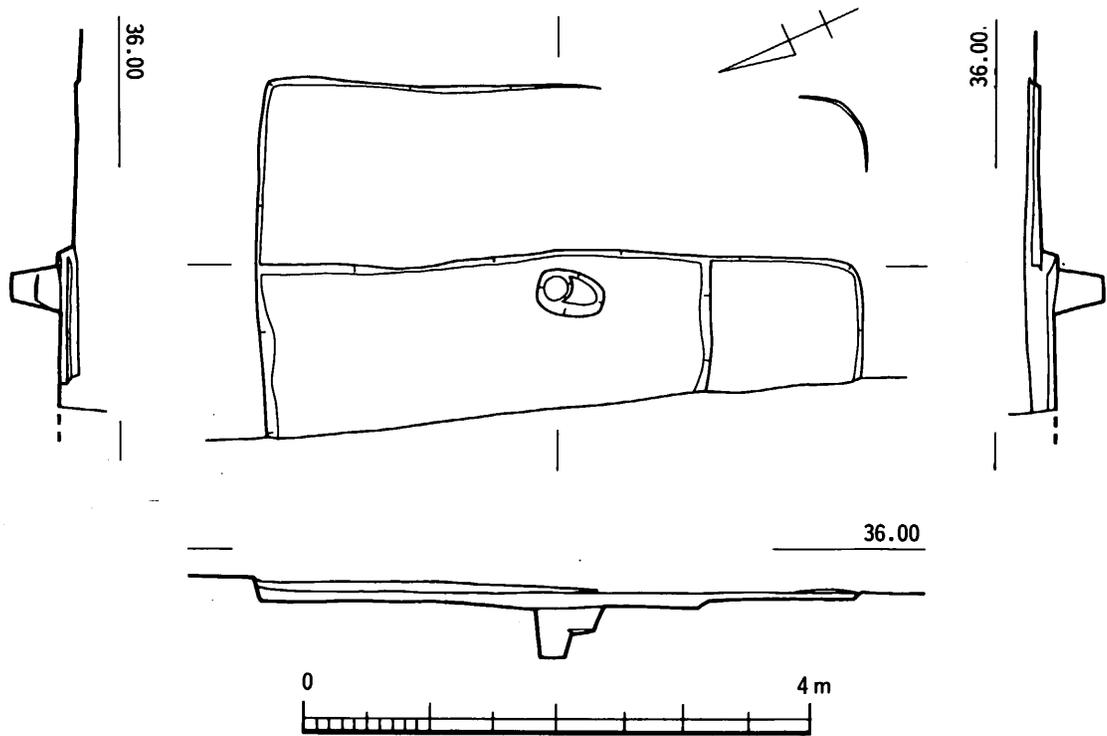
ほぼ南北に延びる溝状遺構で、僅かに弧を描く。深さ35cmほどで、埋土は砂質土であった。

##### 2号溝状遺構

主軸は真北から1°ほど西に振る。遺構底部の比高差は南端が北端より5cmほど低くなっている。断面は逆台形を呈し、深さは20~30cmほどである。

##### 3号溝状遺構

北東から南西にやや蛇行して延びる溝状遺構である。底部両端の比高差は25cmほどあり、断面はU字状を呈す。埋土は青灰色粘質土(耕作土)である。



第2図 1号住居跡実測図 (縮尺1/60)

### 3. 出土遺物

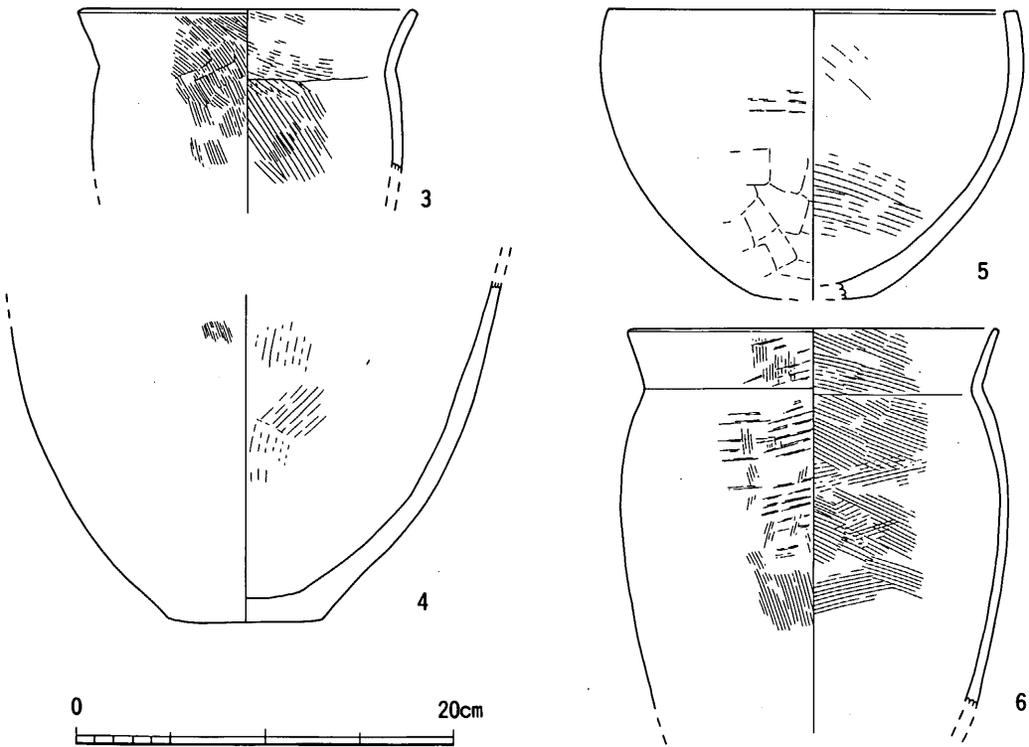
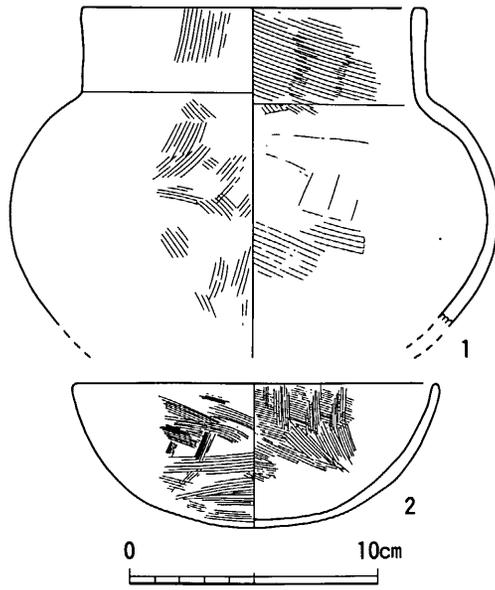
#### (1) 土器 (第3図)

##### 1号住居跡

1は単頸壺で口縁部から胴部にかけての1/3程が依存する。口縁部は直立し、胴~底部にかけて球形を呈すと思われる。2は鉢で、半球状を呈す。

##### ピット

3は7号ピット出土の甕である。口頸部は大きく開く「く」字状を呈し、胴部の張りは弱い。4は10号ピットから出土した。長胴の壺の下半部と思われる。5は13号ピットから出土した鉢で、体部上半から口縁部にかけて内彎して立ち、底部は緩やかに弧を描いて収まる。体部上半には僅かに叩き痕が残り、下半はヘラ削りされる。6は36号ピットから出土した甕である。口頸部は大きく開く「く」字状を呈し、胴部はやや高い位置で張る。



第3図 出土土器実測図 (縮尺1/3・1/4)

## IV 大島遺跡の調査

### 1. 調査の概要 (附図3～8/図版3・4)

「ハヶ坪遺跡第10地点」に続き発掘調査した部分を「大島遺跡第3地点」とし、東を平行して調査した部分を「大島遺跡第4地点」とする。

大島遺跡第3地点は南側で標高38.8mほどの平坦な面を有し、この部分(A地区)に住居跡等を検出した。この部分は約50mほどで途切れ、谷状を呈す地形に移る。この部分(B地区)は95mほど続き、最も低いところで標高37.5mほどで、95mほど続く。遺構としては溝状遺構が見られる。その北側はまた高くなり、80mに渡って標高39.5～40.1mの地形が続く(C地区)。住居跡、土壌が検出されたが、遺構の密度は高くないようである。ここから北はさらに一段高くなる。この部分(D地区)に住居跡をはじめ遺構の集中が著しい。標高は40.6～42mを測る。この北はまた低くなり(E地区)遺構もみられない。この低位部が大島遺跡と遺跡を分ける地域と考えられる。

また、大島遺跡第4地点は小ピットと溝状遺構が僅かに検出されたにとどまる。

### 2. 遺 構

#### (1) 住居跡

##### 1号住居跡 (第4図/図版5)

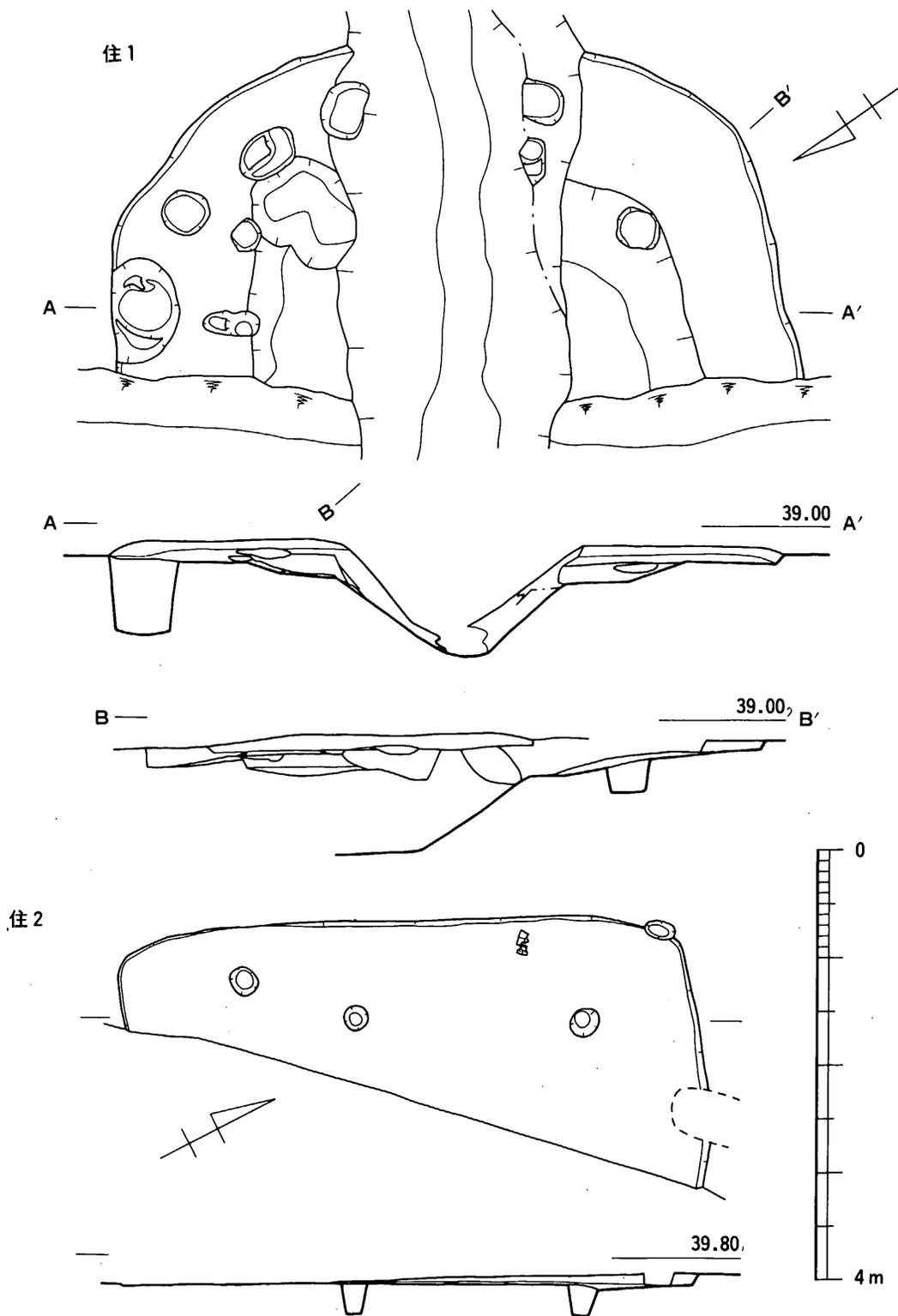
A地区の南部で検出した円形プランを呈す竪穴式住居跡である。西半は失われ、中央部は4号溝状遺構に切られる。直径は南西―北東で6.4mを測る。壁高は5～10cmで、壁下から80～130cmほどの所から更に一段低くなる。

##### 2号住居跡 (第4図/図版5)

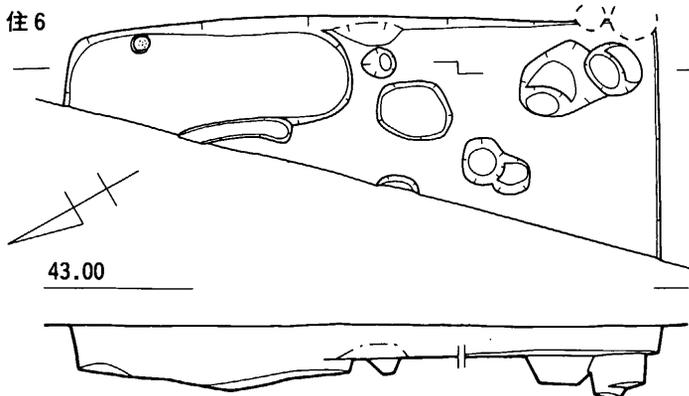
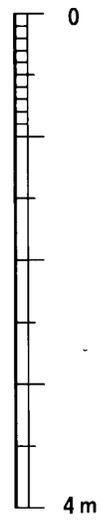
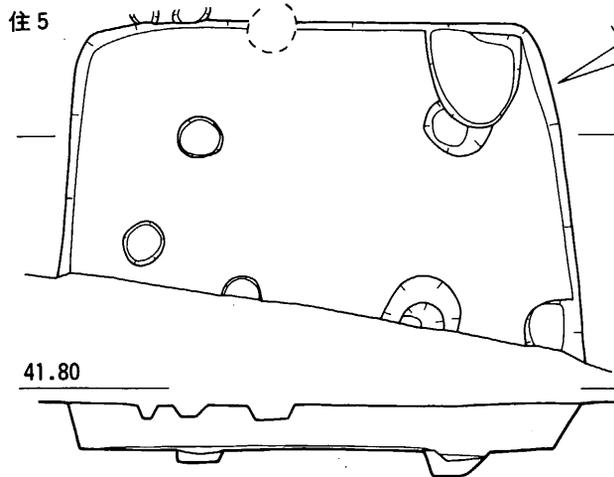
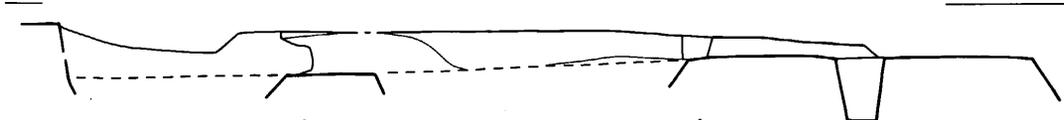
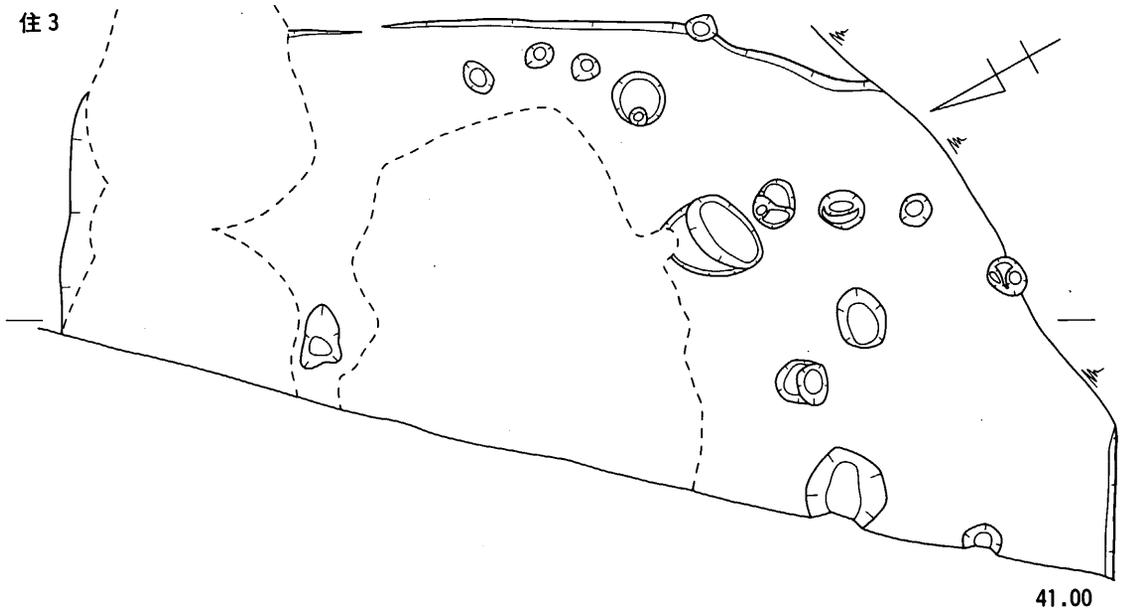
D地区の南端で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。住居跡の一辺を残し、その2/3は調査対象地外にある。検出した一辺は約5.3mを測るが、総じて住居跡の残りは悪く、最もよく残っている壁高でも8cmほどである。

##### 3号住居跡 (第5図)

E地区の南端で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。23号・24号・25号土壌を切る。住居跡の南隅は失われ、西半は調査対象地外へ延びる。



第4图 1号·2号住居跡実測图 (縮尺1/60)



第5図 3号・5号・6号住居跡実測図 (縮尺1/60)

#### 4号住居跡

3号住居跡の東隣で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。住居跡の大半が調査対象地外に延びるが、確認された一辺は4.4mを測る。

#### 5号住居跡（第5図／図版6）

3号住居跡の北側で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。住居跡の半分近くが調査対象地外に延びる。住居跡はやや小振りで、検出した一辺は3.7mを測る。壁高は35cm前後である。柱穴は浅いが4本と推定される。

#### 6号住居跡（第5図／図版6）

5号住居跡の北隣で検出した竪穴式住居跡である。東壁以外の大半が調査対象地外に延びる。東壁は4.7mを測り、壁高は25cm前後である。東隅に幅80cm足らずの壁溝が認められる。

#### 7号住居跡（第6図／図版7）

6号住居跡の東隣で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。住居跡の半分近くが調査対象地外に延びる。住居跡はやや小振りで、検出した一辺は約4.4mを測る。壁高は5～10cm前後で、残りはあまりよくない。

#### 8号住居跡（第6図／図版7）

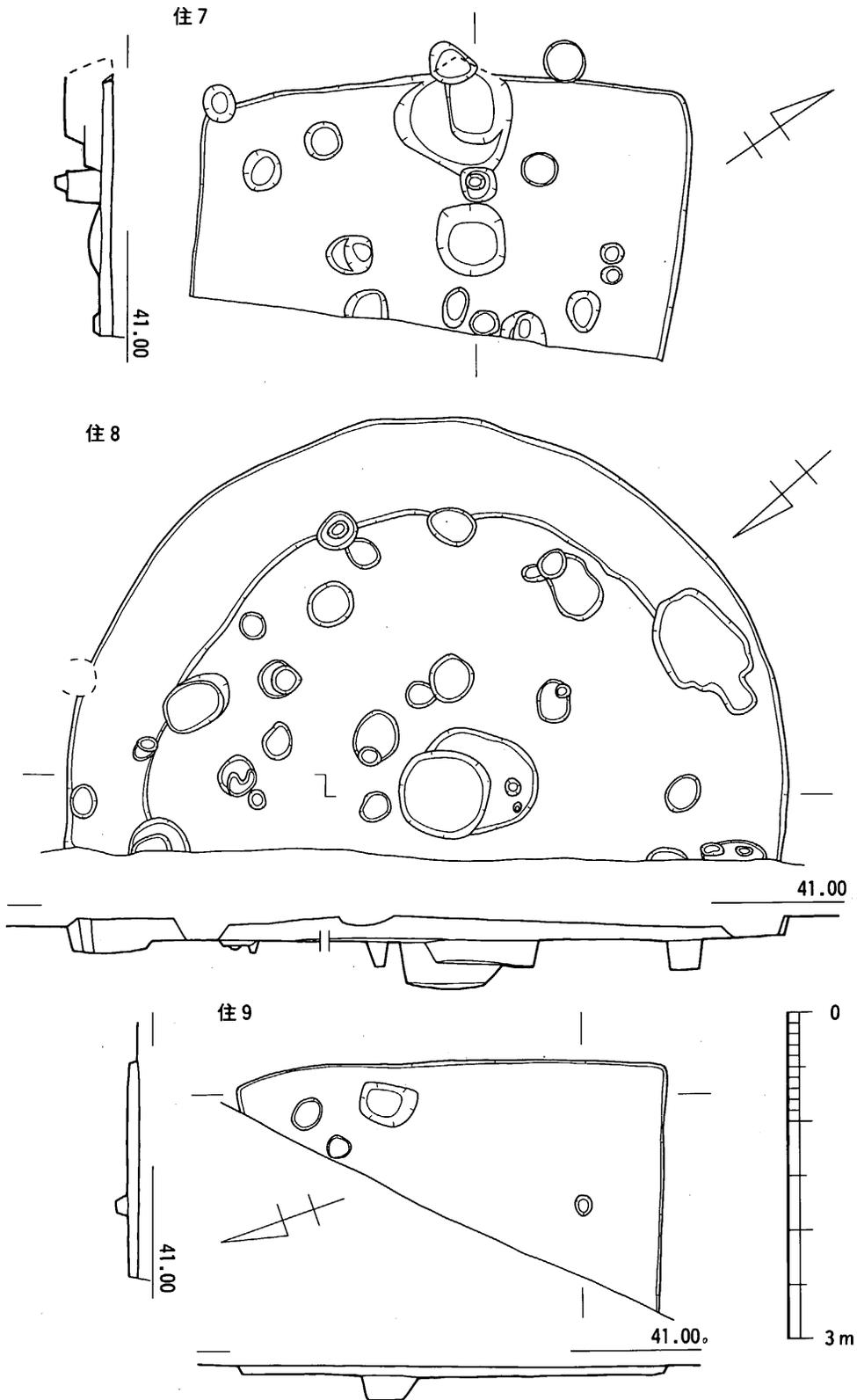
7号住居跡に切られる円形プランの竪穴式住居跡で、住居跡の半分近くが調査対象地外に延びる。壁下には壁溝が掘られ、そこからやや中央よりに柱穴が巡る。中央土壙は長さ40cm、深さ40cmほどの円形に近い方形を呈す。

#### 9号住居跡（第6図／図版8）

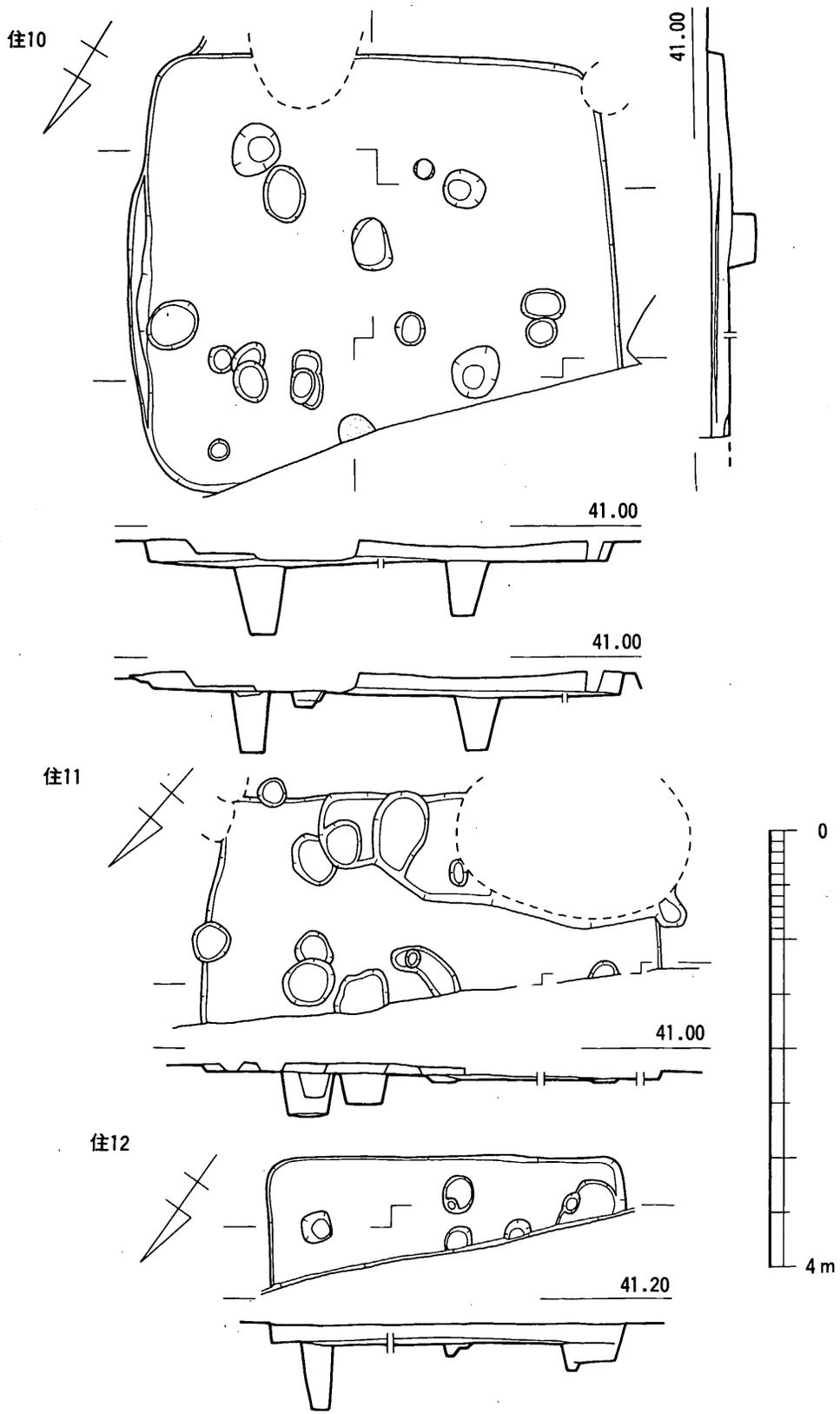
8号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。住居跡の半分以上が調査対象地外に延びる。検出した一辺は3.9m、壁高は7～8cmを測る。

#### 10号住居跡（第7図／図版8）

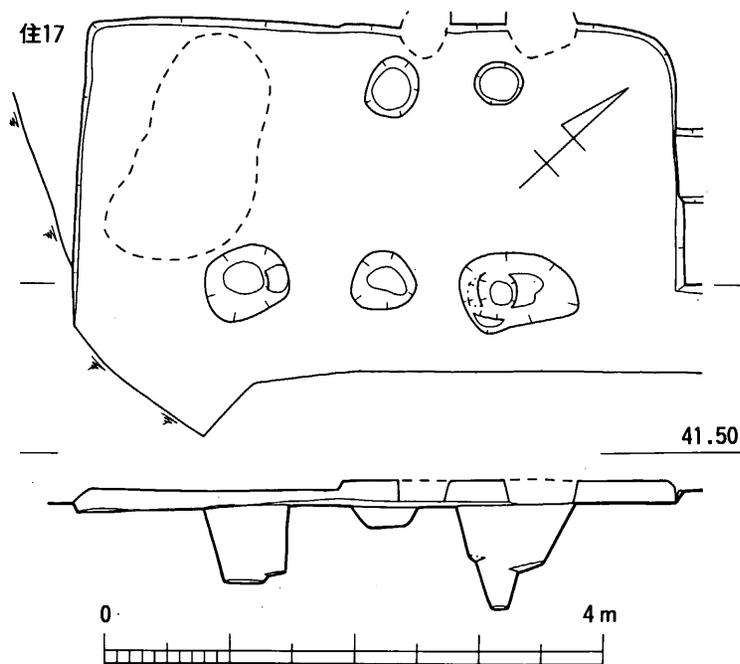
9号住居跡に隣接して検出した長さ約4mの方形プランを呈す竪穴式住居跡である。西側の一辺が調査対象地外となる。主柱穴は4本で、調査した西端に焼土が確認された。この焼土の先に竈があると推定されたため一部を拡張したが、複数の遺構との切り合い関係が確認されたため、この部分の発掘を断念した。



第6図 7号・8号・9号住居跡実測図 (縮尺1/60)



第7図 10号・11号・12号住居跡実測図 (縮尺1/60)



第8図 17号住居跡実測図 (縮尺1/60)

#### 11号住居跡 (第7図/図版9)

南隅を13号土壙に切られ、西側の半分余りが調査対象地外に延びる。長さ4.2mほどと推定される方形プランを呈す竪穴式住居跡である。

#### 12号住居跡 (第7図)

小振りな方形プランを呈す竪穴式住居跡で、住居跡の大半が調査対象地外に延びる。検出した一辺は3.3mを測り、北側の13号住居跡を切る。

#### 13号住居跡 (図版9)

12号住居跡、11号土壙に切られる方形プランを呈す竪穴式住居跡である。規模等は明確でないが一辺4.4m程度と推定される。

#### 14号住居跡

14号住居跡からD地区の中でもさらに一段高い区域となる。14号住居跡は方形プランを呈す竪穴式住居跡であるが、17号住居跡を切る。住居跡の大半が調査対象地外または既に削平されているため明瞭ではない。

### 15号住居跡

16号住居跡の内側で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。16号住居跡の床面からさらに10cmほど下がる。

### 16号住居跡

17号住居跡に切られる方形プランを呈す竪穴式住居跡である。14号住居跡と同様に大半が調査対象地外に、または削平により失われているため明瞭でない。壁高は15cmほどである。

### 17号住居跡（第8図／図版10）

8号土壇、18号住居跡に切られ、14号・16号・15号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。確認された一辺は4.7mを測る。支柱穴は2本でその間に径50cmの略円形の土壇がある。

### 18号住居跡

17号・20号・19号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。大半が調査対象地外に延びるため明瞭でないが、検出した一辺は約4mを測る。

### 19号住居跡

20号住居跡内の南側で検出した円形プランの竪穴式住居跡である。20号住居跡床面から10cmほど下がるが、住居跡の大半が調査対象地外にある。

### 20号住居跡（第9図／図版10・11）

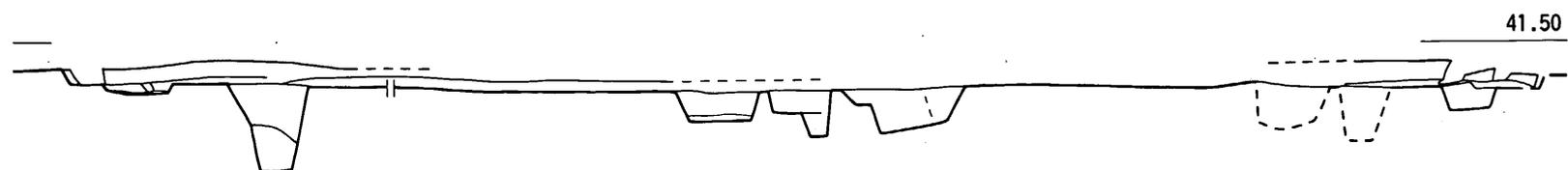
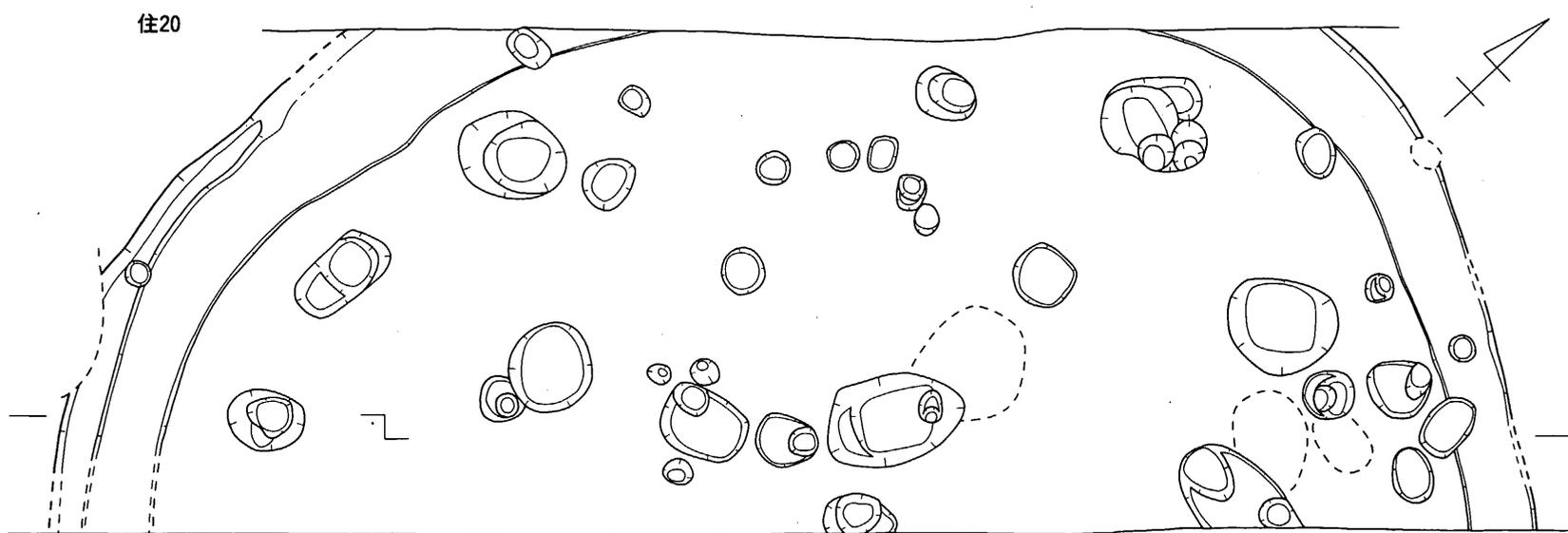
18号・21号住居跡に切られる。円形プランを呈す大型の竪穴式住居跡で、直径11.4mを測る。壁下には幅50～80cmほどの壁溝が巡る。

### 21号住居跡

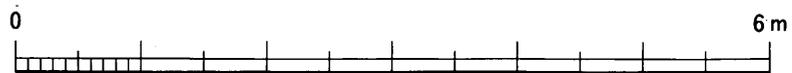
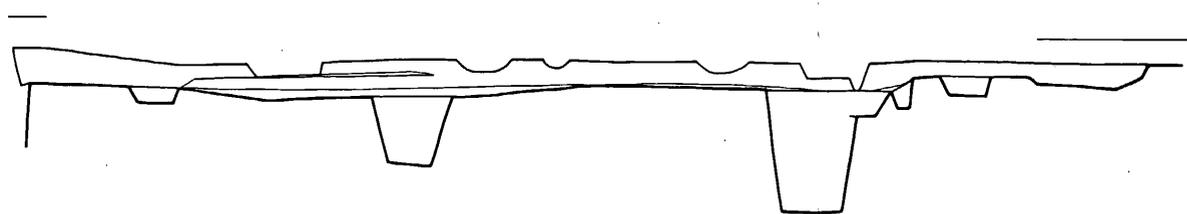
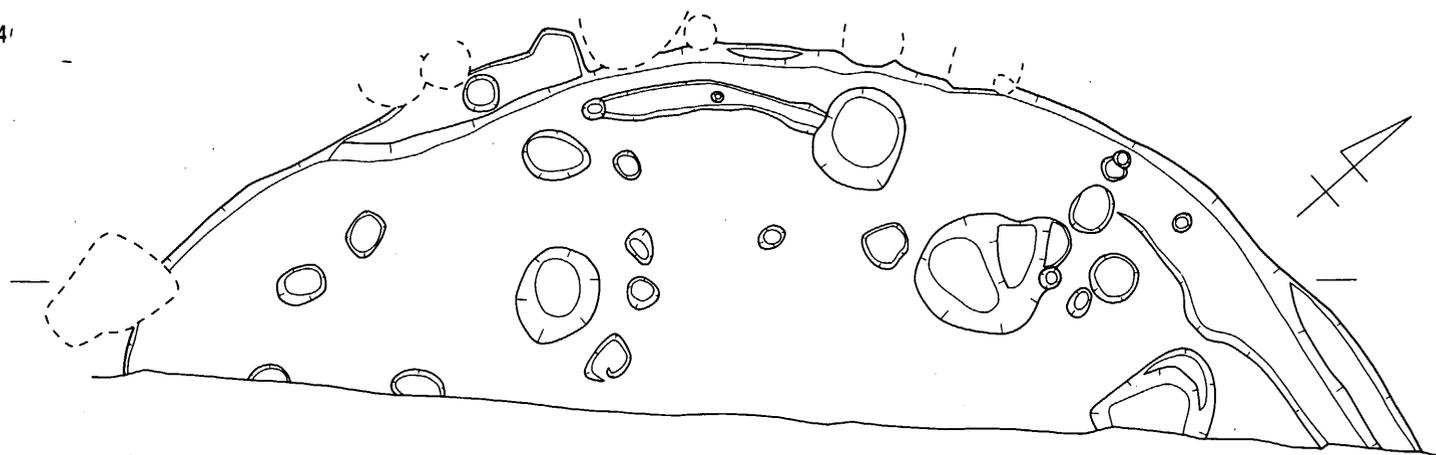
20号・22号・23号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。約半分ほどが調査対象地外へ延びるが、確認された一辺は5.5mを測る。

### 22号住居跡

21号住居跡に南隅を切られる方形プランを呈す小振りの竪穴式住居跡である。約半分ほどが調査対象地外になるが、確認された一辺は2.9mほどである。

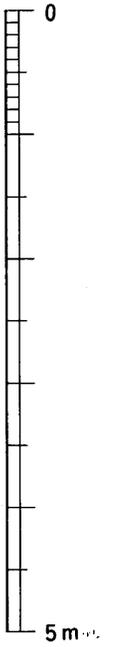
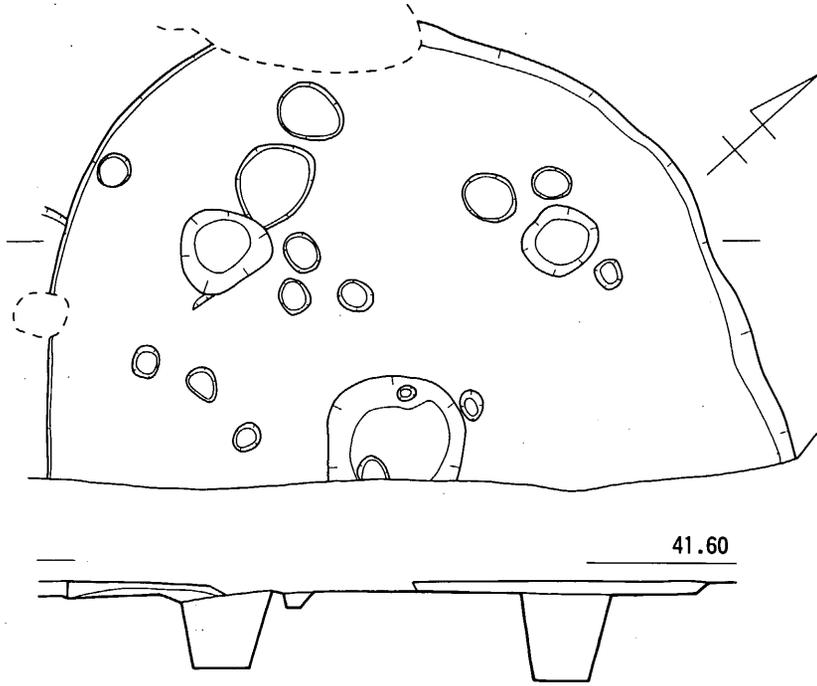


住24

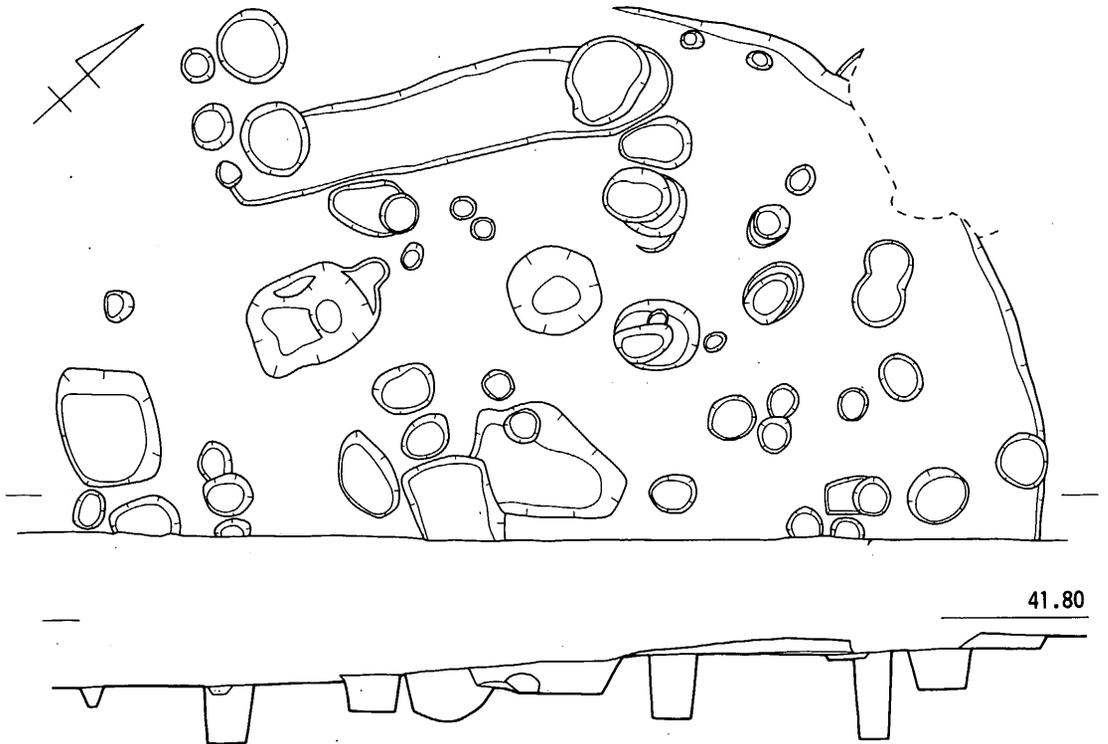


第9图 20号・24号住居跡実測图 (縮尺1/60)

住29

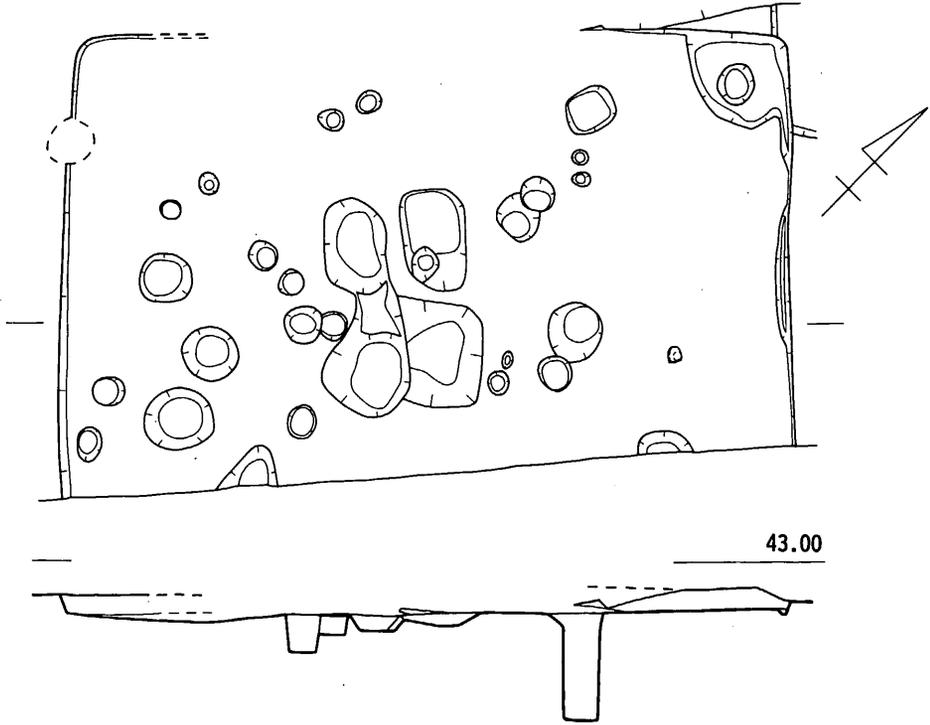


住30

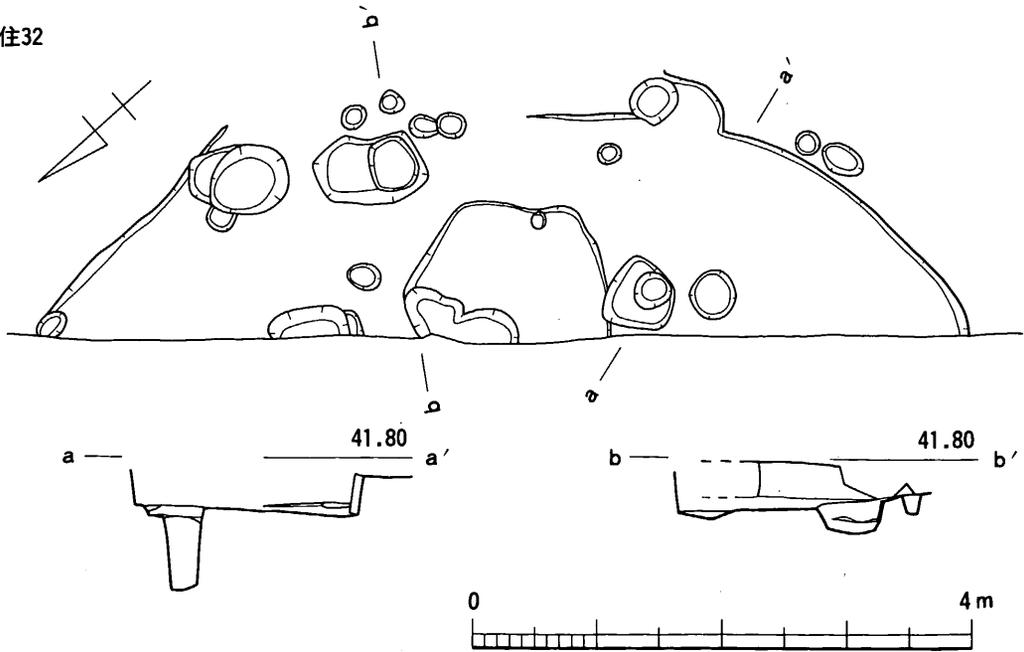


第10図 29号・30号住居跡実測図(縮尺1/60)

住31



住32



第11图 31号·32号住居跡実測図 (縮尺1/60)

### 23号住居跡（図版11）

22号住居跡の東隣で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。一部が調査対象地外となるが、検出した一辺は3mを測り、これから直角に延びる壁が3.5m以上あるため、プランは長方形気味になろう。

### 24号住居跡（第9図／図版12）

25号住居跡に切られる円形プランを呈す竪穴式住居跡である。大半は調査対象地外となるが、検出部での長さ10.3mを測る。これから推測すると規模は20号住居跡とほぼ同じくらいの大型の住居跡となる。なお壁溝は50cm前後のものが一部に認められる。

### 25号住居跡

20号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。半分近くが調査対象地外に延びるが、検出した一辺は3.4mほどである。

### 26号住居跡

方形プランの竪穴式住居跡である。25号住居跡の北側で南隅のみを検出し、あとは調査対象地外に延びる。

### 27号住居跡

25号住居跡の北隣で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。西側の3.6mを測る一辺以外は調査対象地外へ延びる。

### 28号住居跡

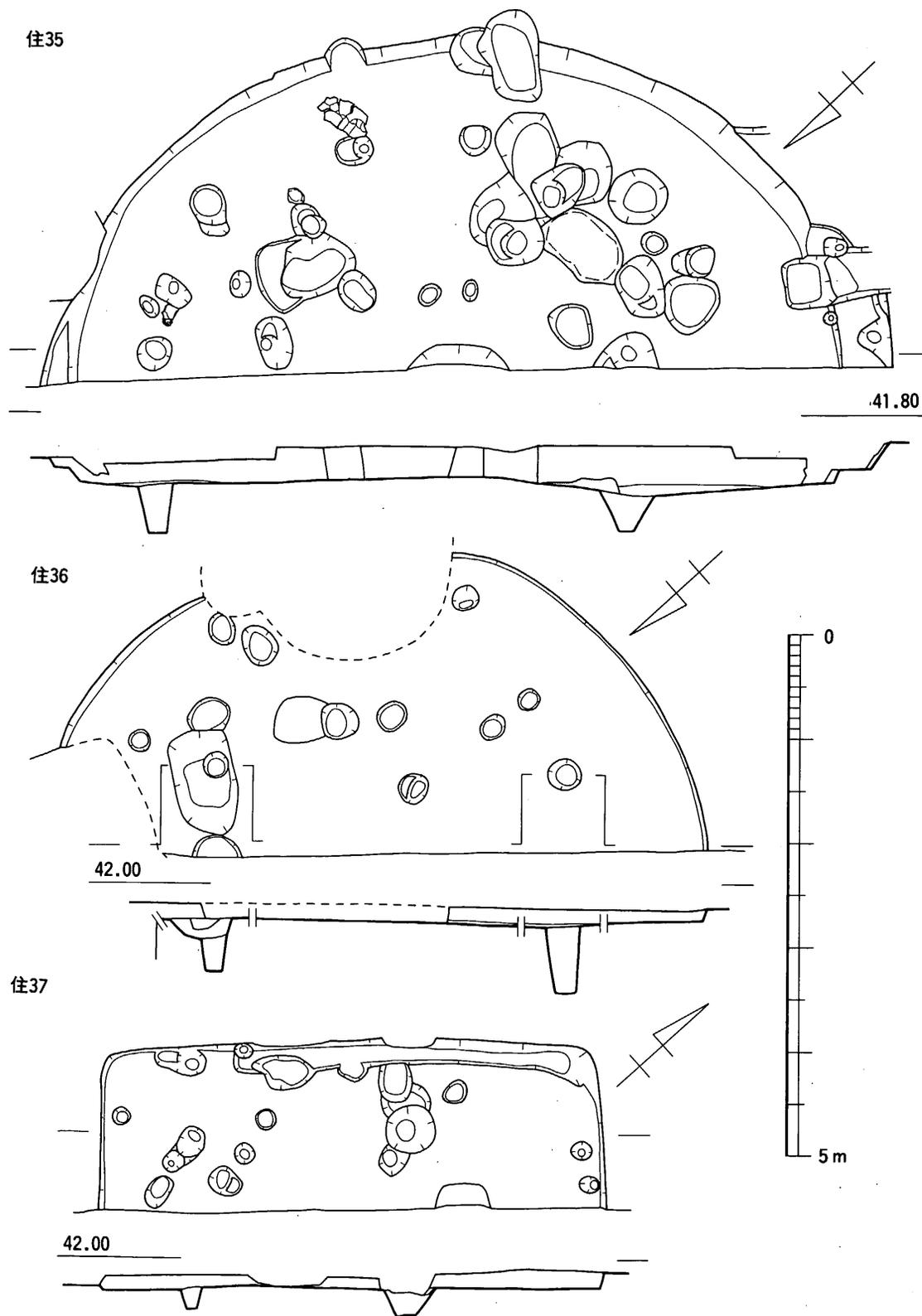
29号住居跡の南側を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。住居跡の南側部分は地形がやや下がっており検出できなかった。住居跡北隅で壁高12cmを測る。

### 29号住居跡（第10図／図版12）

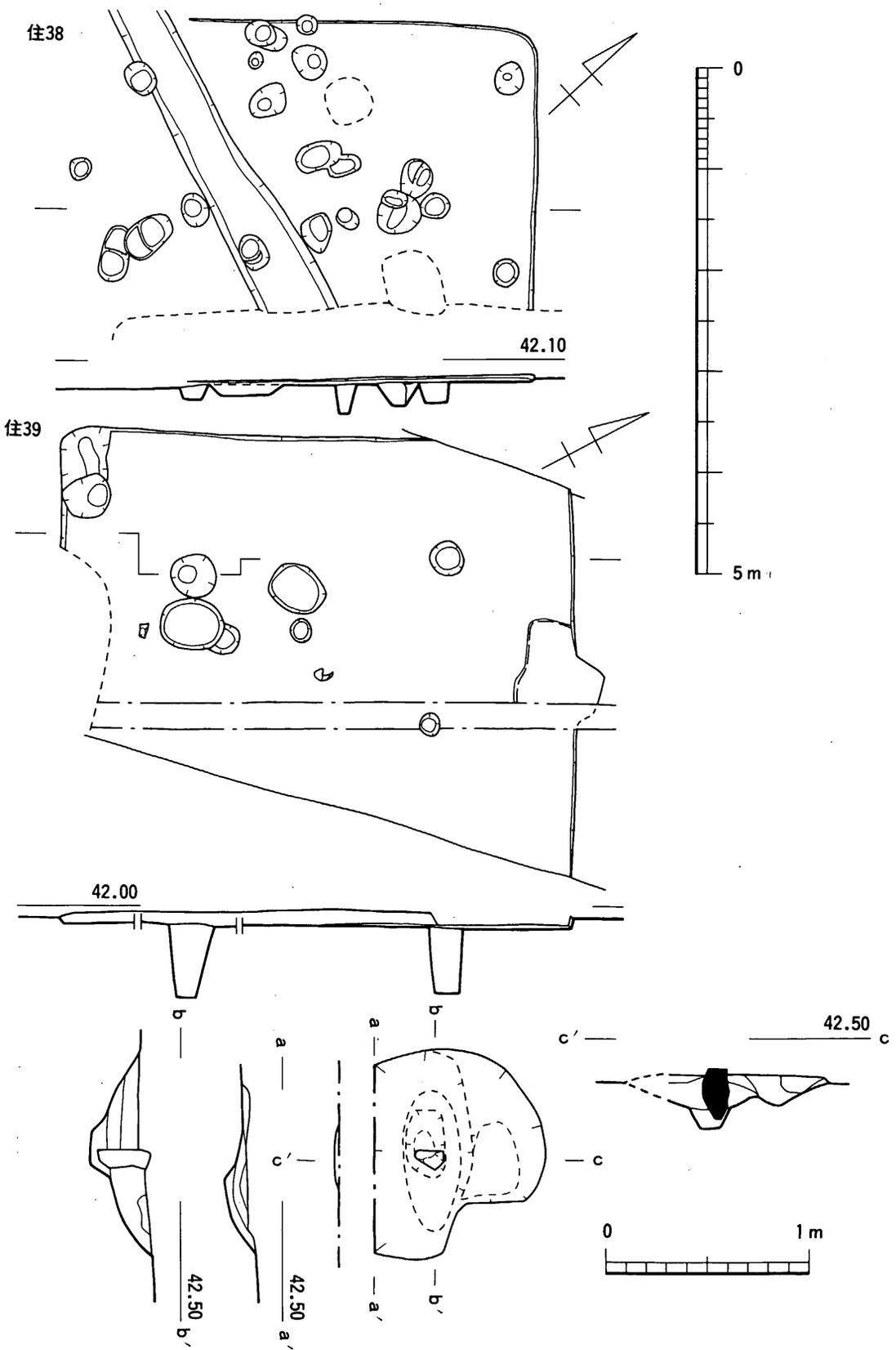
28号住居跡、27号土壌に切られる円形プランを呈す竪穴式住居跡である。半分近くが調査対象地外へ延びるが、直径6～6.5mほどで、中央に長さ1.1m、深さ35cmほどの隅丸方形の土壌を有す。

### 30号住居跡（第10図／図版13）

円形プランを呈す竪穴式住居跡である。南側部分は地形がやや下がっており、壁体は失われ

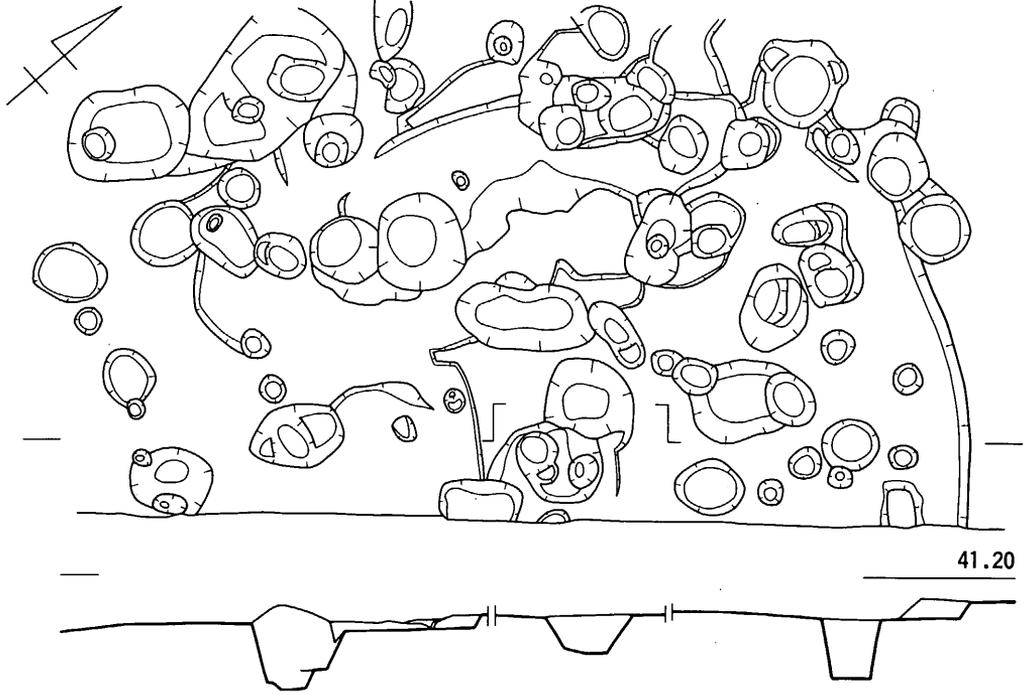


第12図 35号・36号・37号住居跡実測図 (縮尺1/60)

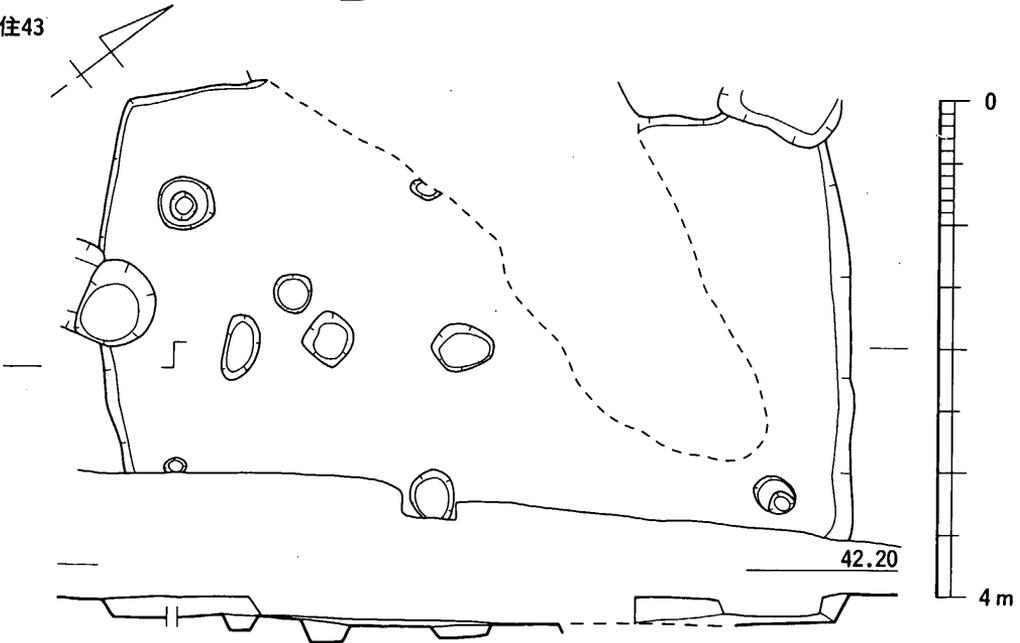


第13図 38号・39号住居跡・39号住居跡カマド実測図 (縮尺1/60・1/30)

住40



住43



第14図 40号・43号住居跡実測図 (縮尺1/60)

ているが、壁下から1.3～1.5mほど内側に巡る主柱穴から推定すると直径8m足らずであろう。中央土壙は長さ1.3×0.9m、深さ30cmほどの略方形を呈す。

#### **31号住居跡**（第11図／図版13）

32号住居跡に切られ、33号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。半分近くが調査対象地外へ延びる。確認し得た一辺は5.7mを測る。

#### **32号住居跡**（第11図）

方形プランを呈す竪穴式住居跡で、南東隅周辺を発掘した。当初、33号住居跡との切り合い関係を明確にしえず、壁体の一部を確認できなかったが、調査の結果、31号・33号住居跡を切っていた。

#### **33号住居跡**（図版14）

32号・31号住居跡に切られる円形プランを呈す竪穴式住居跡である。南側の一部分のみ検出した。深さは約35cmほどある。

#### **35号住居跡**（第12図／図版14）

36号住居跡に切られる円形プランを呈す竪穴式住居跡である。深さは35cmほどで、半分近くを調査した。直径は8m足らずと推測され、南側壁下から1.2m内に焼土が、廃棄される。

#### **36号住居跡**（第12図／図版15）

35号住居跡を切り、4号・6号土壙から切られる円形プランを呈す竪穴式住居跡である。床面上には薄い炭化物が広がる。規模は半分近くが調査対象地外へ延びるほか、土壙に切られ明確ではないが、6.5mほどと推測される。

#### **37号住居跡**（第12図／図版15）

1号建物跡、17号溝状遺構に切られ、38号・39号住居跡を切る。北西部の一辺を含む1/3ほどを調査した。この一辺は4.8mを測り、壁溝が検出された。

#### **38号住居跡**（第13図）

37号住居跡に切られ、39号住居跡を切る方形プランを呈す竪穴式住居跡である。残りが悪く北隅周辺部のみ検出された。

#### 39号住居跡 (第13図／図版16)

37号・38号住居跡に切られる方形プランを呈す竪穴式住居跡で、北側に竈が設けられる。半分近くが調査対象地外へ延びるが、南北は5 mを測り、主柱穴は4本と推定される。

#### 40号住居跡 (第14図)

円形プランを呈す竪穴式住居跡である。南側部分は39号住居跡に切られて不明瞭であるが、壁の内側に巡る主柱穴から直径6 m余りと推測される。

#### 43号住居跡 (第14図／図版16)

E地区の北端で検出した方形プランを呈す竪穴式住居跡である。1/2を調査した。西壁は2号、3号土壌に切られるが、5.6mほどである。壁高は15～20cmほどを残す。住居跡内から検出したピットはいずれも浅く、22～4 cmほどである。

#### 45号住居跡

1号住居跡の北東で検出した竪穴式住居跡である。住居跡の大半は既存の農道等に切られるが、方形プランを呈すものと推測される。

### (2) 掘立柱建物

#### 1号建物 (第15図／図版17)

D地区の北部で検出された。調査区を斜めに横切る形で検出されたため全容は不明である。梁行は2間と推定され、桁行は3間以上ある。桁の方位はN-68°-Wを示す。柱は径20cm程で、柱間寸法は梁行6.5尺、桁行9尺である。

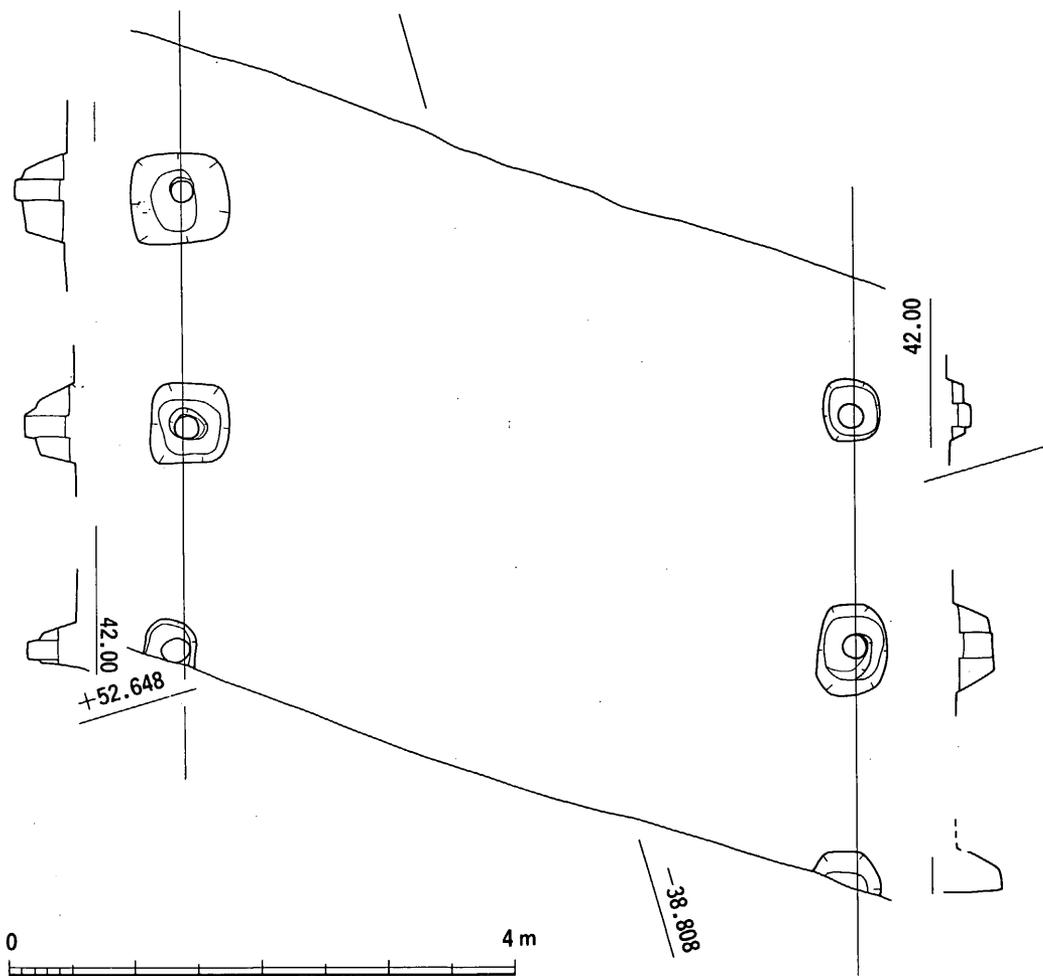
### (3) 土壌

#### 1号土壌 (第16図／図版17)

C地区で検出した土壌である。西側は調査対象地外となる。検出部から推測すると $2 \times 3 + \alpha$  mの楕円形プランを呈すと考えられる。深さは15cm程度で遺構の残りは悪い。

#### 2号土壌 (第16図／図版18)

D地区の北端で検出した土壌である。6号住居跡を切る。幅1 mの方形プランを呈し、さらに調査対象地外へ延びる。検出部の端は深さ20cm足らずの平坦面があり、中央部はさらに20cm下がる。



第15図 1号掘立柱建物実測図 (縮尺1/60)

**3号土壌 (第17図)**

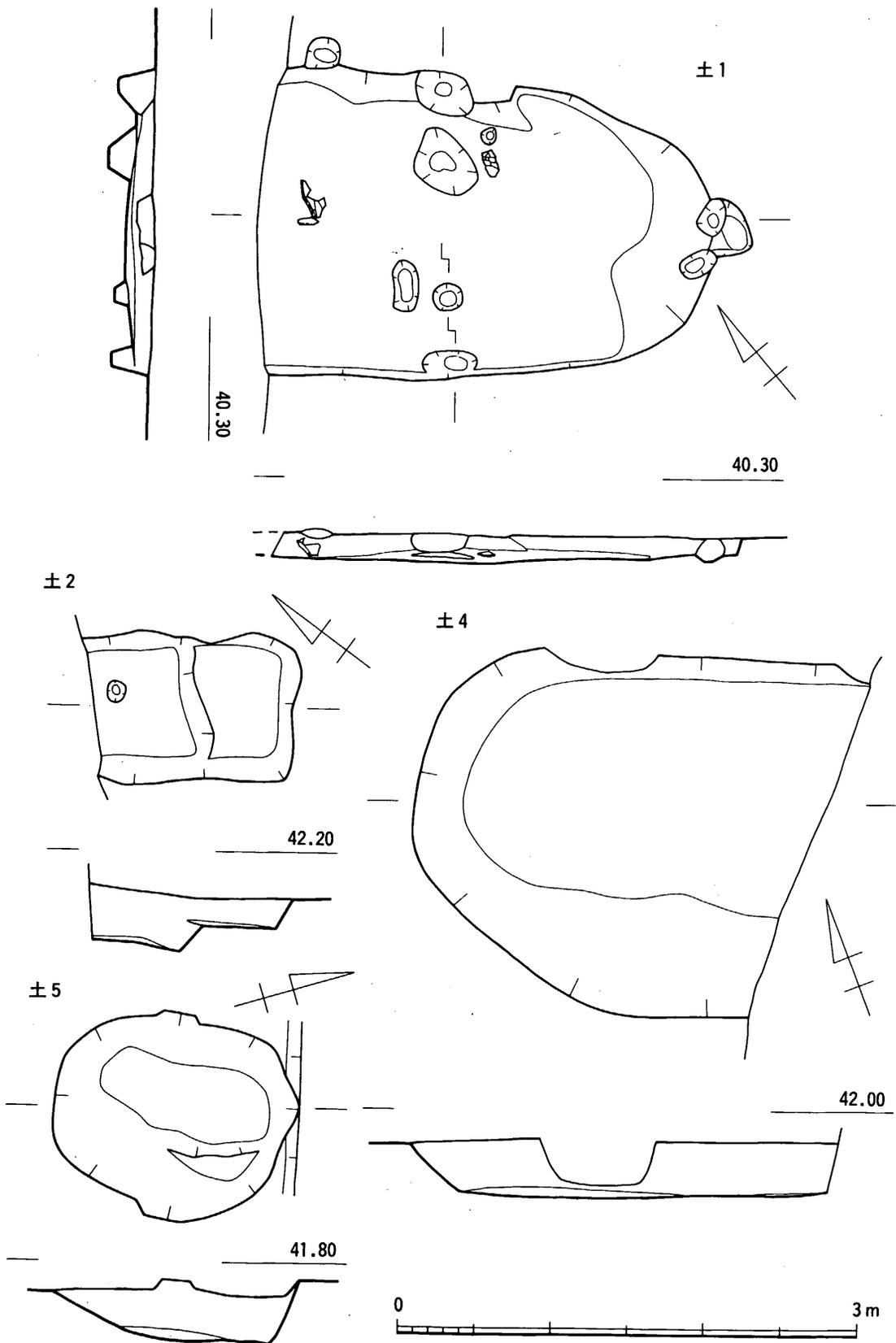
2号土壌の南側に位置し、6号住居跡を切る。遺構は東西に長く、西側は調査対象地外へ延びる。遺構は溝状を呈し、東側から徐々に低くなり、検出部西端で深さ1mを測る。埋土には土器等の外に焼土、灰が廃棄されていた。

**4号土壌 (第16図)**

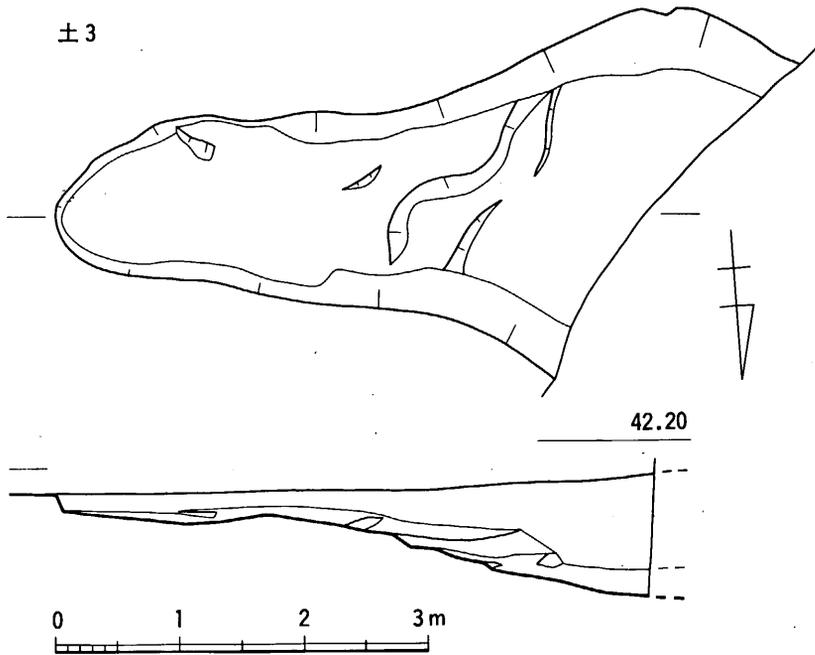
1号建物に切られ、11号住居跡を切る。東側は調査対象地外となるが、ほぼ略楕円形のプランを呈すと思われる。深さは30cmを測る。

**5号土壌 (第16図)**

13号・17号住居跡を切る。略楕円形プランを呈し、西側に小さい段を有す。床面は1.1×0.5mの長方形をなす。



第16图 1号·2号·4号·5号土壤实测图 (缩尺1/40)



第17図 3号土壙実測図 (縮尺1/60)

**6号土壙 (図版18)**

36号住居跡を切る方形プランを呈す土壙で、一方は調査対象地外へ延びる。貯蔵穴の可能性もあるが明確ではない。

**7号土壙 (第18図/図版18)**

13号住居跡の南東で検出された。2.5×2 mの円形プランを呈し、北側に段を有す。南壁体から床面にかけて須恵器の大甕の胴部分が廃棄されていた。

**8号土壙 (第18図/図版19)**

21号住居跡を切る2×1 mほどのほぼ方形プランを呈す土壙である。

**9号土壙 (第18図)**

35号住居跡を切る2.2×1.2mを測るほぼ方形プランを呈す土壙である。床面は東半にあり、西側から徐々に下がっていく。

**10号土壙 (第18図/図版19)**

21号溝状遺構の北側で検出した。2×1.4mのやや不整形のプランを呈し、底は50~60cmほどで平坦面を有し、中央がさらに一段深くなる。

**11号土壙**（第18図／図版19）

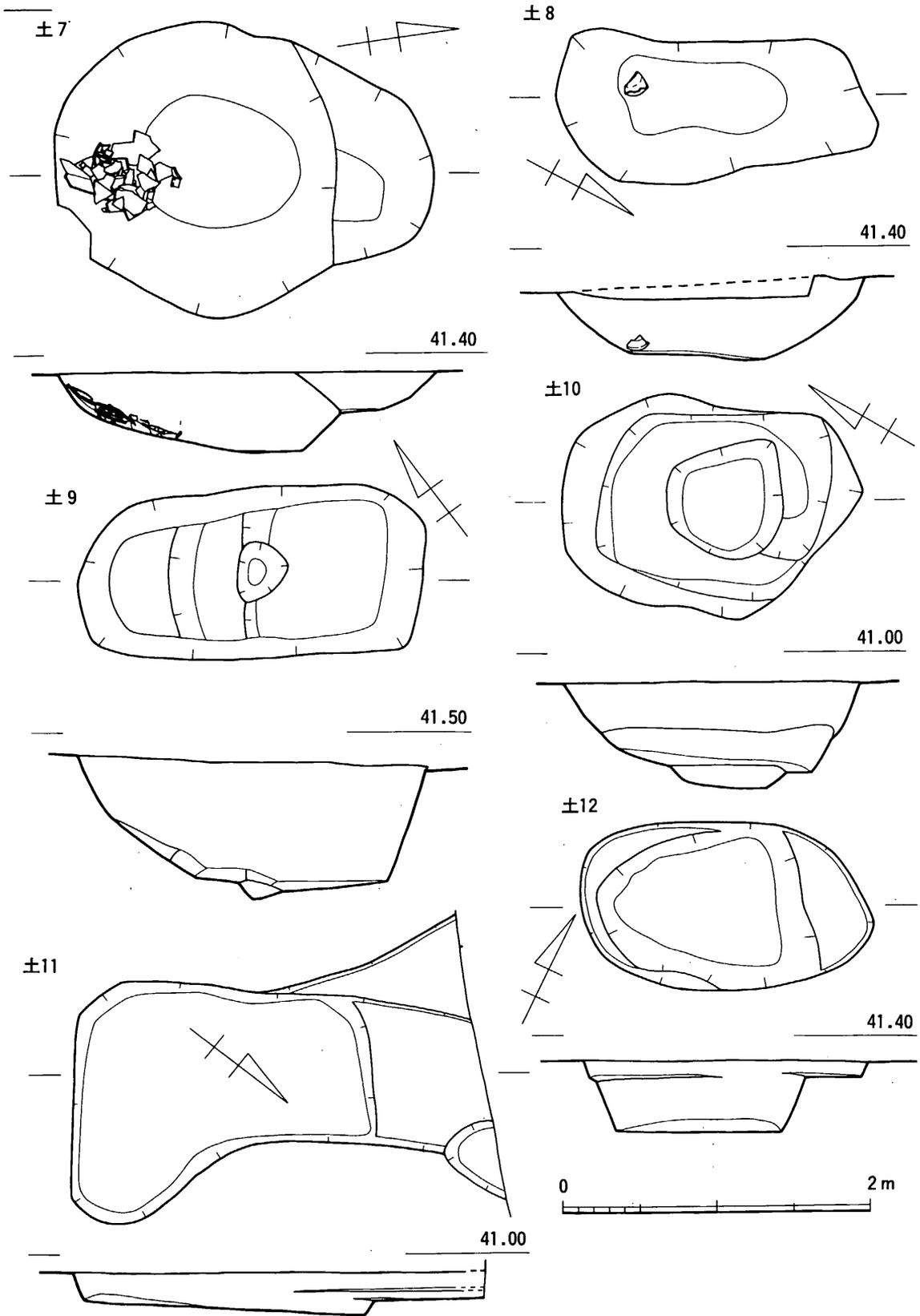
21号住居跡を切る不整形のプランを呈す土壙で、一方は調査対象地外へ延びる。

**12号土壙**（第18図／図版20）

20号住居跡を切る $1.9 \times 1.1$  mのはほぼ楕円形プランを呈す土壙である。東西に段を有し、床面は段から深さ30～40cmのところでは略三角形を呈す。

**13号土壙**（第19図）

26号住居跡の南側にあり、一部は調査対象地外へ延びる。 $1.8 \times 1$  mの楕円形プランを呈すと考えられ、中央が一段深くなる。床面は方形プランを呈す。



第18図 7号・8号・9号・10号・11号・12号土坑実測図（縮尺1/40）

#### 14号土壙 (第19図／図版20)

26号住居跡を切る。2.2×1.6mの楕円形プランを呈し、東側に広い段を有す。

#### 15号土壙 (第19図／図版20)

13号・14号土壙の東側に位置し、一部は調査対象地外へ延びるが、3.5×2.3mほどの楕円形プランを呈すと考えられる。中央はさらに一段深くなる。

#### 16号土壙

A地区の北端で2号溝状遺構に切られ検出した。1.7×1.1mの楕円形プランを呈す土壙である。

#### 17号土壙

16号土壙の南西で1号甕棺墓に切られ検出した。1.5×1.1mを測る方形プランを呈す土壙である。

#### 18号土壙 (第19図／図版21)

27号住居跡を切る。東側は調査対象地外へ延びるが、1.5×1.1mの略円形プランを呈す土壙である。床面はほぼ平坦となる。

#### 19号土壙 (第19図)

18号住居跡の北側にあり、19号溝状遺構に切られる。1.5×9mの略方形プランを呈す土壙である。床面はほぼ平坦である。

#### 20号土壙 (第19図)

D地区の南側、31号住居跡の東側にあり、土壙の一方は調査対象地外へ延びる。検出した部分は幅約2mで、床面は平坦である。

#### 21号土壙 (第20図)

20号土壙の南に隣接し、土壙の一方は調査対象地外へ延びる。検出した部分は最大幅約1.2mで、床面は段を有す。

## 22号土壙

29号住居跡に切られる土壙で、大部分は調査対象地外となる。検出した部分は僅かであるが、緩やかなカーブを描く。

## 23号土壙（第20図／図版21）

33号住居跡に切られる。当初、24号土壙と一体の土壙として発掘したため切り合い関係は明確でない。1.8×1.5mを測る卵形のプランを呈す。南北の壁体はやや内湾する。南側の床面からやや浮いて、多量の土器が投棄されていた。

## 24号土壙（第20図）

当初、23号土壙と一体の土壙として調査したものである。かなりの部分が調査対象地外となる。検出した部分は幅2mを測る。

## 25号土壙（第20図）

23号・24号土壙に隣接して検出した。一方は調査対象地外へ延びる。壁に沿って平坦部が巡り、中央がさらに深くなる。

## 26号土壙

12号土壙に切られる幅70cmの方形プランを呈す土壙で、南から2面の平坦面を介し、床面へ至る。

## 27号土壙（図版21）

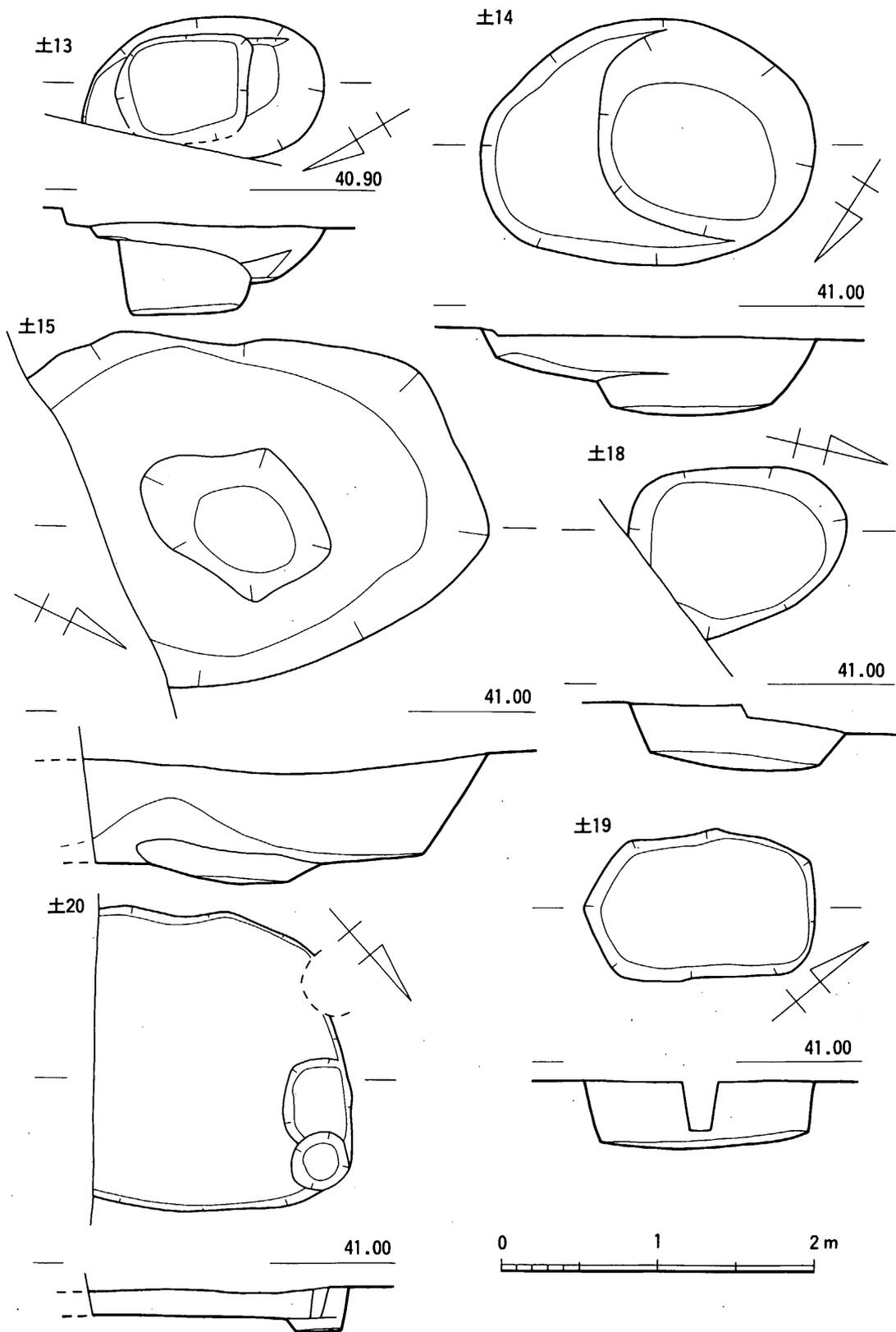
44号住居跡を切り、西側は調査対象地外へ延びる。プランはほぼ長楕円形を呈し、西側に段を有す。

## 28号土壙

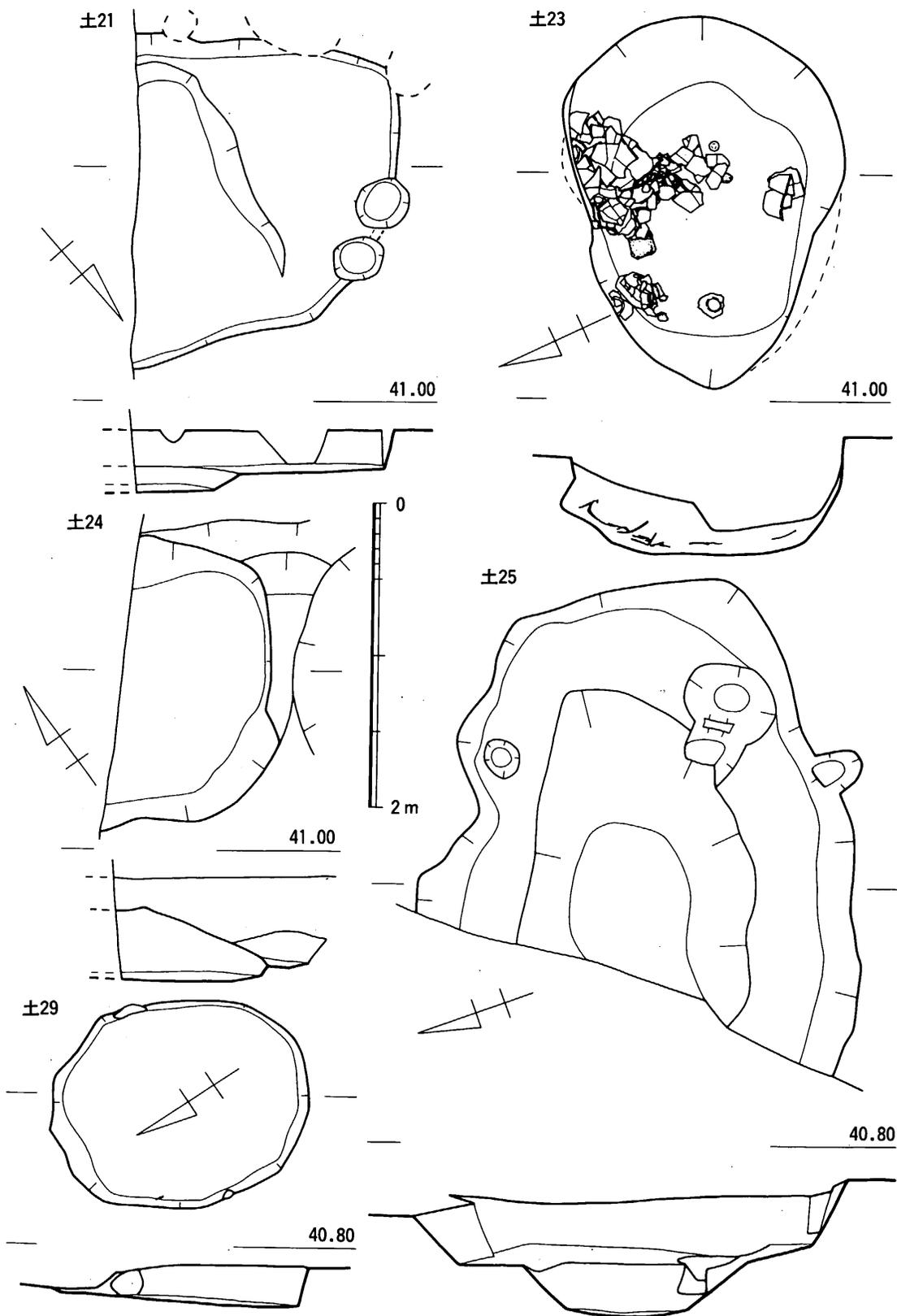
35号住居跡を切る土壙で、2.2×1.2mの略方形プランを呈し、西側に段を有す。

## 29号土壙（第20図）

27号住居跡を切る円形プランを呈す土壙である。径1.4～1.7mを測る。床面は平坦である。



第19図 13号・14号・15号・18号・19号・20号土坑実測図 (縮尺 1/40)



第20図 21号・23号・24号・25号・29号土坑実測図 (縮尺 1/40)

## (4) 貯蔵穴

### 1号貯蔵穴 (図版22)

27号住居跡の北側で検出した。床面プランは1.4×1.3mを測る隅丸方形を呈す。

### 2号貯蔵穴

1号貯蔵穴の北側で検出した。大半が調査対象地外に延びるが、僅かに検出したプランは弧状を呈す。

## (5) 甕棺墓

### 1号甕棺墓 (第21図／図版17)

A地区の北側、2号溝状遺構の南に検出された。大半が削平により失われ、墓壙と合わせ口の一部だけが残る。主軸の方位は不明確であるが、概ねN-53°-Wと推測される。

## (6) 木棺墓

### 1号木棺墓 (第21図／図版22)

1号甕棺墓の北東で検出された。一端を削平により失うが、幅70cm、残存長2.3mを測る。主軸の方位はN-62.5°-Wにもつ。残存する端部には木口との隙間に埋め込んだと思われる粘土が残る。

### 2号木棺墓 (第21図／図版22)

1号木棺墓に平行に並んで検出され、主軸の方位はN-57.5°-Wにとる。1号木棺墓と同様にこの木棺墓も一端を削平により失う。木口には50×50cmの板石を用いる。主体部は床面で幅約30cm、残存長約85cmを測る。

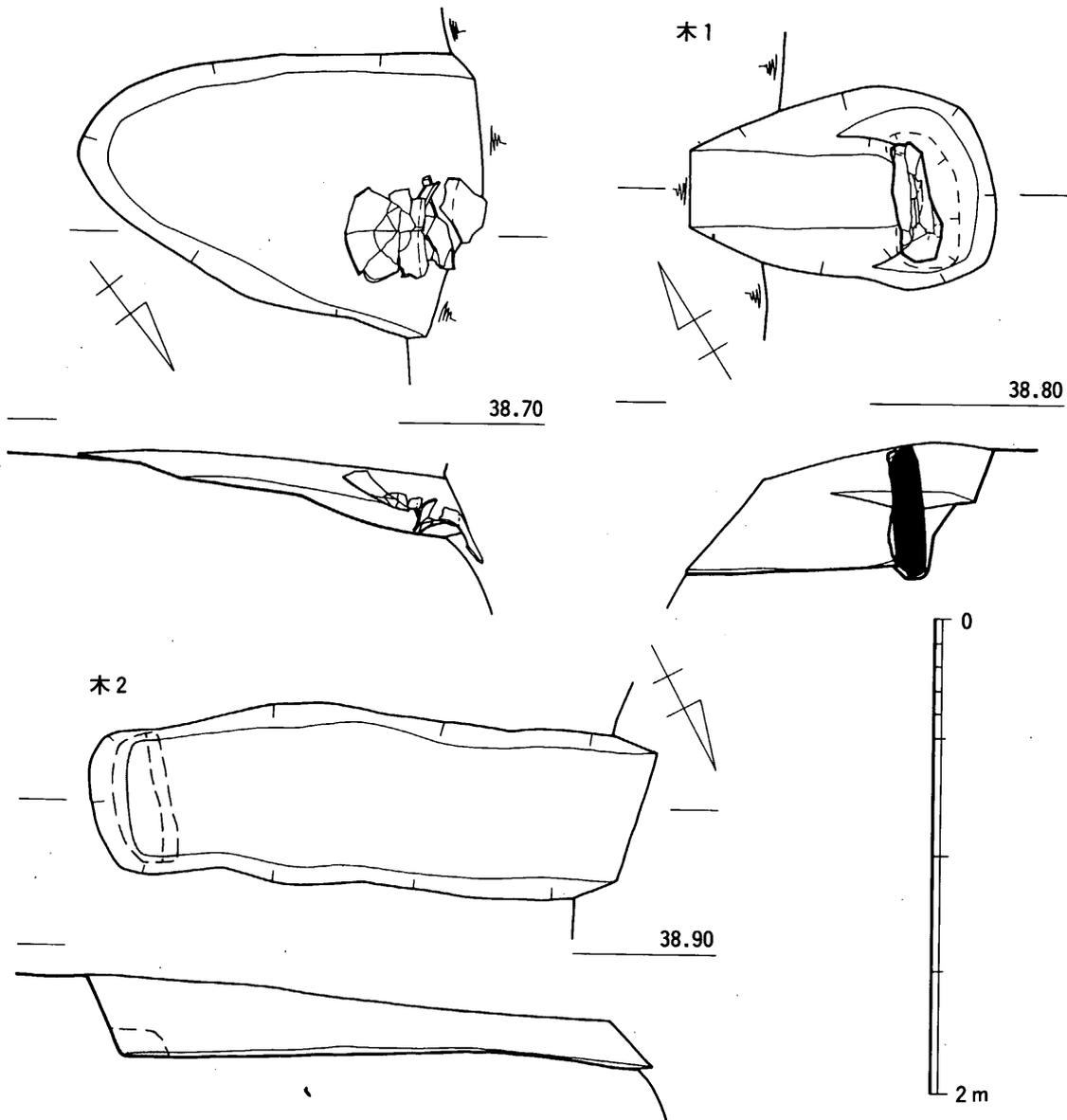
## (7) 溝状遺構

### 1号溝状遺構 (第22図／図版23)

北西-南東に、3号住居跡を切って走る。壁体は大きく傾斜し、底は平坦である。埋土は成層堆積している。

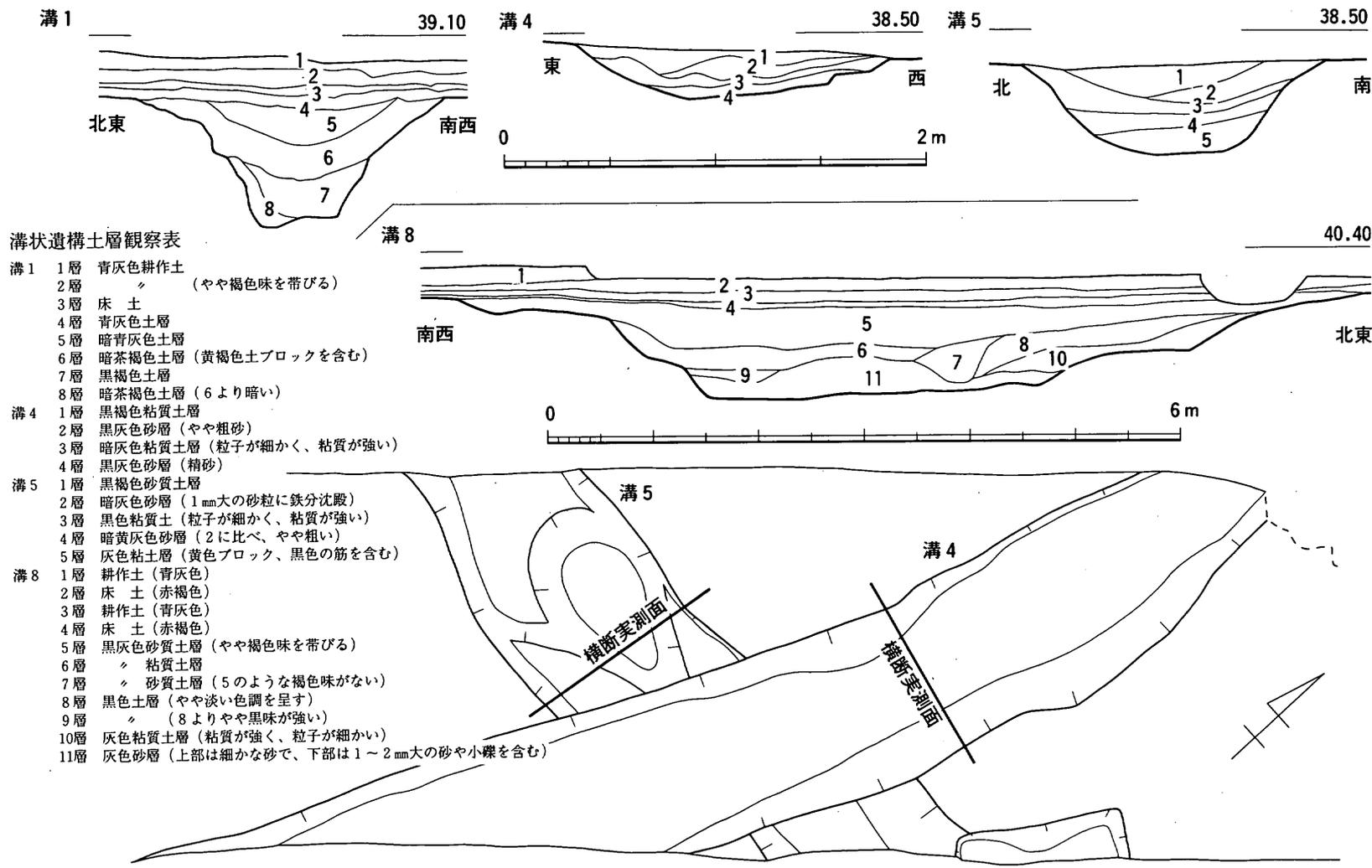
### 2号溝状遺構 (第23図／図版24)

A地区の北端で検出した。L字状に曲がるコーナー部分のみで、外は削平されて失われる。

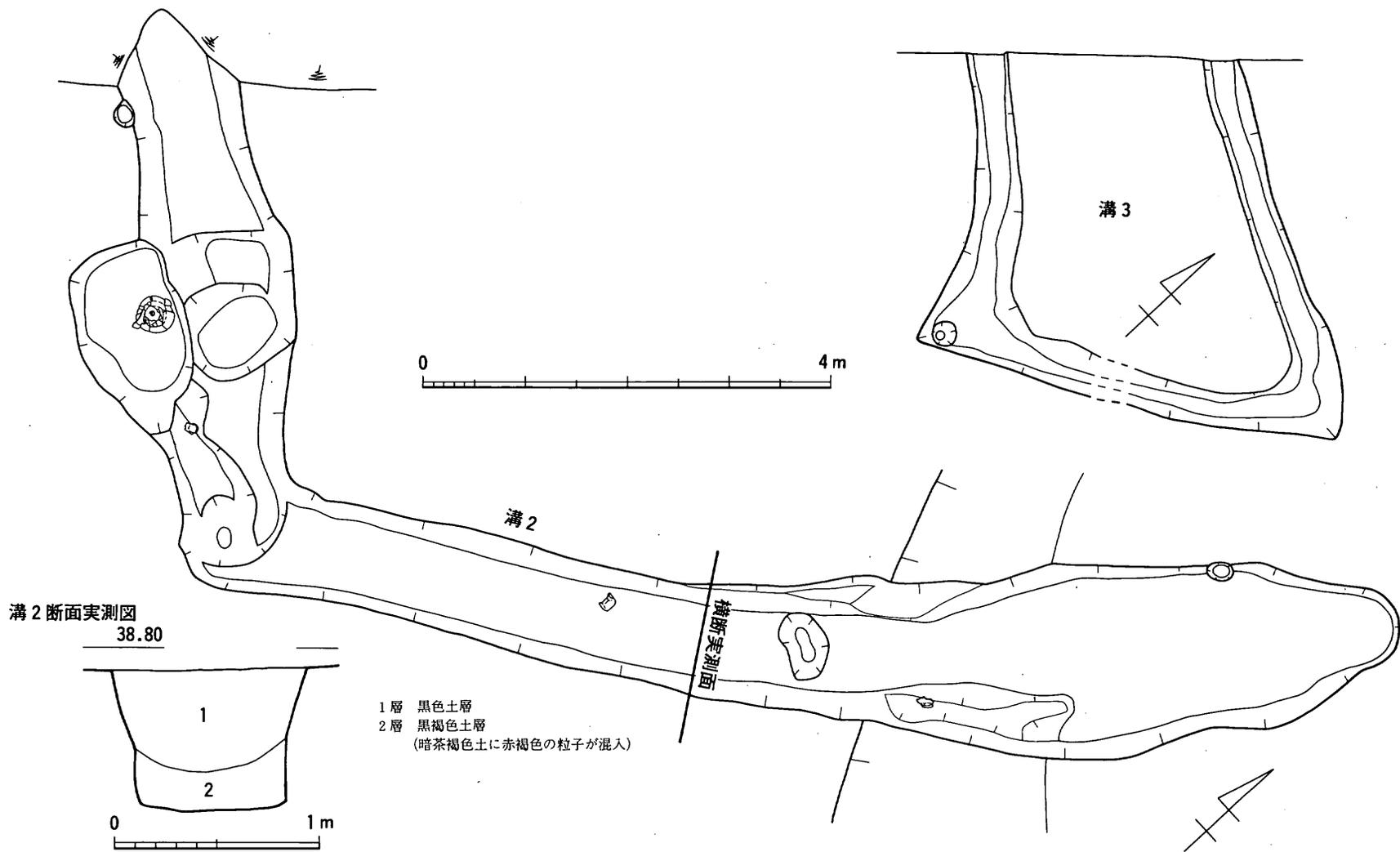


第21図 1号甕棺墓・1号・2号木棺墓実測図 (縮尺1/40)

壁体は僅かに傾斜し、底は平坦である。1層は現況だけでも1 m以上堆積し、遺物も多く廃棄されている。この溝状遺構の廃絶による堆積層と考えられよう。



第22図 1号・4号・5号・7号溝状遺構実測図 (縮尺1/30・1/60)



第23図 2号・3号溝状遺構実測図 (縮尺1/30・1/60)

### 3号溝状遺構 (第23図／図版24)

2号溝状遺構に隣接して検出した。発掘部分は「コ」字状を呈し、さらに調査対象地外に延びる。遺構は浅く、耕作土状の青灰色粘質土で埋まる。

### 4号溝状遺構 (第22図／図版25)

B地区の中央を、5号溝状遺構を切っほぼ南―北に走る。床付近は礫を多く含む層に達しており、床面の形状はでこぼこしている。埋土は粘質土と砂層が薄く交互に堆積している。

### 5号溝状遺構 (第22図／図版25)

4号溝状遺構に切れ、東―西に走る。埋土は4号溝状遺構と同じように、粘質土と砂層が薄く交互に堆積している。

### 6号溝状遺構

7号溝状遺構と8号溝状遺構との間で検出された。残りが悪く、東側は既に削平により失われる。

### 7号溝状遺構 (第22図)

調査区に直交して検出された。北西―南東に走り、深さは6～9cmほどである。

### 8号溝状遺構

C地区の北端で検出した幅7.5m余りの東―西に走る大溝である。湧水が激しく明瞭さを欠くが、最下層まで弥生式土器や須恵器の小片が混在して出土した。

### 9号溝状遺構

D地区1号貯蔵穴の南で調査区に直交して検出した。北西―南東に走り、断面はほぼ方形で、深さは約30cmを測る。

### 10号溝状遺構

9号溝状遺構の北側で検出した。ほぼ北西―南東に走り、深さは10cm足らずである。

### 11号溝状遺構

10号溝状遺構に隣接して検出した。方位は10号溝状遺構よりやや振る。

#### **12号溝状遺構**（第24図／図版23）

北西－南東に13号溝状遺構を切って走る。床まで10cm余りを測る。

#### **13号溝状遺構**（第24図／図版23）

14号溝状遺構を切って走る。北西－南東に方位をとるが、12号溝状遺構より振る。断面はU字状を呈し、10cmくらいの層が成層堆積する。

#### **14号溝状遺構**

13号溝状遺構に切られて、北西－南東に方位をとる。深さは5～10cmを測る。

#### **15号溝状遺構**

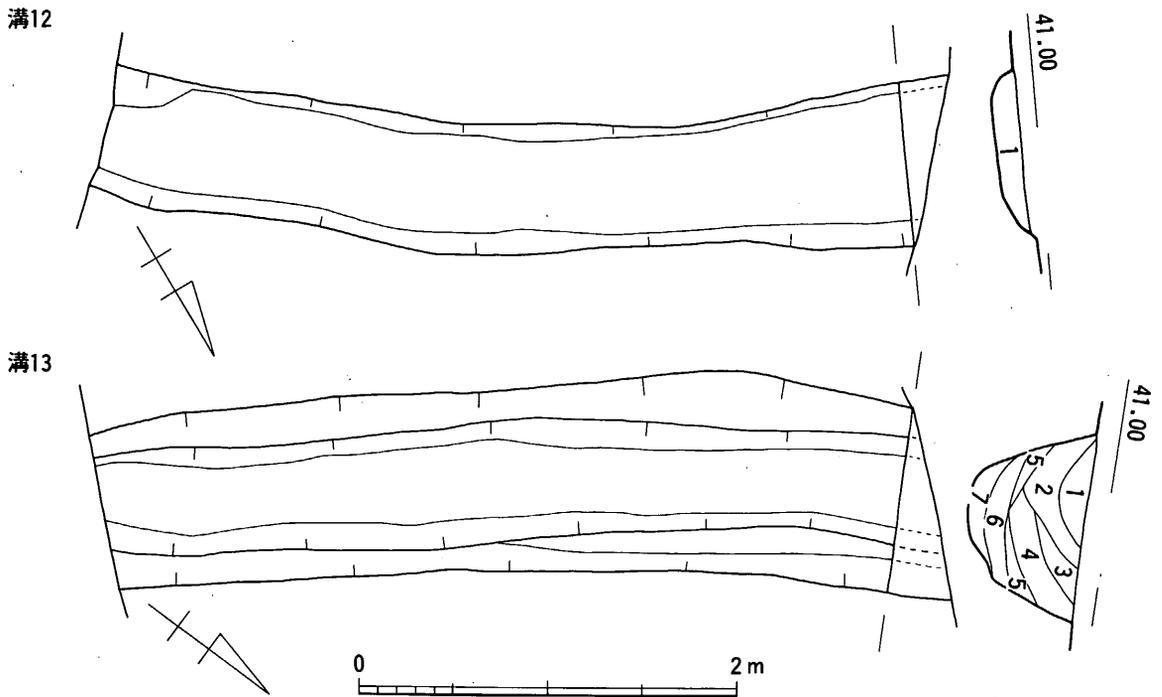
調査区と平行に、ほぼ南西－北東に走る。9号土塋を切るが、残りが悪く4.5mほどしか検出できなかった。

#### **16号溝状遺構**

ほぼ東－西に走るが、残りが悪く、深さは5cmほどである。

#### **17号溝状遺構**

16号溝状遺構と平行して走る。深さも同程度であり、関連する可能性が高い。相互の間隔は1.8mを測る。



- |     |    |                         |    |                              |
|-----|----|-------------------------|----|------------------------------|
| 溝12 | 1層 | 黒褐色土層 (僅かに地山土の小ブロックを含む) |    |                              |
| 溝13 | 1層 | 淡灰褐色土                   | 5層 | 暗灰褐色土混入黄褐色粘質土 (2より黄褐色粘質土が多い) |
|     | 2層 | 暗灰褐色土 (黄褐色粘質土ブロック混入)    | 6層 | 暗褐色土                         |
|     | 3層 | 暗灰褐色土                   | 7層 | 暗黒褐色砂混り土                     |
|     | 4層 | 灰褐色土                    |    |                              |

第24図 12号・13号溝状遺構実測図 (縮尺1/40)

### 3. 出土遺物

#### (1) 土器 (第25~59/図版26~33)

1は45号住居跡から出土した甕である。口縁部は外傾して立つ。胴部中位以下は欠失するが、球状を呈すと考えられる。口縁部ヨコナデされ、胴部外面は摩滅のため明瞭ではないが、内面は頸部直下からヘラ削りされる。

2は46号住居跡上位から出土した高坏の脚部である。直線的に伸び、裾部は屈曲して短く開く。

3~5は43号住居跡で出土した。3・4は甕である。3は口頸部が「く」字状を呈し、口縁部は直線的に外傾する。胴部は下半を欠失するが、球状を呈すと考えられる。調整は内外面と

も刷毛目が施される。4は口縁部が内彎して外傾し、胴部の張りは弱い。調整は内外面とも刷毛目が施され、頸部下に竹管状の刺突が巡る。5は鉢で底部は平坦面を有し、口縁部は直行する。

6は37号住居跡から出土した手づくね土器である。

7は鉢で体部から口縁部にかけて外傾して立ち、底部は平坦面を有す。外面は刷毛目調整される。

8・9は39号住居跡から出土した鉢である。いずれも口縁部は内彎し、体部から底部に強く内傾して至る。

10～12は36号住居跡から出土した。10は甕の底部の小片である。11は壺の胴部から底部にかけての破片で、胴部は強く張る。12は器台の脚部である。

13～23は35号住居跡から出土した。13は逆し字状の口縁を呈する甕である。口縁端部はやや垂れ、胴部は張る。15は壺の口頸部で、大きく外反する口縁部上に浮文が貼付される。17・18は蓋の破片である。19は鋤先状口縁を呈す高坏で、器壁が著しく厚い。21・22は手づくねの鉢である。23は須恵器の坏身で、体部は外傾して立ち、体部と底部との屈曲部から5mmほど内側に短く、やや外形した高台がつく。

24は31号住居跡出土の甕の底部である。

25～27は17号住居跡から出土した。25は口縁部に受部をもつ鉢である。底部はややレンズ状を呈す。26は短頸壺で、口縁部はやや外傾する。27は若干歪みを生ずる鉢で、底部はややレンズ状を呈す。30～32は24号住居跡から出土した。30は高坏の坏部で、体部上半は直線的に外傾し、口縁部は僅かに外反する。体部下半は強く屈曲し、稜をつくる。30・31は手づくねの鉢である。

33は7号住居跡出土の支脚で、受け部周辺を欠失する。

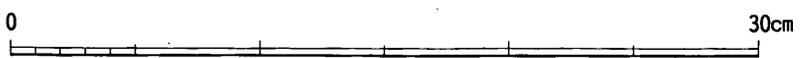
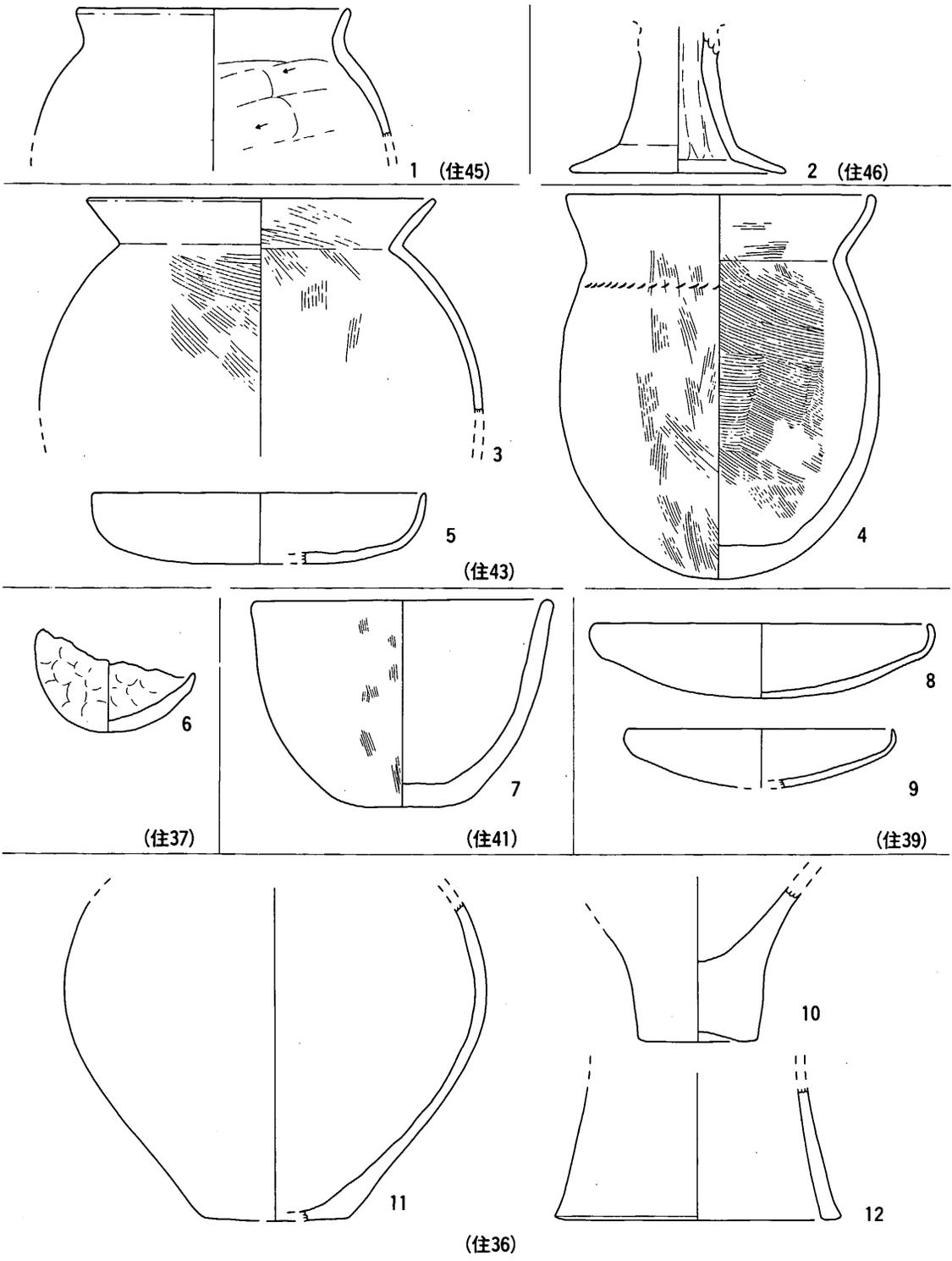
34・35は6号住居跡出土の須恵器である。34は坏身で、体部は外反気味に外傾し、底部へは緩やかに屈曲して至る。高台は短く、断面方形を呈すものが、外側に突っ張るように貼付される。35は皿で、体部の一ヶ所に穿孔を有す。

36は5号住居跡から出土した坏蓋である。天井部は平坦にヘラ削りされ、中央に擬宝珠形の撮を有す。口縁部は外方、そして下方に引き出す。内面のかえりは口縁より上方にある。

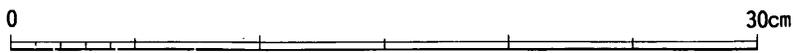
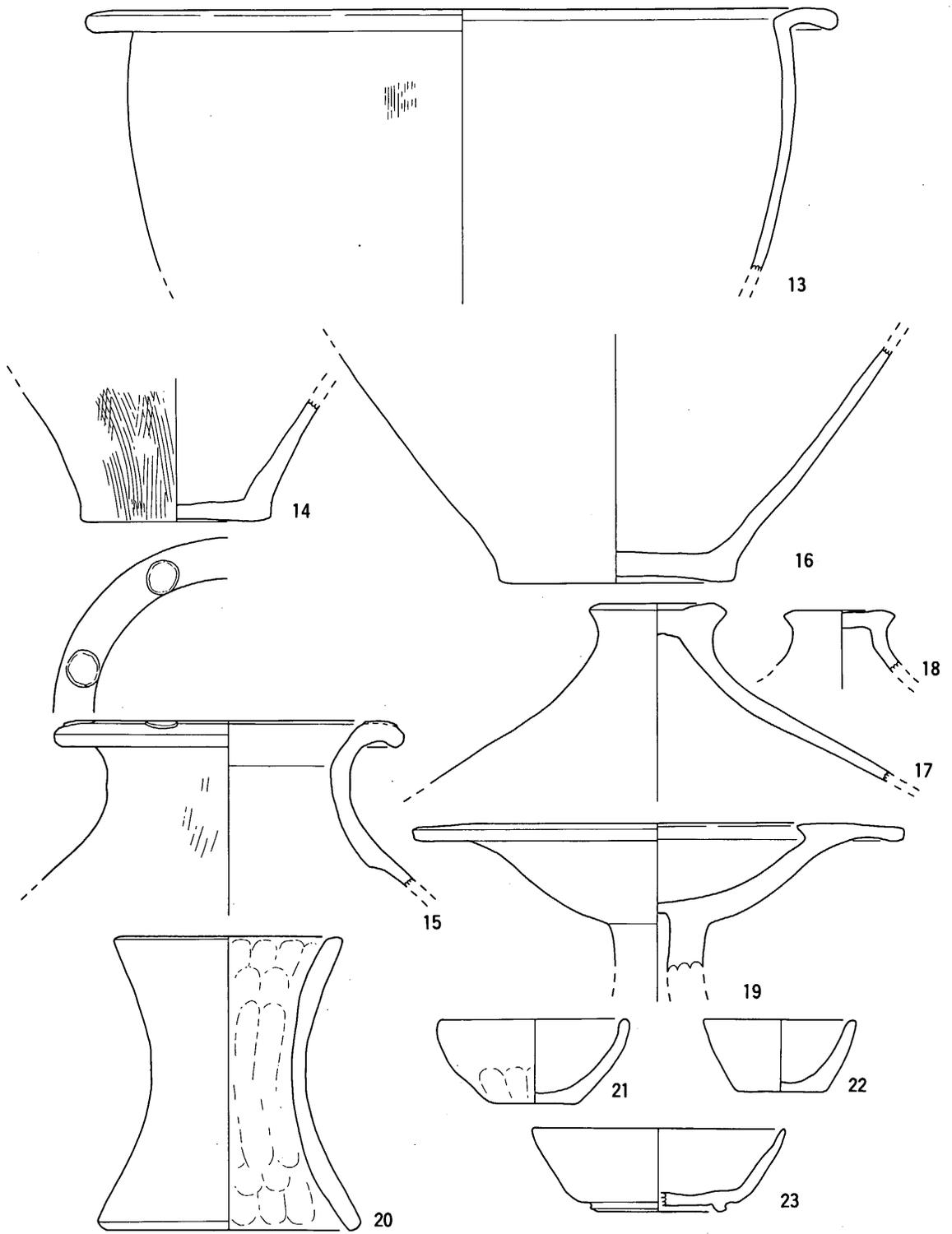
37は32号住居跡から出土した。上下を欠失する甕である。頸部はやや開いた「く」字状を呈し、口縁部はやや外反しながら延びると思われる。胴部下位から底部にかけても失われるが、長胴で、最大径は胴部中位にあると思われる。

38・39は8号住居跡から出土した。38は鋤先状口縁をもつ壺の口縁部である。口縁の内面への張り出しは弱い。39は鉢で丸底を呈す底部から緩やかに直立し、口縁部は短く外傾する。

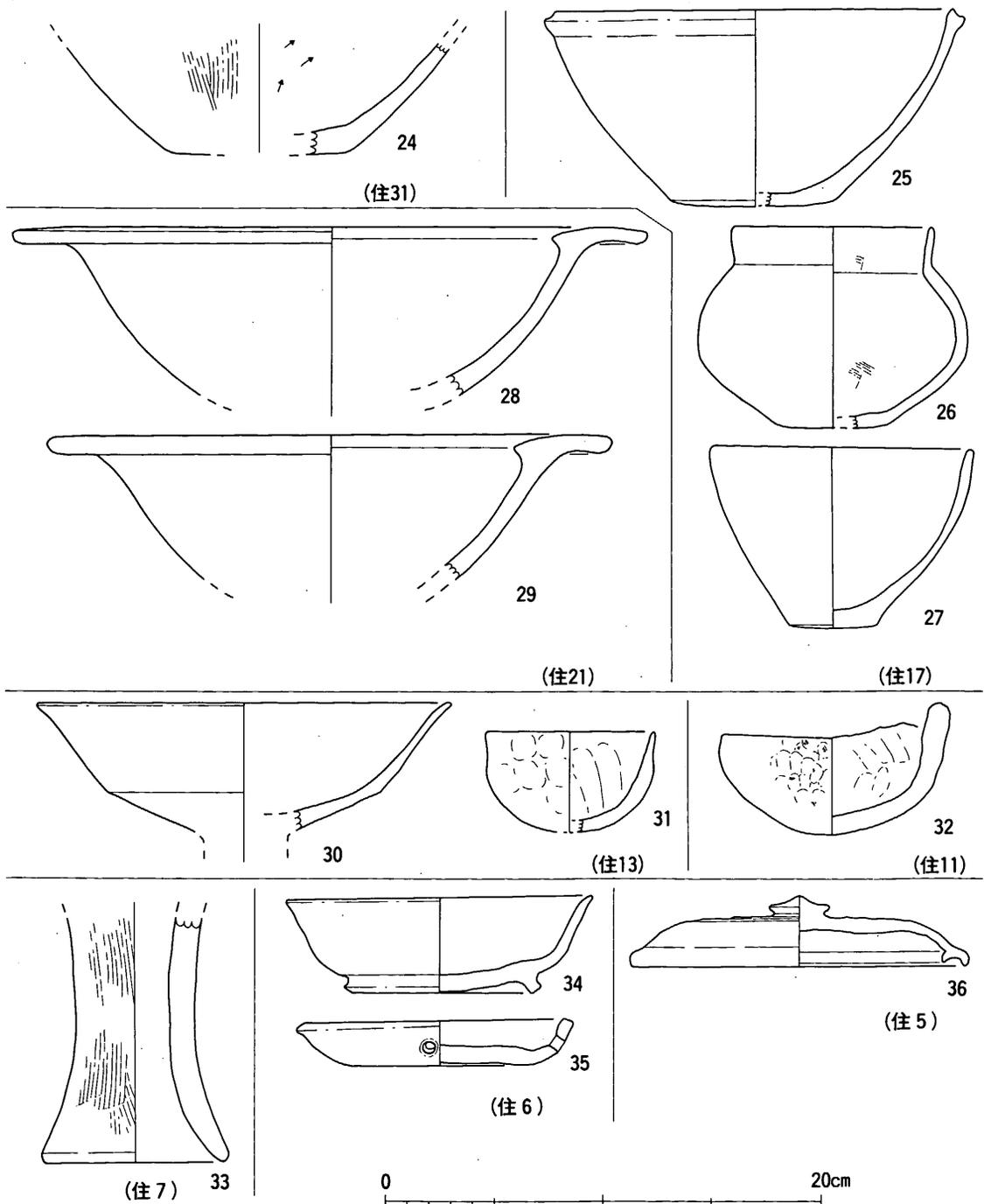
40～43は24号住居跡から出土した。40・41は甕の底部であるが、40は壺の可能性もある。42



第25図 45号・46号・43号・37号・41号・39号・36号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)



第26图 35号住居跡出土土器実測図 (縮尺 1/3)



第27図 31号・21号・17号・13号・11号・7号・6号・5号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)

は蓋の小片である。43は小壺で体部上半から口縁部にかけて内彎し、胴部下半は急速にすぼまる。底部は僅かに上がる。

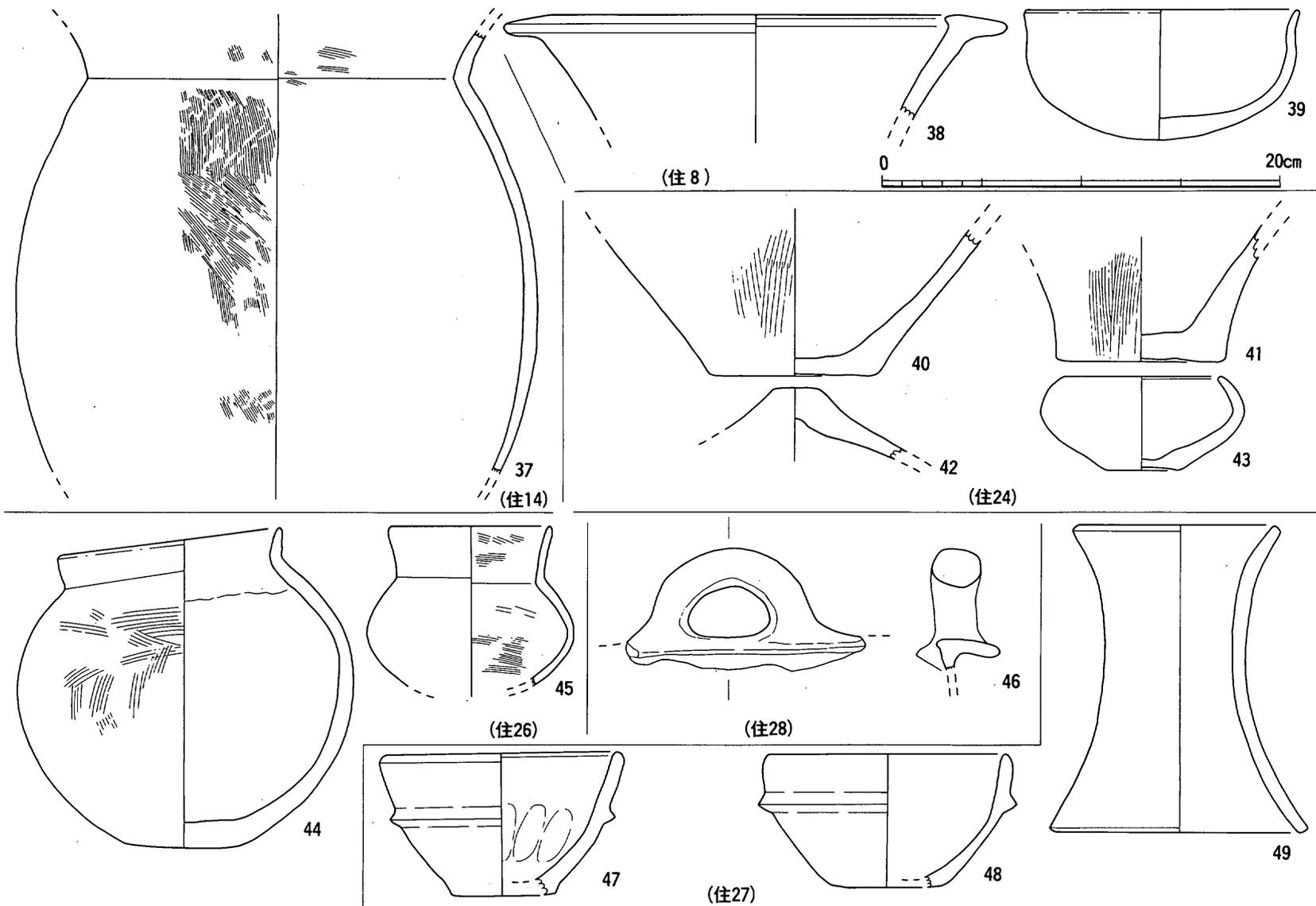
44・45は26号住居跡から出土した。44は短頸壺で口頸部はやや外傾し、胴部は球状を呈す。底部は僅かに丸味を帯びる。45は小型丸底壺で底部を欠失する。口頸部が器高に占める割合は1/3ほどである。

46は28号住居跡から出土した甕の口縁部である。逆L字状を呈す口縁上に環状の把手を付ける。

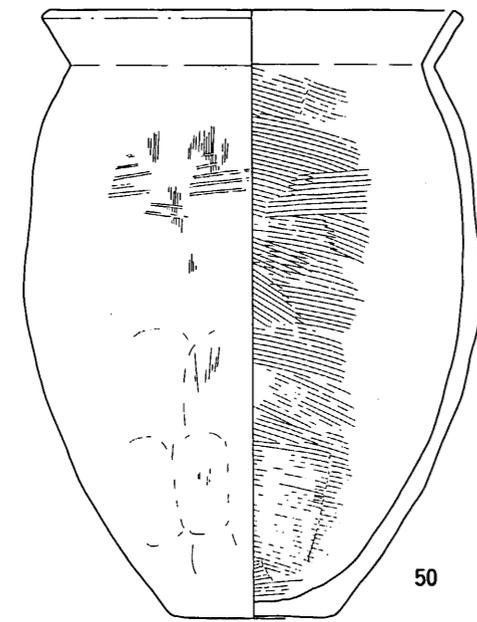
47・48は27号住居跡から出土した鉢である。いずれもほぼ同様の形態を呈す。外傾する体部は中程で屈曲し、やや立つ。立ち方は47より48の方が強い。また屈曲部直上に一条の凸帯が巡る。

49は27号住居跡から出土した器台である。

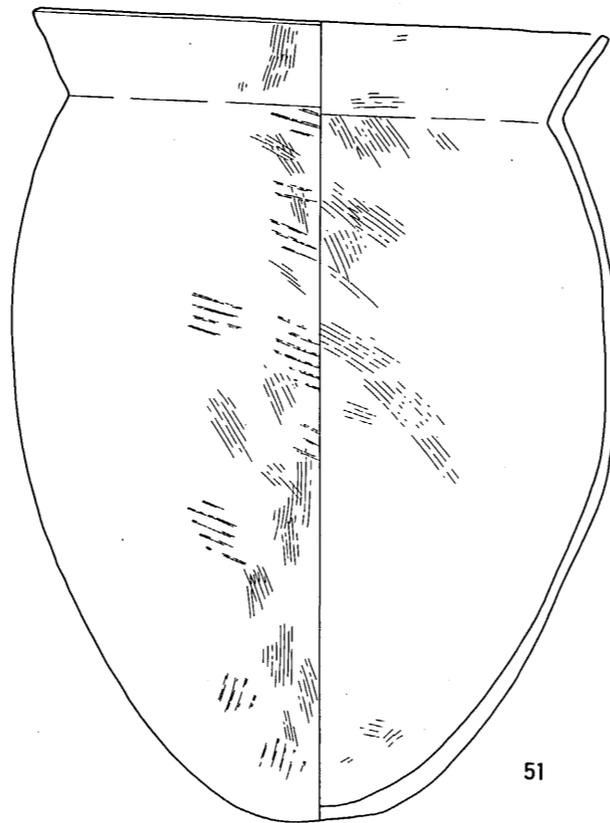
50～72は20号住居跡から出土した。50～55は長胴の甕で、53は他の甕より小型である。50は「く」字状の口頸部を呈し、口縁部が直線的に外傾する。頸部の屈曲は比較的シャープである。胴部は中位に最大径をもつが、張りは強くない。底部は平底である。調整は胴部外面が叩きの後、刷毛目を施す。胴部下半はさらにヘラ削りを行いナデを施す。胴部内面は全体に刷毛目を施す。口頸部は内外面ともヨコナデである。51は「く」字状の口頸部を呈し、口縁部が直線的に外傾する。胴部は中位やや上に最大径をもつ。底部は丸底で、僅かにレンズ状底の痕跡が残る。調整は胴部外面が叩きの後、刷毛目を施し、内面は全体に刷毛目調整される。口縁部は外面が縦方向、内面が横方向の刷毛目が施される。52も「く」字状の口頸部を呈すが、口縁部が外反気味に外傾し、頸部の屈曲はあまい。胴部は載頭倒卵形を呈す。底部は丸底で、僅かにレンズ状底の痕跡が残る。調整は摩滅のため明瞭でないが、外面の口縁部と胴部、内面の胴部に刷毛目が僅かに観察された。53は載頭倒卵形を呈す胴部で、底部は丸底である。「く」字状を呈す口頸部は大きく開き、口縁部は直線的で、やや外傾して立つ。調整は摩滅のため不明瞭であるが、胴部内外面に粗い刷毛目が観察された。54は小型の甕である。胴部の張りは弱く口縁部は短く外傾する。底部は欠失するが、平底又はレンズ状底を呈すと思われる。調整は摩滅のため不明瞭であるが、外面上半は叩き後、縦方向の刷毛目が施される。内面は口縁部が横方向、胴部上半が斜方向の刷毛目が認められた。55は短胴の甕で、載頭倒卵形を縮めた様な胴部を呈す。頸部の屈曲はあまく、口縁部は長胴の甕と同程度の長さを有し、外傾して立つ。56は「く」字状の口頸部を呈し、口縁部が直線的に外傾する。胴部は中位以下が失われるが、51と同様の形態を呈すと考えられる。57も口頸部周辺しか現存していないが、「く」字状の口頸部を呈し、口縁部が僅かに外反して外傾する。頸部の屈曲部には一条の断面三角形の凸帯が巡る。58は混入品と考えられる甕である。口唇部外面に断面三角形に粘土を貼付し口縁部を作る。口縁部下4 cmには一条の沈線を巡らす。胴部の高い位置に張りを有す。59は二重口縁壺で、胴部下半は欠失す



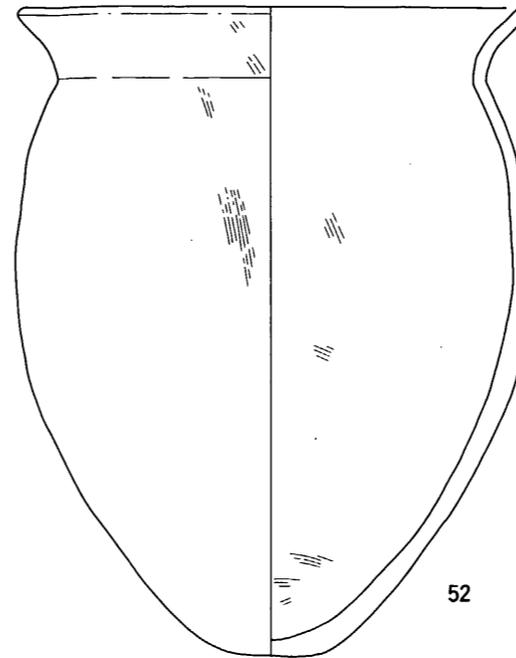
第28图 14号·8号·24号·26号·28号·27号住居跡出土土器実測図(縮尺1/3)



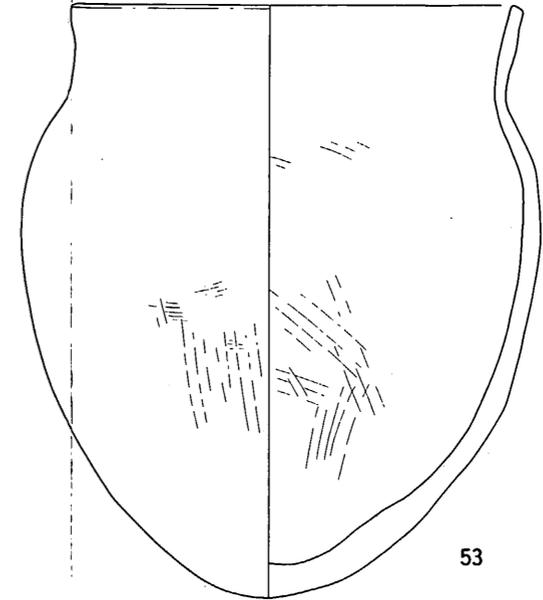
50



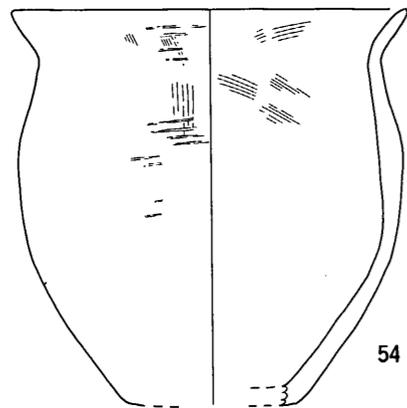
51



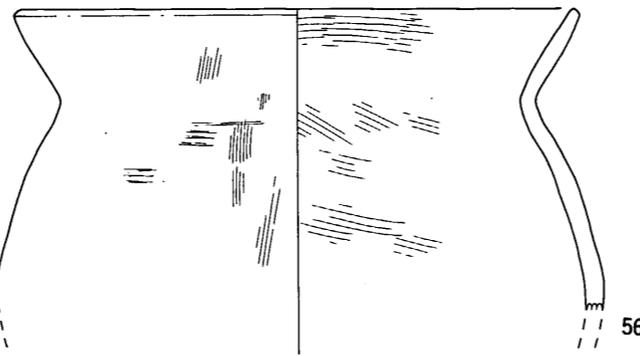
52



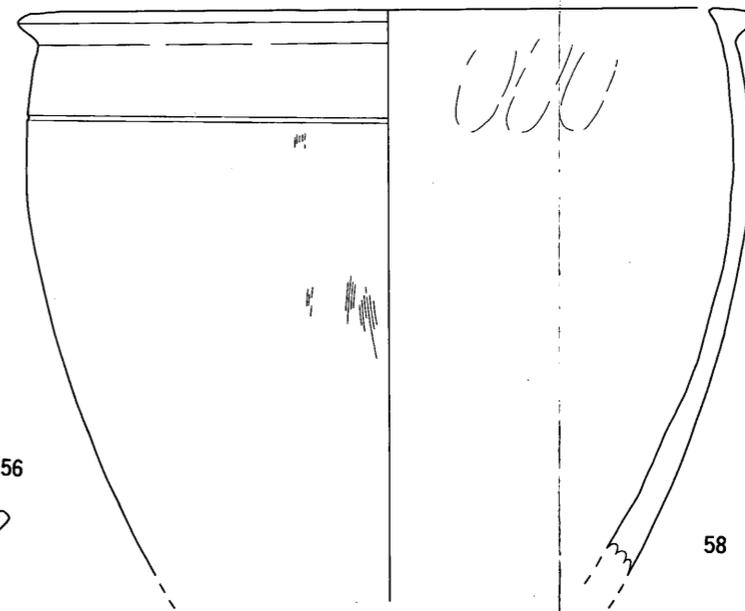
53



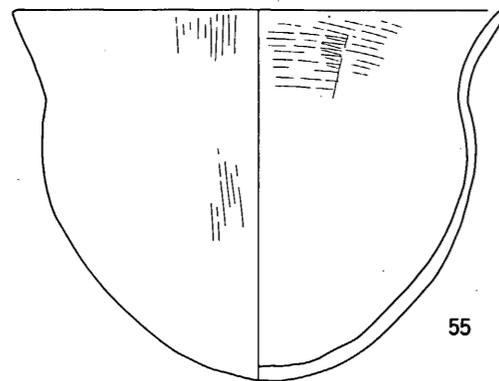
54



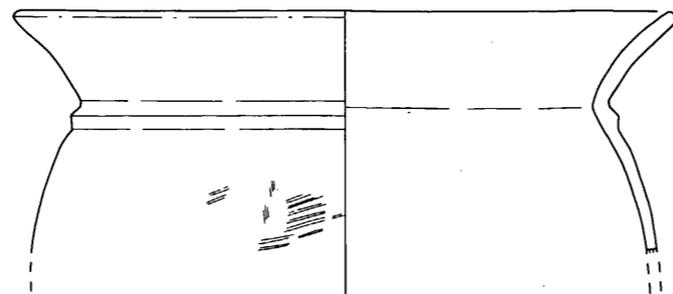
56



58



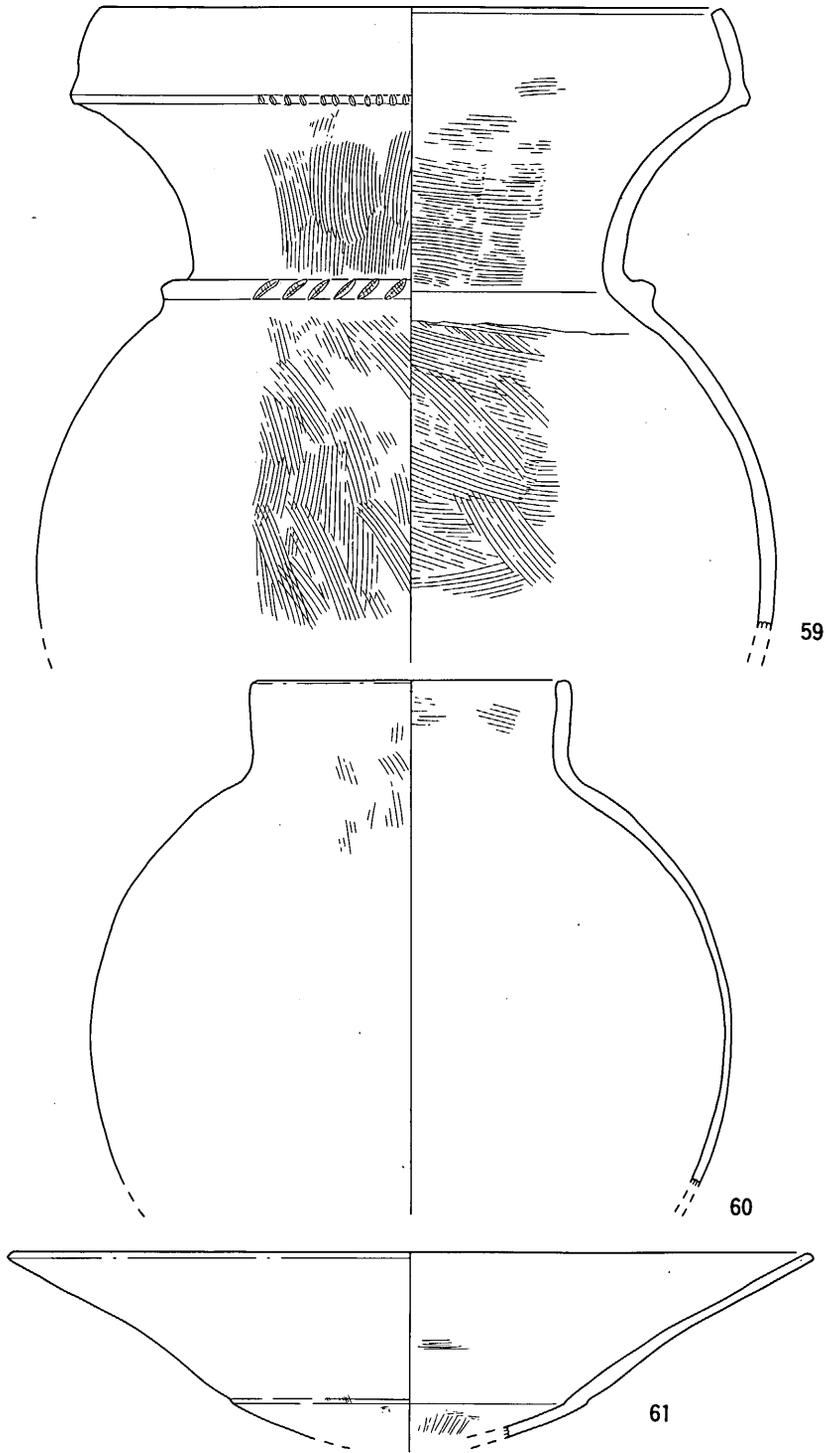
55



57

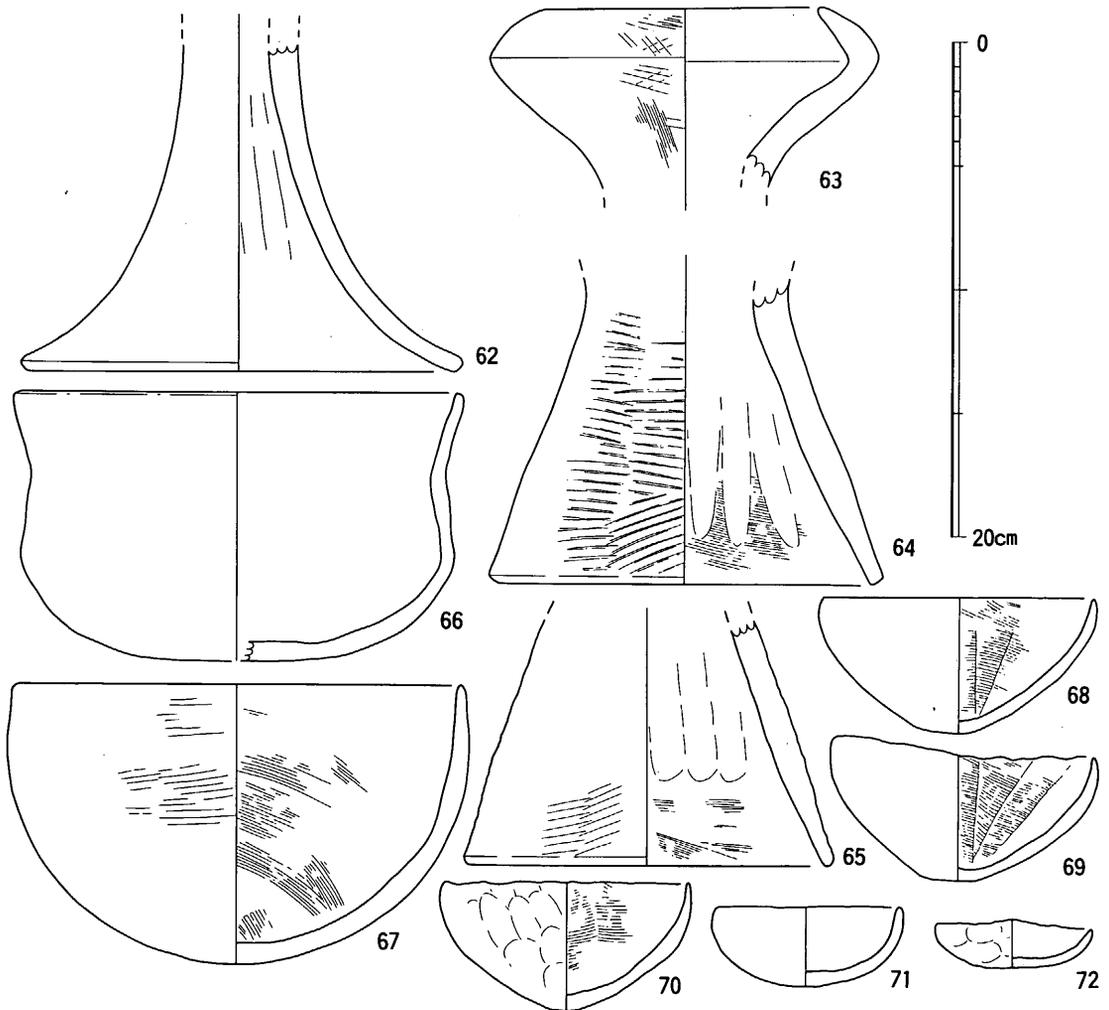


第29图 20号住居跡出土土器実測図 (縮尺1/3)



第30図 20号住居跡出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)

る。口縁部はやや内傾して立ち、頸部は太く、胴部との境に断面三角形の凸帯をもつ。口縁屈曲部と凸帯には刻目が施される。調整は頸部から胴部にかけて内外面とも刷毛目が施される。60は短頸壺で、胴部下半を欠失する。胴は球形を呈すと思われ、胴部にたいしてはやや小さめの口頸がつく。61は高坏の坏部である。体部は屈曲し、口縁部は外傾して大きく延びる。屈曲にはあまい段状を呈す接合面を残す。62は高坏の脚部で、緩やかに大きく開く。63～65は器台である。63は受部周辺部分で、体部上位が大きく外反した後、屈曲して内傾する受部へ至る。64・65は脚部で、直線的に外傾して立つ。いずれも外面には叩きが認められる。66・67は鉢である。66は丸底を呈す底部から体部は僅かに内傾し、逆に口縁部は外傾する。67は丸底を呈す底部から直立する口縁部まで緩やかに立ち上がる。68～72は小型の鉢である。68～70はやや尖



第31図 20号住居跡出土土器実測図 (縮尺 1/3)

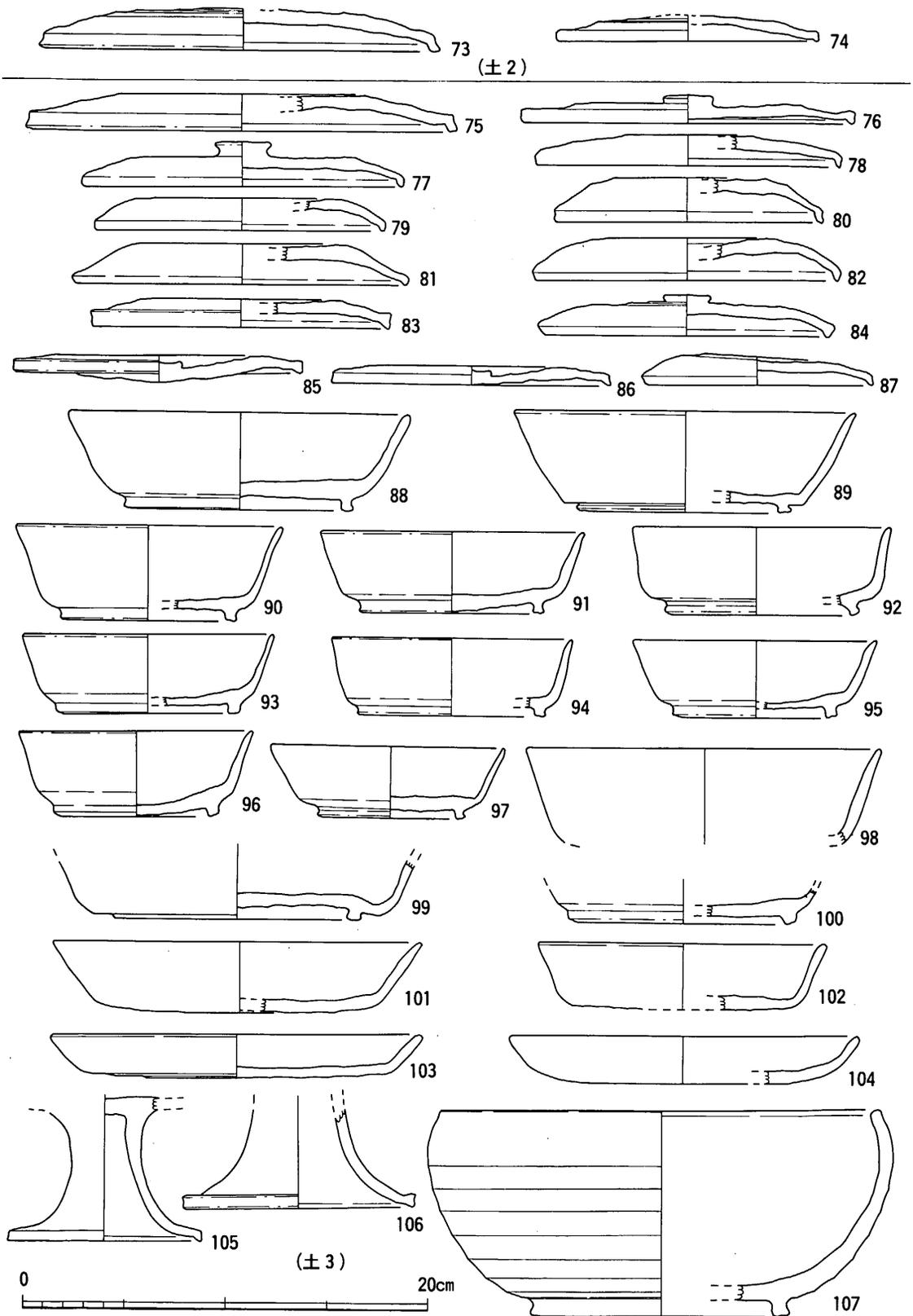
り気味の底部から直立する口縁部に緩やかに至り、内面には刷毛目が認められる。71・72はさらに小型のもので、偏半球状を呈す。

73・74は2号土壙から出土した。いずれも須恵器の坏蓋で、天井部は平坦にヘラ削りされ、口縁部を折り曲げて受部をつくりだすが、74の口縁部は摘み出したように、細く短い。

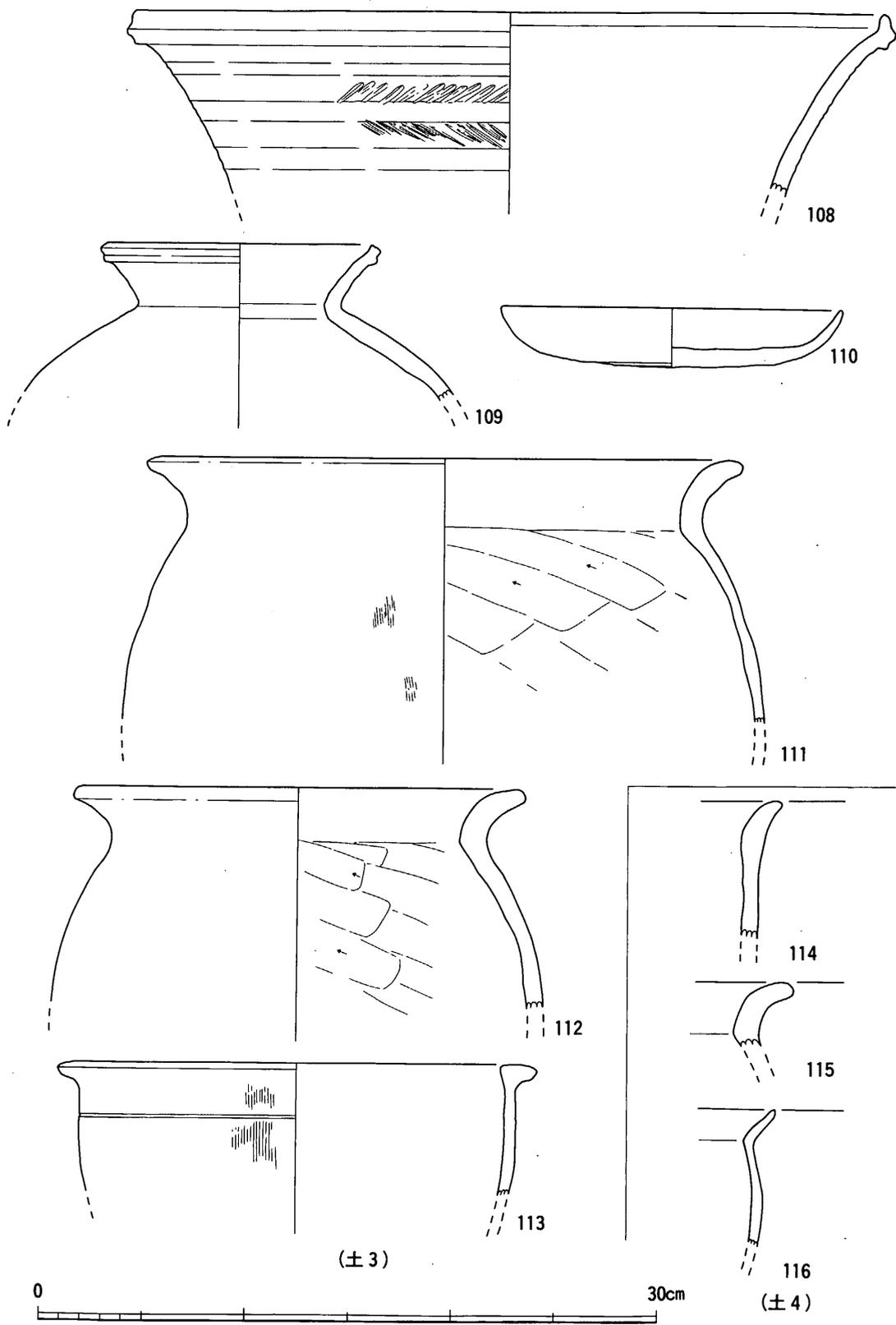
75～113は3号土壙から出土した。75～87は須恵器の坏蓋である。天井部は平坦にヘラ削りされるが、82・85・86のように歪みが生じたものもある。体部は76のように低く収まるものや、80のように丸味をもって緩やかに下るものがある。口縁部はいずれも折り曲げて、受部をつくるが、75・76のように明瞭に折り曲げ、嘴状を呈すものや、81・82のように端部を下方に捻ったようなもの、83・85のように肥厚させたような形状を示すものなどがある。天井中央部が現存するものは、87を除き擬宝珠形の撮を有す。88～100は須恵器の坏身である。92の体部がほぼ直立し、90の口縁部が僅かに外反する外は、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。体部と底部の境はあまく屈曲し、屈曲部から5mm程度のところに断面方形の低い高台を貼付する。高台には97のように外方に跳ねる痕跡を残すものもある。101～104は須恵器の皿である。いずれも体部は外傾し、底部は平坦にヘラ削りされる。体部と底部の境はあまく屈曲し、とくに104は明瞭な境をもたない。105・106は須恵器の高坏脚部で筒部から大きく外反して開き、端部は下方に引き出される。107は須恵器の鉢で、口縁部は内彎し、体部は緩やかな弧を描いて下る。底部と体部の境には断面方形の低い高台が貼付される。調整は口縁部外面から内面全体にヨコナデされ、体部外面はヘラ削りされる。108は緩やかに外反する中型の須恵器甕の口頸部片である。口唇部は上下に肥厚し、整形の際に有段化される。頸部には綾杉状に条線が施され、その上下と中央を浅い凹線が巡る。109は小型の須恵器甕で、胴部中位以下を欠失する。口頸部は短く外反し、口唇部は下方に肥厚し、整形の際に段が作られる。110はいわゆる赤焼きの皿で、底部はヘラ削りされる。111・112は土師器の甕の上半部である。口頸部は強く外反する「く」字状を呈し、胴部はよく張る。調整は全体に明瞭さを欠くが、内面頸部直下よりヘラ削りされる。113は混入品と考えられる弥生式土器の甕で、口唇部外面に粘土を貼付し口縁部を作る。口縁部下3cmには一条の沈線を巡らす。胴部は殆ど張らない。

114～116は4号土壙から出土した。114・115は土師器の甕の口縁部片である。114は口縁部が僅かに外反し、胴部は殆ど張らないようである。115の口頸部は強く外彎する「く」字状を呈す。116は土師器の鉢で口縁部は短く外傾し、体部は球状を呈すと思われる。

117～122は5号土壙から出土した。117～121は須恵器の坏蓋である。天井部はいずれもヘラ削りを施すが、118～120のように平坦に仕上げるものと、121のように丸身を持たせるものがあり、117は歪みが生じているが後者に属するものである。口縁部はいずれも折り曲げて、受部をつくりだすが、117～119のように明瞭に折り曲げ、嘴状を呈すものや、120のように端部を下方に捻ったようなもの、121のように肥厚させたような形状を示すものなどがある。天井



第32图 2号·3号土壙出土土器実測図(縮尺1/3)

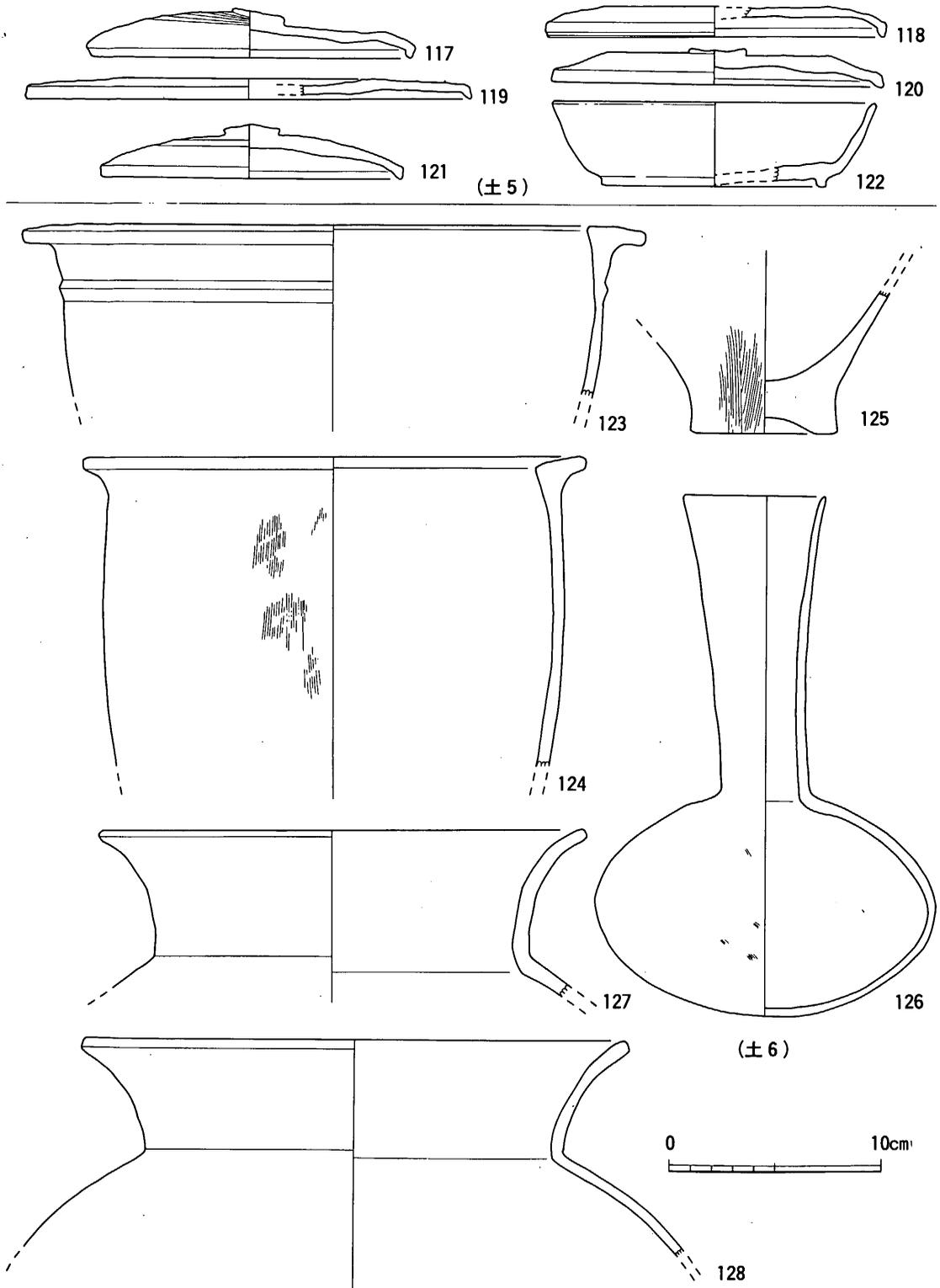


第33图 3号・4号土壙出土土器実測图 (縮尺1/3)

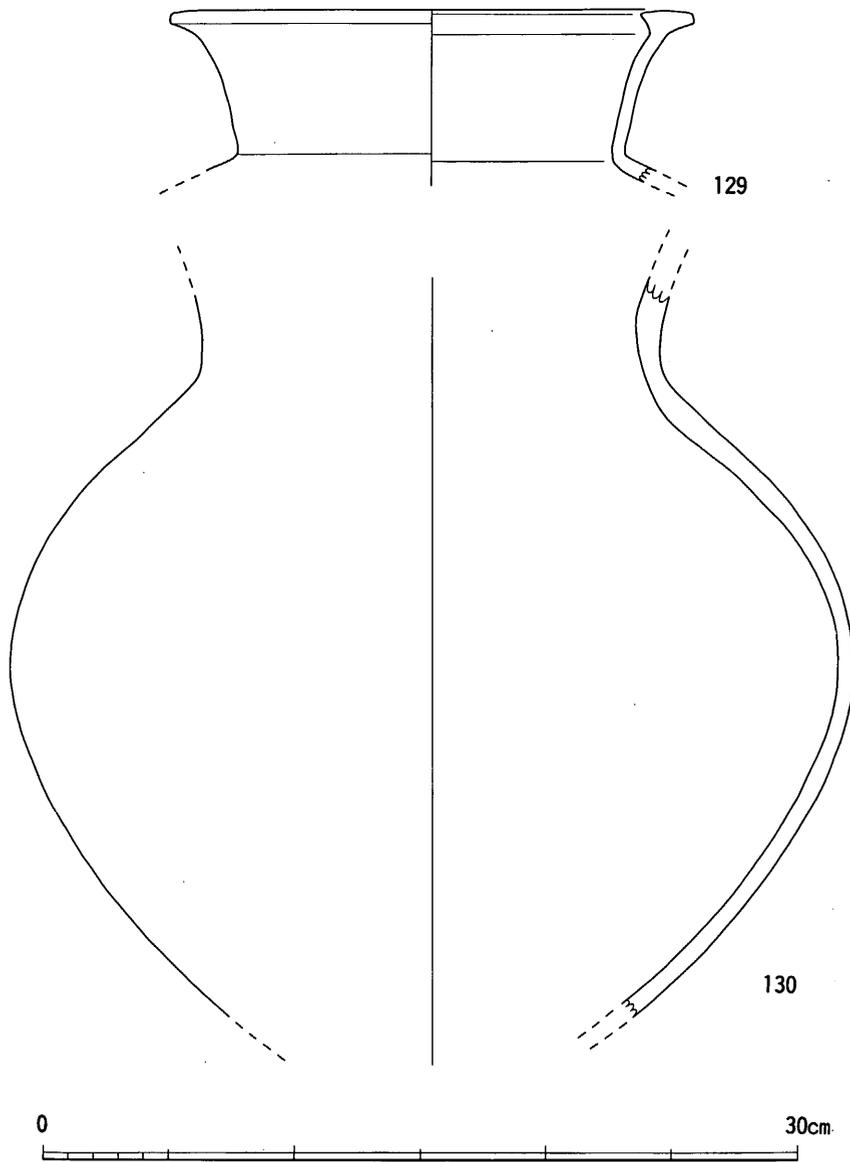
中央部が現存するものは擬宝形の撮を有す。122は須恵器の坏身である。体部から口縁部にかけてほぼ直線的に外傾する。体部と底部の境はあまく屈曲し、屈曲部から5mm程度のところに断面方形の低い高台を貼付する。

123～130は6号土壙から出土した。123・124は甕の上半部である。いずれも口縁部は逆し字状を呈すが、外方への伸びは小さい。123は口縁下に一条の凸帯が巡る。124は口縁端部が僅かに上向きとなる。125は甕の底部で、上げ底をなす。126は長頸壺で、下方が萎む長い筒状を呈す口頸部に偏球状の胴～底部がつく。胎土は良質のものが用いられる。127～130は壺である。127・128は単口縁の壺で、口頸部は比較的短く、大きく外反する。129は鋤先状口縁を呈すが、口縁平坦部は短い。130は頸～胴部片で、胴部中位に最大径をもち、胴部と頸部の境はあまく屈曲し、頸部は外傾して延びる。調整は摩滅のため不明である。

131～176は7号土壙から出土した。131～140は須恵器の坏蓋である。天井部は平坦にヘラ削りされる。体部は131～133・140のように低く収まるものや、134～137のように外傾して、または丸味をもって緩やかに下るものがある。137・138のように口縁端部を肥厚させるものや、その他のもののように口縁部を折り曲げて、受部をつくりだすものがあるが、後者はむしろ端部を下方に捻った程度の形状を示す。天井中央部が現存するものは、擬宝珠形の撮を有す。141～145は須恵器の坏身であるが、141は歪みのためか、復原口径が大きすぎると考えられる。141は外反する口縁部から僅かに丸身をもつ体部へ移り、屈曲して底部へ至る。高台は細身の断面方形で、端部は外方に跳ねた痕跡を残すものが、屈曲部から5mmほど内側に貼付される。142～144は体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、体部と底部の境は屈曲する。屈曲部から5mm程度内側には断面方形の潰れたような低い高台を貼付する。145は底部片であり、体部と底部との境に高台が貼付される。146～151は須恵器の皿であるが、146は歪みのためか、復原口径が大きすぎると考えられる。146～150は体部が外傾し、口縁部は僅かに外反、または外反気味となる。底部は平坦にヘラ削りされるが、歪みのためか、148の底部はやや上がり、150の底部はやや下がる。体部と底部の境は屈曲し、3号土壙出土のものに比べるとシャープである。151は前者に比べると器高が高いが、諸特徴はほぼ同じである。152は須恵器の椀である。口縁～体部にかけて直線的に外傾し、底部は平底である。153は須恵器の長胴の壺である。外面はヘラ削りされ、内面はヨコナデされる。154・155は中型の須恵器甕の口頸部片である。154は外反する「く」字状を呈し、口唇部は肥厚し、整形の際に有段化される。155の口頸部はやや外傾し、口縁部の外側を肥厚させる。156～170は土師器の甕である。169の口縁部は肥厚し、胴部へ直線的に至る形状を示す以外は、いずれも口頸部は強く外彎する「く」字状を呈す。胴部の張りは口径を上回るもの（158～160）、口径～頸部径内に収まるもの（156・161～168・169）、頸部径を下回るもの（157・169）に分かれる。胴部の張りが口径を上回るものは最も大形である。調整は全体に摩滅して不明瞭であるが、胴部外面には刷毛目が認められ、口縁部付近はヨ

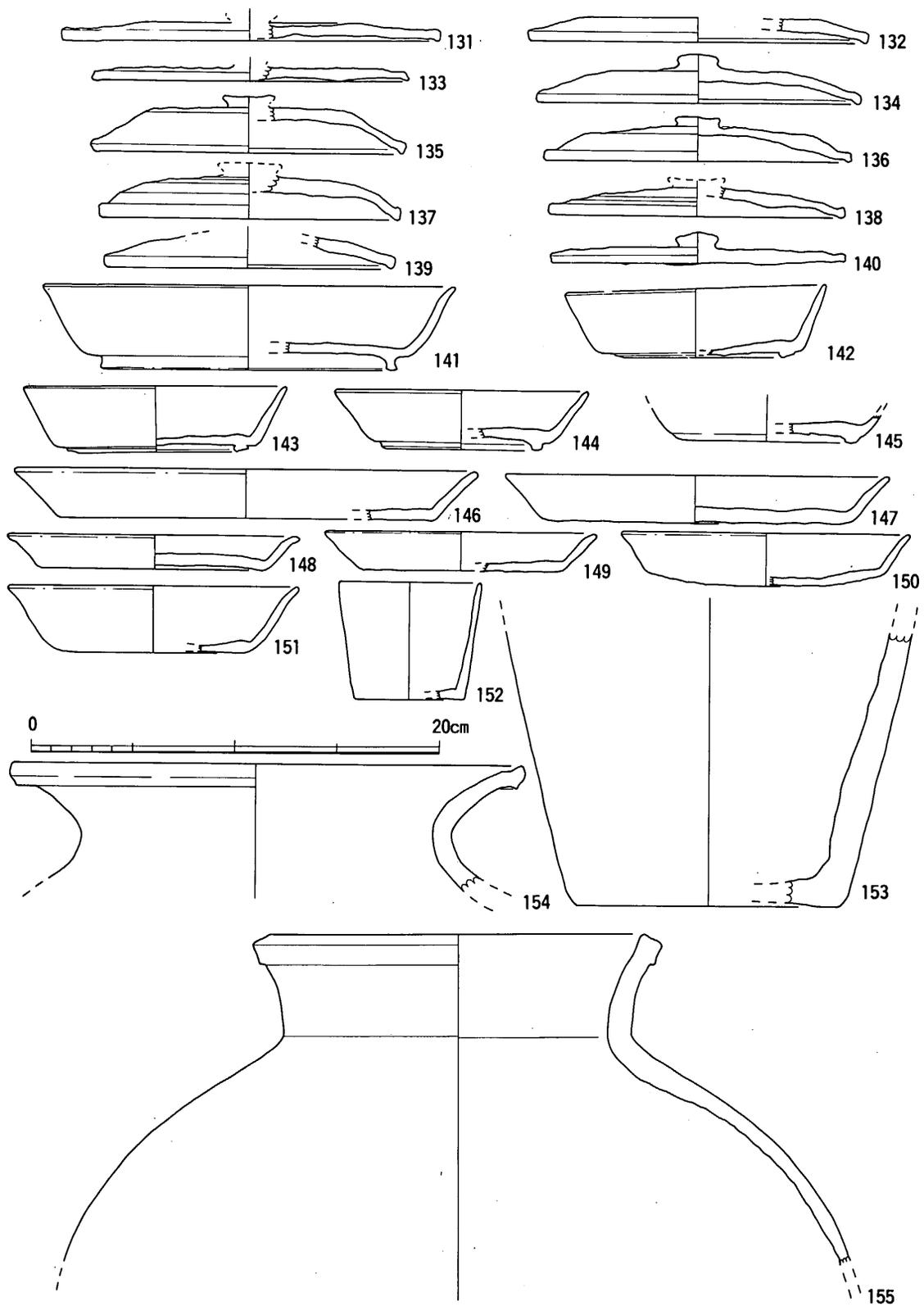


第34图 5号・6号土壙出土土器実測図(縮尺1/3)



第35図 6号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)

コナデされる。内面は頸部直下からヘラ削りが施される。171は甕または甑と思われる。小片であるため全容は不明であるが、胴部上半は内彎し、口縁部は直線的に短く内傾する。器壁は全体に厚く、把手が貼付された痕跡が残る。172は注口土器の注口部である。173は製塩土器の底部と思われる。174～176は混入品と考えられる弥生式土器である。174は逆L字状を呈す甕



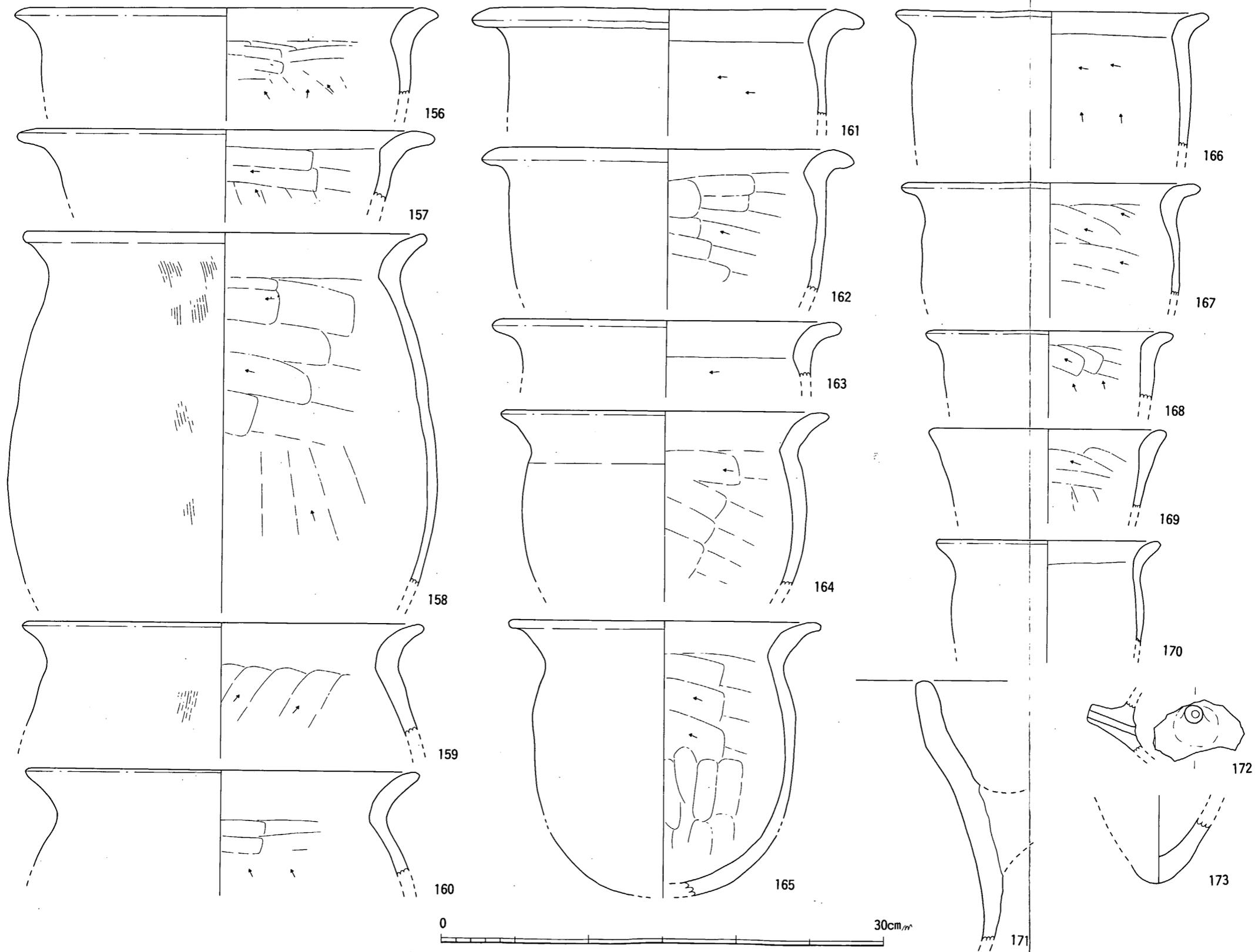
第36图 7号土坑出土土器实测图(縮尺1/3)

で、胴部は僅かに張る。175は高坏の坏部である。口縁部は鋤先状を呈すが、外方へは殆ど延びない。器面には丹が塗布される。176は筒形器台の受部であり、丹塗りで、暗文が施される。

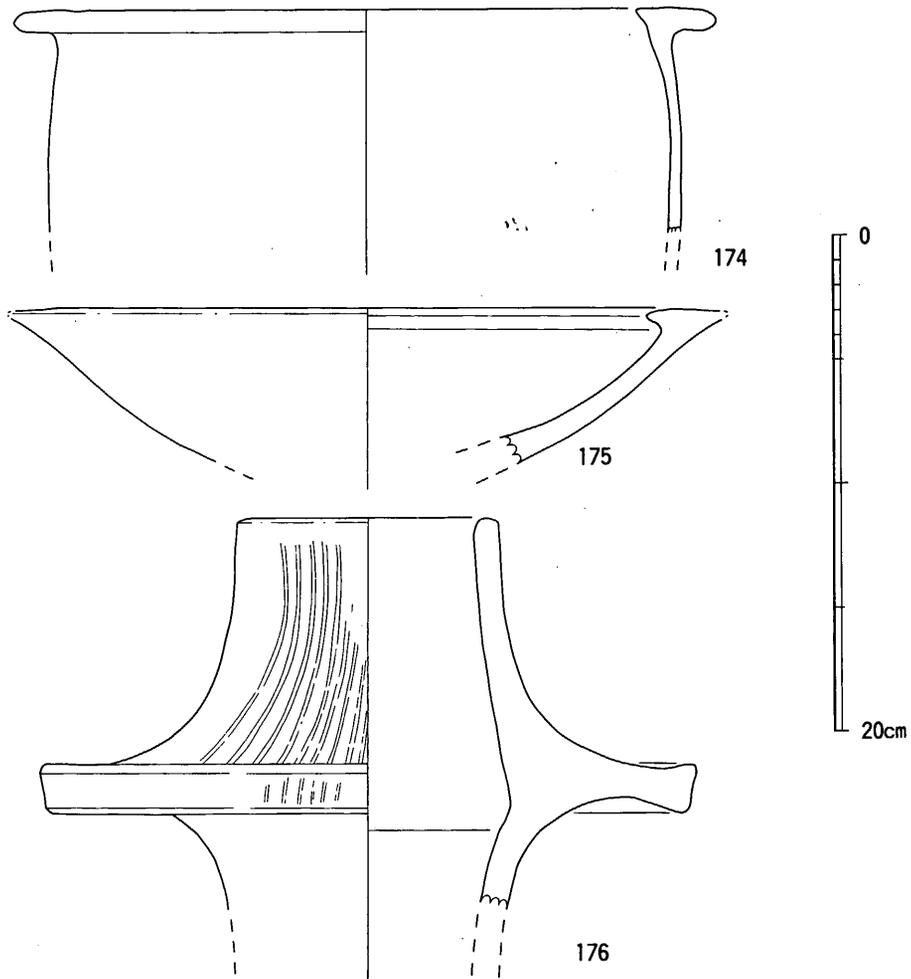
177～185は8号土壙から出土した。177は須恵器の坏蓋で平坦にヘラ削りされ、口縁部は折り曲げられ受部をつくる。178～180は須恵器の坏身である。口縁～体部は外傾して立ち、体部と底部の境はあまく屈曲し、屈曲部から5mmほど内側に断面方形の低い高台が貼付される。181は平瓶で口縁部を欠失する。底部から体部下位にかけてヘラ削りされ、底部は平坦につくられる。182は壺の底部で、体部と底部の境のあまい屈曲部から5mmほど内側に断面方形の低い高台が貼付される。183は土師器の椀で、口縁部は内彎する。184は土師器の甕である。口縁部は外反し、胴部はほとんど張らず下る。調整は全体に摩滅しているが、胴部内面は頸部直下からヘラ削りされる。185は口頸部が短く、また強く外彎する「く」字状を呈す。胴部の張りは強く、最大径位に把手が貼付される。調整は全体に摩滅しているが、胴部内面は頸部直下からヘラ削りされる。

186は9号土壙から出土した。口縁部は逆し字状になるように粘土を貼付し、口縁部直下に貼付けの位置を設定したと思われる沈線が巡る。胴部は殆ど張らず、底部は断面台形のしっかりとしたもの付き、上げ底をなす。

187～212は11号土壙から出土した。189～191は須恵器の坏蓋である。天井部は187～189のように平坦にヘラ削りされるものと、190・191のように丸味をもって緩やかに体部へ続くものがある。また口縁部は187・188のように嘴状に折り曲げて受部をつくりだすもの、190のように端部を下方に捻ったようなもの、189・191のように肥厚させたような形状を示すものなどがある。天井中央部が現存するものは擬宝珠形の撮を有す。192～195は須恵器の坏身である。192は体部が外傾し、口縁部は僅かに外反する。体部と底部の境はあまく、境から1cmほど内側に高台が付く。高台は踏ん張るように貼付され、端部は外方に跳ね上がる。193・194は前者の体部がほぼ直立し、後者がやや外傾する。高台は体部と底部の境部分に、断面方形の低い高台を貼付する。196は須恵器の高坏脚部で筒部から大きく外反して開き、端部は下方に引き出される。197は須恵器の壺の下半部である。高台は体部と底部の境から5mmほど内側に、踏ん張るようにして貼付され、端部は外方に鈍く跳ねる。現存部分外面はヘラ削りが施され、内面はヨコナデされる。198は土師器の坏である。口縁～体部がやや外反して延び、平坦な底部との境は明瞭に屈曲する。199～206は土師器の椀である。199～202は半球状をなすものである。口縁部はほぼ直立し、緩やかに丸底の底部へ至るものである。203は口縁～体部が直立し、屈曲して平坦な底部へ至る。204～206は体部上半が稜をもって立ち上がり、底部は丸底をなす。立ち上がり部分は内傾するもの(204)、外傾するもの(205)、外反するもの(206)がある。全体に摩滅しており、調整は明瞭でないが、後者の外面下半部はヘラ状工具によると思われる。207・208は土師器の高坏の坏部と思われる。207の体部は内彎気味に立ち上がり、208は外傾し



第37图 7号土坑出土土器实测图(缩尺1/3)

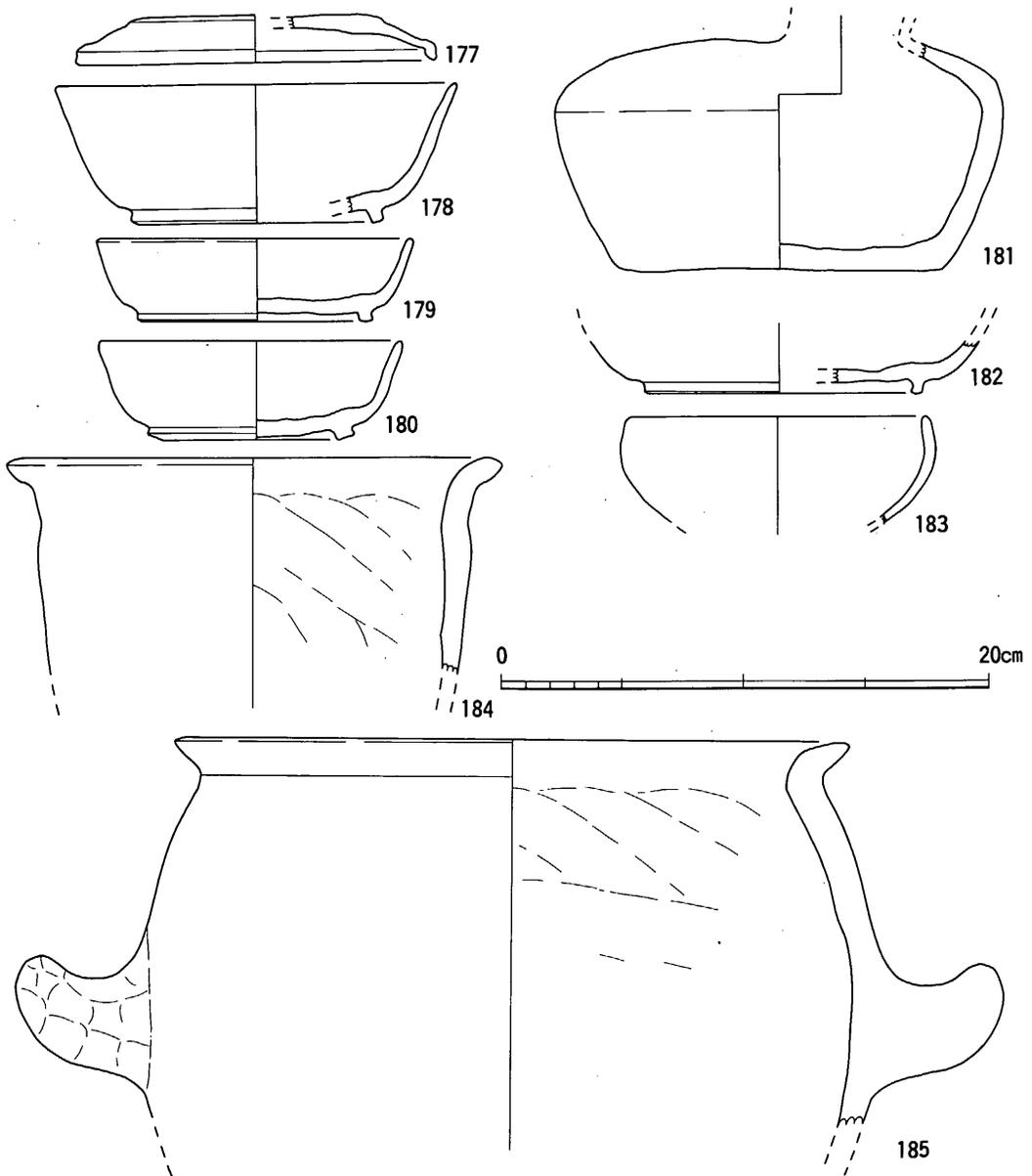


第38図 7号土壙出土土器実測図（縮尺1/3）

て立つ。209～212は土師器の甕である。209は小形の甕で、丸底の底部からまっすぐに立ち上がり、口縁部は外反する。210も小形の部類に入り、209とほぼ同じ形状を取られる。211・212は口頸部が強く外彎する「く」字状を呈し、211の胴部の張りは口径を上回る。調整は全体に明瞭さを欠くが、内面頸部直下よりヘラ削りされる。

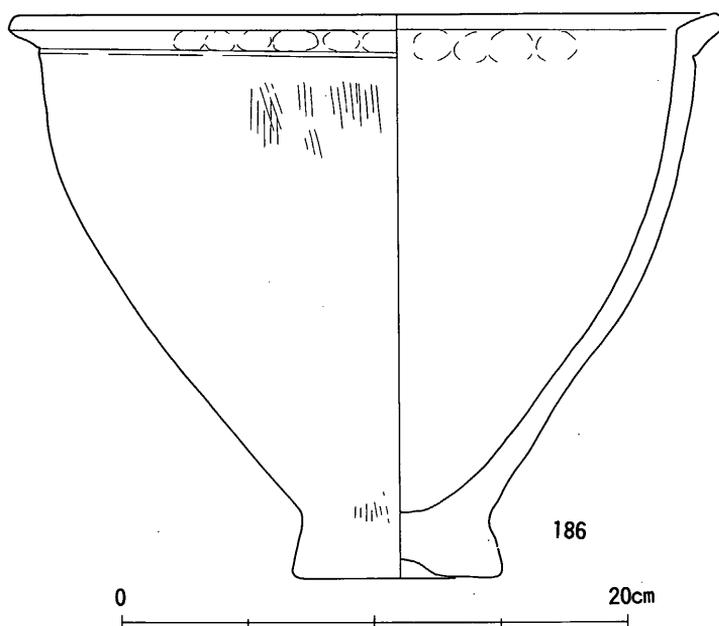
213は12号土壙から出土した把手でヘラ状工具で整形される。

214～216は13号土壙から出土した。214・215は甕で口唇部外面に粘土を貼付し、口縁部をつくる。口縁下35mmほどには一条の沈線を巡らす。外面調整は縦方向の刷毛目、内面はナデを施す。216は把手である。



第39図 8号土壙出土土器実測図（縮尺1/3）

217～223は15号土壙から出土した。217～220は甕である。217は長胴の甕の上半部で、「く」字状の口頸部を呈し、口縁部は外反気味に開く。口縁部と胴部内面は横方向、胴部外面は縦方向の刷毛目が施される。218は口頸部を欠失する。長胴で、やや高い位置に最大径をもつ。底部は平底で、調整は外面が縦に近い斜方向、内面が横に近い斜方向の刷毛目を施す。219は混



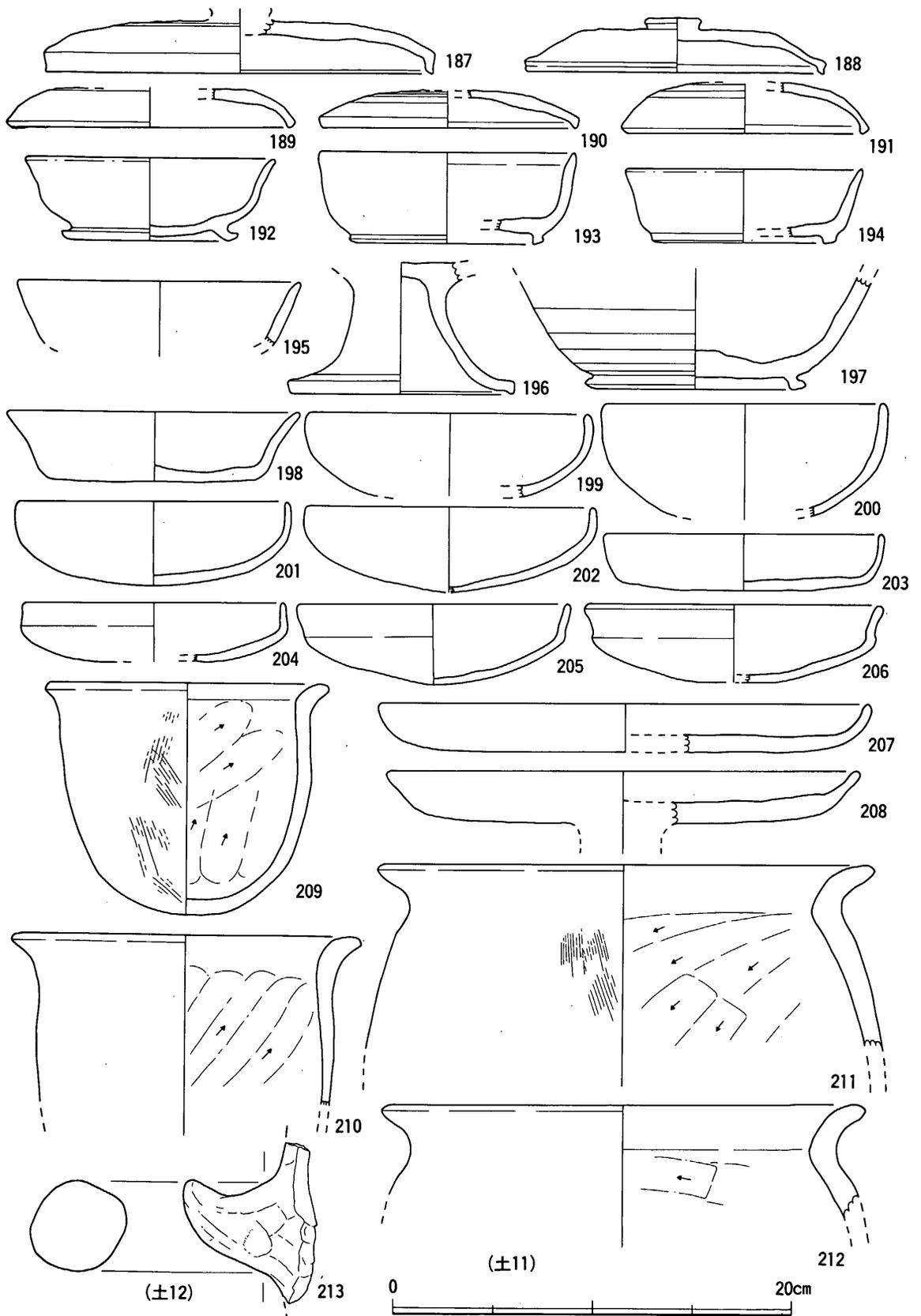
第40図 9号土壙出土土器実測図（縮尺1/3）

入品で、短い如意形口縁を呈し、口縁下3cmに一条の沈線が巡る。220は大形の甕で下半部を欠失する。口頸部は「く」字状を呈し、胴部のやや高い位置に最大径をもつが、張りはそれほど強くない。頸部の屈曲部と胴部最大径位下に、それぞれ一条の断面三角形の凸帯が貼付され、胴部の凸帯にはさらに刻目が施される。調整は内外面とも刷毛目が施される。221・222は短頸壺である。221は球状を呈す胴部に、僅かに外傾する短い口頸部が付く。底部はレンズ状を呈す。調整は外面胴部上半に粗い叩きが施され、内面全体と外面頸部に刷毛目がみられる。222の口頸部はほぼ直立し、端部が僅かに開く。底部は欠失するが、胴～底部は球形を呈すと思われる。223は杓形器台で、受部は水平である。つまみの部分は小さく頂部は広く空く。外面には粗い叩きを残す。

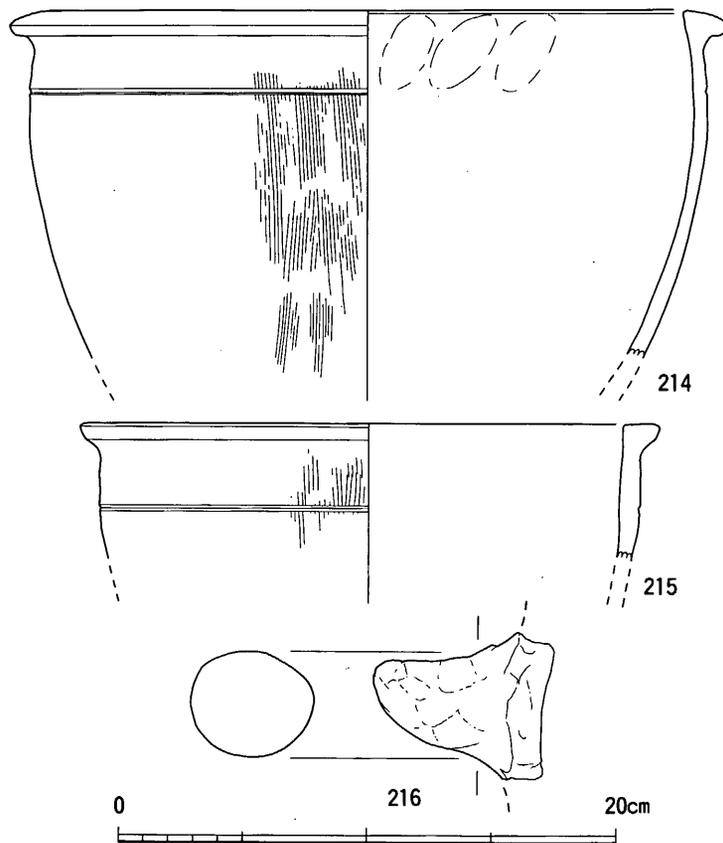
224～226は16号土壙から出土した。224は高坏である。坏部は体部中ほどで稜をもって屈曲し、上半は外反する。脚部は下半部で大きく開く。坏部や脚部外面はミガキが施される。225・226は椀で、半球状を呈し、口縁部は225が外傾気味に開き、226は内彎気味に直立する。

227～229は21号土壙から出土した。227は甕で、口唇部の外方に粘土を貼付し、口縁部をつくる。228は鋤先状口縁の壺で、口縁部の外方への伸びは僅かである。229は器台で、筒状の体部から受部、脚部は緩やかに開く。

230～251は23号土壙から出土した。230～233は比較的大形の甕である。233は如意形口縁の内側に粘土帯を貼付し、肥厚させる。胴部は殆ど張らずに直線的に下り、口縁下6cmに一条の断面三角形の凸帯を巡らす。231は口唇部外方に断面三角形に粘土を貼付し、口縁部をつくる。



第41图 11号・12号土壙出土土器实测图(縮尺1/3)

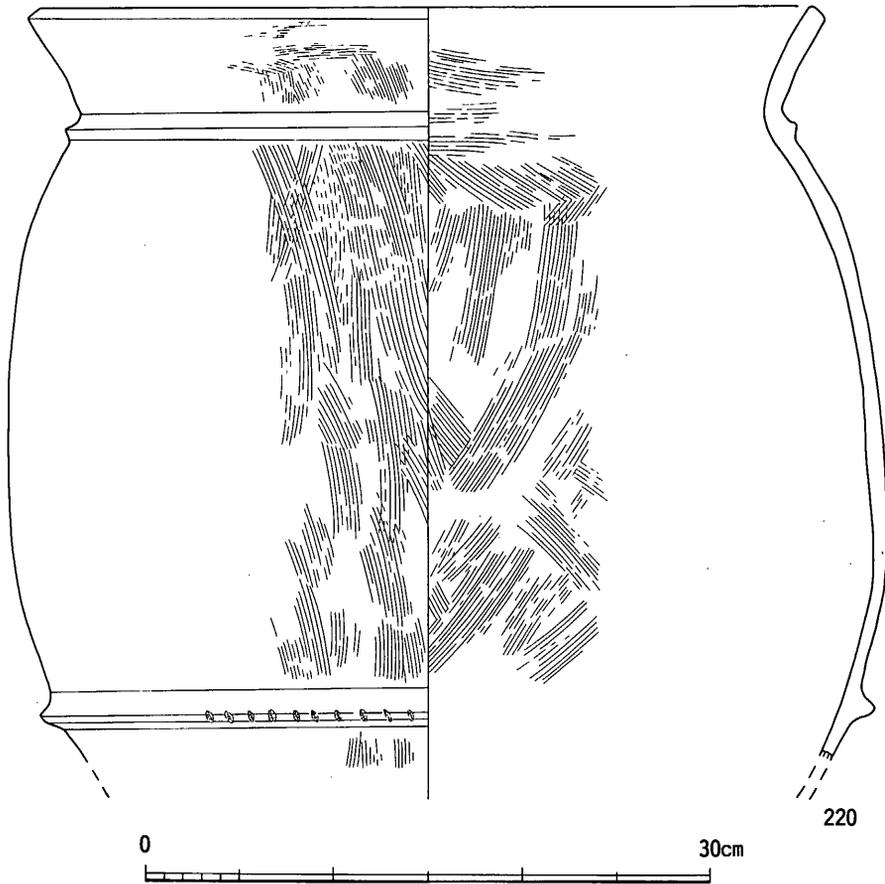


第42図 13号土壌出土土器実測図 (縮尺1/3)

胴部はやや張り、口縁下3cmに一条の断面三角形の凸帯を貼付する。232は短い如意形口縁を呈し、胴部はやや張る。口縁下2.5cmには一条の断面三角形の凸帯が巡り、刻み目を施す。233は下半部で、体部から緩やかに下り断面台形の厚い底部に至る。底部は僅かに上げ底をなす。調整は外面に刷毛目、内面にナデを施す。234~241は一回り小形の甕である。234・235は口唇部の外方に粘土を貼付して口縁部をつくるもので、235の口縁下3cmには一条の沈線が巡る。237は短い逆L字状を呈す口縁部から胴部はほとんど張らずに底部へ至る。底部は断面台形の分厚いもので、底は上げ底をなす。238~242は如意形口縁をもつもので、胴部はほとんど張らないか、張っても僅かである。底部は前者と同じく分厚い断面台形のものであるが、底は240・241のようにほとんど上げ底をなさないものもあり、また上げ底をなすものも前者より浅い。243~251は壺である。243は外反する口縁の内側に粘土帯を貼付し、肥厚させる。胴部と頸部の境には断面三角形の凸帯を巡らす。胴部はやや長胴で、高い位置に最大径をもつ。底部はレンズ状を呈す。244は外反する単口縁を有し、直立する頸部は短い。胴部と頸部の境には



第43図 15号土壇出土土器実測図 (縮尺1/3)



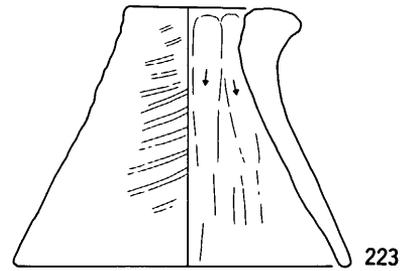
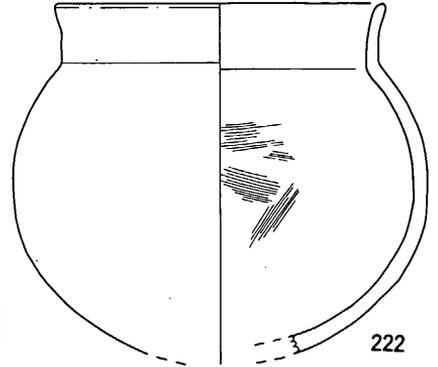
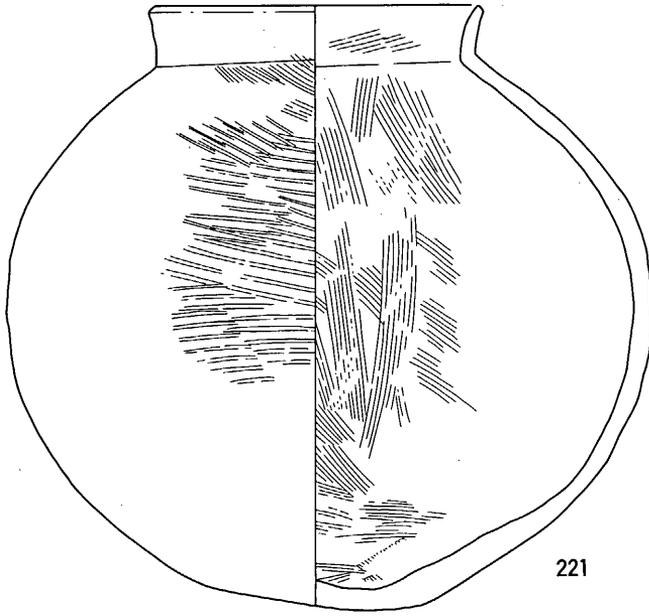
第44図 15号土壙出土土器実測図（縮尺1／3）

断面三角形の凸帯を巡らす。胴部はほぼ中位に最大径をもち、底部は僅かに上がる。245は小形の壺で、凸帯は付かないものの、ほぼ244と同じような特徴を示す。246は大きく開く口頸部を有し、内面に断面三角形の凸帯を貼付し、かえりをつくる。

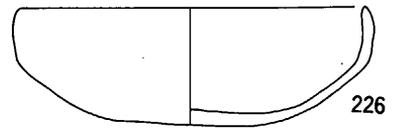
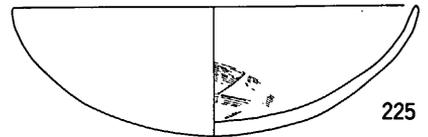
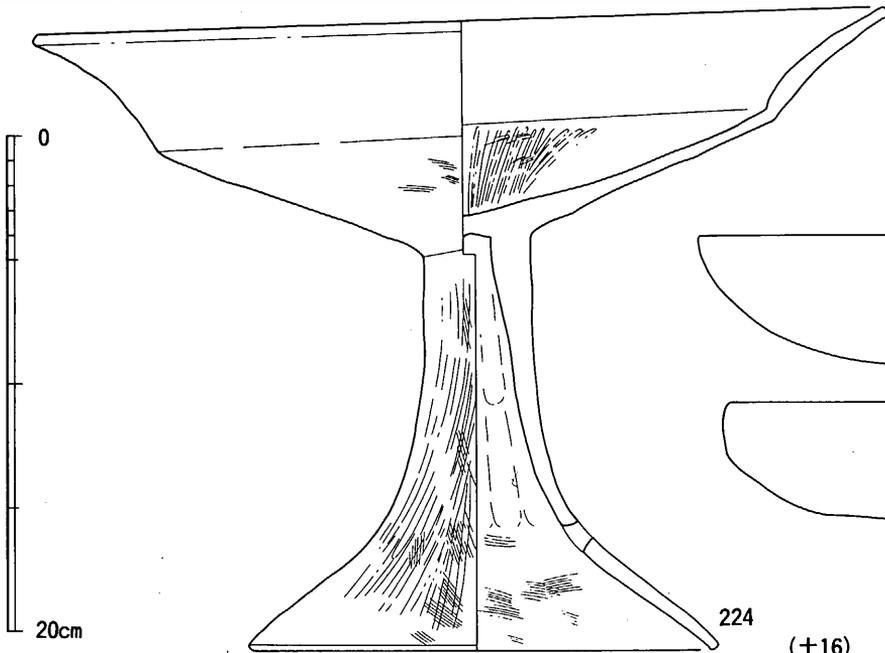
252・253は24号土壙から出土した。252は壺の口頸部で、口縁部は大きく外反する。253は支脚で、上下に窪みが作られるものであろうが、一端は欠失する。

254～256は25号土壙から出土した。254は逆L字状口縁を有す甕で、胴部はやや張る。255は平坦で大きい底を有す、短胴の甕の下半部である。256は壺の口頸部で、口縁部は強く外反し、頸部と胴部の境に断面三角形の凸帯が巡る。

257～276は27号土壙から出土した。257～260は須恵器の坏蓋である。天井部は平坦にヘラ削りされ、体部は直線的、またはやや丸味を帯びて下る。口縁部は折り曲げられ受部をつくる。261～268は須恵器の坏身である。口縁～体部は直線的に外傾して立ち、体部と底部の境は屈曲

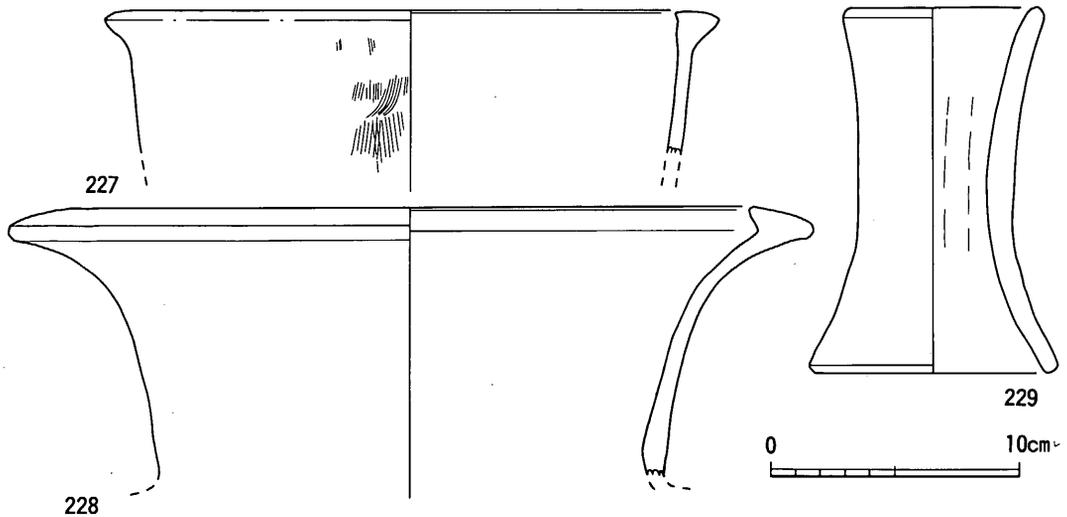


(±15)



(±16)

第45図 15号・16号土壇出土土器実測図 (縮尺1/3)



第46図 21号土壙出土土器実測図（縮尺1/3）

する。屈曲部からやや内側に高台が貼付される。高台は266が断面方形の短いものを貼付するほかは、やや細みのものを踏ん張るように貼付し、端部が外方に跳ねた痕跡を示す。269は須恵器の甕で、口頸部は短く、口縁部は下方に折り曲げ肥厚させる。270～274は皿である。270～273は丸底を呈す底部から内彎状に立ち上がり口縁部に至る。274は前者より一回り大きく、平坦な底部から屈曲して、体部はやや内傾して立ち上がる。275は土師器の甕で、口頸部は強い「く」字状を呈し、胴部はよく張る。調整は明瞭でないが、胴部内面は頸部直下からヘラ削りされる。276は把手である。

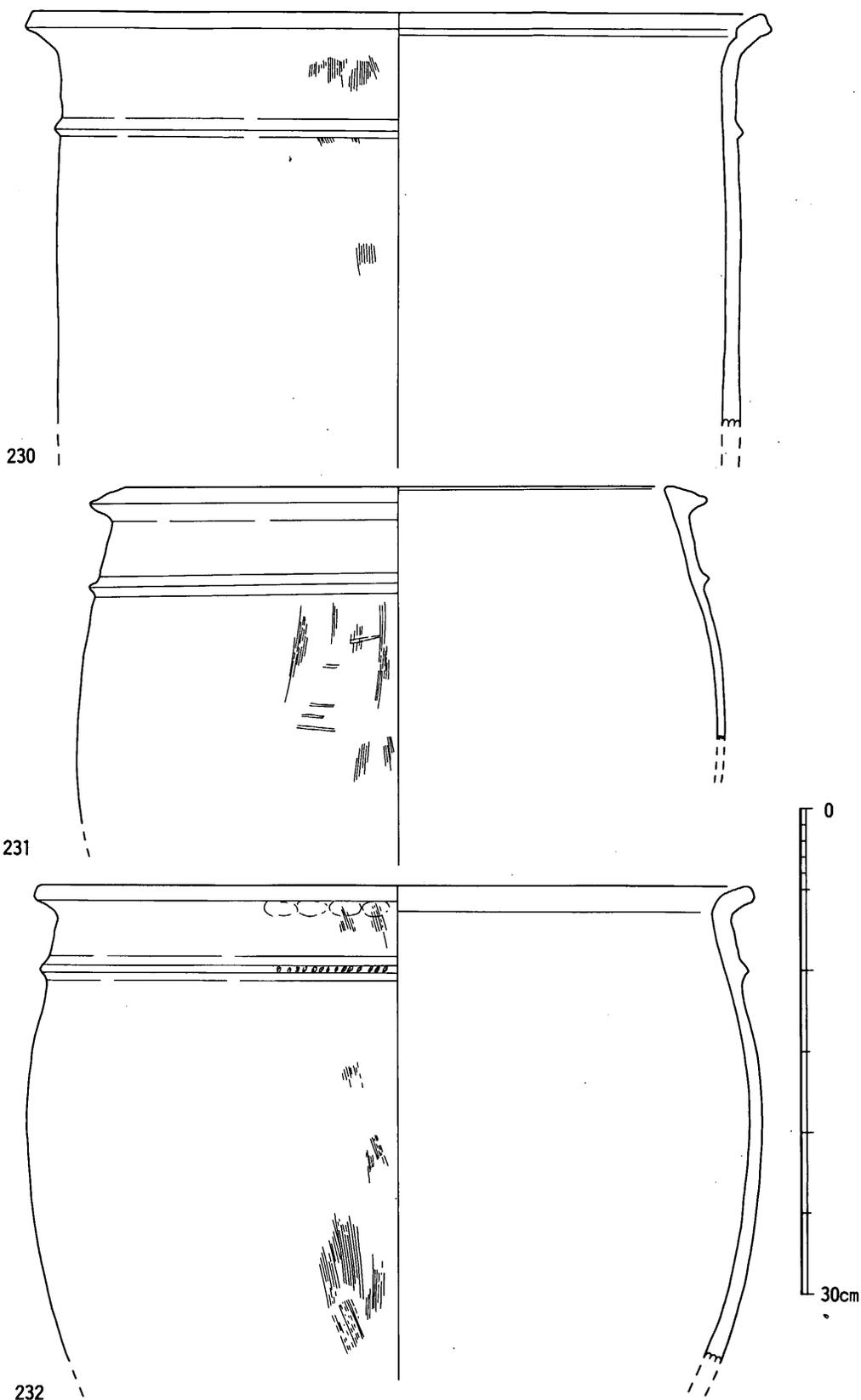
277・278は28号土壙から出土した。277の口縁部は逆し字状を呈し、内側への張り出しも強い。278は支脚である。

279は32号土壙から出土した土師器の甕で、口縁部は外彎する「く」字状を呈す。下半を欠失するが、胴部中位ほどに張りをもつと思われる。

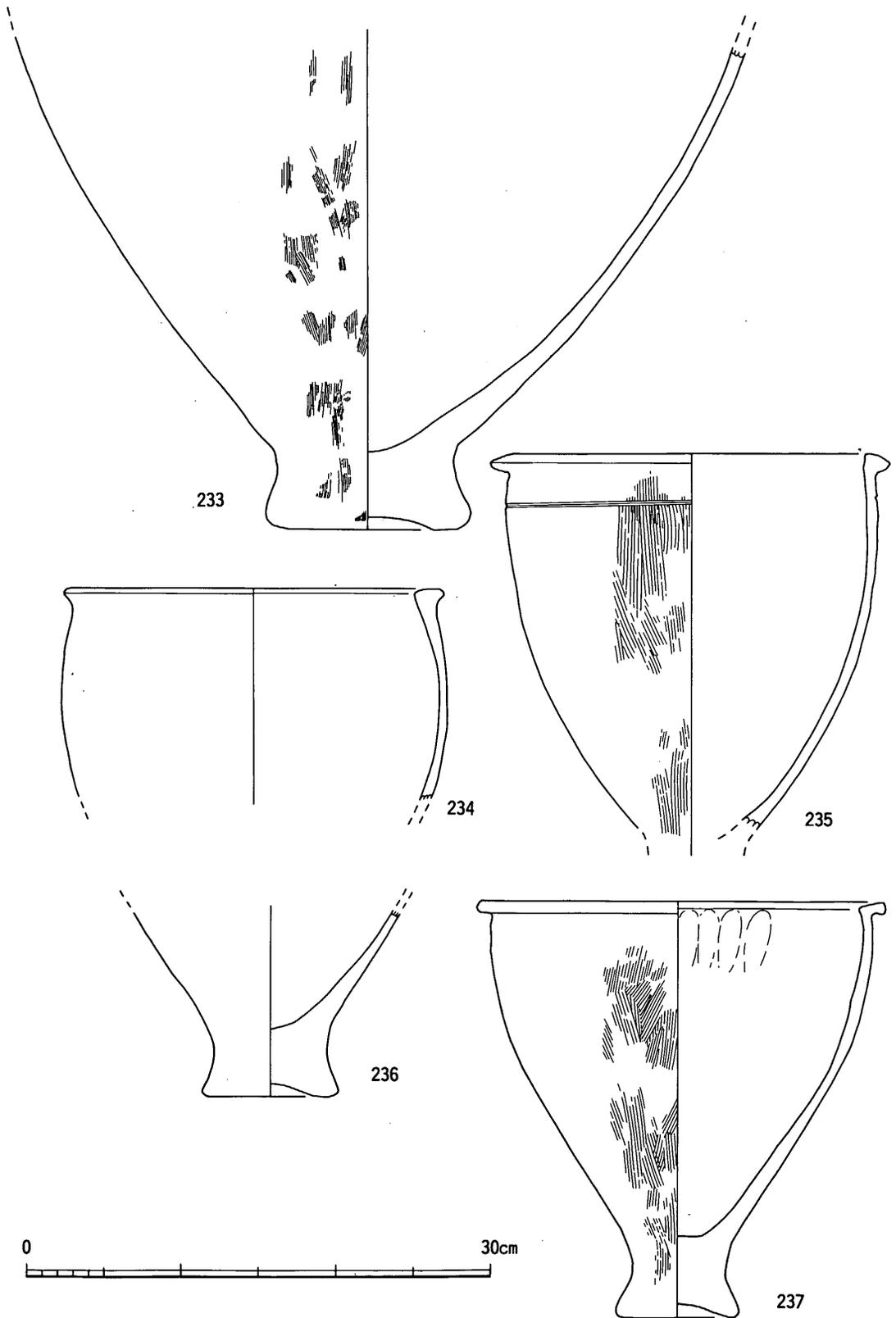
280～282は36号土壙から出土した。280は甕で、口頸部は「く」字状を、胴～底部は載頭倒卵形を呈す。頸部屈曲部直下には断面三角形の凸帯を巡らす。調整は胴～底部の内外面とも刷毛目が施される。281は鉢で、平坦な底部から外傾して体部が延び、中程から屈曲して直立し口縁部へ至る。屈曲部には一条の断面三角形の凸帯が巡る。282はミニチュアで口頸部を欠失する。

283は5号溝状遺構から出土した。須恵器の坏蓋で天井部は平坦にヘラ削りされ、体部から口縁部にかけて外傾して延びる。

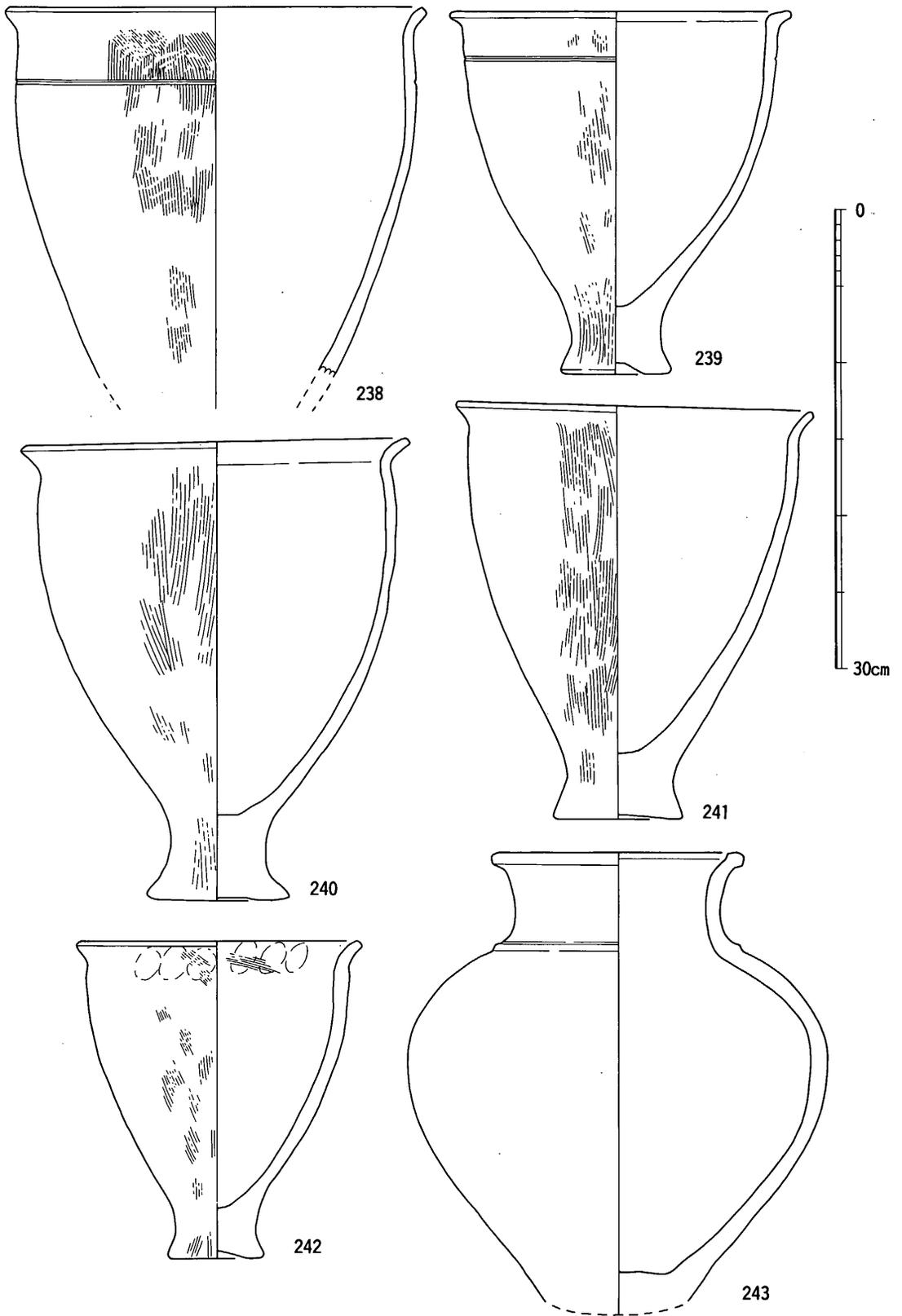
284～290は7号溝状遺構から出土した。284・285は須恵器の坏蓋である。284はヘラ削りさ



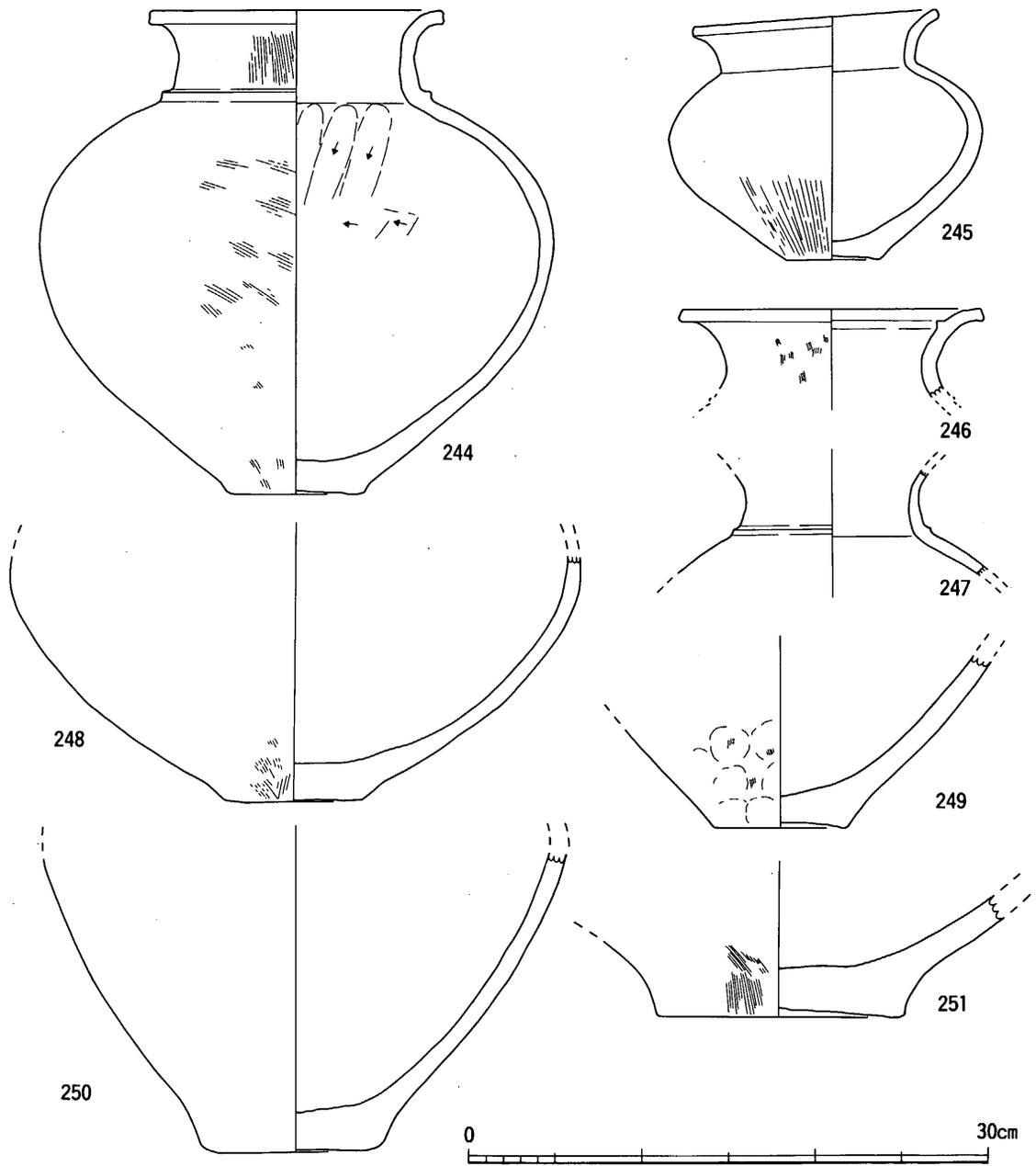
第47图 23号土壙出土土器实测图 (缩尺 1 / 4)



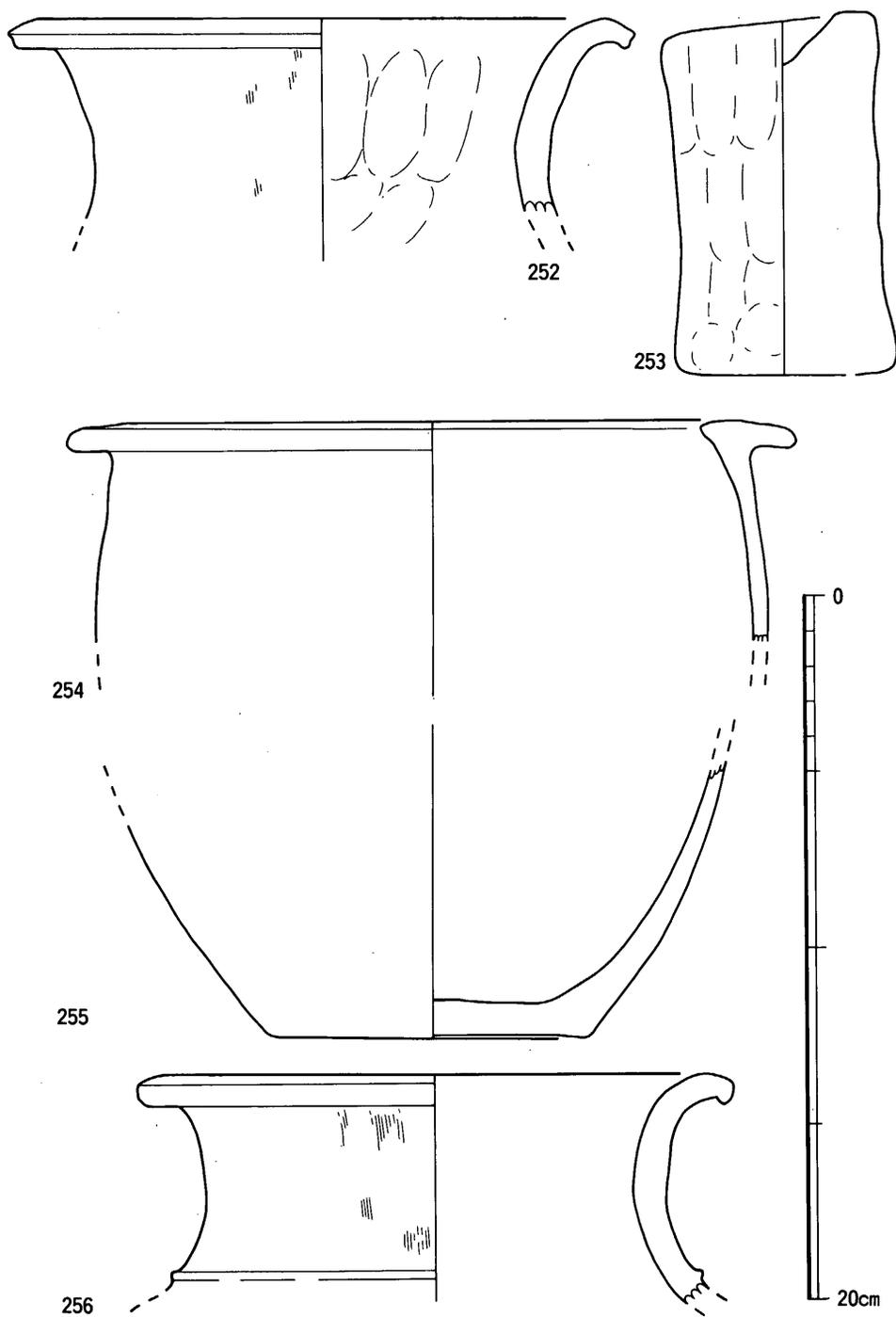
第48图 23号土壙出土土器实测图 (縮尺1/4)



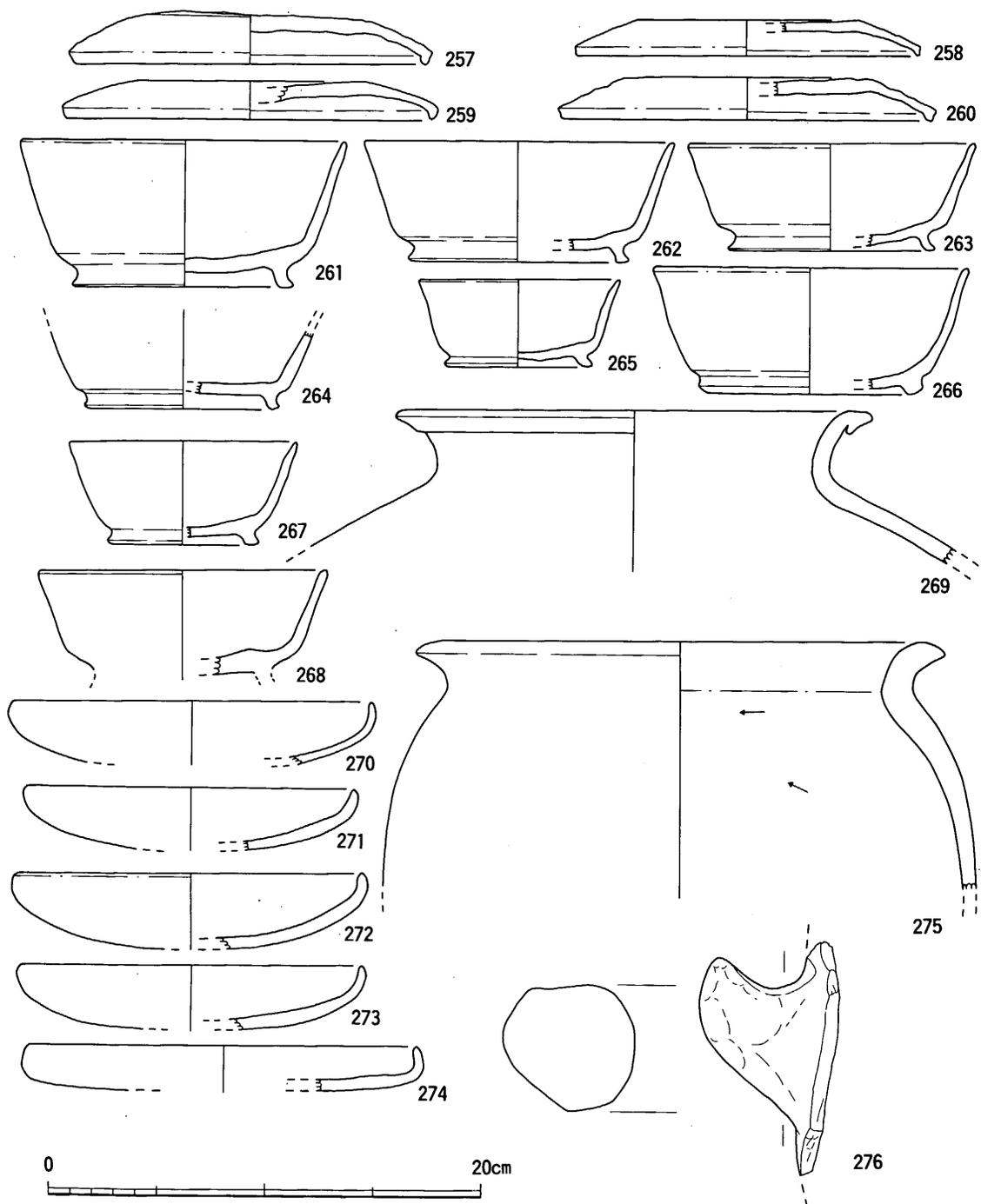
第49図 23号土壙出土土器実測図 (縮尺1/4)



第50図 23号土壙出土土器実測図 (縮尺1/4)



第51図 25号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)



第52図 27号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)

れる天井部から口縁部まで緩やかなカーブをもって至り、天井部と体部は一条の沈線をもって分けられる。285は小径のもので、ヘラ削りされる天井部は緩やかな弧状を呈し、口縁部はやや外傾して立つ。286～289は須恵器坏身で、289は一回り小形である。いずれも立ち上がりは内傾し、受部は上方に引き出される。287～289の体部からヘラ削りされる底部まで緩やかなカーブをもつが、286の底部はやや平坦にヘラ削りされる。290は土師器の椀で、浅い弧状を描く底部から口縁～体部は内彎して立ち上がる。外面は手持ちのヘラ削りが施される。

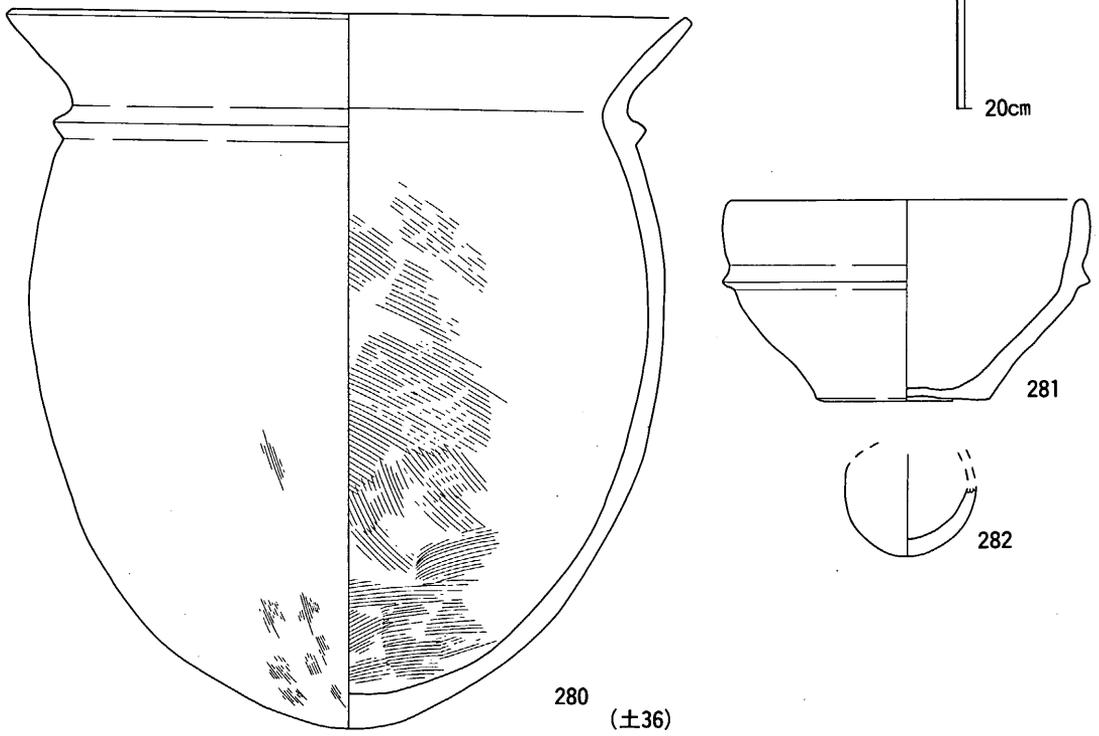
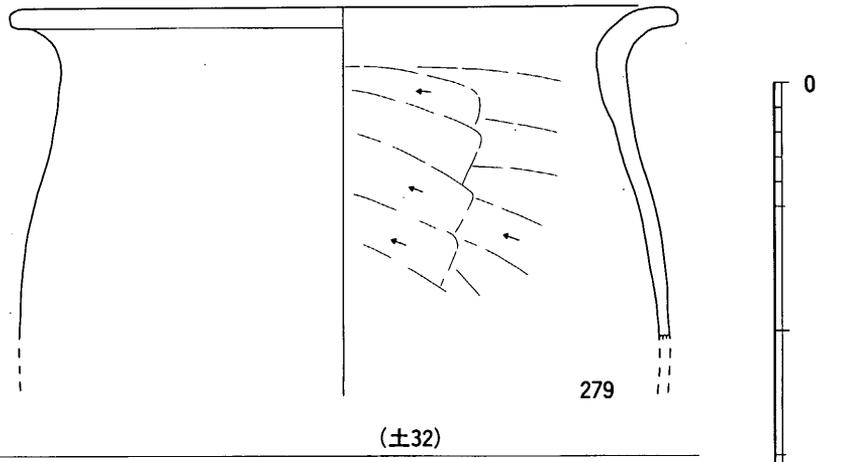
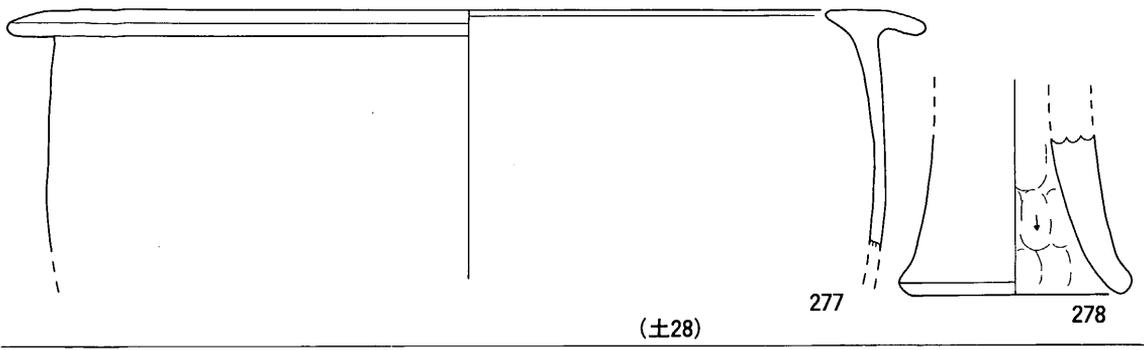
291は17号溝状遺構から出土した。長胴の甕の底部で、レンズ状底を呈す。

292・293は13号溝状遺構から出土した。292は壺の胴部で、中位が強く張る。293は尖底をなす底部で、製塩土器と思われる。

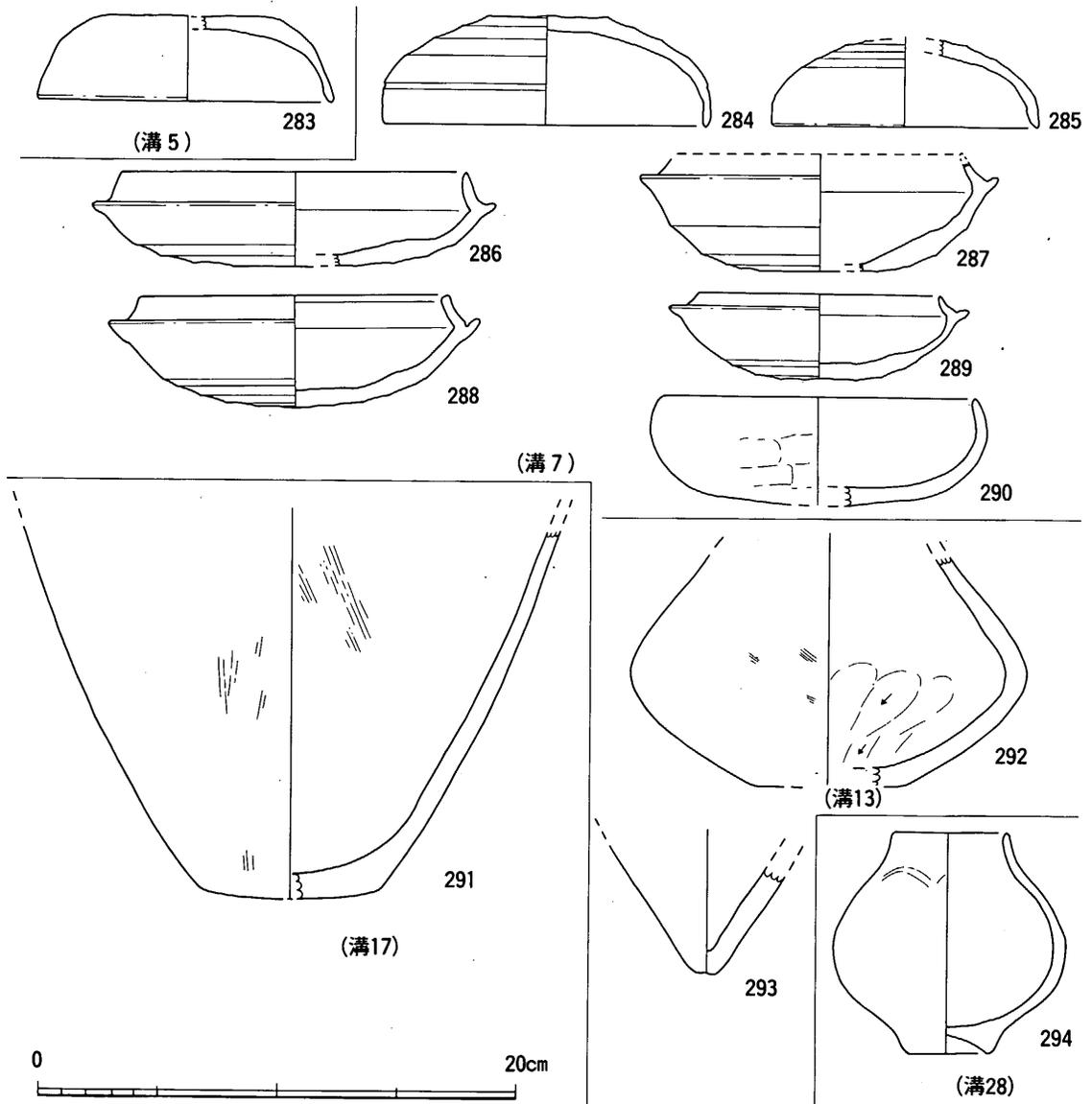
294は28号溝状遺構から出土した小壺である。胴部は球形を呈し、上部は短く外彎し、口縁部をつくる。また下部も外彎し、底部は上げ底をなす。肩部には沈線で描いた連弧文が認められる。

295～312は2号溝状遺構から出土した。295は「く」字状口縁を呈す長胴の甕である。頸部の屈曲は比較的シャープで、胴部の張りは口径を上回る。外面は叩きの後、刷毛目が施される。内面全体にも刷毛目が認められた。296・297はレンズ状を呈す甕の底部である。298～302は二重口縁壺の口頸部で、口縁部はいずれも直線的に内傾する。303～307は壺で、303は口縁部は短く外反し、胴部は大きく張る。底部は比較的大きく、僅かにレンズ状をなす。306・307も胴部の張りは弱い。303とほぼ同様の形状を呈すと思われる。308は小形丸底壺で、偏球状の胴～底部にやや外傾する口頸部がつく。器高に占める口頸部の割合は20%余りである。309は甌で口縁部は僅かに外反し、緩やかに萎み収まる。底部中央には1cmほどの穿孔が1孔あり、外面がやや盛り上がっているところから、内側から穿ったものと思われる。310・311は高坏である。310の坏部は体部中ほどで稜をもって屈曲し、上半は外反する。脚部は下半部で大きく開き、裾部は内彎気味となる。脚部中位には3孔の穿孔を有す。坏部や脚部外面はミガキが施される。311は筒部から裾部まで緩やかに開く脚である。穿孔は破片のため不明である。312は器台でくびれ部は高い位置にあり、受部の端は僅かに内彎気味となる。

313～327はピットから出土したものである。313は100号ピットから出土した甕である。口頸部は「く」字状を呈し、胴部は強く張る。調整は内外面とも刷毛目が施される。314は179号ピットから出土した須恵器の坏身である。体部と底部の境に断面方形の低い高台が貼付される。315～317は262号ピットから出土したものである。315は壺の口頸部で、外傾して直線的に立ち上がる。316は小形丸底壺である。胴～底部はやや高い位置に最大径をもつ球状を呈す。317は椀で、口縁～体部は直線的に外傾する。318は204号ピットから出土した小形丸底壺で、頸部の締まりは弱い。口頸部の器高に占める割合は1/3ほどである。319は386号ピットから出土した須恵器の坏で、体部は直線的に外傾して延びる。320は459号ピットから出土した逆L字状口

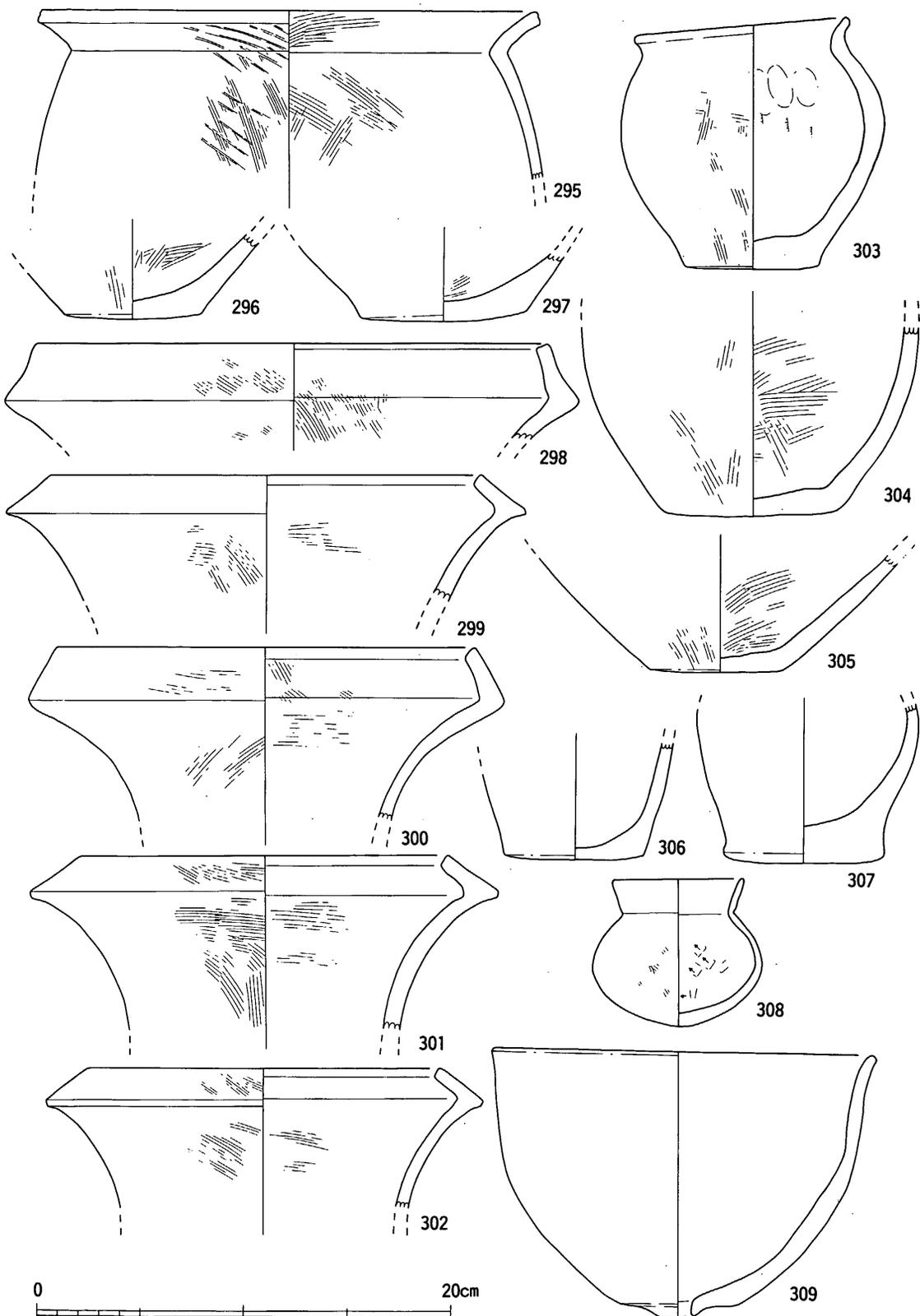


第53図 28号・32号・36号土壙出土土器実測図 (縮尺1/3)

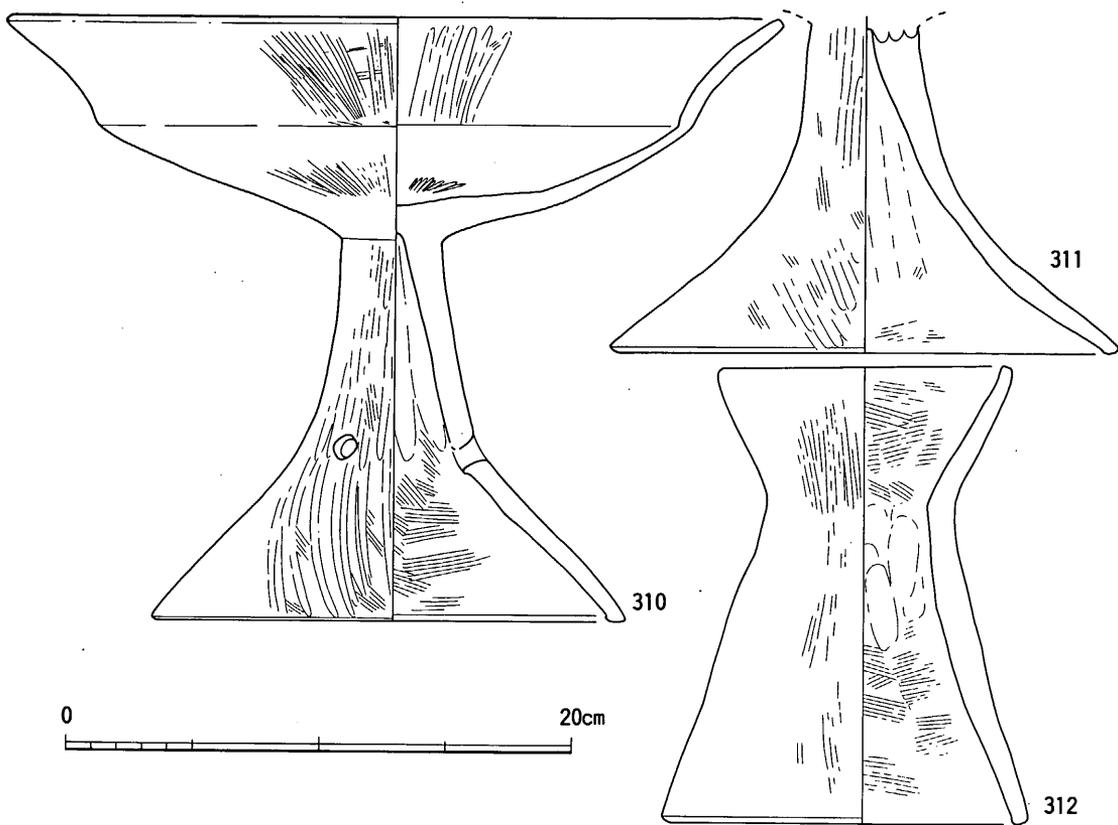


第54図 5号・7号・17号・13号・28号溝状遺構出土土器実測図(縮尺1/3)

縁の甕で、口縁端部がやや上がる。口縁下4cmには断面三角形の凸帯が巡り、胴部の張りは弱い。321・322は500号ピットから出土した甕である。胴部は強く張り、このため胴部上位は内彎し、これに平坦な口縁を付けている。口縁下4cmに断面三角形の凸帯を巡らす。322は筒形器台の受部である。323・324は522号ピットから出土したものである。323は逆し字状口縁を呈す甕で、胴部の張りは弱い。324は上げ底を呈す甕の底部である。325・326は532号ピットから出土したものである。325は壺の胴部で、やや下位に最大径をもつ。326は碗で、内彎する口縁



第55图 2号沟状遺構出土土器実測図 (縮尺1/3)



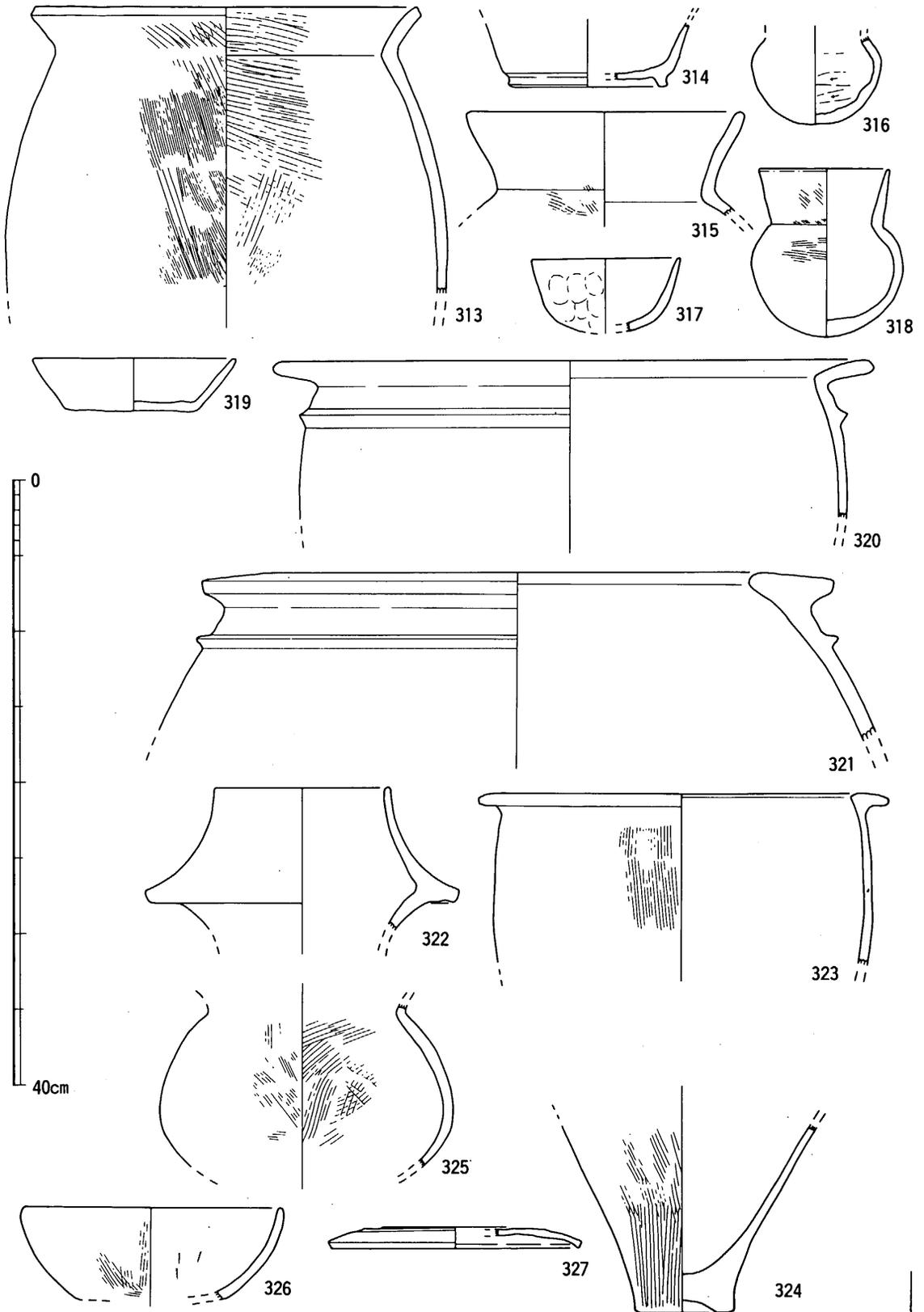
第56図 2号溝状遺構出土土器実測図（縮尺1/3）

～体部は外傾して立つ。327は776号ピットから出土した須恵器の坏蓋である。天井部は平坦にヘラ削りされ、口縁端部は肥厚させる。

328・329は1号甕棺墓の棺に用いられた土器で、胴部下半は欠失する。基本的にはいずれも同じ特徴を示す。口頸部は「く」字状を呈し、断面三角形の凸帯が巡る。口縁部は僅かに外反気味で、「コ」字状の口唇部へ至る。胴部は張り、328の口唇部と凸帯には刻み目を入れる。調整は内外面ともに刷毛目で仕上げられる。

330・331はそれぞれ8号土壙から出土したが、同一固体と考えられる。内面の叩きの当具痕は三重の同心円内に放射状に文様をもつが、それぞれ個別に刻み込まれたものである。刻みは最も内側の円に6本が確認でき、その外側の円は14本余りと推測される。さらにその外側にも刻みが確認される。

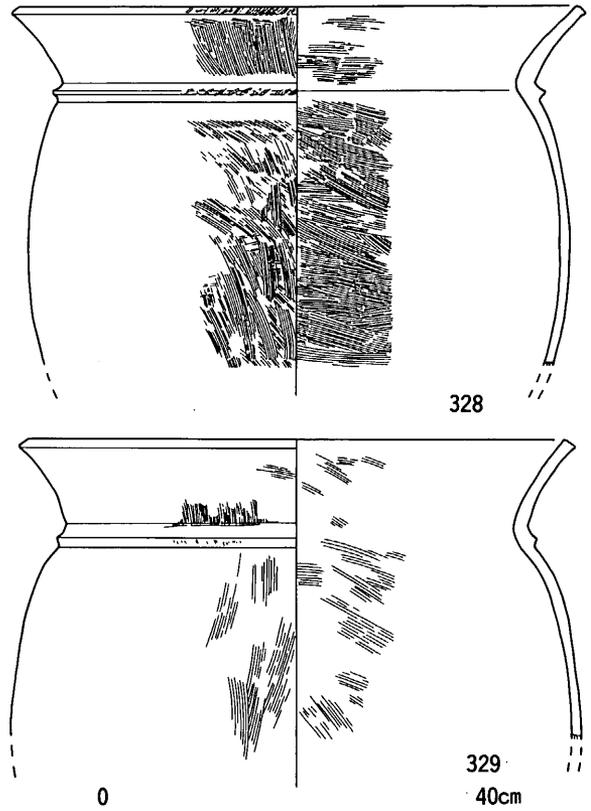
332は山形押形文土器の口縁部で、外面は縦方向に近い斜方向に施文され、内面は口唇部直下に一条の施文を施す。



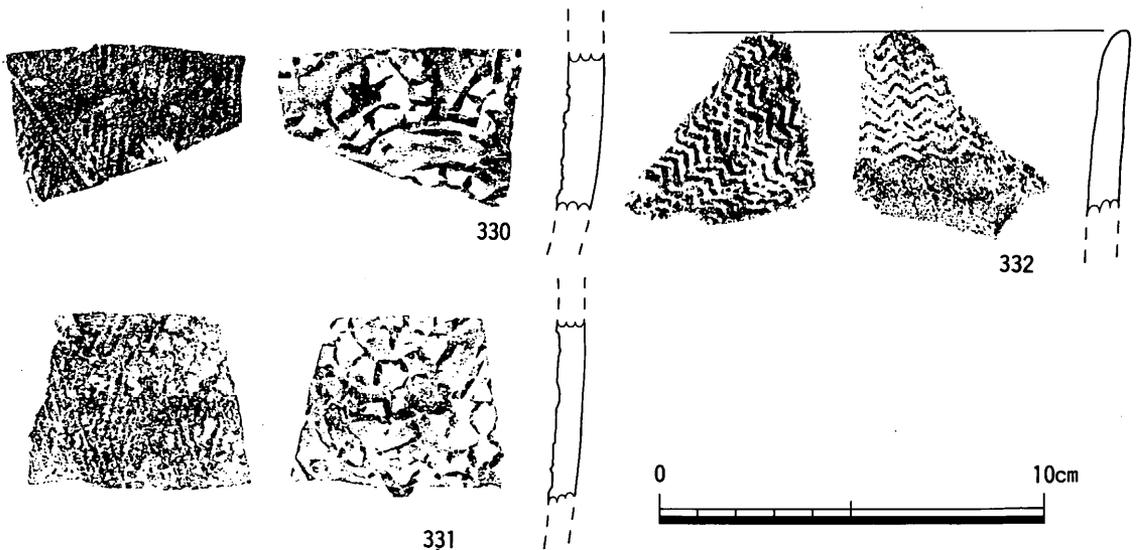
第57図 ピット出土土器実測図 (縮尺1/4)

(2) 土製品 (第60・61図/図版34)

1～13はいわゆる「メンコ」と呼ばれるもので、いずれも弥生式土器の胴部を打ち欠いた再利用品である。1は1号住居跡、2・3は30号住居跡、4は12号住居跡、5・6・7は20号住居跡、8は24号住居跡、9は1号土壙、10は17号土壙、11は23号土壙、12は24号土壙、13は25号土壙から出土した。14・15は投弾で、それぞれ24号住居跡、12号土壙から出土した。14がフットボール形を呈すのに対し、15は球形に近い。16は9号土壙出土の土製紡錘車で、中央に6mmの穴を穿つ。



第58図 1号壺棺実測図 (縮尺1/8)



第59図 車輪文叩き・押形文土器実測図 (縮尺1/2)

### (3) 石器 (第62～64図／図版35)

1・2・3は35号住居跡から出土したものである。1は凝灰岩製の石器の小片であるが、機種は不明である。最大厚2.5mmを測り、側面に刃を作り出す。刃は両刃で、刃と刃を研ぎ出した際の稜が残存部先端で交わる。2は酸性凝灰岩製の偏平片刃石斧である。全長43mm、最大幅27mm、最大厚7mmを測る。3は細粒砂岩製の砥石である。3面に使用面をもつ。

4は31号住居跡から出土した酸性凝灰岩製の柱状片刃石斧である。基部を欠失するが、現存長54mm、最大幅12mm、細大厚8mmを測る。

5・6は17号住居跡から出土したものである。5は上位から出土したもので、酸性砂質凝灰岩製の石剣の破片である。現存長52mm、最大幅30mmを測る。6は砂質暗色凝灰岩の石包丁で、一方の孔から折失する。両刃の半月形外弯刃である。孔は径3.5mmで両側から穿つ。

7・8・9は8号住居跡から出土したものである。7は砂質凝灰岩製の小型の石斧である。全長48mm、最大幅32mm、最大厚10mmを測る。8は緑色砂質凝灰岩製の岩包丁で、一方の孔から折失する。両刃の半月形外弯刃である。孔は径3.5mmで両側から穿つ。9は砂質凝灰岩製石包丁の端部で、片刃の半月形外弯刃である。

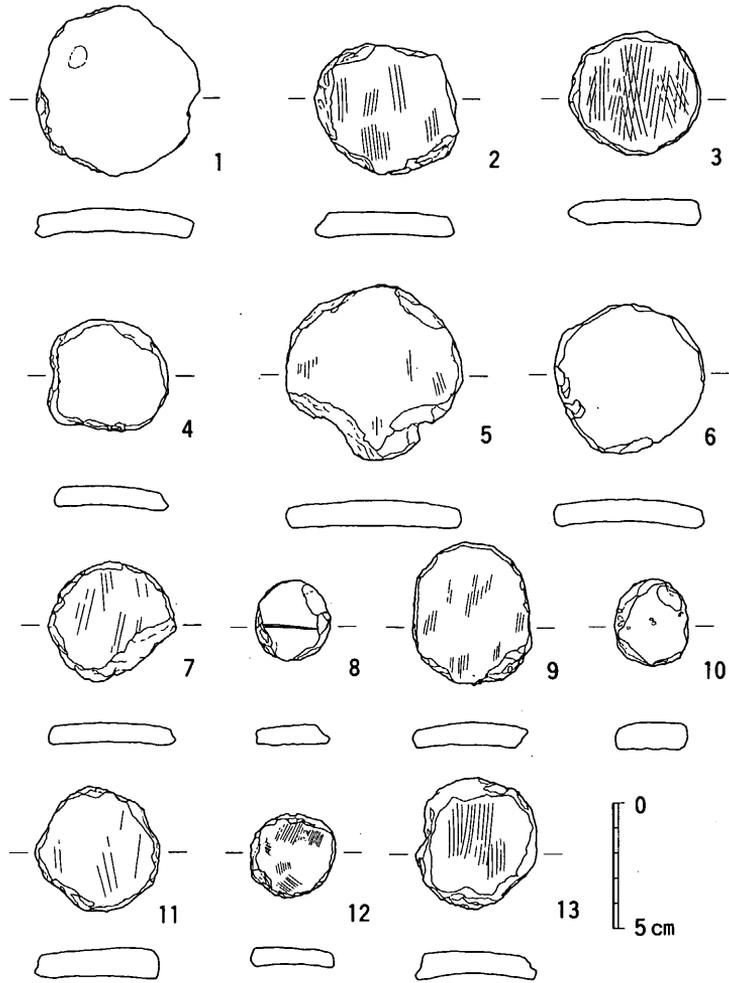
10・11は23号住居跡から出土したものである。10は石剣の切先であるが、刃部の両側にノッチが入ることから二次加工品と考えられる。石材は玄武岩であろうか。11は酸性凝灰岩製石包丁の刃部を研ぎ落とした二次加工品である。

12は15号土壌から出土した細粒砂岩製の砥石である。3面に使用面をもつ。

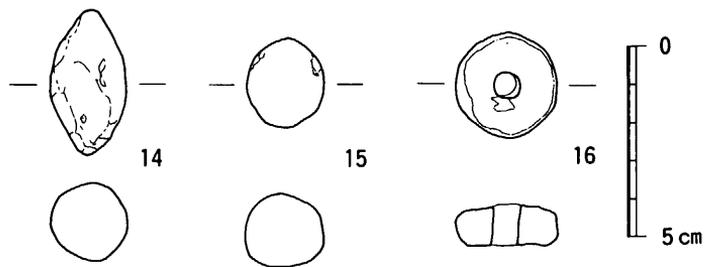
13は22号土壌から出土した磨石である。

### (4) 石器 (第77図)

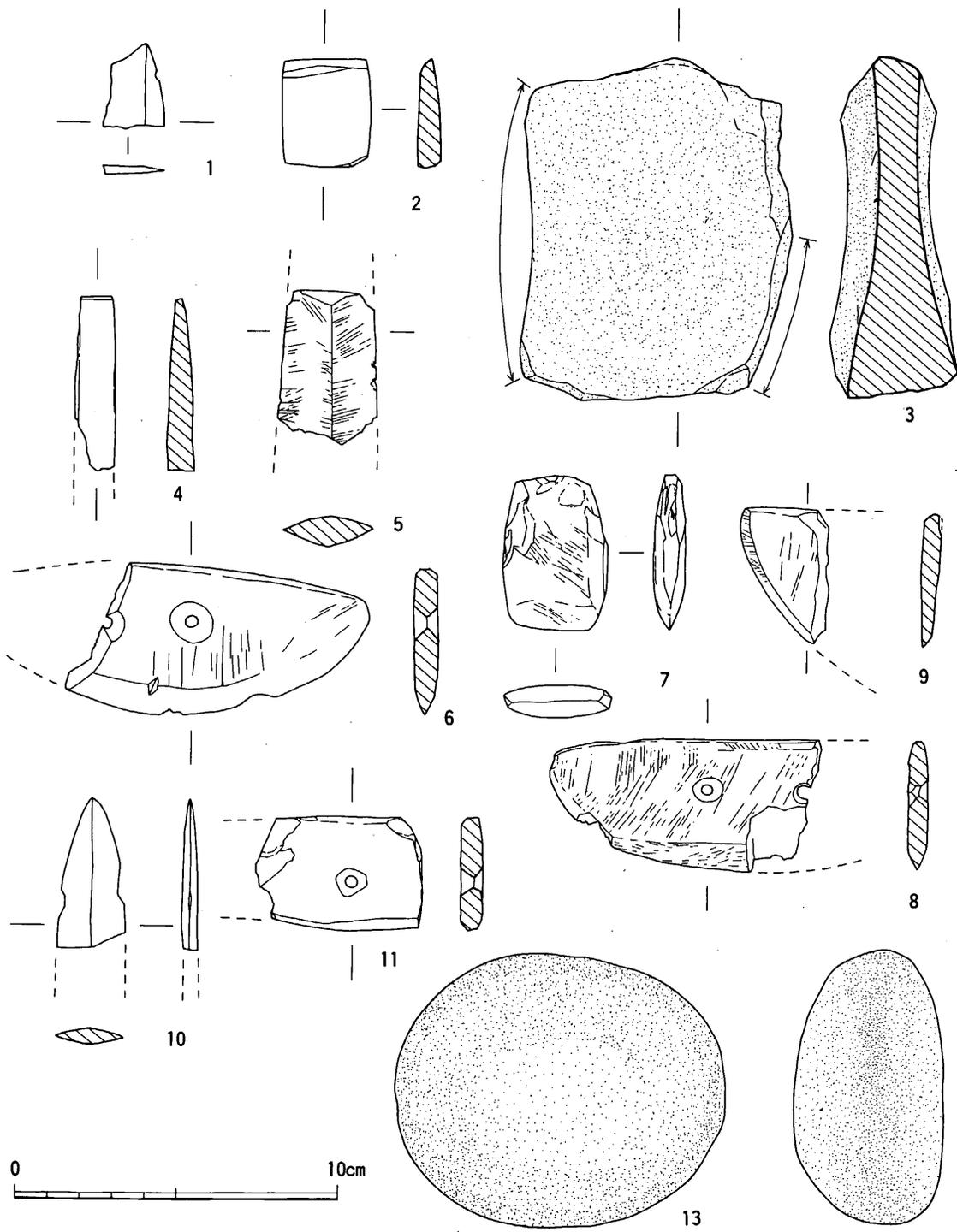
1は黒耀石製の剥片尖頭器の先端部である。一部に自然面を残す。2～5は黒耀石製の刃器で、1はパティナが進む。3～5は素材の打面もしくは両端がおり取られ、2～5は一側辺に、3は両側辺に使用痕跡を残す。



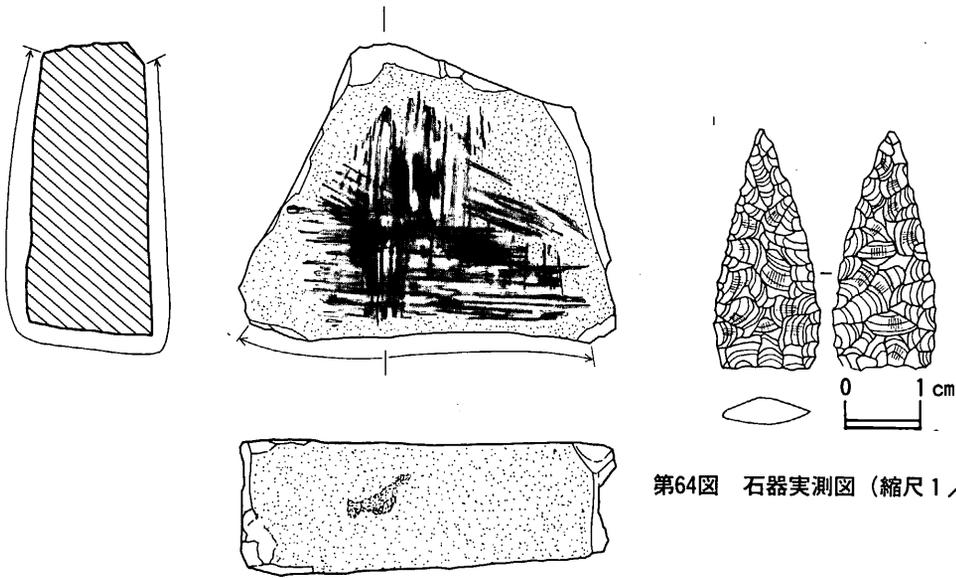
第60図 土製品実測図 (縮尺1/3)



第61図 土製品実測図 (縮尺1/2)



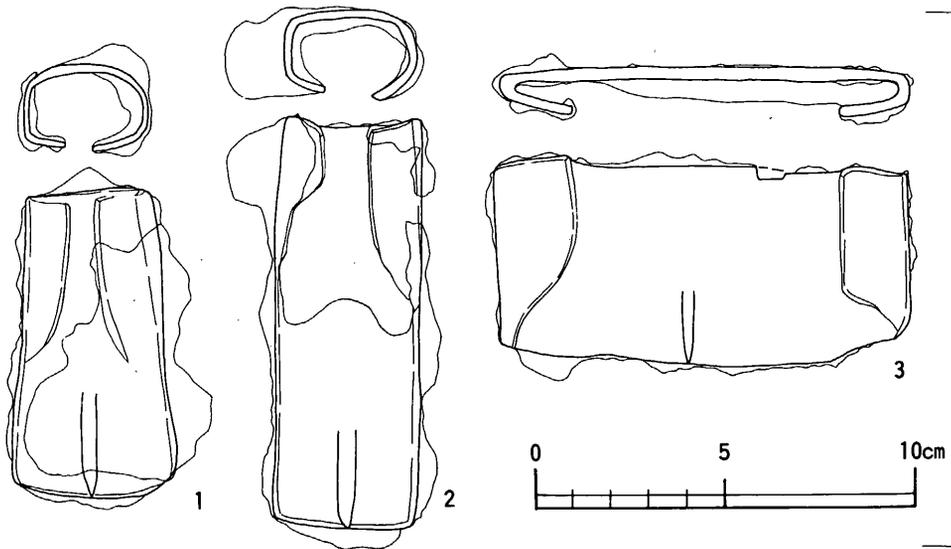
第62図 石器実測図 (縮尺1/2)



第64図 石器実測図 (縮尺 1/1)



第63図 石器実測図 (縮尺 1/3)



第65図 鉄器実測図 (縮尺 1/2)

表 2

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
1	13cm			橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
2			10.2cm	褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母わずかに含む	良
3	16.5cm			明赤褐色	微細雲母多く含む 0.5~2mm大砂粒多く含む	良
4	14.5cm	18cm	胴部径 15cm	褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
5	15.8cm	3.3cm		にぶい黄橙色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
6	6.7~7.5cm	2.8~4.8cm		橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
7	14.3cm	9.7cm		外-橙色 内-橙色~褐色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
8	15.6cm	3.5cm		橙色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
9	12.4cm	2.8cm		橙色	1~2mm大砂粒わずかに含む	良
10			5.6cm	橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
11	胴部径 19.8cm		6.7cm	明赤褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む	良
12			13.5cm	にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
13	36.6cm			にぶい黄褐色 ~灰黒色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 細雲母少量含む	良
14			9.4cm	にぶい黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母わずかに含む	良
15	17cm			橙色	微細雲母多く含む 0.5~3mm大砂粒多く含む	良
16			11.4cm	にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
17			6.7cm	にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
18			5.4cm	外-橙色 内-にぶい黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
19	23.8cm			赤褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
20	11cm	14.4cm	12.8cm	にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
21	8.8~9cm	4.1~4.3cm	3.9~4.3cm	外-にぶい黄褐色 内-灰褐色	微細雲母多く含む 0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む	良
22	7.4cm	3.5cm	4.5cm	褐灰色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
23	12.2cm	4.1cm	6.7cm	灰青色	0.5mm大砂粒少量含む	良
24			8.6cm	橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 微細雲母わずかに含む	良
25	19.1cm	8.9cm	7.5cm	外-にぶい黄褐色 内-灰黒色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 微細雲母わずかに含む	良
26	9cm	9.1cm	5cm	橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
27	11.7~12cm	8.2~8.4cm	3.9~4.2cm	にぶい黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 0.5mm大雲母わずかに含む	良
28	29cm			赤褐色	1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
29	26cm			赤褐色	1~2mm大砂粒多く含む	良
30	19cm			橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
31	7.6cm	4.5cm		赤褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
32	10.3cm	5.9cm		灰褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
33			8.6cm	にぶい橙色	細雲母少量含む 0.5～1mm大砂粒多く含む 2～3mm大砂粒わずかに含む	良
34	14.1cm	4.2～4.4cm	9.1cm	青灰色	1mm大砂粒わずかに含む	良
35	11.5～12.7cm	2～2.1cm	7.5～7.8cm	暗青灰色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
36	15.5cm	3.2cm		灰青色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
37			頸部径 19cm	褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 1mm大雲母少量含む	良
38	25.1cm			にぶい黄褐色	微細雲母少量含む 1.5mm大砂粒少量含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
39	13.8cm	6.4cm		橙色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
40			8.2cm	にぶい橙色	0.5～2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
41			8.2～8.5cm	外-橙色 内-にぶい褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
42				にぶい黄褐色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
43	7.8cm	4.7cm	3.5cm	橙色	0.5～1mm大砂粒少量含む 微細雲母わずかに含む	良
44	11.3cm	14.5～15.8cm	胴部径 16.8cm	にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
45	8cm	7.9cm	胴部径 10.3cm	にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
46				にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
47	12.1cm	7cm	5.2cm	にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 微細雲母わずかに含む	良
48	11.8cm	6.6cm	5.7cm	にぶい黄褐色	0.5～3mm大砂粒多く含む	良
49	10.1～10.4cm	15.3cm	12.7～12.9cm	にぶい黄褐色	0.5～3mm大砂粒多く含む	良
50	16.6cm	24.3cm	6.4cm	橙色～褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母多く含む	良
51	22.6cm	31.4～32cm	胴部径 23.9cm	褐色～黒褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
52	20cm	26cm	胴部径 20.2cm	にぶい黄褐色 ～褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
53	17.8cm	23.3cm		にぶい橙色	0.5～2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
54	15.6cm	16cm	6.6cm	橙色～褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
55	19.6cm	14.9cm		にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 0.5～1mm大雲母多く含む	良
56	22.2cm			黒褐色	1mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
57	26.3cm			外-にぶい黄褐色 内-褐灰色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
58	29.2cm			褐色	0.5～3mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
59	24.8cm	頸部径 17.4cm	胴部径 29.6cm	橙色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
60	12.8cm		胴部径 25.8cm	にぶい橙色	0.5～1mm大砂粒多く含む	良
61	32.4cm			橙色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
62			17.7cm	橙色	0.5～3mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
63	11.2cm			にぶい褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
64			15.8cm	にぶい褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む	良
65			14.8cm	にぶい黄橙色 ～褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母少量含む	良
66	18cm	10.8cm		にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 0.5～1mm大雲母少量含む	良
67	17.6cm	11.3cm		褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
68	10.8～11.8cm			にぶい黄褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 微細雲母わずかに含む	良
69	10～10.6cm	4.9～5.9cm		褐色	0.5～2mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
70	9.2～10cm	5.3cm		褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
71	7～8cm	3.2cm		褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
72	6.3cm	1.6～2cm		褐色	0.5mm大砂粒少量含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
73	19.8cm	2cm		灰色	0.5mm大砂粒少量含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
74	12.8cm	1.3cm		青灰色	1mm大砂粒わずかに含む	良
75	21.2cm	1.8cm		黄灰色	0.5mm大砂粒多く含む 1～2mm大砂粒わずかに含む	良
76	16.4cm	1.4cm		青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
77	15.8cm	2.2cm		青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
78	15.1cm	1.5cm		灰黄色	0.5mm大砂粒わずかに含む	良
79	14.4cm	1.1cm		暗灰色	0.5mm大砂粒わずかに含む	良
80	13.2cm	2.2cm		灰色	0.5mm大砂粒わずかに含む	良
81	16.6cm	2cm		灰色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
82	15.2cm	2.1cm		灰黄色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
83	14.8cm	1.4cm		灰色	細砂粒わずかに含む	良
84	14.3cm	2.1cm		灰青色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
85	14.2cm	1.3cm		灰青色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
86	13.8cm	0.9cm		灰青色	1～2mm大砂粒わずかに含む	良
87	11.4cm	1.6cm		暗灰色	0.5～2mm大砂粒わずかに含む	良
88	16.9cm	4.8cm	11.3cm	青灰色	0.5mm大砂粒少量含む	良
89	16.8cm	4.9cm	10.6cm	暗青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
90	13.1cm	4.6cm	8.6cm	青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
91	13cm	4cm	9.1cm	灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
92	12.7cm	4.3cm	9.6cm	灰色	微細砂粒多く含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
93	12.4cm	3.9cm	9.1cm	青灰色	0.5mm大砂粒少量含む 1～2mm大砂粒わずかに含む	良
94	11.8cm	3.9cm	9.2cm	青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
95	12cm	3.8cm	8cm	灰青色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
96	11.6cm	4.1cm	8.2cm	灰白色	0.5mm大砂粒少量含む	良
97	11.6cm	3.5cm	7.3cm	灰青色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
98	17.4cm	4.7cm		外一暗灰色 内一灰色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
99			12.2cm	灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
100			11.2cm	灰色	0.5mm大砂粒わずかに含む	良
101	18.1cm	3.5cm		灰白色	0.5～2mm大砂粒わずかに含む	良
102	14.2cm	3.2cm	10.7cm	暗青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
103	18.3cm	2.2cm	15.2cm	灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
104	17.1cm	2.3cm		灰色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
105			9.6cm	暗青灰色	0.5mm大砂粒少量含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
106			11.5cm	灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
107	21.6cm	10cm	12.7cm	青灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
108	37.2cm			外-暗青灰色 内-灰青色	0.5mm大砂粒多く含む	良
109	13.6cm	頸部径 9.8cm		暗青灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む 2~3mm大砂粒わずかに含む	良
110	16.4cm	2.9cm		橙色	細雲母多く含む 0.5~1mm大砂粒少量含む	良
111	28.8cm			橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~4mm大砂粒少量含む 細雲母多く含む	良
112	21.8cm			橙色	細雲母多く含む 0.5~2mm大砂粒多く含む	良
113	23.2cm			にぶい黄橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
114				赤褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
115				にぶい黄橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
116				橙色	0.5mm大砂粒多く含む	良
117	15.4cm	2.4cm		青灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
118	16cm	1.5cm		青灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
119	20.9cm	1cm		灰色	0.5mm大砂粒わずかに含む	良
120	15.7cm	1.8cm		灰白色	0.5mm大砂粒少量含む	良
121	14.2cm	2.6cm		灰色	微細雲母わずかに含む 0.5mm大砂粒多く含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
122	15.2cm	4cm	10.6cm	灰白色	1~2mm大砂粒わずかに含む	良
123	29.4cm			にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
124	23.8cm			赤褐色~赤黒色	微細雲母多く含む 0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
125			7cm	褐色	0.5大雲母多く含む 0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
126	6.7~7cm	24.8~24.9cm	胴部径 16~16.2cm	外-橙色 内-黒灰色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母少量含む	良
127	23cm			にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
128	25.8cm			にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
129	20.7cm			にぶい赤橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
130				褐色~暗褐色	細雲母多く含む 0.5~2mm大砂粒多く含む 細黒耀石多く含む	良
131	18.5cm	残 0.9cm		にぶい黄橙色	細砂粒わずかに含む	良
132	16.6cm	残 1.2cm		灰青色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
133	15.5cm	0.8cm		灰色	細砂粒わずかに含む	良
134	15.8cm	2.4cm		灰白色~にぶい橙 色	0.5mm大砂粒多く含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
135	15.4cm	2.4cm		青灰色	0.5mm大砂粒多く含む 1～2mm大砂粒わずかに含む	良
136	15cm	2.3cm		青灰色	細砂粒わずかに含む	良
137	14.6cm	2.2cm		青灰色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
138	14.5cm	1.6cm		青灰色	1mm大砂粒わずかに含む	良
139	14.2cm	1.6cm		青灰色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
140	14.4cm	1.6cm		青灰色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
141	20.1cm	4.1cm	14.5cm	灰青色	0.5mm大砂粒多く含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
142	12.8cm	3.2～3.6cm	8.8cm	灰色	細砂粒わずかに含む	良
143	12.9cm	3.3cm	8.9cm	灰色	1mm大砂粒わずかに含む	良
144	12.4cm	2.9cm	7.9cm	青灰色	細雲母わずかに含む 細砂粒わずかに含む	良
145		1.6cm	8.8cm	灰青色	細砂粒わずかに含む	良
146	22.6cm	2.4cm	18.2cm	灰白色	細砂粒わずかに含む	良
147	18.7cm	2.4cm	13.6cm	灰白色	細砂粒わずかに含む	良
148	14.3cm	1.7cm	10.7cm	暗青灰色	0.5mm大砂粒多く含む 1～2mm大砂粒わずかに含む	良
149	13.3cm	1.9cm	9.4cm	外-青灰色 内-白灰色	0.5～2mm大砂粒少量含む	良
150	14.1cm	2.6cm	11.1cm	青灰色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
151	14.2cm	3.3cm	9cm	灰青色	0.5～1mm大砂粒わずかに含む	良
152	7cm	5.8cm	5.4cm	暗青灰色	1mm大砂粒わずかに含む	良
153			12.8cm	灰色	1～2mm大砂粒わずかに含む	良
154	25.2cm			暗青色	0.5mm大砂粒多く含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
155	20cm			外-灰青色 内-赤褐色	1～2mm大砂粒少量含む 細雲母わずかに含む	良
156	28.6cm			にぶい橙色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母多く含む	良
157	28.2cm			にぶい橙色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む 細雲母多く含む	良
158	27.3cm	24cm	胴部径 29cm	橙色	0.5mm大砂粒少量含む 1～3mm大砂粒わずかに含む 微細雲母少量含む	良
159	27.2cm			にぶい橙色	微細雲母多く含む 0.5～1mm大砂粒多く含む 2～3mm大砂粒少量含む	良
160	26.7cm			にぶい黄橙色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2～4mm大砂粒わずかに含む 細雲母わずかに含む	良
161	26.6cm			褐色	微細雲母多く含む 0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
162	25.2cm			橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1～3mm大砂粒わずかに含む 0.5mm大雲母多く含む	良
163	23.6cm			橙色	微細雲母多く含む 0.5～1mm大砂粒多く含む 2～4mm大砂粒わずかに含む	良
164	22.1cm			橙色	0.5～1mm大砂粒多く含む 3～5mm大砂粒多く含む 細雲母多く含む	良
165	21cm	19cm	胴部径 17.8cm	赤褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2～4mm大砂粒わずかに含む 0.5mm大雲母少量含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
166	21.2cm			明褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 微細雲母多く含む	良
167	26.7cm			にぶい黄橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~4mm大砂粒わずかに含む 細雲母わずかに含む	良
168	16.7cm			にぶい赤橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~4mm大砂粒少量含む 微細雲母多く含む	良
169	16.1cm			にぶい褐色	微細雲母多く含む 0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒少量含む	良
170	15.2cm			褐色	0.5mm大砂粒多く含む 1~3mm大砂粒少量含む 0.5mm大雲母多く含む	良
171				にぶい橙色	微細雲母多く含む 0.5~1mm大砂粒多く含む 2~4mm大砂粒少量含む	良
172				外-にぶい橙色 内-にぶい灰色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
173				にぶい赤橙色	細雲母多く含む 0.5mm大砂粒多く含む 2~4mm大砂粒わずかに含む	良
174	28.2cm			にぶい褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
175	28.2cm			明赤褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
176	10.5cm			にぶい黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 微細雲母多く含む	良
177		2cm	14.8cm	外-黒灰色 内-灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
178	16.4cm	5.6cm	10.4cm	灰青色	細砂粒わずかに含む	良
179	13.1cm	3.4cm	9.7cm	灰色	細砂粒多く含む	良
180	12.6cm	8.5cm	4.1cm	灰色	1~2mm大砂粒少量含む	良
181	胸部径 18.3cm		13.2cm	暗青灰色	1~3mm大砂粒多く含む	良
182			11.4cm	灰青色	細砂粒わずかに含む	良
183	12cm			にぶい橙色	微細砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
184	20.2cm			にぶい橙色	0.5~3mm大砂粒多く含む	良
185	27.6cm			にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
186	26.8~27.8cm	22.5~23.2cm	8~8.5cm	橙色~暗赤褐色	0.5~2mm大砂粒少量含む	良
187	20.6cm	2.2cm		灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
188	15.2cm	2.8cm		暗灰色	1mm大砂粒多く含む	良
189	14.5cm	2cm		灰青色	0.5mm大砂粒多く含む 細雲母わずかに含む	良
190	13.1cm	1.9cm		灰赤色	0.5~2mm大砂粒少量含む	良
191	12.4cm	2.1cm		灰色	細砂粒わずかに含む	良
192	12.6cm	4.1cm	8.4cm	外-褐灰色 内-にぶい赤色	0.5mm大砂粒多く含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
193	12.8cm	4.6cm		青灰色	微細砂粒少量含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
194	11.9cm	3.7cm	9.2cm	灰青色	0.5~2mm大砂粒少量含む	良
195	14.3cm			灰色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む	良
196			11.4cm	灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
197			11cm	灰青色	0.5mm大砂粒少量含む 1～2mm大砂粒わずかに含む	良
198	14.8cm	3.5cm		にぶい橙色	細砂粒わずかに含む	良
199	13.8cm	4.2cm		にぶい黄橙色	微細雲母多く含む 細砂粒わずかに含む	良
200	14.5cm	5.6cm		にぶい橙色	細砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
201	13.8cm	4.2cm		にぶい黄褐色	微細雲母多く含む 細砂粒わずかに含む	良
202	14.6cm	4.3cm		橙色	微細雲母わずかに含む 細砂粒わずかに含む	良
203	14.1cm	2.9cm		橙色	微細雲母わずかに含む 細砂粒わずかに含む	良
204	13.3cm	3cm		にぶい橙色	微細雲母わずかに含む	良
205	13.8cm	4.2cm		にぶい橙色	微細雲母わずかに含む 1mm大砂粒わずかに含む	良
206	15cm	4cm		にぶい橙色	細砂粒わずかに含む	良
207	24.7cm	2.4cm		橙色	0.5mm大砂粒少量含む	良
208	23.7cm	2.7cm		橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1～2mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
209	14.3cm	11.6cm		橙色	0.5～1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む 細雲母多く含む	良
210	17.5cm			褐色	0.5mm大砂粒多く含む 1～2mm大砂粒少量含む 微細雲母多く含む	良
211	24.9cm			橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1～3mm大砂粒少量含む 0.5mm大雲母多く含む	良
212	24.2cm			橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1～3mm大砂粒わずかに含む 微細雲母少量含む	良
213				橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1～3mm大砂粒わずかに含む 微細雲母多く含む	良
214	28.4cm			外一暗褐色 内一にぶい黄橙色	0.5～2mm大砂粒多く含む 1mm大雲母わずかに含む	良
215	23.2cm			暗灰色	0.5～1mm大砂粒多く含む	良
216				にぶい橙色	0.5～2mm大砂粒多く含む 0.5mm大雲母少量含む	良
217	28.4cm			褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 1mm大雲母わずかに含む	良
218	胴部径 29.9cm	36cm	8.2cm	褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む 1mm大雲母わずかに含む	良
219	23.8cm			褐色	0.5～1mm大砂粒多く含む 細雲母わずかに含む	良
220	40.6～41.4cm	内径 31.8～34.6cm		にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
221	13.1cm	24.1cm	8.6cm	にぶい橙色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
222	13cm	14.2cm	胴部径 16.3cm	にぶい黄褐色	0.5～2mm大砂粒多く含む	良
223	6.8cm	10.4cm	13.2cm	にぶい橙色	0.5～1mm大砂粒少量含む	良
224	33.8cm	24.9～25.7cm	18.5cm	にぶい黄橙色	0.5～1mm大砂粒少量含む 0.5mm大雲母わずかに含む	良
225	15.8cm	5.2cm		にぶい橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1～3mm大砂粒わずかに含む 0.5mm大雲母わずかに含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
226	13.6cm	4.8cm		にぶい橙色	0.5mm大砂粒多く含む	良
227	24.7cm			外-にぶい橙色 内-にぶい褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 1mm大雲母わずかに含む	良
228	33.2cm			にぶい褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む	良
229	8.1cm	14.8cm	10cm	にぶい橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
230	45.8~46.4cm			にぶい黄褐色	0.5~3mm大砂粒多く含む	良
231	40.1~42.7cm	内径 34.7~35.7cm		にぶい褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
232	43.8cm			にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 1~2mm大雲母わずかに含む	良
233			12.8cm	にぶい橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 0.5~2mm大雲母わずかに含む	良
234	24.2cm			外-灰褐色~橙色 内-灰褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 1mm大雲母わずかに含む	良
235	25.6cm	24cm		暗褐色~橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 1mm大雲母少量含む	良
236			8.7cm	外-灰褐色~橙色 内-灰褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 1mm大雲母わずかに含む	良
237	26~26.4cm	26.3~27.4cm	7.8cm	暗褐色~橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
238	27.2cm			褐色~橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
239	22.1cm	23.3cm	7.1cm	赤褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母わずかに含む	良
240	24.5~27.1cm	29.4~30.1cm	8.9~9.1cm	外-にぶい褐色~ 橙色 内-褐色	0.5~2mm大砂粒少量含む 1mm大雲母わずかに含む	良
241	22.8cm	26.4~27.1cm	7.8~8.3cm	暗褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
242	18.2~20.3cm	20.3cm	5.9~6.3cm	黒褐色~赤褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 0.5~1mm大雲母多く含む	良
243	16.2cm	30cm	9cm	赤褐色	0.5~3mm大砂粒多く含む 1mm大雲母わずかに含む	良
244	17cm	27.5cm	7.7~8cm	赤褐色	0.5mm大砂粒多く含む 1~3mm大砂粒少量含む 0.5~2mm大雲母わずかに含む	良
245	13.6~14cm	13.4~14.3cm	5.3cm	外-にぶい褐色 内-黒褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 0.5~1mm大雲母少量含む	良
246	17.8cm			灰黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
247	頸部径 10cm			外-褐色 内-黒褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒わずかに含む	良
248			8cm	暗褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 微細雲母わずかに含む	良
249			7.4cm	外-褐灰色 内-にぶい黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
250			10.5cm	橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
251			13.7cm	橙色~黒褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒わずかに含む	良
252	17.6cm			褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~4mm大砂粒わずかに含む	良
253	6.2cm	9.9~10.5cm	6.2cm	橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
254	20cm			橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒わずかに含む	良
255			9cm	橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒わずかに含む	良
256	16.8cm			褐色	0.5mm大砂粒少量含む 1~3mm大砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
257	16.7cm	2.5cm		外-灰色 内-黄灰色	0.5~2mm大砂粒少量含む	良
258	15.9cm	1.7cm		暗青灰色	0.5mm大砂粒少量含む	良
259	17.3cm	1.6cm		青灰色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む	良
260	17.3cm	1.9cm		青灰色	0.5mm大砂粒少量含む 1~2mm大砂粒わずかに含む	良
261	15.1cm	6.7~6.8cm	10.2cm	外-にぶい赤褐色 内-にぶい橙色	微細砂粒多く含む 0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
262	14.3cm	5.6cm	10.2cm	外-灰色~灰赤色 内-灰色	1~3mm大砂粒わずかに含む 微細砂粒少量含む	良
263	13.3cm	5cm	9.5cm	暗青灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
264		3.5cm	9cm	外-明赤褐色 内-灰赤色	0.5~1mm大砂粒少量含む 2~3mm大砂粒わずかに含む	良
265	9.3cm	4.1cm	6.8cm	青灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
266	14.6cm	5.9cm	10.3cm	灰褐色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
267	10.6cm	4.8cm	7cm	明灰青色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
268	13.3cm	4.8cm		灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
269	22cm			暗青灰色	0.5~2mm大砂粒少量含む	良
270	16.4cm	2.9cm		橙色	細砂粒わずかに含む	良
271	15cm	2.9cm		橙色	細砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
272	15.8cm	3.5cm		橙色	微細雲母少量含む 1~2mm大砂粒わずかに含む	良
273	15.6cm	3cm		橙色	微細雲母わずかに含む 細砂粒わずかに含む	良
274	17.8cm	2.1cm		橙色	細砂粒わずかに含む 微細雲母わずかに含む	良
275	24.3cm			橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 0.5mm大雲母わずかに含む	良
276				橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む 0.5mm大雲母わずかに含む	良
277	36cm			褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
278		7.4cm	9.2cm	橙色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒少量含む 0.5~1mm大砂粒少量含む	良
279	26.2cm			橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒わずかに含む 0.5mm大雲母少量含む	良
280	25.9~26.8cm	25.8cm	胴部径 28.4~28.8cm	橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
281	14.2cm	7.9~8.1cm	7.8cm	浅黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
282	5.2cm			赤褐色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
283	12.4cm	3.1cm		灰青色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
284	13.6cm	4.6cm		灰色	0.5mm大砂粒少量含む	良
285	11.2cm	3.2cm		灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む	良
286	14.4cm	4cm		灰色~灰赤色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒わずかに含む 微細雲母少量含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
287	12.4cm	4.7cm		灰色	0.5~2mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
288	13cm	5.8cm		青灰色	0.5~1mm大砂粒わずかに含む 細雲母わずかに含む	良
289	10.1cm			灰青色	0.5mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
290	13cm	4.6cm		橙色	0.5mm大砂粒多く含む	良
291			6.8cm	褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒わずかに含む	良
292	胴部径 16.5cm		6.5cm	にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
293				褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母少量含む	良
294	4.6cm	9.3cm	3.2cm	にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
295	24.2cm			にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
296			6.6cm	褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
297			8cm	にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
298	24.6cm			にぶい褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
299	20.8cm			にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 0.5~2mm大雲母少量含む	良
300	20cm			褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
301	17.6cm			にぶい橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
302	16.8cm			にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 0.5~1mm大雲母少量含む	良
303	10.3cm	11.4~12.4cm	5.8~6.4cm	にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
304			8.2cm	にぶい黄褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
305			6.4cm	褐灰色	0.5~2mm大砂粒多く含む 0.5~2mm大雲母少量含む	良
306			6.8cm	灰黒色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
307			7.4~7.8cm	にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒少量含む 微細雲母わずかに含む	良
308	6.3cm	7.2cm	胴部径 8.2cm	明赤褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
309	18.4~19cm	12.8~13cm		にぶい黄褐色 ~褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 微細雲母多く含む	良
310	30.6cm	24.2cm	18.8cm	にぶい橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 細雲母少量含む	良
311			20cm	にぶい褐色	0.5mm大砂粒多く含む 1~2mm大砂粒わずかに含む 微細雲母多く含む	良
312	11.6cm	18.3~18.5cm	14.4cm	にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む	良
313	25.4cm			褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む	良
314			10.4cm	灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
315	18.2cm			にぶい橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
316	胴部径 8.4cm			明褐色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
317	9.6cm	4.9cm		にぶい橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2mm大砂粒少量含む	良
318	8.6cm	10.9cm	胴部径 10cm	褐色	細雲母多く含む 細砂粒少量含む	良
319	13.2cm	3.6cm	8.6cm	灰色	細砂粒わずかに含む	良

番号	口 径	器 高	底 径	色 調	胎 土	焼成
320	39.2cm			にぶい黄褐色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む 微細雲母少量含む	良
321	41.2cm			橙色	0.5~1mm大砂粒多く含む 2~3mm大砂粒少量含む	良
322	11.4cm			にぶい橙色	0.5~3mm大砂粒多く含む	良
323	26.6cm			外-橙色 内-褐色	0.5~1mm大雲母少量含む 0.5~1mm大砂粒多く含む	良
324			6.4cm	外-橙色 内-褐色	0.5~1mm大雲母少量含む 0.5~1mm大砂粒多く含む	良
325	胴部径 19.1cm			外-にぶい橙色 内-にぶい褐色	1~2mm大雲母少量含む 0.5~2mm大砂粒多く含む	良
326	16.7cm	6.1cm		にぶい褐色	0.5~2mm大砂粒多く含む 細雲母少量含む	良
327	16cm	1.4cm		灰色	0.5~1mm大砂粒少量含む	良
328	59.6cm			にぶい黄褐色	細砂粒少量含む	良
329	58cm	頭部径 49.2cm		にぶい橙色	0.5~2mm大砂粒多く含む 0.5mm大雲母多く含む	良

## V 中島遺跡の調査

### 1. 調査の概要 (附図9・10)

中島遺跡は昭和62年度と63年度に発掘調査し、それぞれ第1地点、第2地点とした。第1地点はピットの外、畝跡が検出された。畝跡は表土下の浅い位置から検出され、遺物は出土しなかった。第2地点は墓を中心とした遺構が検出されたが、遺構は耕作土直下から検出されたこともあり、全般に残りが悪い。石蓋土壙墓では9・15・23号が石蓋が残っているのみで、外は主体部の形状、遺構の配置から同じ石蓋土壙墓として扱った。

### 2. 遺構

#### —第2地点—

#### (1) 住居跡

##### 1号住居跡 (第66図/図版36)

東西1.4~1.2m、南北1.4~1.3mを測る、ほぼ正方形プランを呈し、深さ40cmほどが残る。柱穴は四隅に配される小形のもので、住居跡というよりも、外の目的をもった小屋と言った方が適切であろう。床面には遺物が残される。

##### 2号住居跡

1号住居跡の南隣りで検出した方形プランを呈すと思われる住居跡である。。残りが極めて悪く、南東のコーナーのみ検出した。

#### (2) 井戸

##### 1号井戸 (第67図/図版36)

調査区の南端で検出した。湧水が激しく、発掘中に壁体が崩れ明瞭でないが、僅かに内彎するようである。

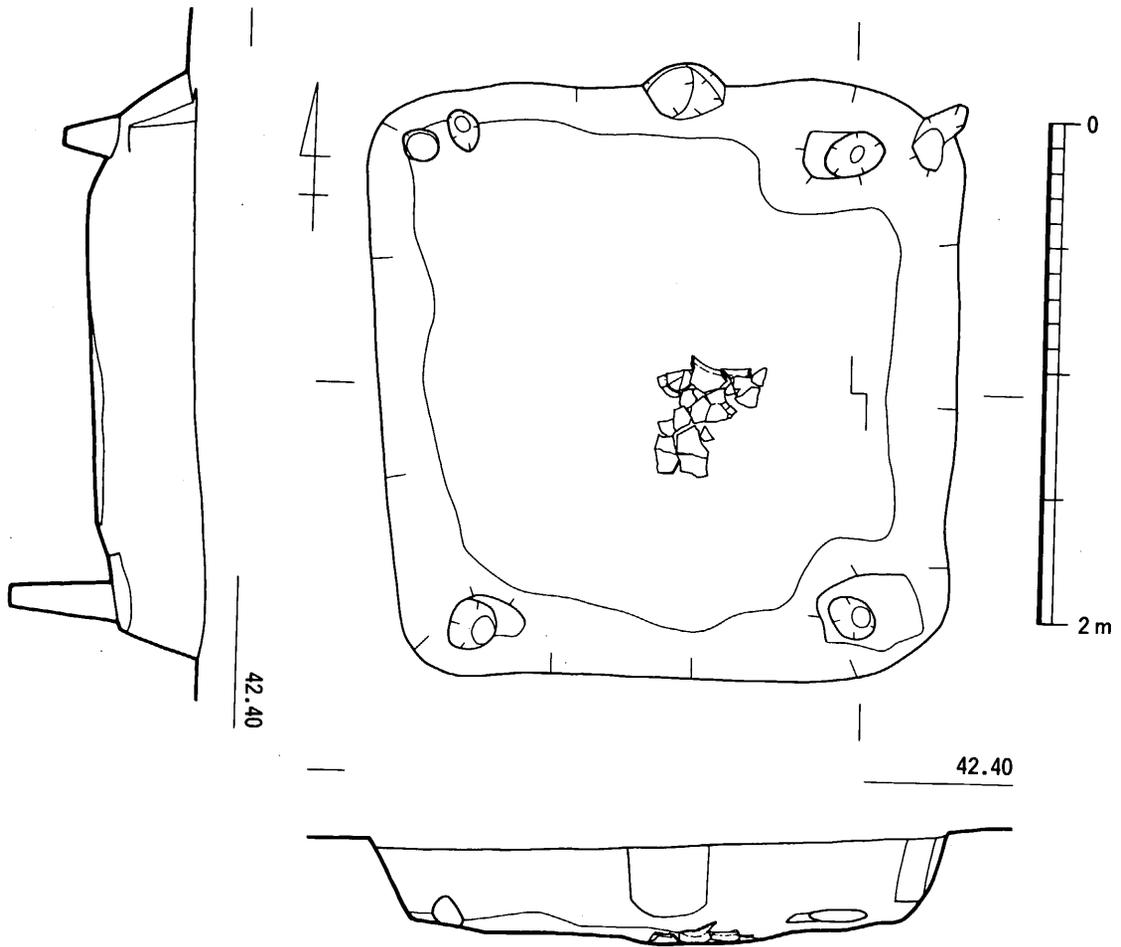
##### 2号井戸 (第67図/図版36)

底径1m、残存高1.85mを測る。崩れているが、底部から1mほどは筒状を呈し、その上やや開くと考えられる。

#### (3) 土壙墓

##### 1号土壙墓 (第68図/図版37)

1号~4号土壙墓は密集して所在する。1号土壙墓は1m余りのほぼ正方形プランを呈すもので、深さ30cmほどを残す。



第66図 住居跡実測図（縮尺1/30）

**2号土壙墓**（第68図／図版37）

1号土壙墓の北隣で検出した。80×70cm余りの方形プランを呈し、深さ30cm足らずを残す。

**3号土壙墓**（第68図／図版37）

2号土壙墓に切られる。ほぼ1mの方形プランを呈し、深さ約30cmを残す。

**4号土壙墓**（第68図／図版38）

3号土壙墓に切られる。90cmほどの方形プランを呈し、深さ30cmを残す。

**5号土壙墓**（第68図／図版38）

1号～4号土壙墓の西12mの所で検出した。140×85cmの方形プランを呈し、深さ45cmを残す。床全面に板材が残っていた。

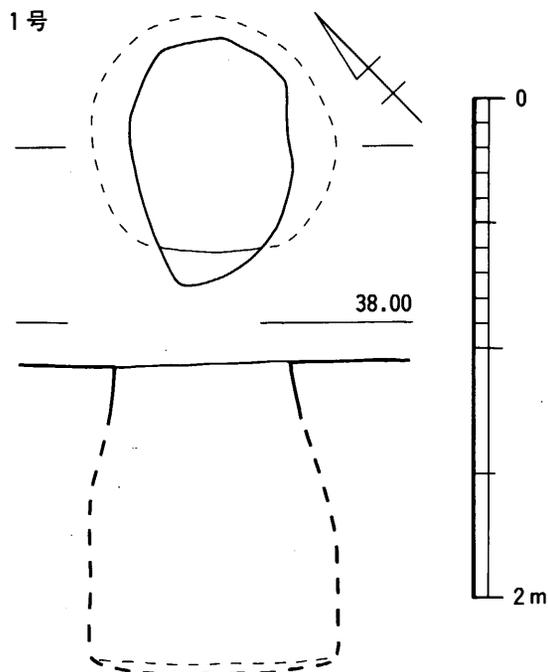
#### (4) 木棺墓

##### 1号木棺墓 (第68図/図版38)

5号土壙墓から北西に16mの所で検出した。140×80cmの方形プランを呈すが、全体に残りが悪い。北西隅からは副葬の椀が出土した。

##### 2号木棺墓 (第68図/図版39)

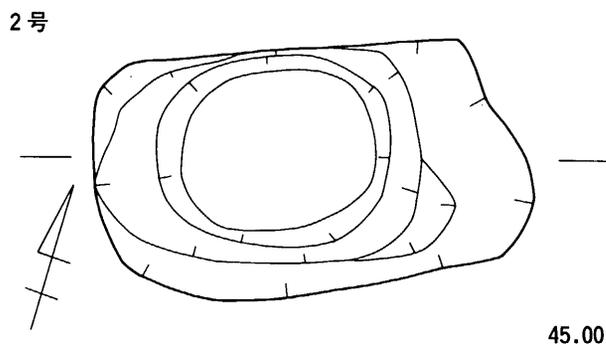
石蓋土壙墓群の北側脇で検出した。プランは一部を失うが、1.6×1.2mを測る方形プランを呈す二段堀りのものである。



#### (5) 甕棺墓

##### 1号甕棺墓 (第69図/図版40)

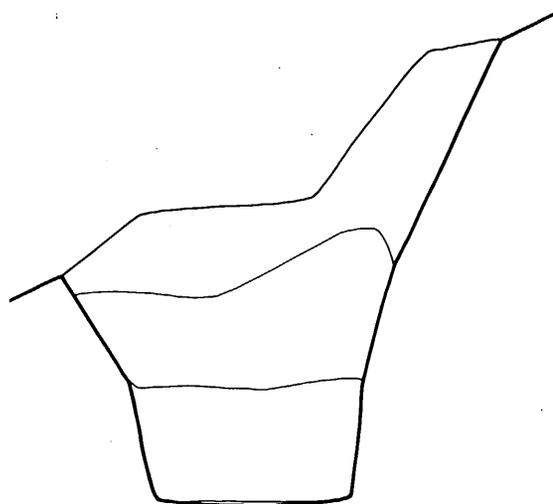
土壙墓群の東端で検出した。上部は削平されるが、墓壙床面は楕円形を呈し、一方に横穴を穿ち、合わせ口に甕棺を収める。甕棺は主軸をN-62°-Eにとり、下方に8.5°傾斜して埋置される。



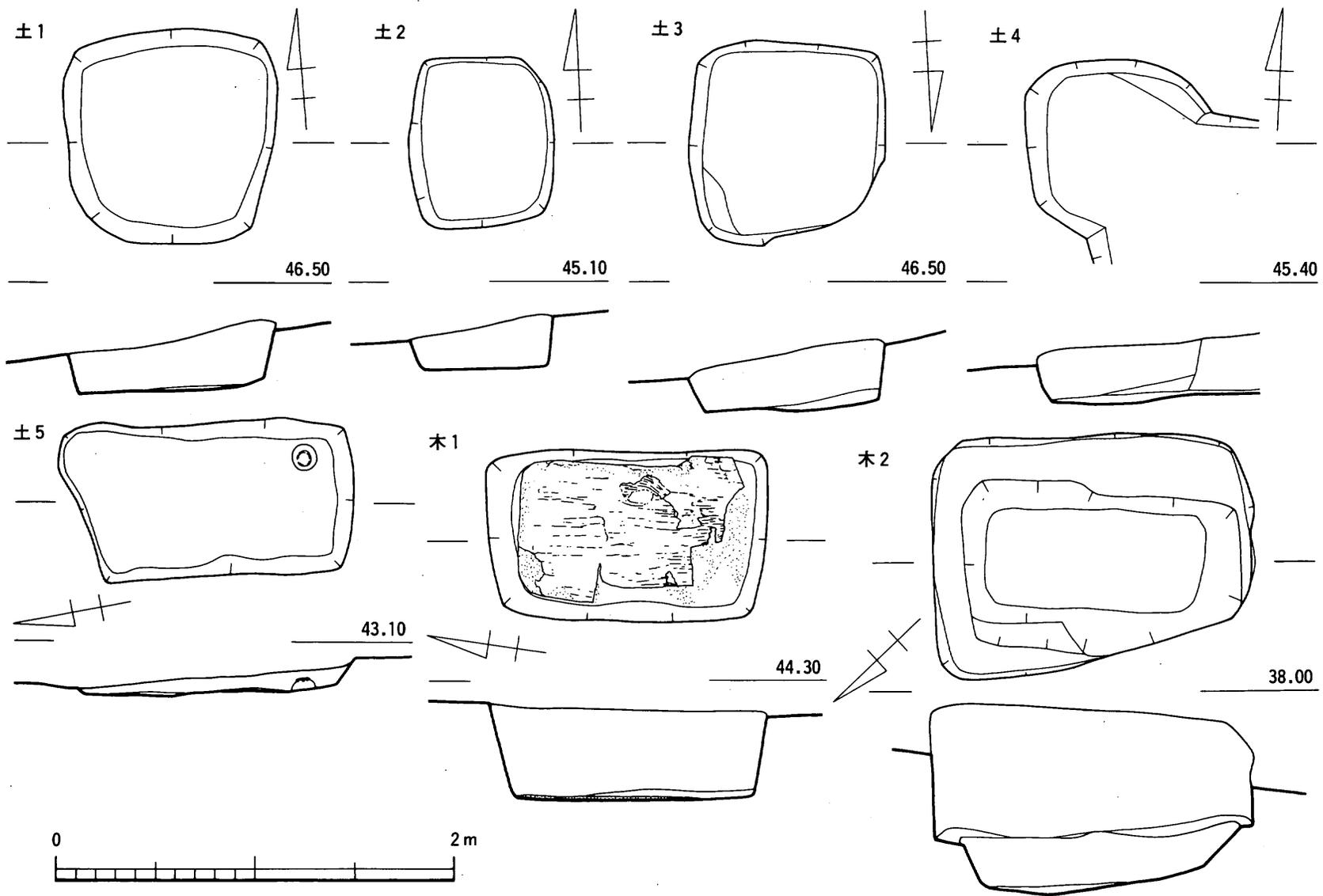
#### (6) 箱式石棺墓

##### 1号箱式石棺墓 (第70図/図版40)

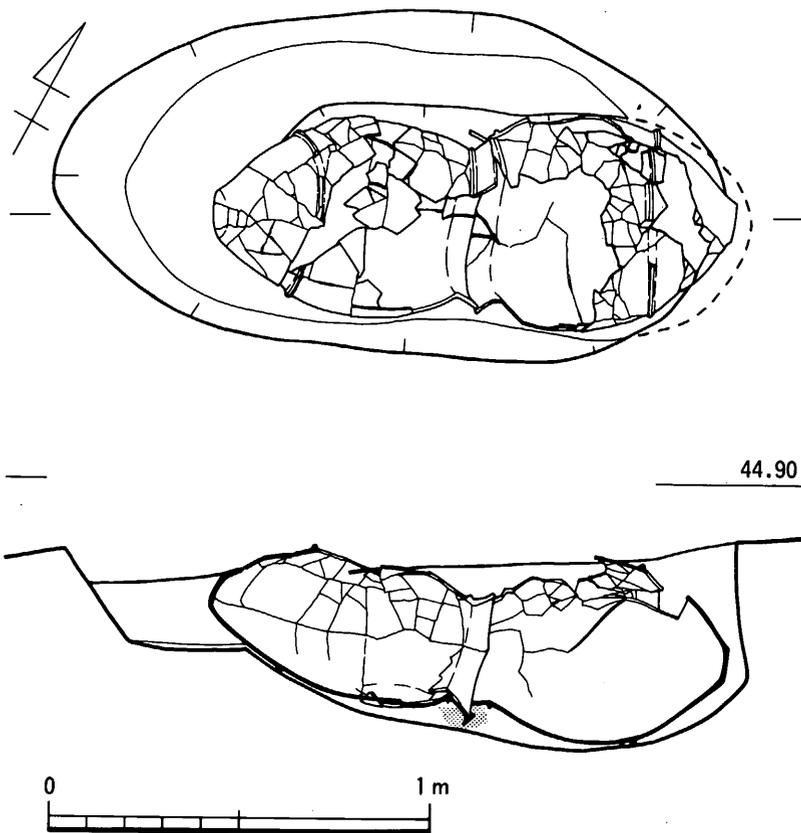
蓋石の一部は失われ、また3石残る偏平な長方形の蓋石も若干動いている。東半は墓壙が僅かに残る。石棺は木口に長方形の石を1石立て、側面は北側に3石、南側に4石を配し、その内部は80×20cmを測る。



第67図 井戸実測図 (縮尺1/30)



第68図 土墳墓・木棺墓実測図 (縮尺1/30)

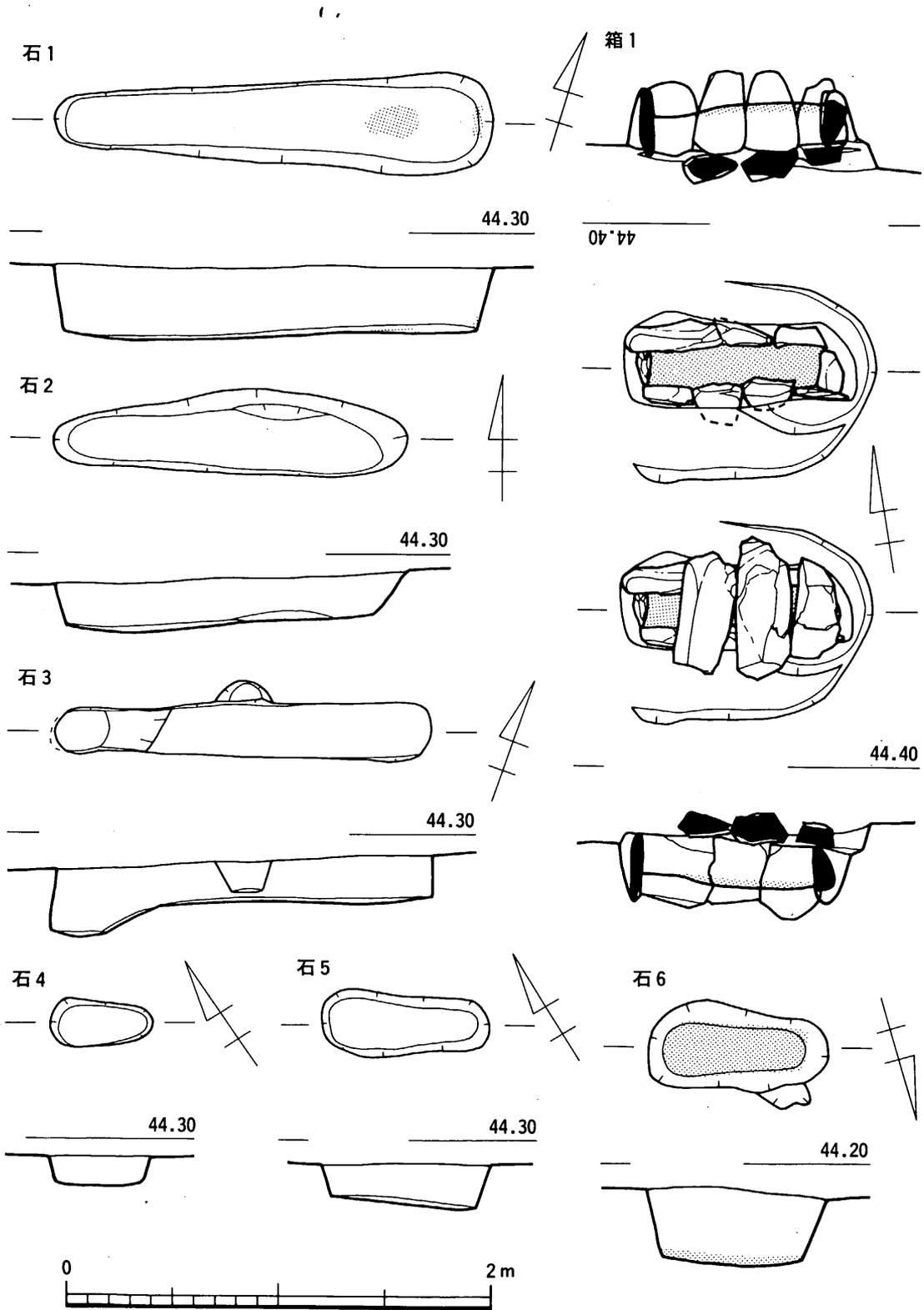


第69図 甕棺墓実測図（縮尺1/20）

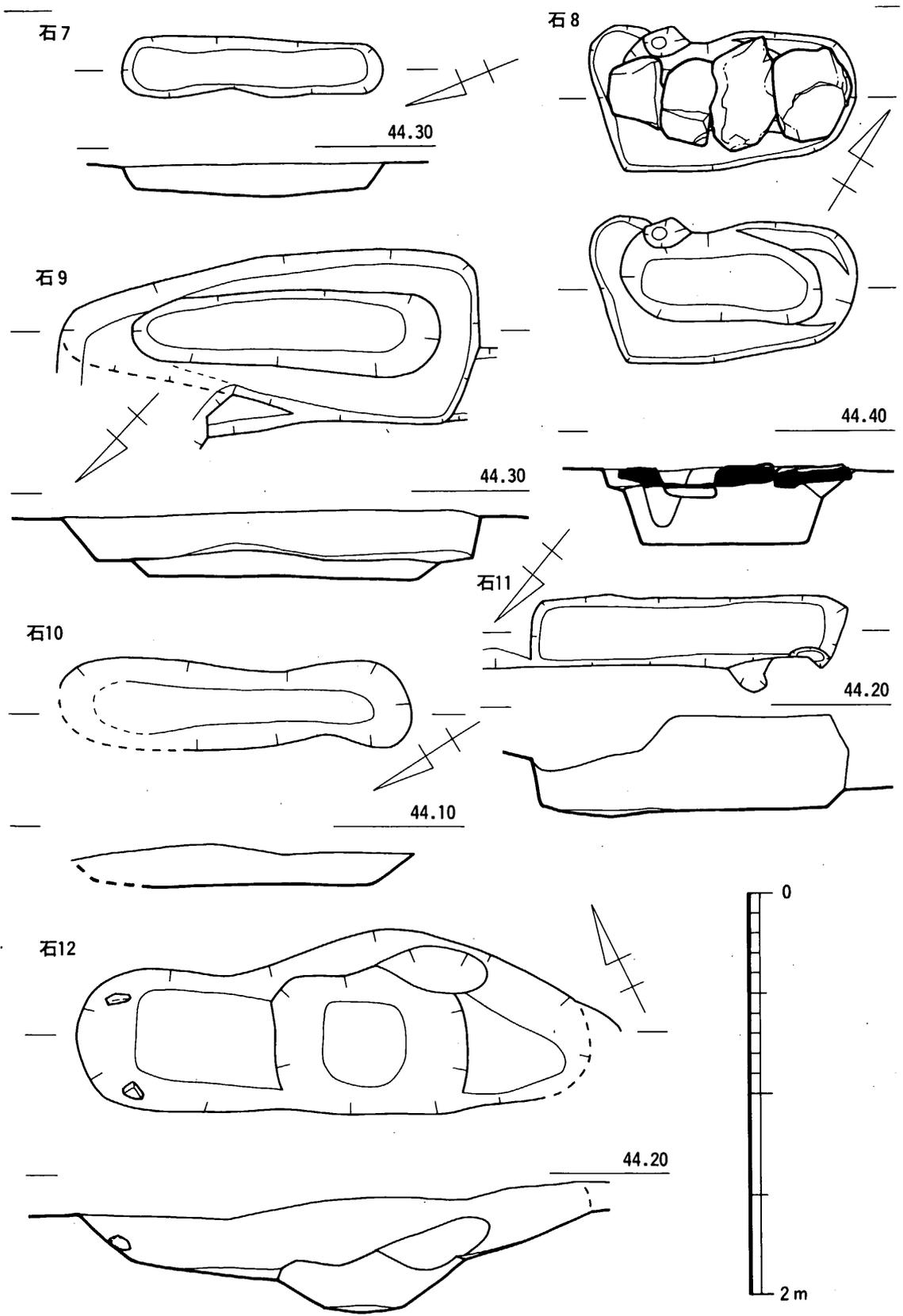
### (7) 石蓋土墳墓（第70～74図／図版39～48）

1号～22号石蓋土墳墓は調査区中央部に群をなして検出され、2号石蓋土墳墓は北側に離れて検出された。4～6号石蓋土墳墓は小児用と考えられるもので、6号石蓋土墳墓内からは赤色顔色を検出した。外のものは成人用と考えられるもので、甕棺墓、箱式石棺墓を含め大きく3グループに分けられる。第1グループは1号～3号、7号～11号、13号石蓋土墳墓、第2グループは1号箱式石棺墓、6号・12号・14号・15号石蓋土墳墓、第3グループは1号甕棺墓、17号～22号石蓋土墳墓である。

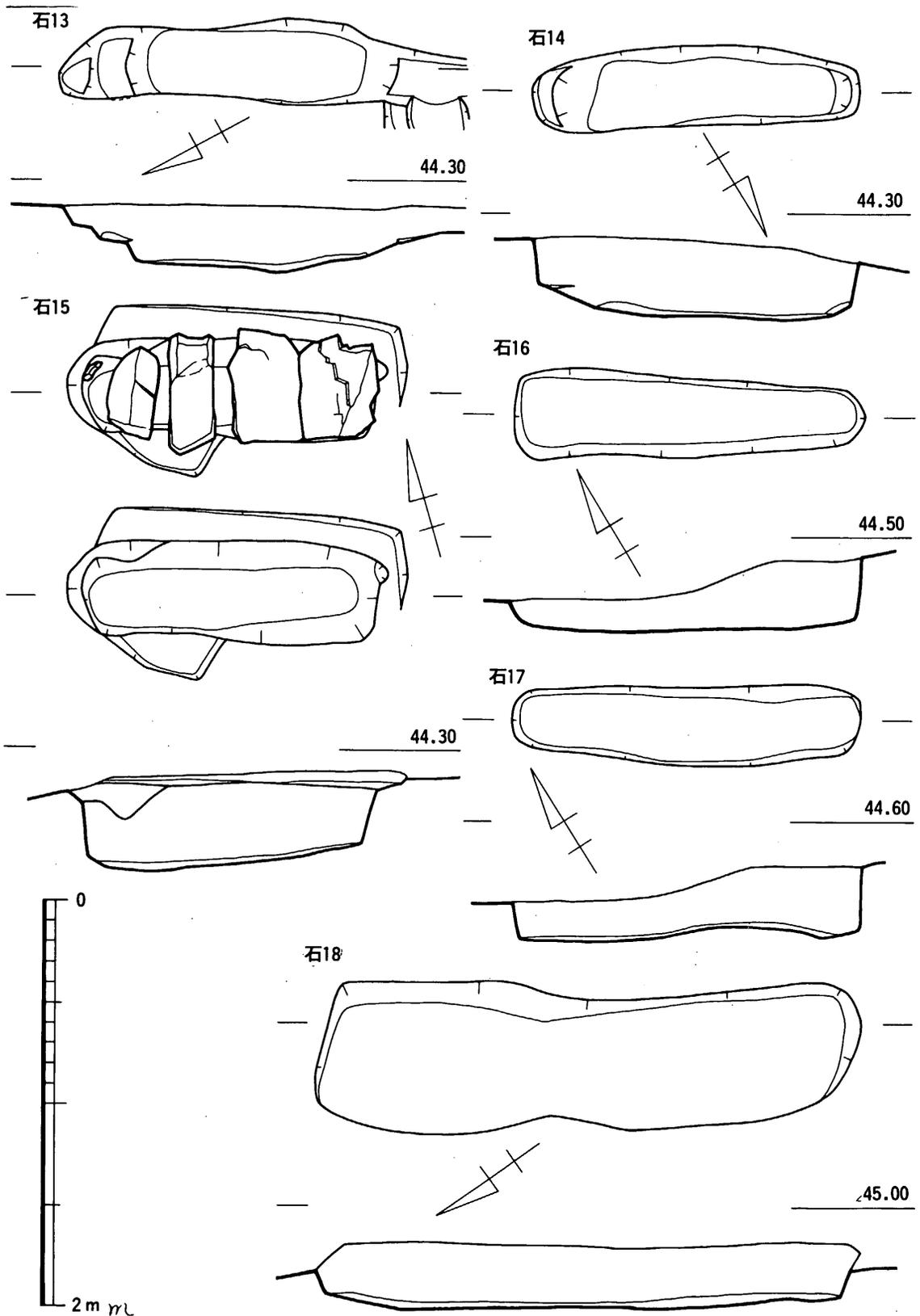
第23号は段落ちの際で検出したもので、石蓋はずり落ちている。



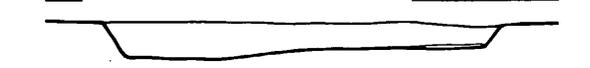
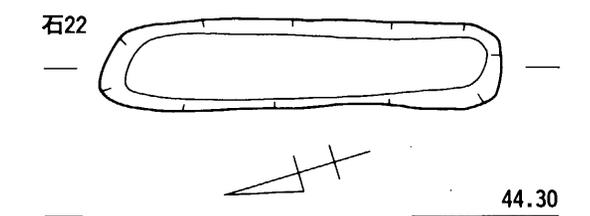
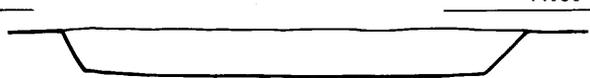
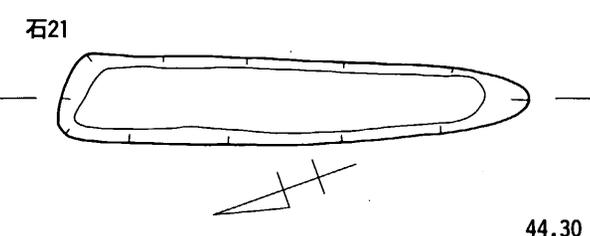
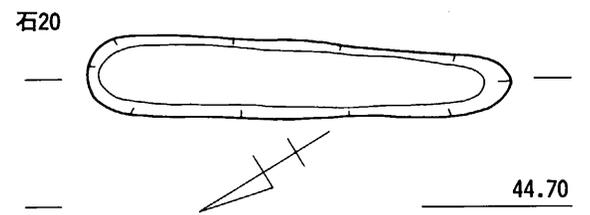
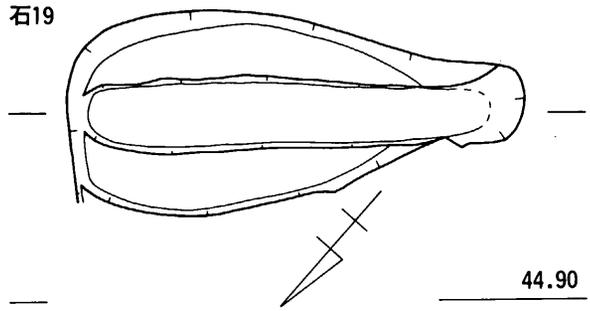
第70図 箱式石棺墓・石蓋土墳墓実測図 (縮尺1/30)



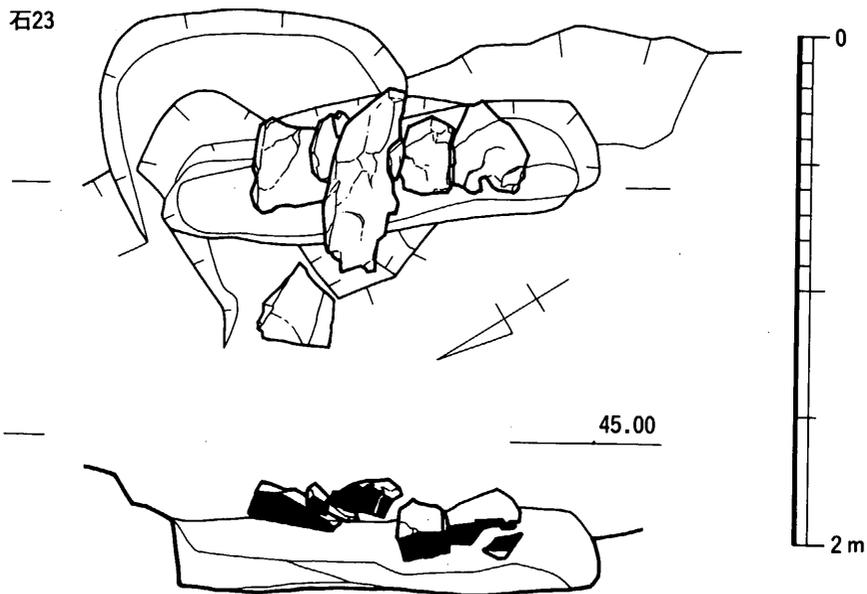
第71図 石蓋土墳墓実測図 (縮尺1/30)



第72図 石蓋土壤墓実測図 (縮尺1/30)



第73図 石蓋土墳墓実測図 (縮尺 1/30)



第74図 石蓋土壙墓実測図（縮尺1/30）

### 3. 遺物

#### (1) 土器（第75図）

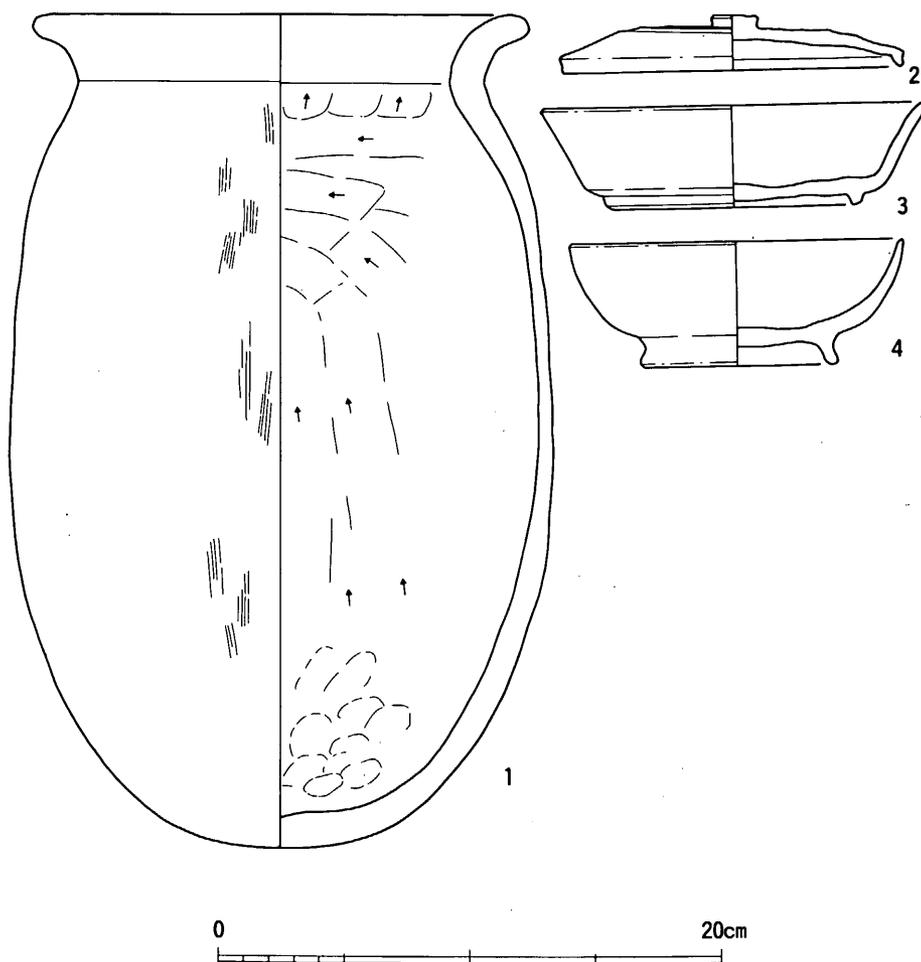
1・3は1号住居跡から出土した。1は土師器の甕で外彎する「く」字状口縁を呈し、胴部は長胴で、中央部に最大径をもつ。調整は口縁部がヨコナデされ、胴部外面は縦方向の刷毛目が施される。内面はヘラ削りされ、底部に指頭痕が残る。3は須恵器の坏身である。体部は直線的に外傾し、口縁部は僅かに外反する。底部は体部との境から5mmほど内側に断面方形の短い高台が貼付される。

2は2号住居跡から出土した須恵器の坏蓋である。天井部は平坦にヘラ削りされ、体部は強く外傾して下る。口縁部は屈曲して嘴状を呈す。

4は6号土壙墓出土の土師器碗で、体部は内彎して立ち、底部には細く高い高台が、外傾して貼付される。

#### (2) 甕棺（第76図／図版49）

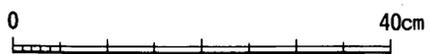
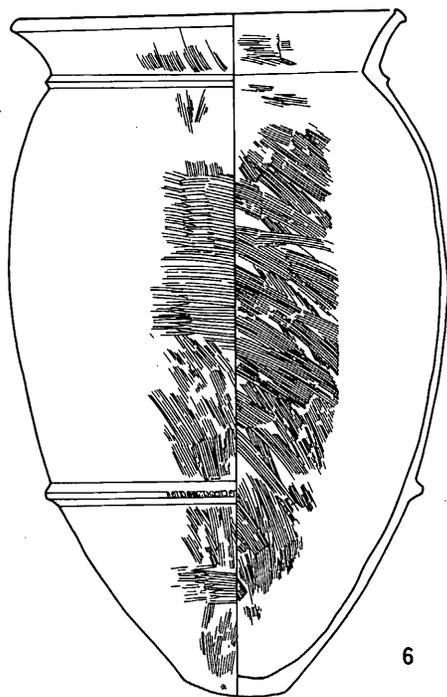
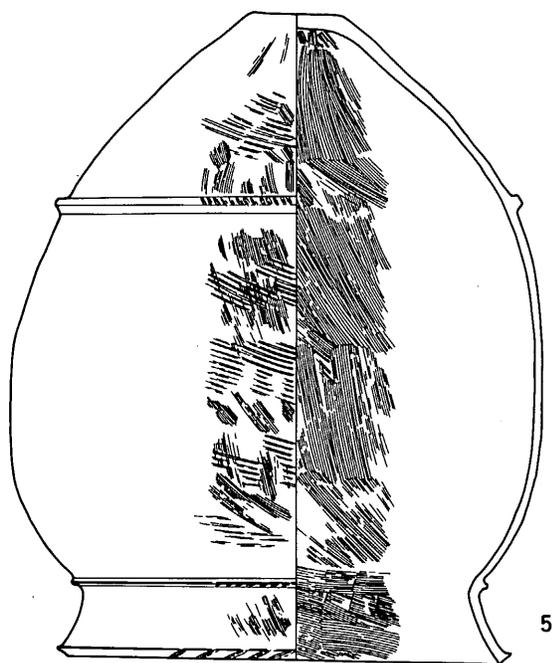
5・6は1号甕棺の上下である。



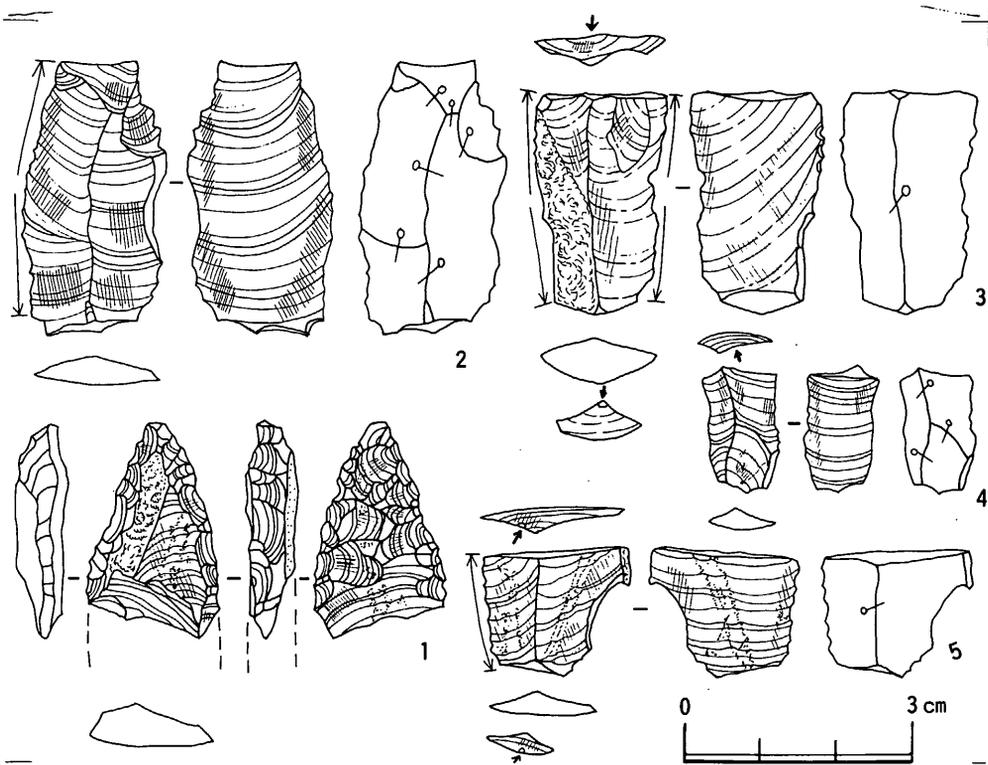
第75図 出土土器実測図 (縮尺 1 / 3)

表 3

番号	全長	幅	主軸方位	備 考
1	260cm	48cm	N-74°-W	
2	166cm	30cm	N-90°-E	
3	178cm	36cm	N-72°-W	
4	48cm	23cm	N-56°-E	
5	78cm	22cm	N-58°-E	
6	82cm	44cm	N-74°-E	
7	117cm	30cm	N-23°-W	
8	126cm	72cm	N-58.5°-W	
9	230cm	84cm	N-46°-W	
10	162cm	26cm	N-34°-W	
11	156cm	47cm	N-51°-W	
12	252cm	91cm	N-64°-E	
13	134cm	35cm	N-29°-W	
14	160cm	38cm	N-58.5°-E	
15	164cm	68cm	N-73°-E	
16	172cm	44cm	N-59°-E	
17	172cm	39cm	N-57°-E	
18	262cm	27cm	N-35°-W	
19	180cm	80cm	N-48°-W	
20	168cm	22cm	N-31°-W	
21	186cm	34cm	N-19.5°-W	
22	158cm	36cm	N-13.5°-W	
23	184cm	110cm	N-31.5°-W	



第76图 1号甕棺实测图 (缩尺1/8)



第77图 石器实测图 (缩尺1/1)

## VI 人形原遺跡の調査

### 1. 調査の概要 (附図12/図版50)

遺跡の南端に当たる箇所を昭和62年度に発掘調査した。ピットが遺構の大部分を占めるが、その大半は埋土と掘り込まれた地山との境が不明瞭で、形状も底部等不整形であり、人為的な遺構とは考えにくい。外に土壙、木棺墓、溝状遺構等が検出された。

### 2. 遺 構

#### (1) 土壙

##### 1号土壙

直径2.7~2.4mを測る円形プランの土壙である。壁体は中ほどから砂質となり、ほぼ垂直に下ると思われるが、その一部から湧水し、壁体以下が崩れ、十分に観察できなかった。

#### (2) 木棺墓

##### 1号木棺墓 (第78図/図版50)

1.6~1.3×2.5mを測る方形プランの墓壙の床面両端に木口板を据える穴を有す。主軸はN-19°-Eにとり、残存高90cmを測る。

##### 2号木棺墓 (第78図/図版50)

北半は調査対象地外へ延びる。地山を二段掘りして棺を設置するもので、主軸はN-27°-Eにとり、残存高60cmを測る。

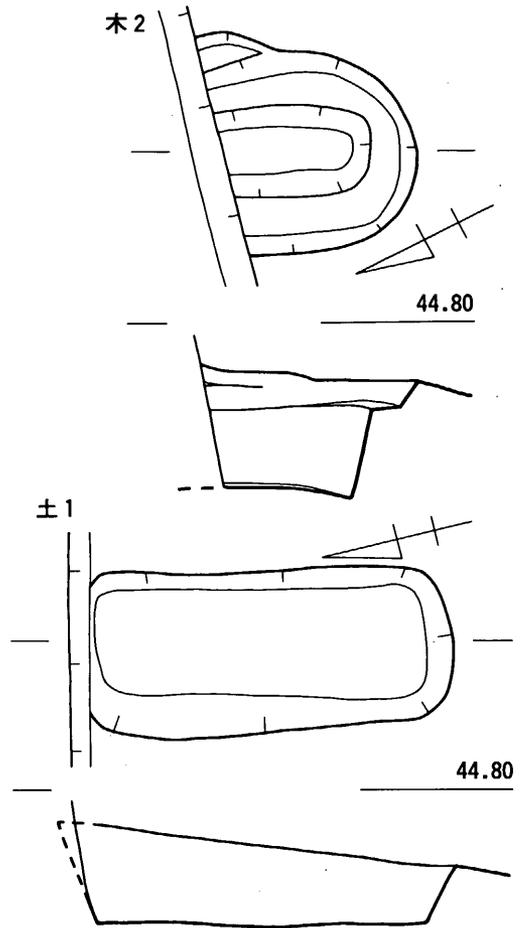
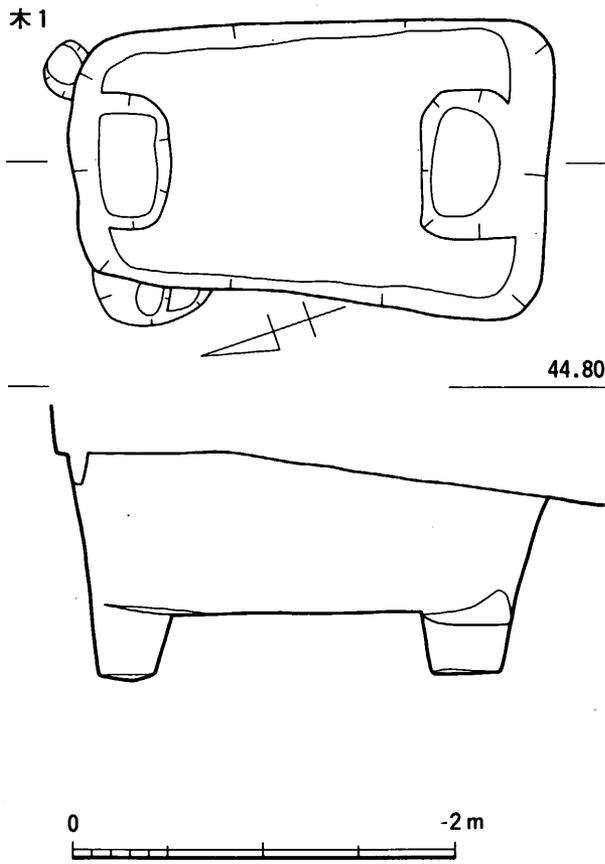
#### (3) 土壙墓

##### 1号土壙墓 (第78図)

一端が僅かに調査対象地外となるが、195×85cmを測る方形プランを呈す。主軸はN-14°-Eにとり、残存高50cmを測る。

#### (4) 溝状遺構

1号溝状遺構は真北から西に56°振るもので、埋土は耕作土状の青灰色粘質土である。2号溝状遺構は幅1.2mを測り、真北から東に36°振る。等高線に対し直角に延びるものである。3



第78図 木棺墓・土壙墓実測図（縮尺1/40）

号溝状遺構は真北から西に77°振るもので、等高線に対し平行に延びるものである。4号溝状遺構は僅かなカーブを帯びるが、ほぼ真北から東に46°振るものである。5号溝状遺構は残りがあまり良くなく、一部分の調査にとどまったが、4号溝状遺構と平行して延び、その距離は溝の中心から10mを測る。5号溝状遺構も僅かに曲がる部分も有すが、ほぼ30°ほど真北から東に振る。

## Ⅶ 小 結

今回、調査した大島遺跡や八ヶ坪遺跡については、深く掘削する排水路部分に対して実施し、中島遺跡や人形原遺跡についても比較的まとまった範囲を調査したが、遺跡全体としては、その縁辺部にあたり、遺跡全容を解明するには至っていない。しかし、排水路部分の調査では遺跡を完全に縦断しており、また、これまでの実施された発掘調査の成果と旧地形とを参考にすると、山家地区全体としての遺跡のあり方が、おぼろげながら推察される。以下、時代をおって遺跡のあり方をみてみたい。

### 1. 旧石器時代

山家地区の調査において検出されたのは浦田遺跡と池田遺跡、本報告の中島遺跡のみであるが、このほかにも地元の方が採取されていると聞く。こちらのほうは残念ながらまだ足を運んでいない。浦田遺跡からは調査区内の谷状となった部分に堆積した淡黒褐色土層（3層）からナイフ形石器、石核が各1点出土した。池田遺跡はピット内から石核が出土している。中島遺跡の方は石蓋土壙墓が検出された花崗岩のバイラン土から、チップ等が94点検出された。石器としては台形様石器が1点のみである。

これだけの例で言及することはできないが、3遺跡に共通することは、河岸段丘の平坦部と接する丘陵端部に立地することである。

### 2. 縄文時代

池田遺跡、浮殿B遺跡、大島遺跡、八ヶ坪遺跡から早期から晩期の土器が出土している。また前述の地元の方の採取品に縄文時代の遺物もあると聞く。早期の土器としては押形文土器が池田遺跡と大島遺跡第4地点、八ヶ坪遺跡第1地点から出土している。前期は轟系の土器が池田遺跡、轟B式と曾畑式の土器が八ヶ坪遺跡第3地点から出土している。中期では阿高式土器が八ヶ坪遺跡第5地点から出土している。後期は鐘ヶ崎土器、三万田式土器、北久根式土器といった中頃から後葉にかけての土器が大島遺跡第1地点、八ヶ坪遺第1・第2地点から出土している。

これらの遺物は段落ちや、ピット内からの出土で、点数もそれほど多くないが、土器出土の広がりから、段丘上に遺跡があったと思われるが、後世、幾度となく人々の生活の場となったことにより削平されたのであろう。

### 3. 弥生時代

弥生時代前期の生活遺構としては大島遺跡第1・第2地点が上げられる。さらに中期初頭頃になると大島遺跡第2地点と第3地点D地区で検出され、段丘のやや高いところへ移るようである。中期前葉では大島遺跡第1地点でみられ、第3地点D地区でもみられるが遺構数としては希薄である。また第2地点では墓地が検出された。中期中葉になると大島遺跡第3地点D地区で住居跡等が検出された。またこの北側は当初の予備調査の結果を基に考えられた高さより高い位置に遺構面があり、調査と平行して行われていた圃場整備の工事中に甕棺墓群が発見された。直ちに工事を中止し、出来高標高を上げ、客土することで対応したが、おそらく中期中葉から後半のものと思われる。次に遺構を見ることが出来るのは後期後葉以降であるが、このころから遺跡の在り方に変化が生ずる。大島遺跡では第3地点（D地区）に限られるが、大島遺跡より一段低く、これまで遺構がみられなかった八ヶ坪遺跡や茶屋原遺跡から古墳時代初頭に至る遺構が検出されている。この時期の他の遺構として、中島遺跡から石蓋土壙墓22基、箱式石棺墓1基、甕棺墓1基で構成される墓地が検出されている。さらに北東の段落ちの際に23号石蓋土壙墓ある。また、時期は明確ではないが、人形原遺跡からも木棺墓等が検出され、さらに北側に広がると思われる。

### 4. 古墳時代

前期のように弥生時代の終末頃から続く遺跡は5世紀の中葉頃までで終焉を迎えるようである。以降、8世紀頃まで遺構は見られない。ただ、大島遺跡第3地点の5号・8号溝状遺構から出土した須恵器の坏が6世紀頃にも人々の営みがあったことを示唆するのみである。

### 5. 奈良時代以降

八ヶ坪遺跡第1地点と隣接する第2地点から5棟の掘立柱建物が検出されている。時期については明確ではないが、下限として平安時代までが考えられている。今回の調査でも大島遺跡第3地点D地区から掘立柱建物が1棟検出されている。全容は明らかではないが、建物の規模は柱の状況からほぼ同程度のものと思われ、建物の方位もほぼ一致する。この建物の時期は明確ではないが、周辺部に土器を多く廃棄した土壙が検出される。土壙から出土した土器はほぼ干潟遺跡のⅣ期に相当するものと考えられる。八ヶ坪遺跡では条里遺構に極めて近い棟方向を示すと報告されているが、直線距離で550mほど離れた大島遺跡の建物も同方向を示すことから、条里の規制を受けていたと推定され、時期についても今後の調査を待つ必要があるが、先の土壙に伴う可能性もある。

「山家地区遺跡」の報告書で述べたように、概略的に見ると全体に渡って遺跡が連綿と続いているが、以上のように詳細に見ると、地形の変化と共に遺跡の在り方が移り変わっている。大島遺跡は段丘の平坦部の最も高い微高地状に所在し、弥生時代前期から集落が営まれる。大島遺跡から一段下がるハヶ坪遺跡、茶屋原遺跡は弥生時代後期以降に集落が営まれるようで、3遺跡の境は谷状を呈す地形により区切られる。また中島遺跡は大島遺跡の東側に延びる丘陵上に所在する遺跡であり、人形原遺跡は大島遺跡北側の丘陵上に所在する遺跡であり、前遺跡と同様に谷状を呈す地形により区切られる。

#### 文献第1表参照

- ① 『冷水バイパス埋蔵文化財調査報告』 1982 福岡県教育委員会
- ② 『浦田遺跡』 筑紫野市文化財調査報告書第21集 1989 筑紫野市教育委員会
- ③ 『山家地区遺跡』 筑紫野市文化財調査報告書第19集 1987 筑紫野市教育委員会
- ④ 『坂井田遺跡Ⅰ』 夜須町文化財調査報告書第10集 1988 夜須町教育委員会
- ⑤ 『夜須地区遺跡群Ⅲ』 夜須町文化財調査報告書第9集 1988 夜須町教育委員会
- ⑥ 『丸隈遺跡』 筑紫野市文化財調査報告書第16集 1987 筑紫野市教育委員会
- ⑦ 『茶屋原遺跡』 夜須町文化財調査報告書第13集 1989 夜須町教育委員会

## 中島遺跡出土の赤色顔料

福岡市埋蔵文化財センター 本田 光子  
宮内庁正倉院事務所 成瀬 正和

筑紫野市山家遺跡（63年度調査）1号箱式石棺墓、6号石蓋土壙墓出土の赤色顔料について、光学顕微鏡による観察と蛍光X線分析およびX線回折の測定を行った。墳墓出土の赤色顔料としては、朱（HgS）、ベンガラ（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、の二者が考えられるが、1号箱式石棺墓からはベンガラ、6号石蓋土壙墓からはベンガラと微量の朱が検出された。

### 試料

1号箱式石棺墓、6号石蓋土壙墓出土の赤色顔料はともに多量の土砂に混じたものであり、前者は約9kg、後者は約7kgであった。両者とも赤色顔料の量は少なく、淡赤色であった。土の中から赤色顔料の小塊を捜し出し、実体顕微鏡下で土砂を除去した。この段階で数十枚のプレパラートを作成し、その検鏡結果に基づいてX線分析用の試料を調整した。今回はメッシュ（No.32）を通して粒度を揃えた。

### 赤色鉱物の同定

ベンガラと朱は、特に微粒のものが混在しない限り、検鏡による識別が容易である。そこで、光学顕微鏡により、透過光・反射光40～400倍で検鏡したところ、1号箱式石棺墓出土の赤色顔料（試料No.1）からはベンガラ粒子だけが見い出された。6号石蓋土壙墓出土の赤色顔料には、ベンガラの他に朱粒子が認められる部分（No.2）とベンガラ粒子のみの部分（No.3）があった。No.3のベンガラにはいわゆるパイプ状粒子が多量に含まれていた。

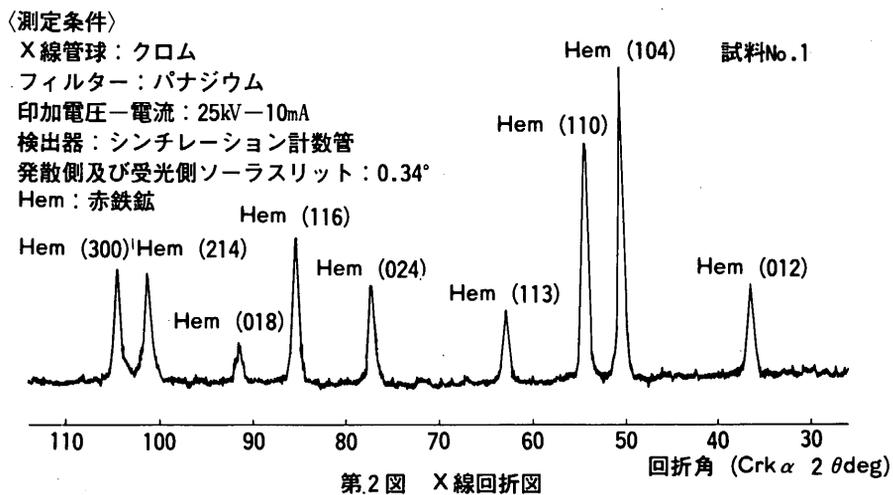
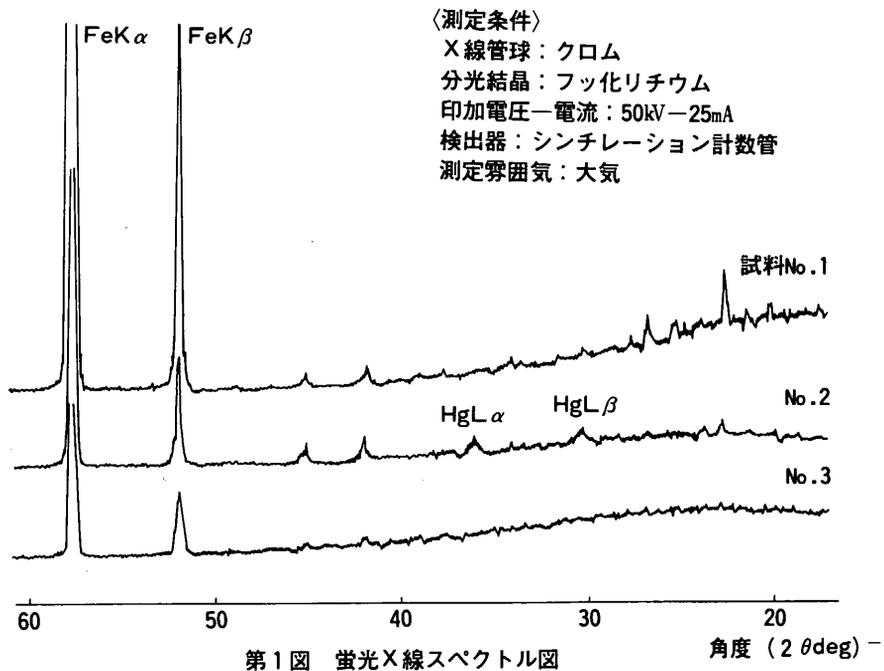
No.1、2、3について蛍光X線分析とX線回折の測定を行った。測定条件及び測定結果の一部を第1、2図に示す。赤色顔料の主成分元素としては、No.1、2、3とも鉄Feであり、No.2のみに僅かな水銀Hgが検出された。X線回折の測定ではNo.1、2、3とも赤鉄鉱（Hematite）が同定された。No.2については辰砂（Cinnabar）のピークは認められなかった。

### まとめ

以上の結果から、1号箱式石棺墓ではベンガラだけが使われ、6号石蓋土壙墓ではベンガラの他に微量の朱も使われていたと推定される。なお、No.3に含まれていたパイプ状粒子は、高湿度下で二次的に生成されるもの\*あるいは産地・製法を示すものではないか\*\*とされているが、今回のように同一遺構内で二種のベンガラ粒子が検出されたことは興味深い。

\* 見城 敏子「古代の赤色顔料について」考古学雑誌73-3 1988

\*\* 戸高真知子「赤い供物・朱玉」エトノス、31号 1986



## 附編 2 山家地区字地名表

大字	字	番 地	大字	字	番 地
山 家	峠	1の1～40		大 江	2537の1～2607の4
	杉 谷	41～127		松 原	2608～5553 2747
	舞 神 楽	128の1～142		小 古 野	2747の1～2800の2
	高 原 釜	143の1～154の6		小 川	2801～2857の7
	藤 ケ 谷	155～177の2		丸 隈	2858の1～2912の2
	白 木 野	178～275の3		引 園	2913の1～2974の5
	茶屋の下	276の1～291		浦 の 下	2975の1～3066の2
	屏 風 谷	292～614の2		平 田	3067の1～3100の2
	田 代	615の1～672の2		中 島	3101の1～3114
	石 金 輪	673の1～826		男 子 田	3115～3132の3
	砂 釜	827～953の2		福 石	3133～3155の7
	高 原	954の1～1143		大 橋	3156の1～3170の5
	門 ノ 尾	1144～1209		冷 水	3171の1～3247
	坂 根	1210～1252の2		池 田 山	3248の3～3248の10
	下 西	1253～1350		熊 ケ 峰	3249の1～3249の2
	猪子ケ谷	1351～1367		御 手 洗	3252～3286
	奥 谷	1369の1～1473		池 田	3287～3408の3
	大 エ ン	1474の1～1556		尾 畑	3409の1～3513の3
	下 の 前	1557～1610の3		後 原	3515～3592
	神 手	1611～1687		池 田 原	3592の71～3686の3
	横 尾	1688～1781		小 屋 敷	3689～3714
	長 尾	1782～1857の3		浦 田	3715の2～3753の6
	笹 原	1858の1～2010		稲 荷 田	3754～3792の2
	須 上 谷	2011～2052		飛 塚 浦	3800
	郡 山	2053の40～2053の79		向 原	3808の1～3851の3
	鳥 越	2054～2166		黒 田	3852の1～3872の3
	塩 屋 原	2234の1～2241 2167～2231		沖 田	3873の1～3921の3
	鳥 田	2325の1～2412の3 2232の3～2232の35		大 島	3922～3976の2
	山 の 口	2242～2324の4		樋 ノ 口	3977～3996の3
	天 谷	2413の1～2536の7		蓮 池	4000～4014
				飛 塚	4023～4054の6

大字	字	番 地	大字	字	番 地
	長 道	4055の1～4095の33		田 町	5172の1～5190の2
	浮 殿	4096～4121の2		横 町	5185の1～5185の3
	人 形 原	4122の1～4153の7		新 町	5191の1～5222
	金 田	4155～4190の6		谷 町	5223の1～5250
	小 柳	4191～4238		本 谷	5251～5391
	丸 山	4239の1～4259		桃 谷	5393～5413の4
	若 宮	4260の1～4280の5		八 窪	4515～5471の4
	杭 原	4281の1～4289の3		舟 頭 木	5472の1～5552
	京 ノ 坪	4290の1～4310			
	小 深 田	4311～4337			
	道 徳	4388～4423			
	片 宗	4424～4517			
	日 焼	4518の1～4547の5			
	薬 師	4548～4592			
	古 野	4593の1～4645			
	只 松	4646～4726の4			
	町 口	4727の1～4754の5			
	垣 の 内	4755の1～4775の3			
	蓮 町	4766の1～4831			
	中 垣	5170の1～5171の6 4832～4868の3			
	小 原	4869～4905の6			
	彼 岸 田	4906の1～4919			
	ヤ ツ エ	4920の1～4948の2			
	ソ リ 石	4949～5032の2			
	舟 町	5033～5044			
	狐 塚	5045の1～5094の2			
	大 又	5095～5115の2			
	谷 川	5116の1～5124の2			
	上 町	5125～5169の8			



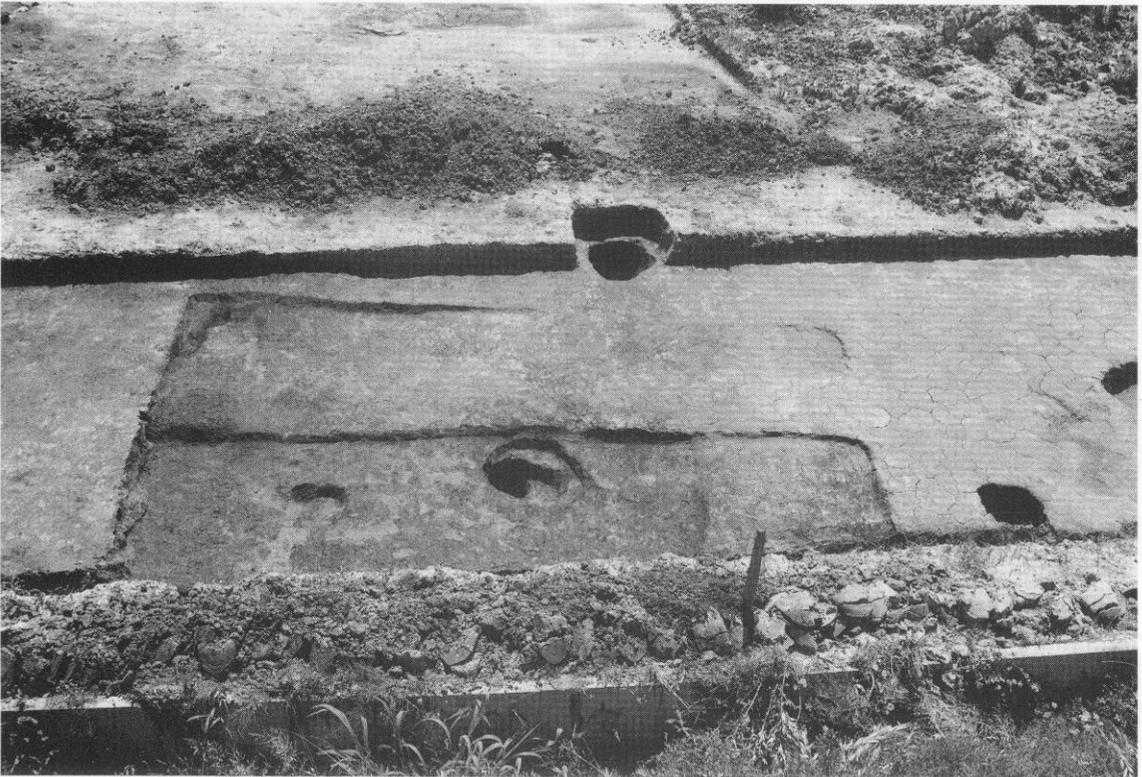
# 圖 版



山家地区周辺航空写真



2号溝状遺構



1号住居跡



大島遺跡第3地点A地区



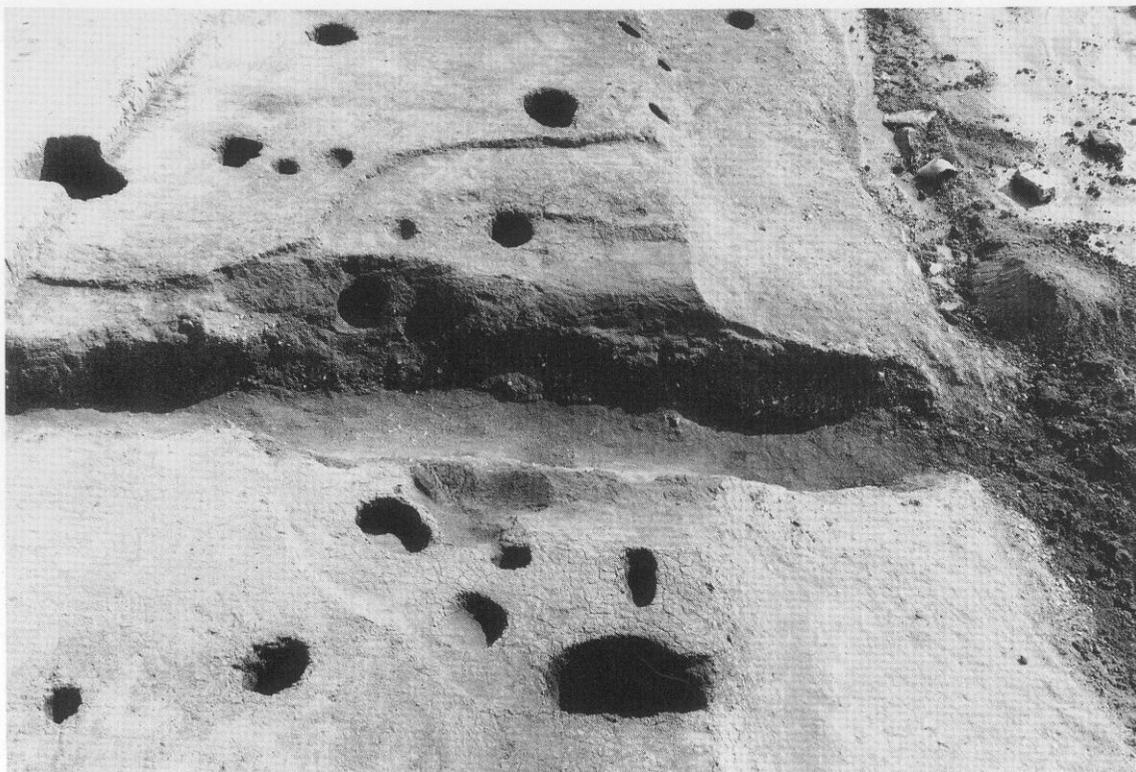
大島遺跡第3地点B、C地区



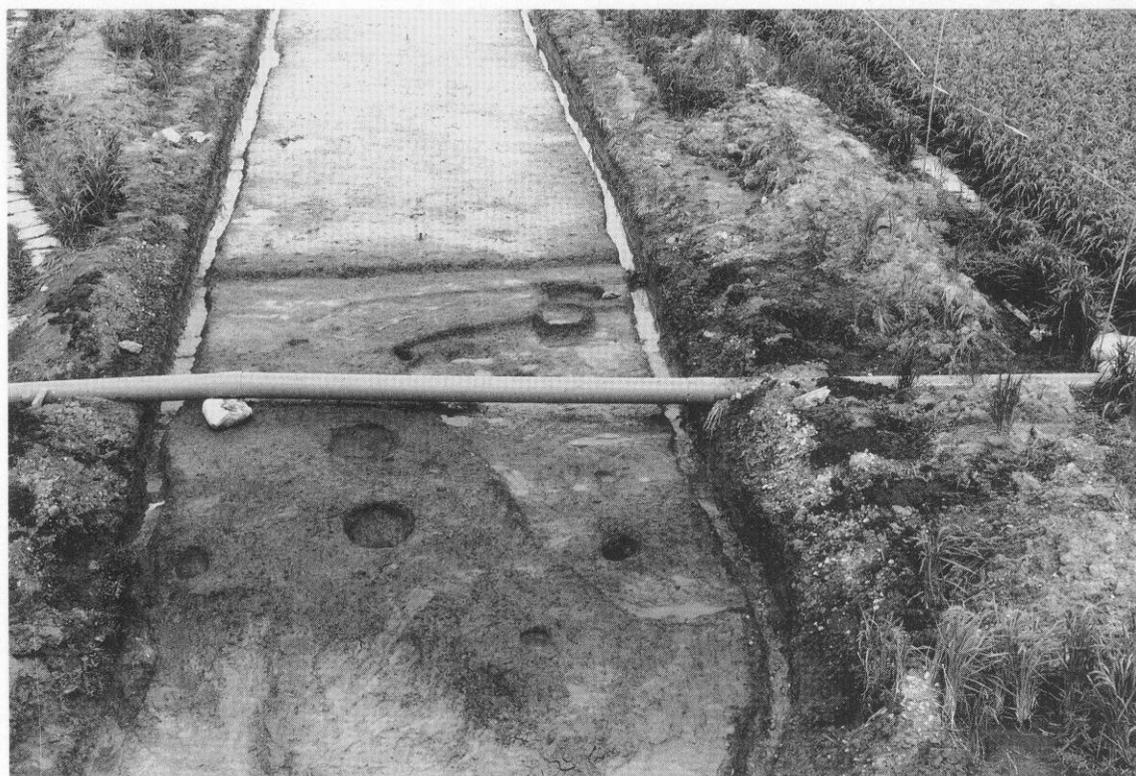
大島遺跡第4地点



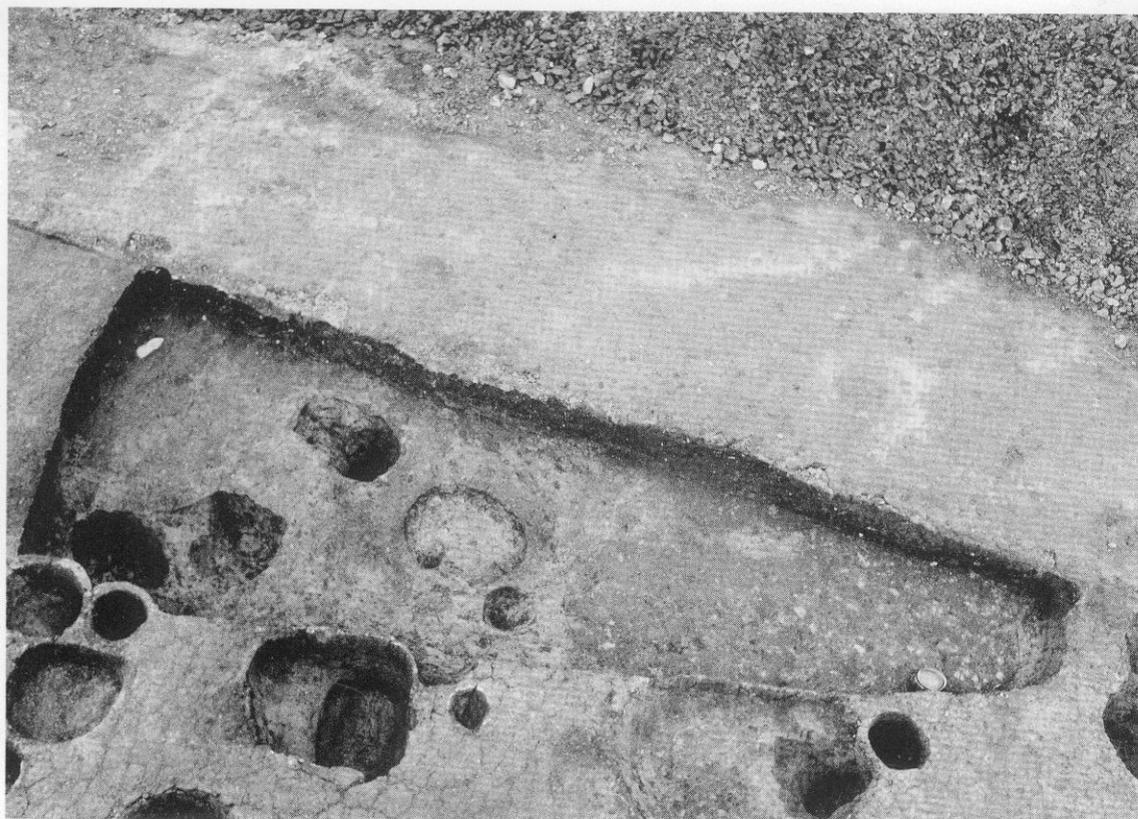
大島遺跡第4地点



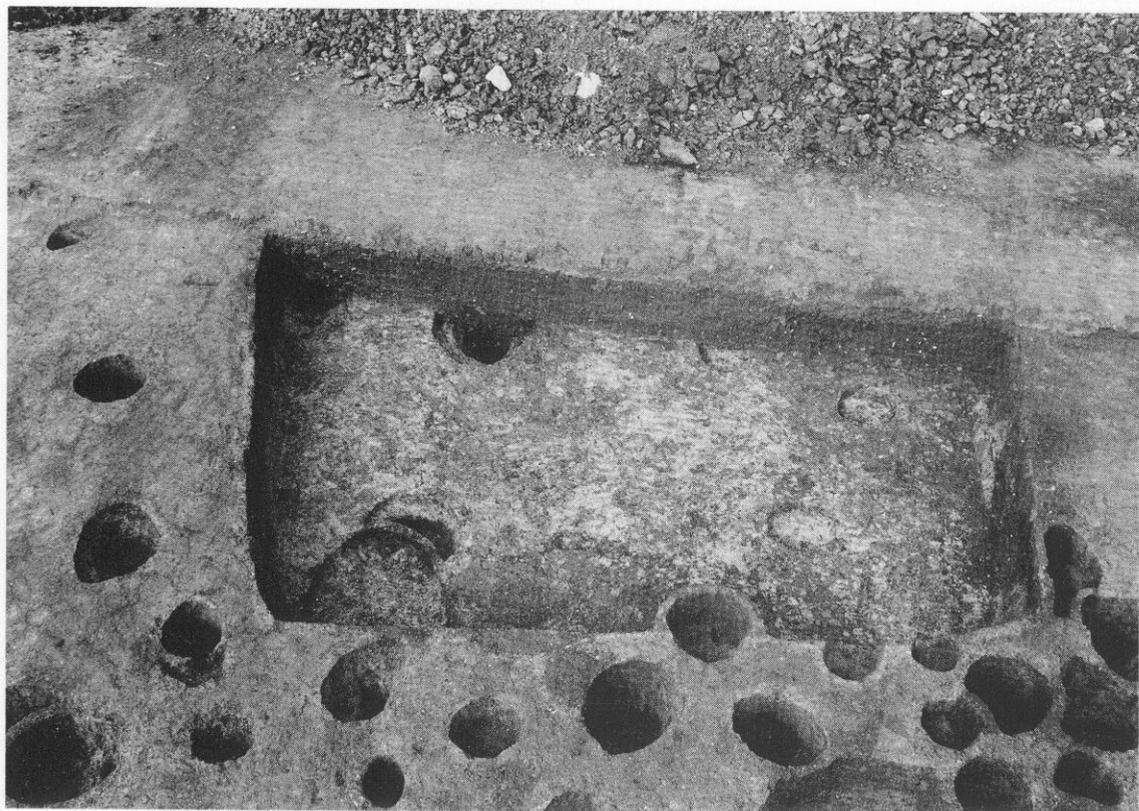
1号住居跡



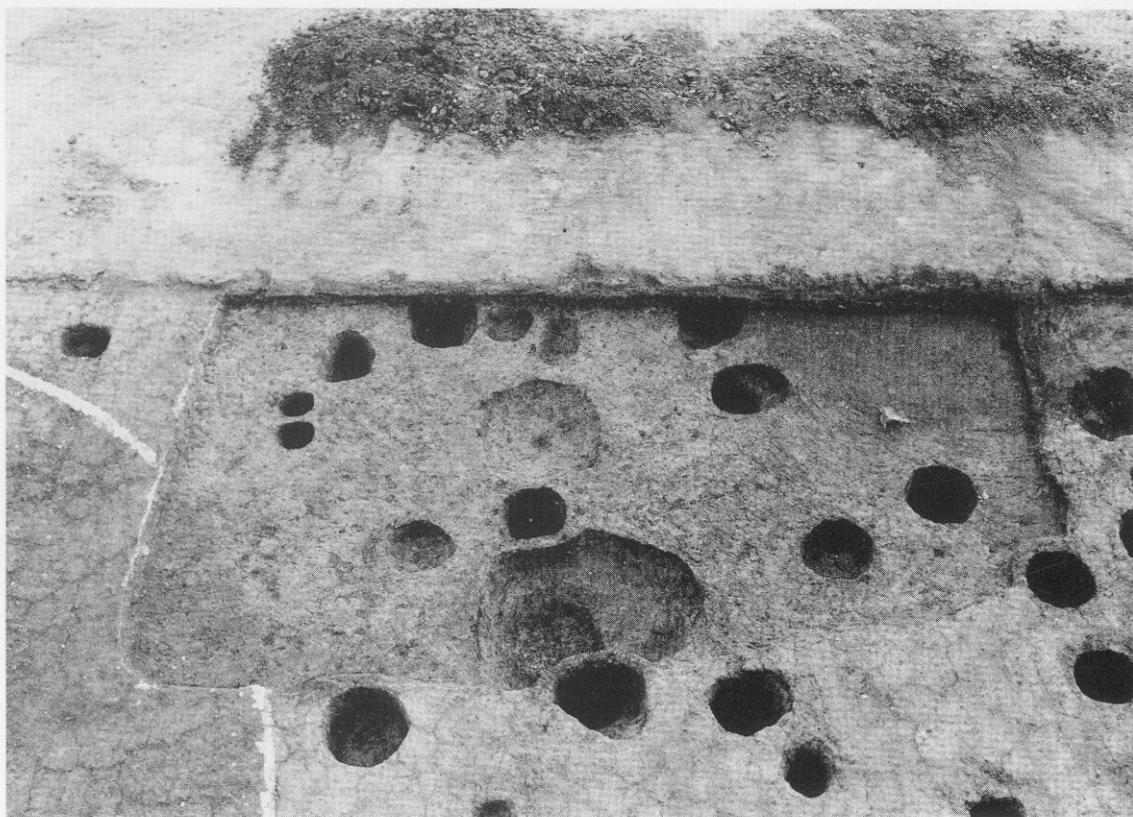
2号住居跡



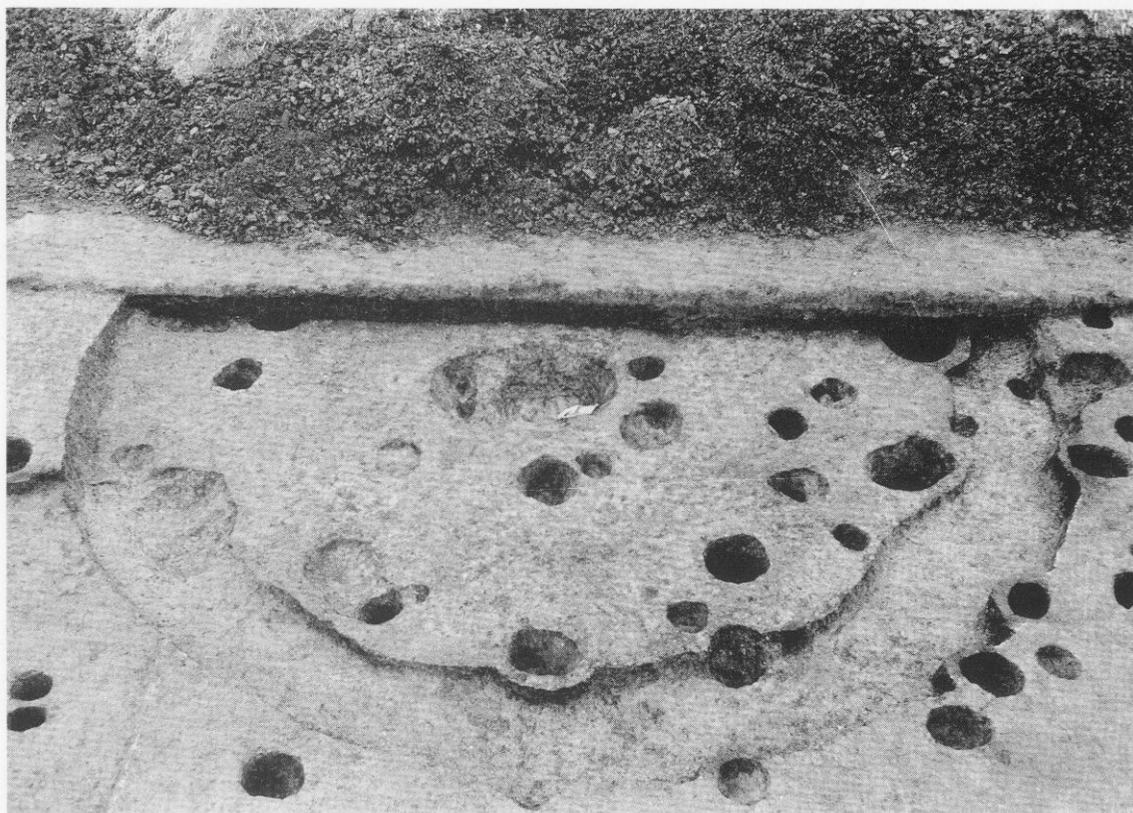
6号住居跡



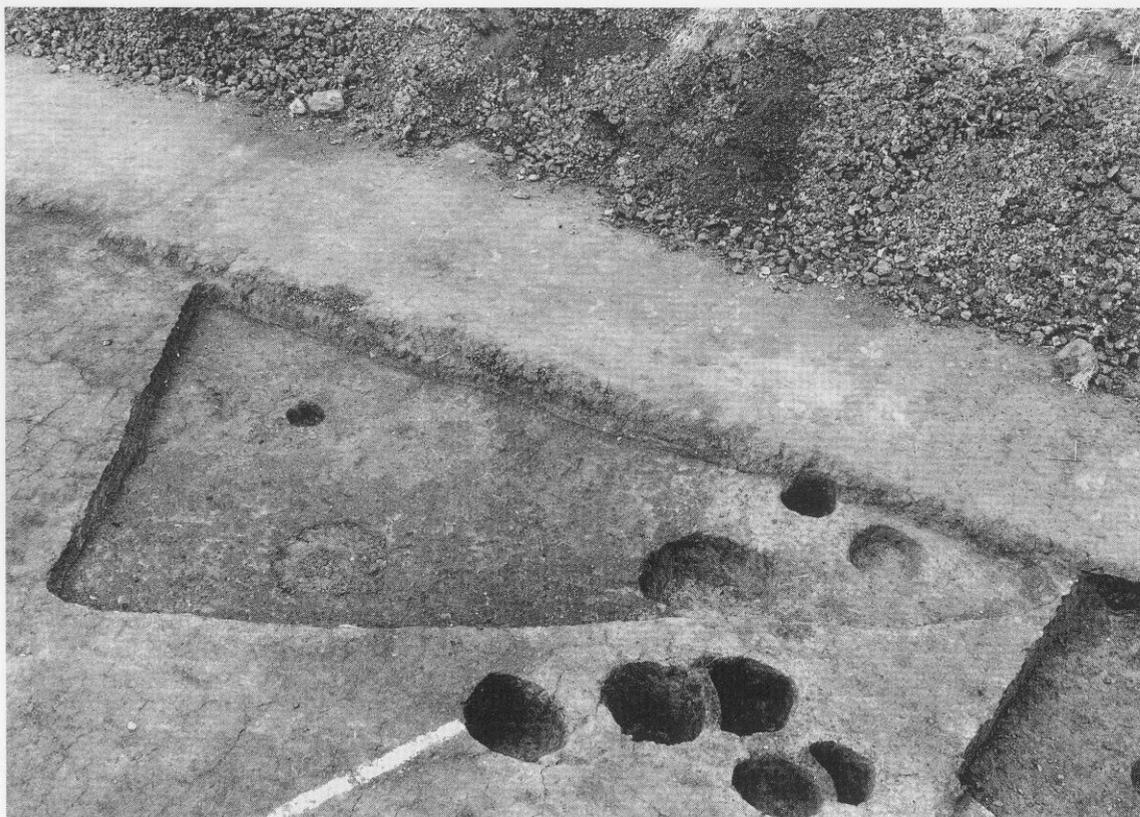
5号住居跡



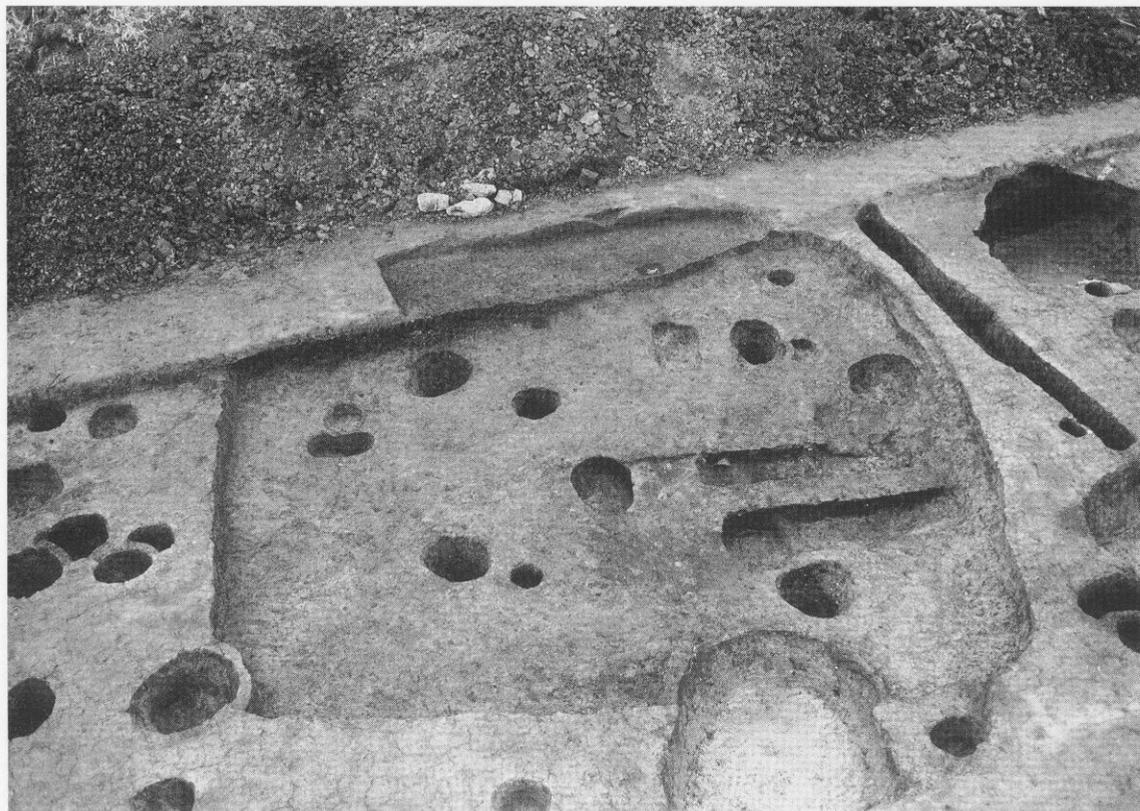
7号住居跡



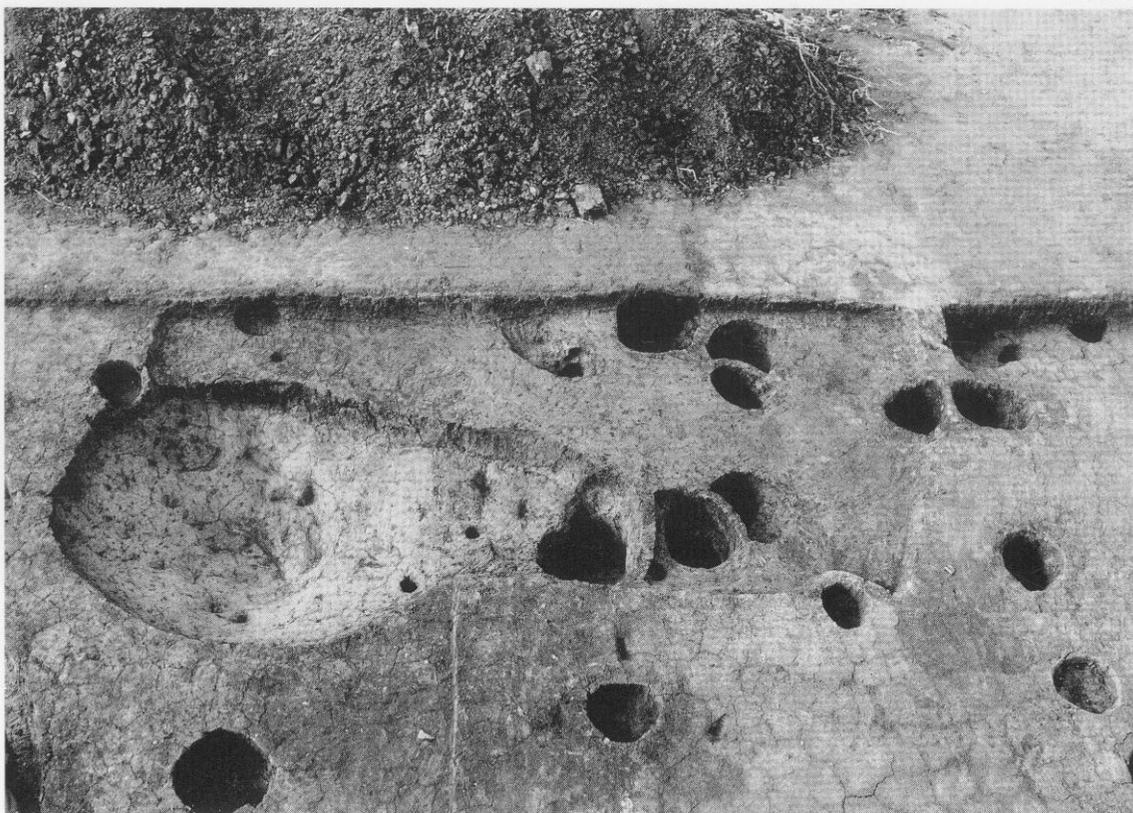
8号住居跡



9号住居跡



10号住居跡



11号住居跡



13号住居跡



17号住居跡



20号住居跡



20号住居跡



23号住居跡



24号住居跡



29号住居跡



30号住居跡



31号住居跡



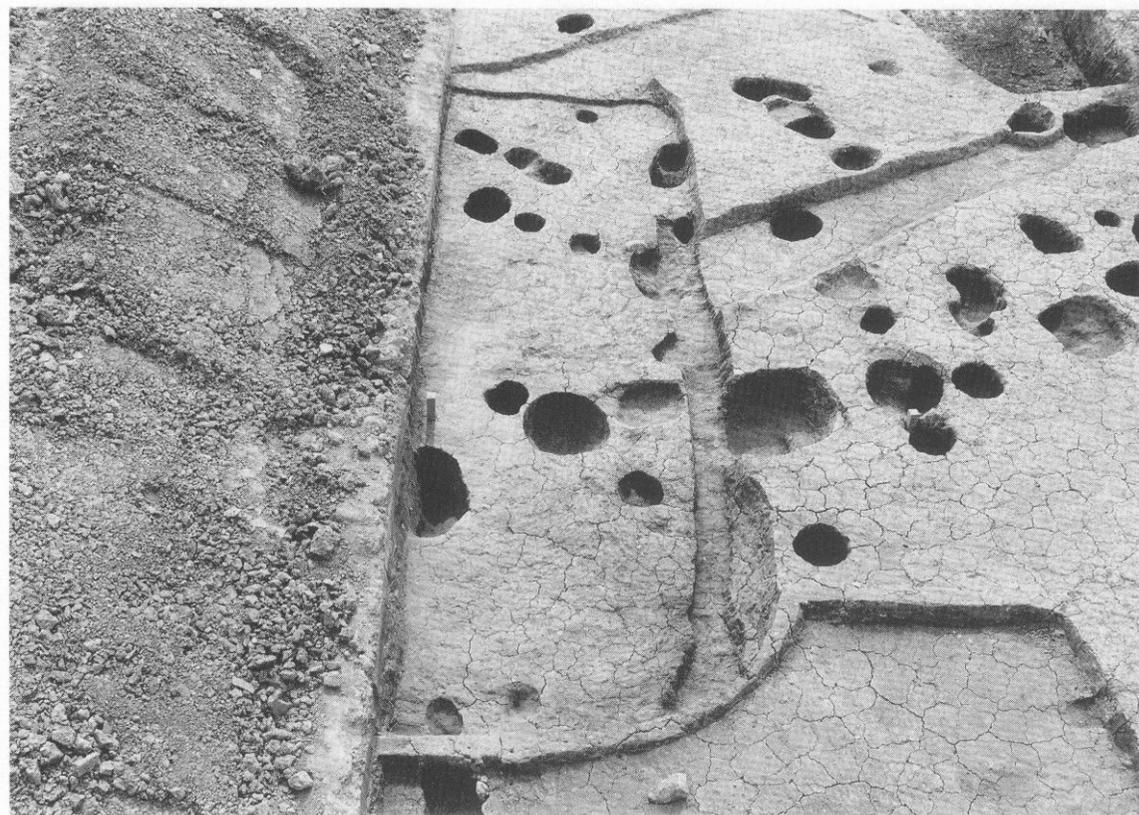
33号住居跡



35号住居跡



36号住居跡



37号住居跡



39号住居跡



43号住居跡



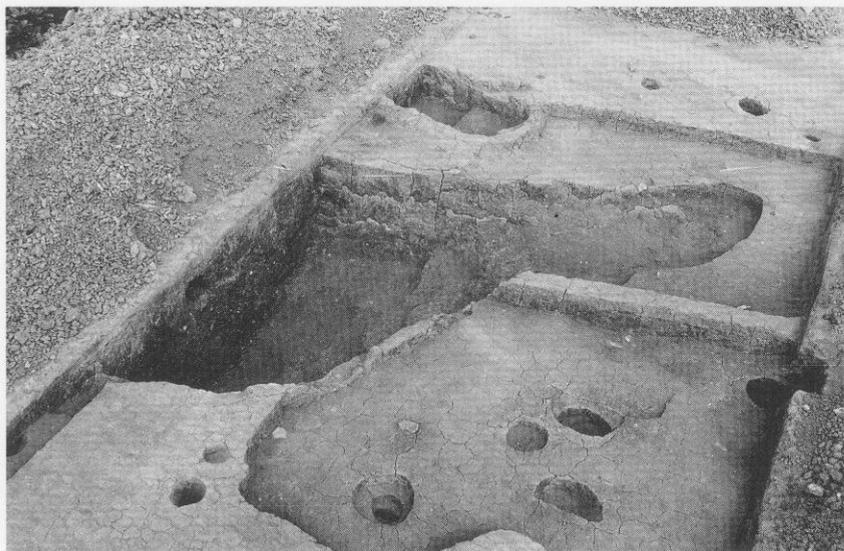
1号掘立柱建物



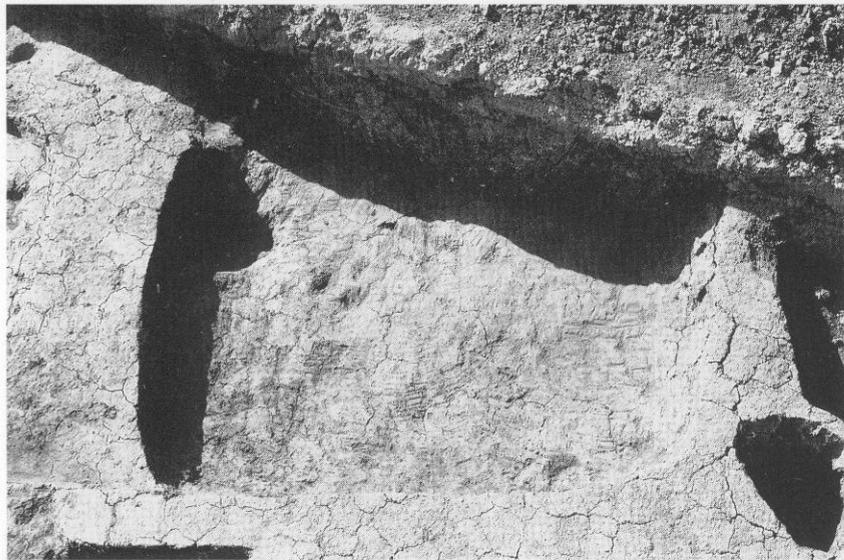
1号甕棺墓



1号土坑



2号土壤



6号土壤



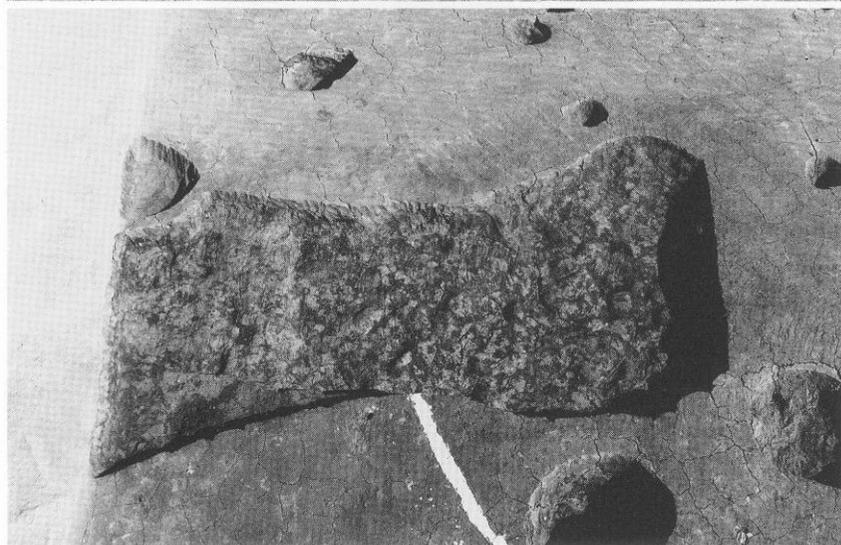
7号土壤



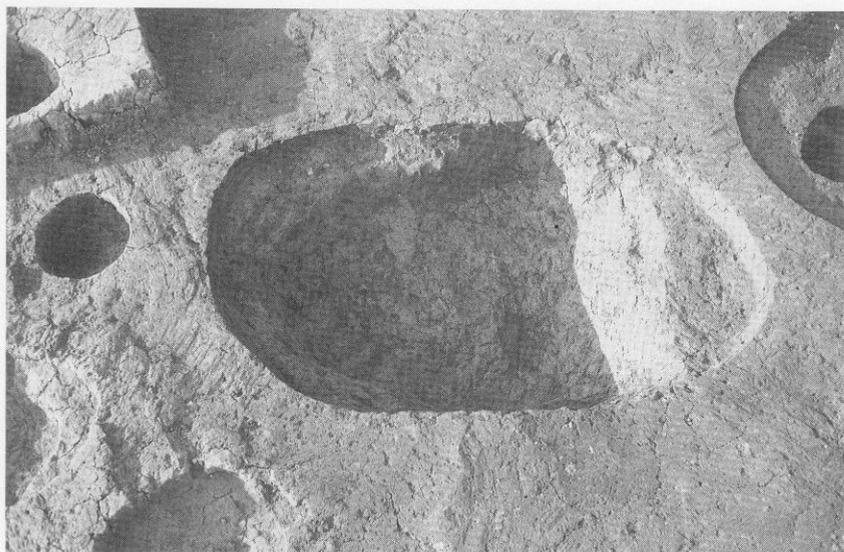
8号土壤



10号土壤



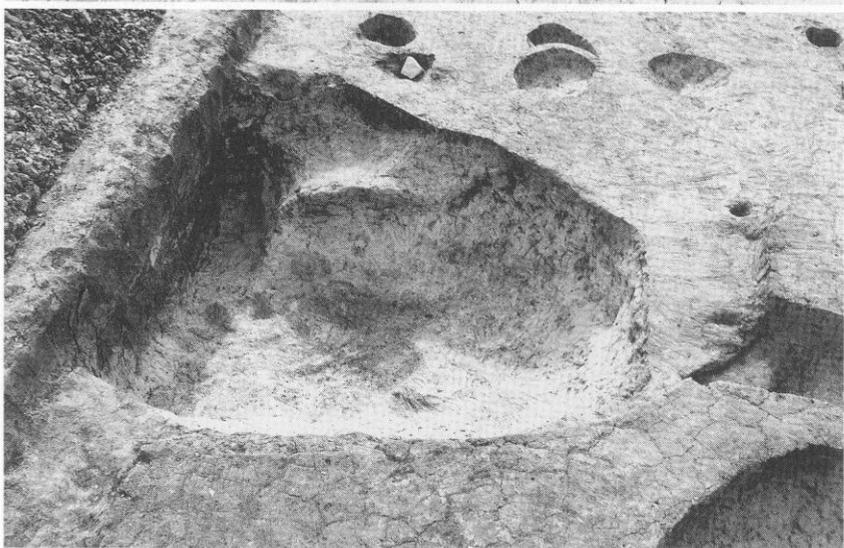
11号土壤



12号土壤



14号土壤



15号土壤



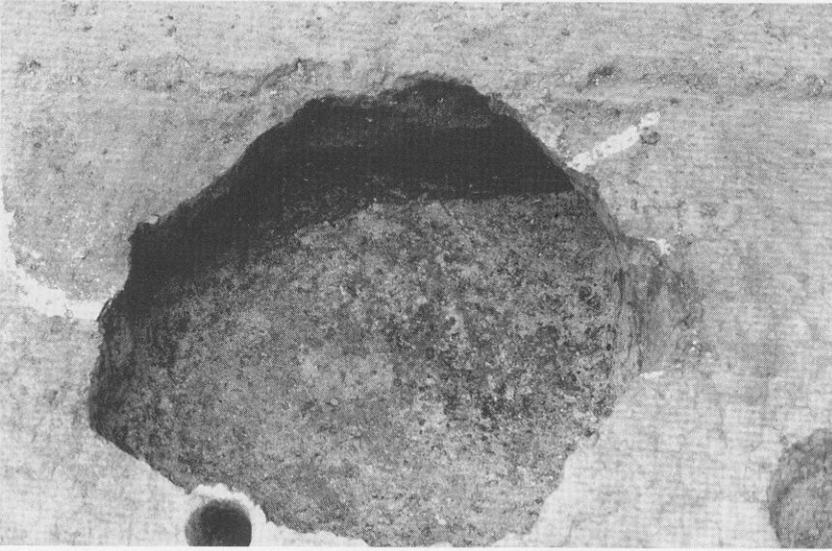
18号土坑



27号土坑



23号土坑



1号贮藏穴



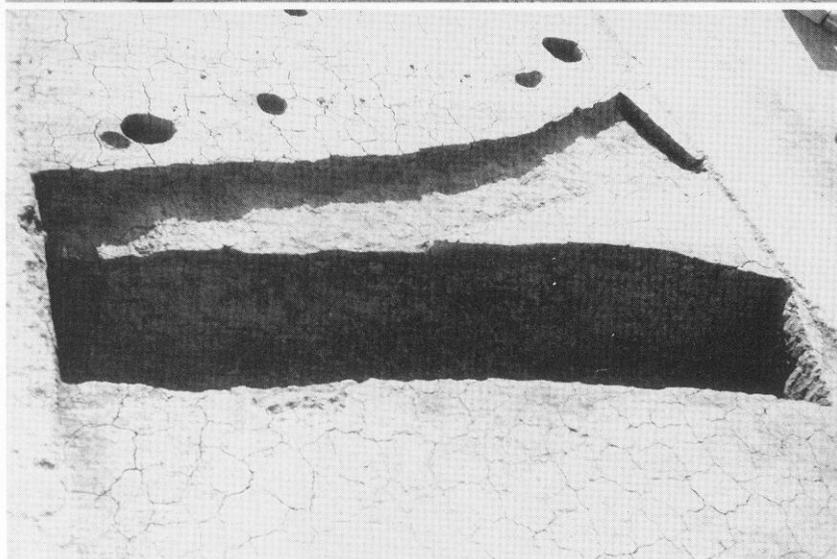
1号木棺墓



2号木棺墓



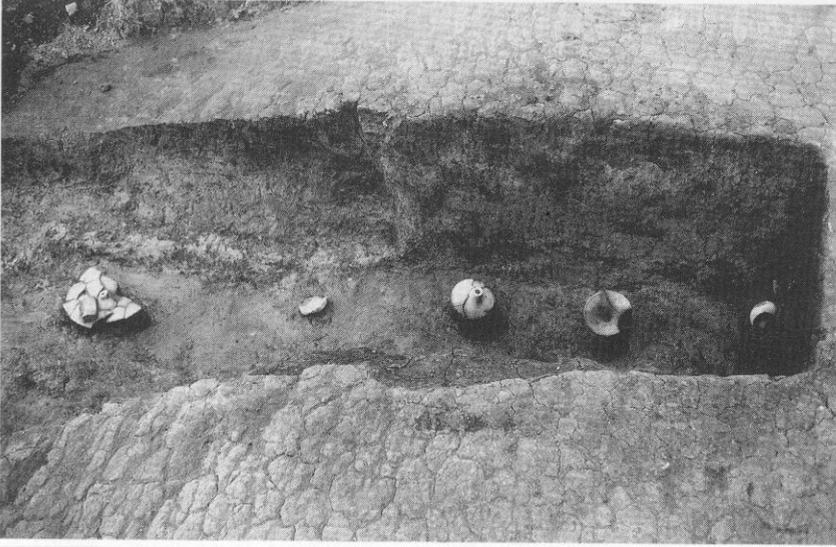
12号沟状遗构



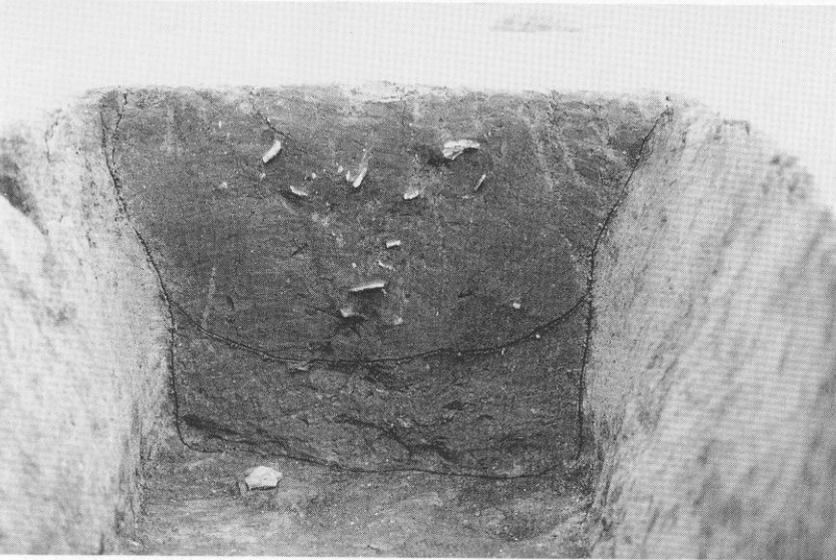
12号·13号沟状遗构



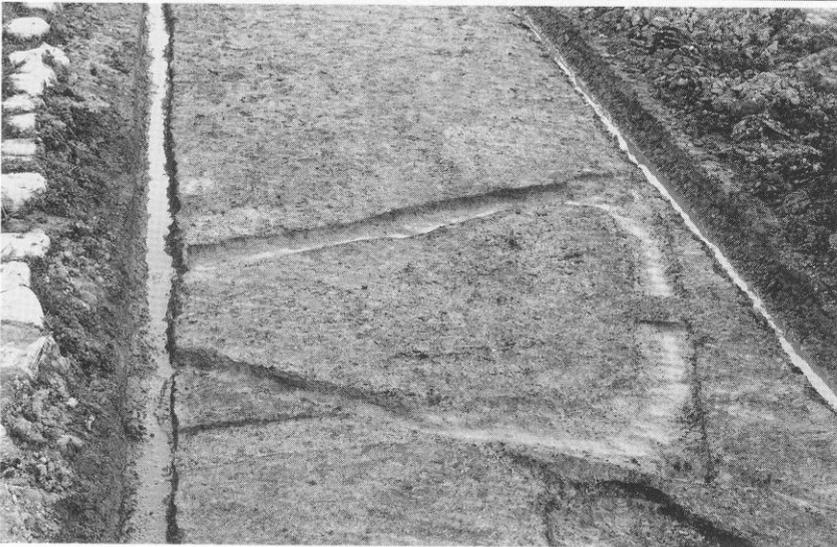
1号沟状遗构断面



2号沟状遺構遺物出土状況



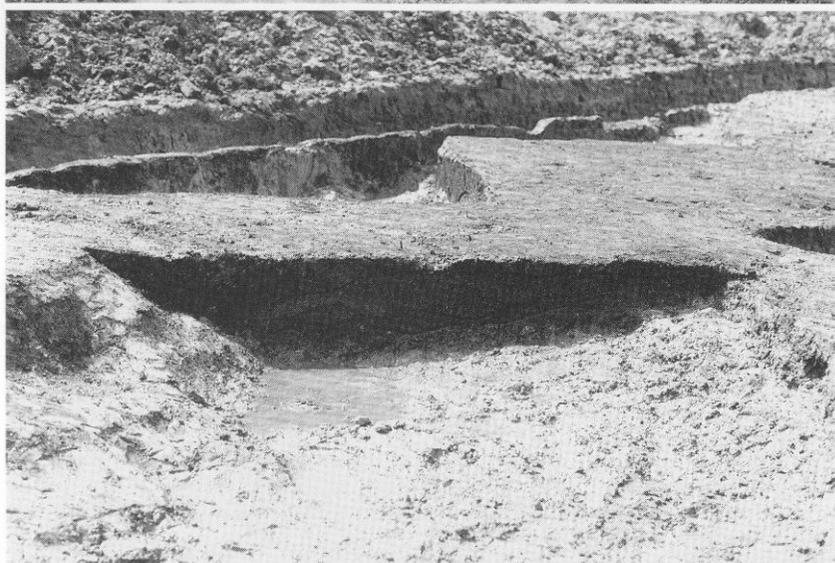
2号沟状遺構断面



3号沟状遺構



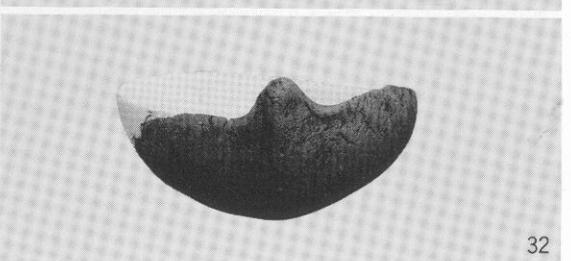
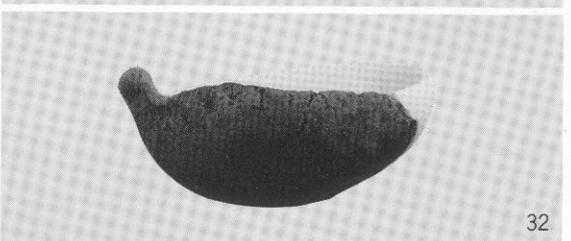
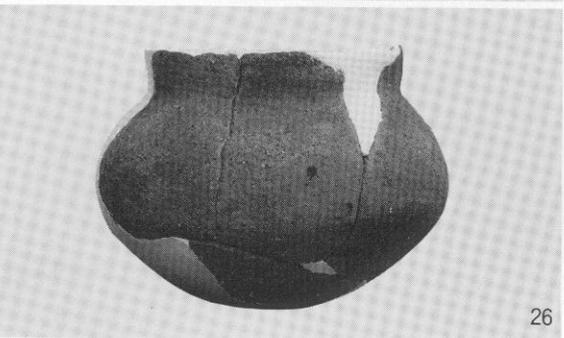
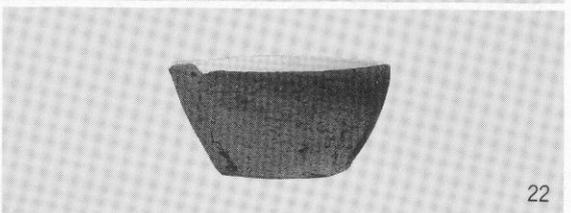
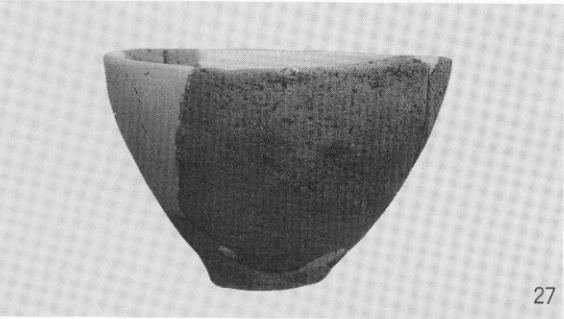
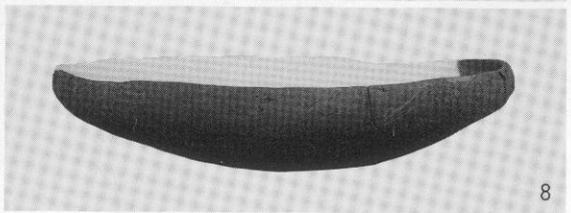
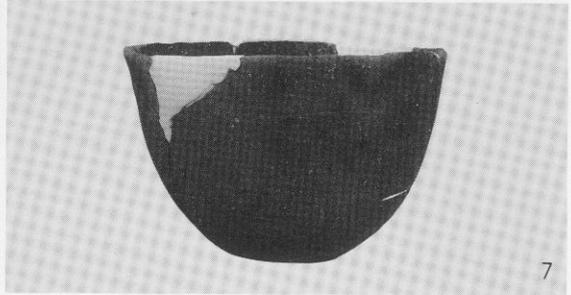
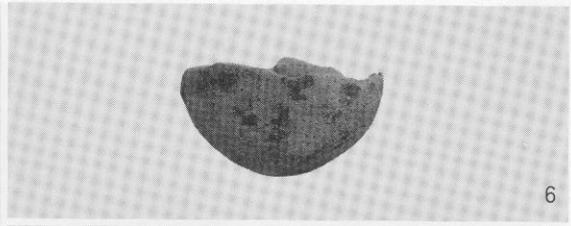
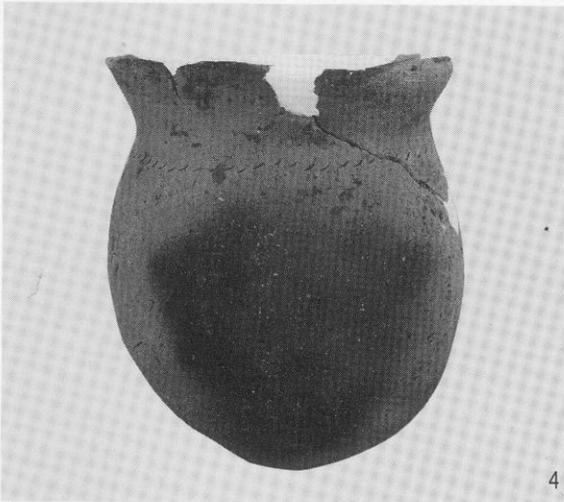
4号·5号沟状遗构

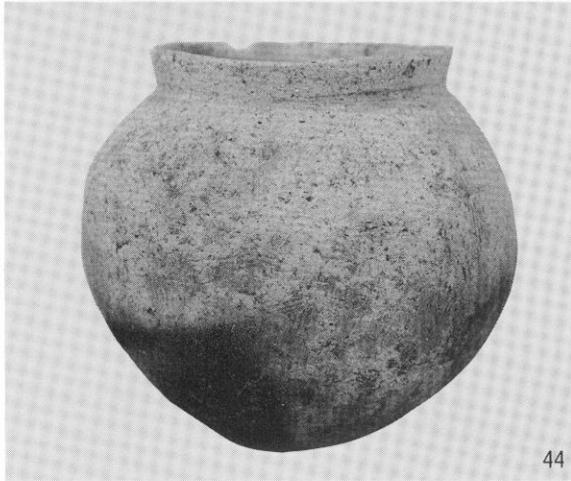
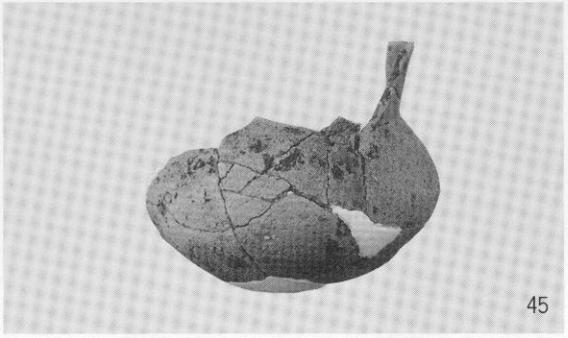
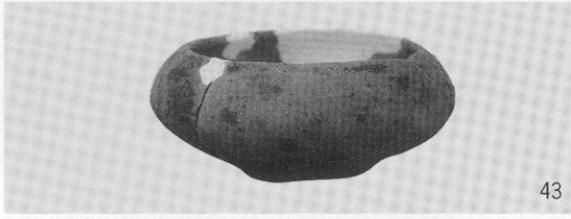
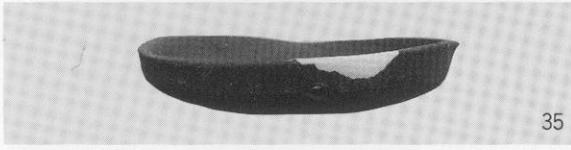
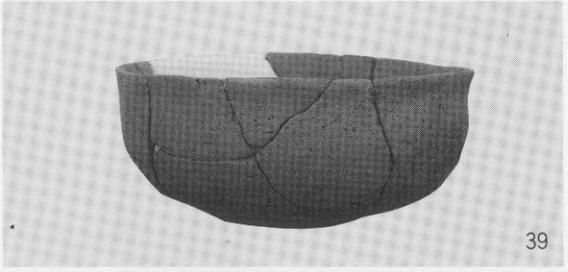
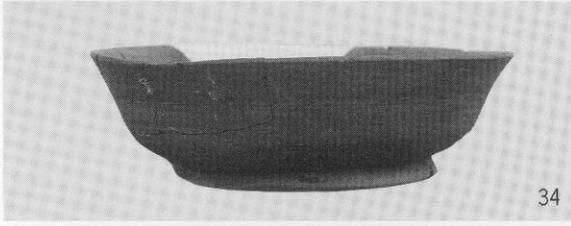


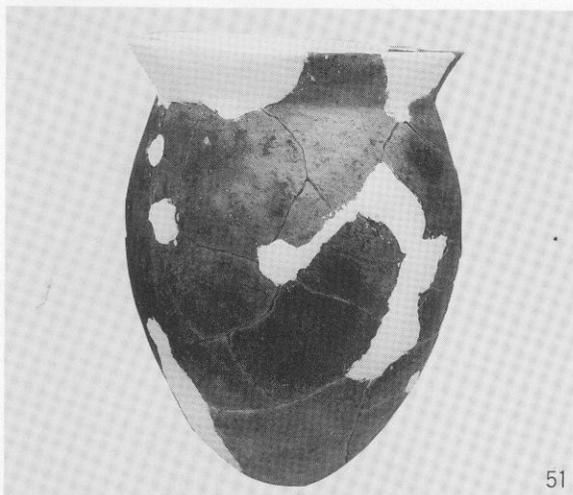
4号沟状遗构断面



5号沟状遗构断面



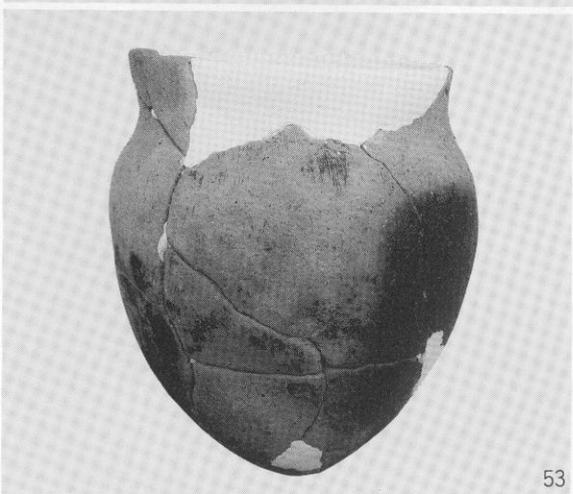




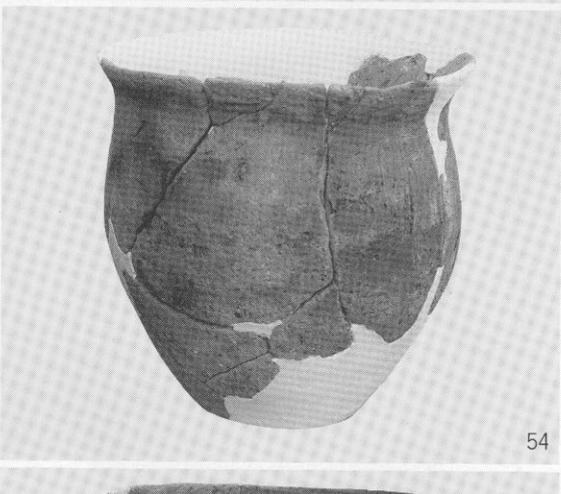
51



52



53



54



55



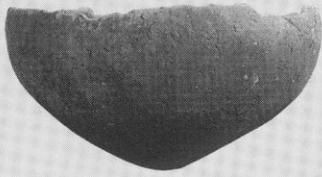
59



69



68



70



71



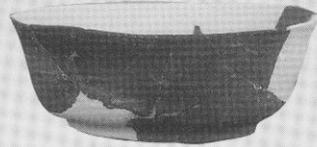
72



74



89



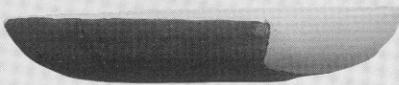
90



96



103



110



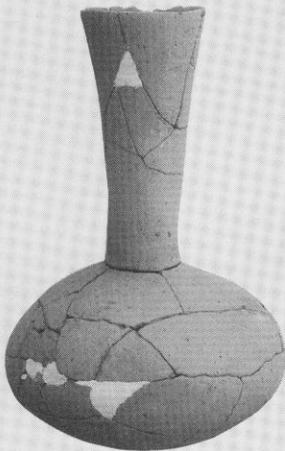
117



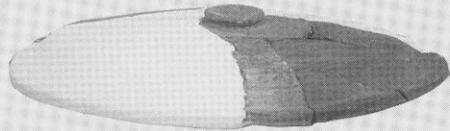
120



122



126



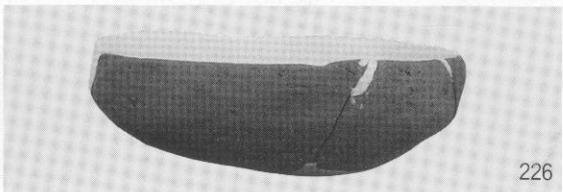
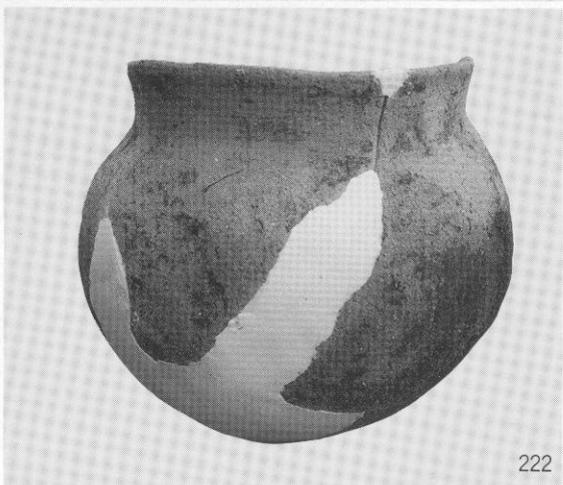
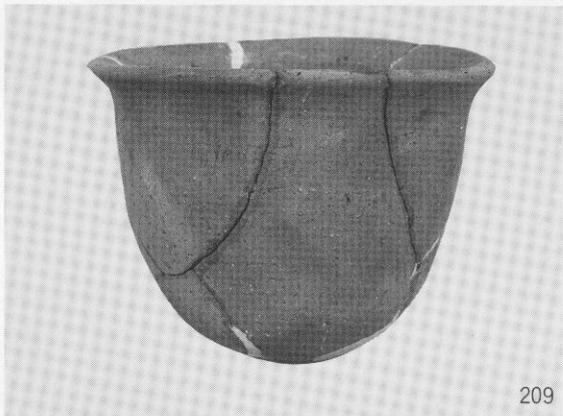
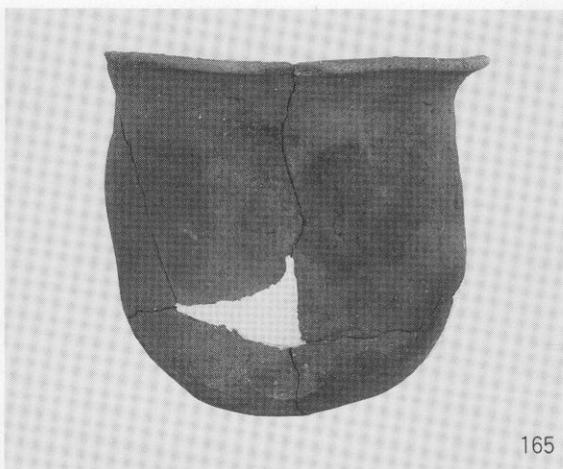
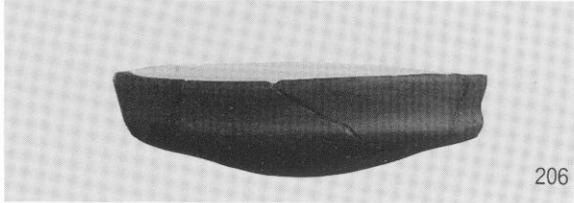
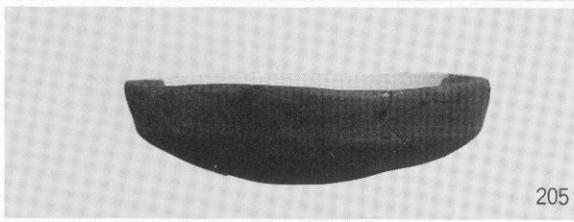
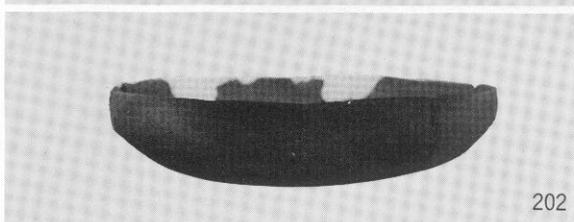
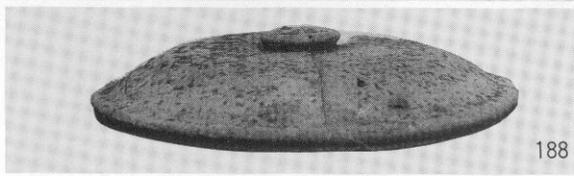
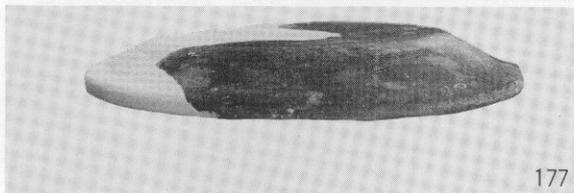
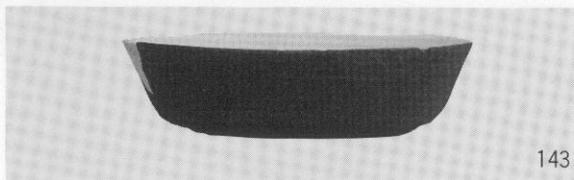
136

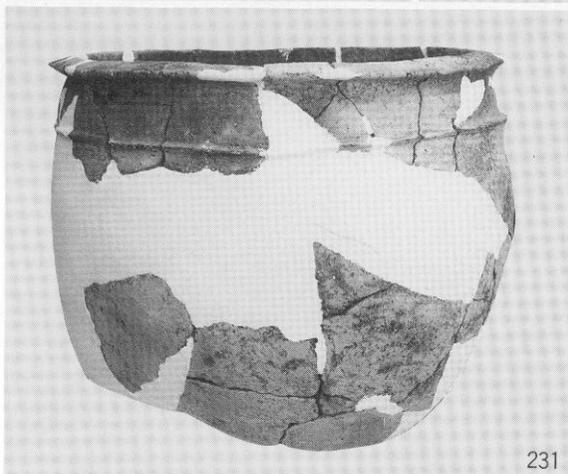
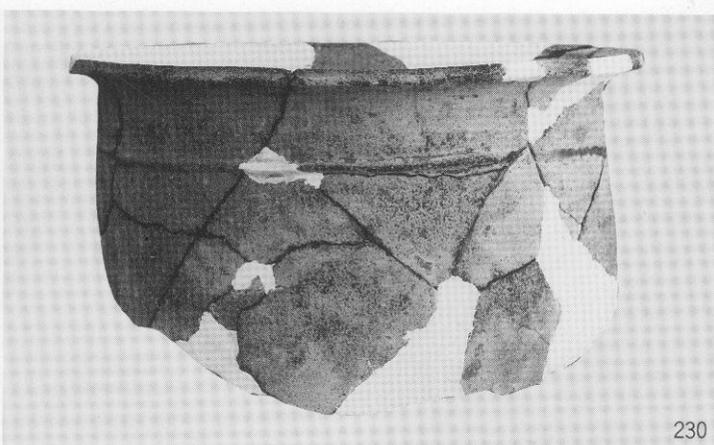


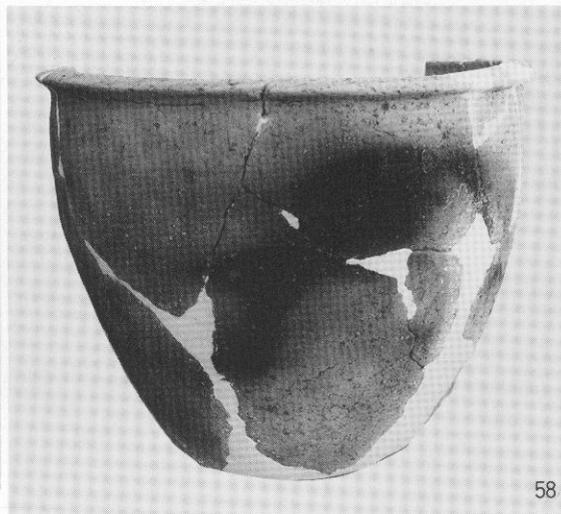
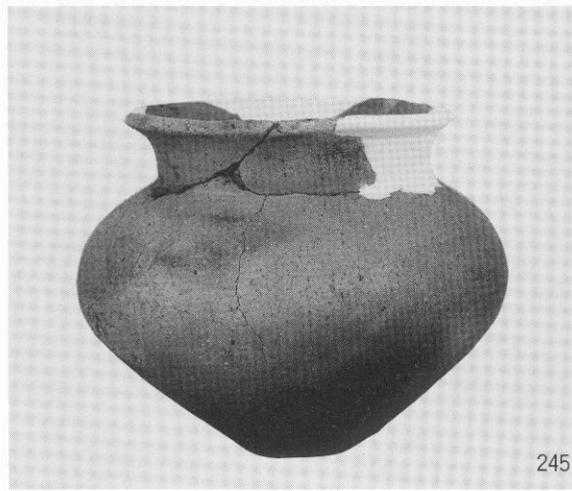
140



142









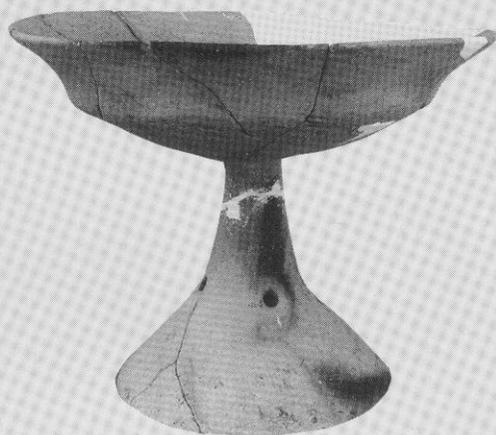
282



309



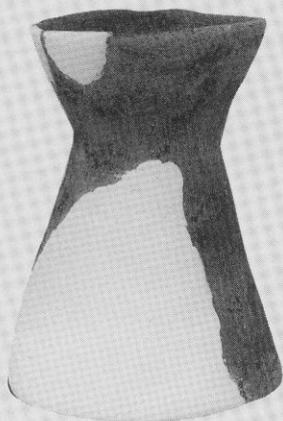
303



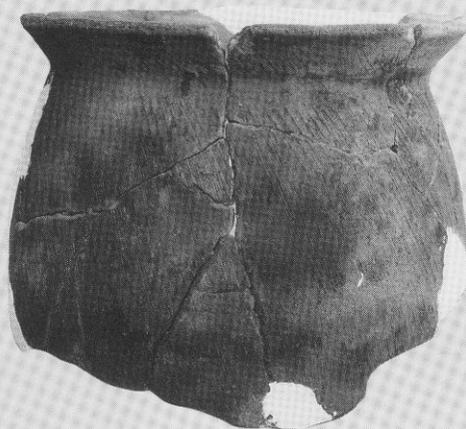
310



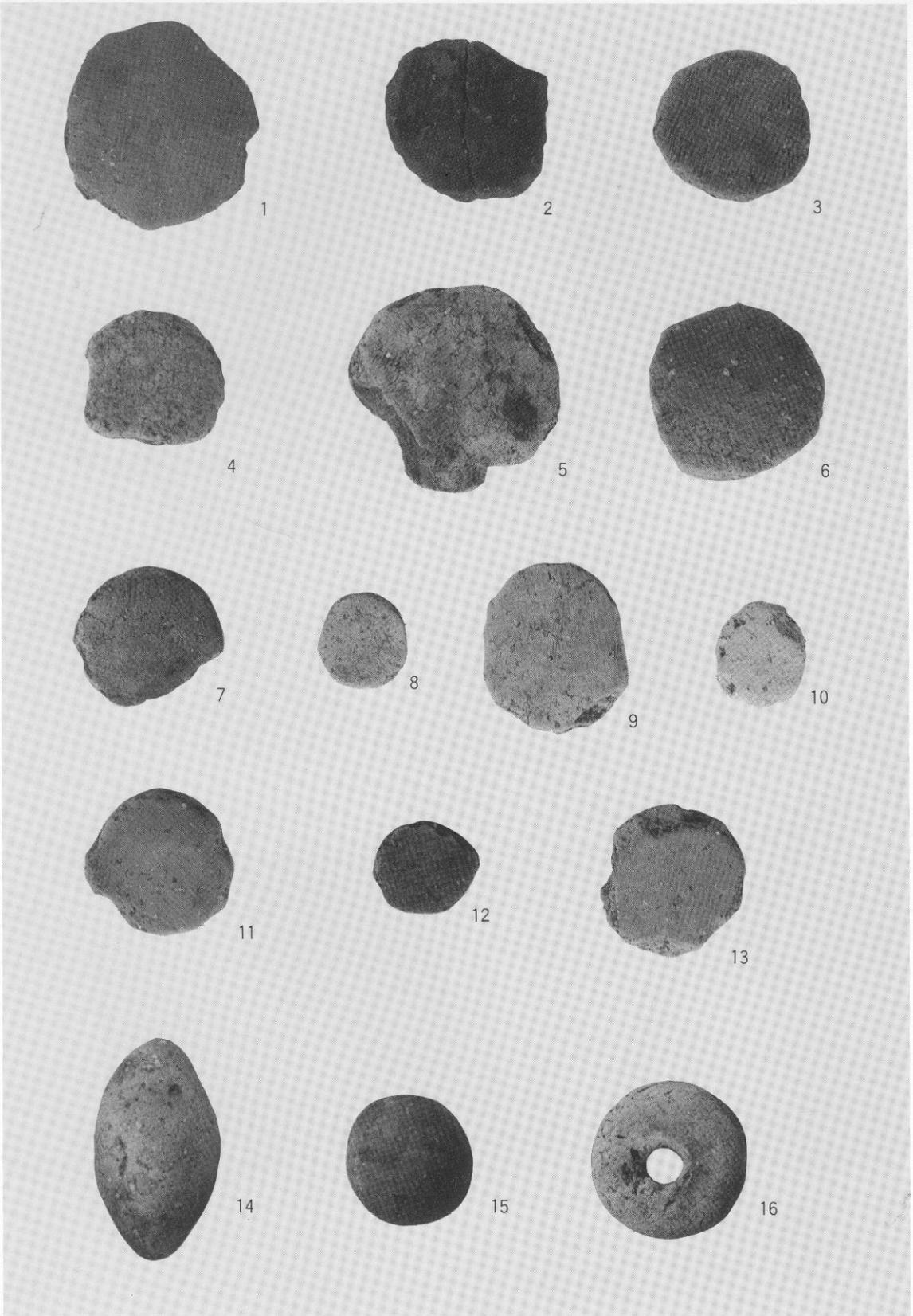
308



312

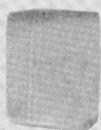


313





1



2



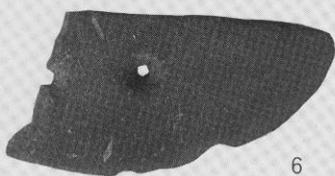
3



4



5



6



7



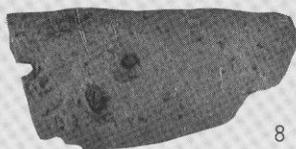
9



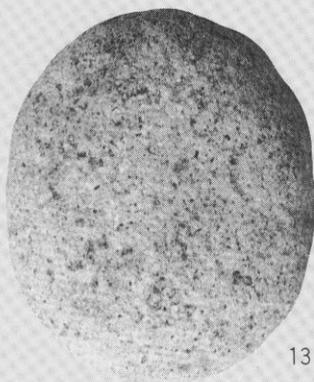
10



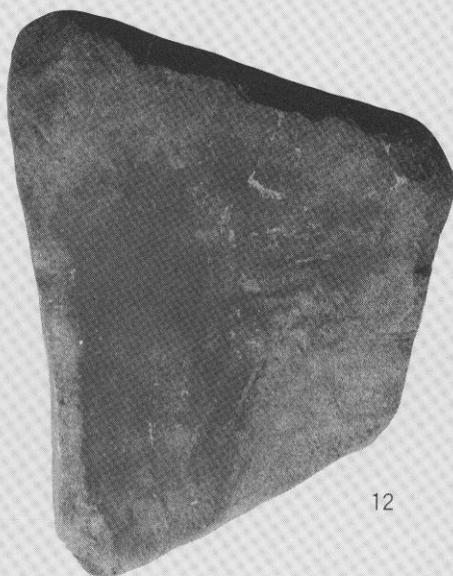
11



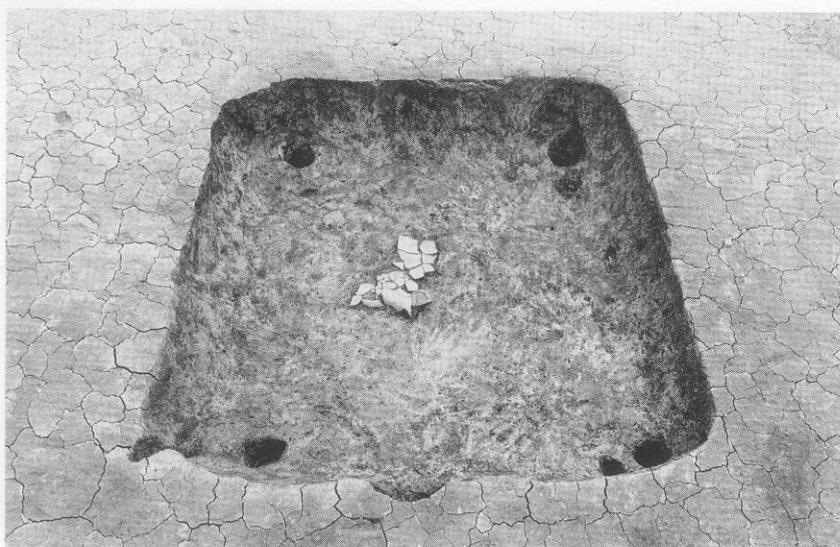
8



13



12



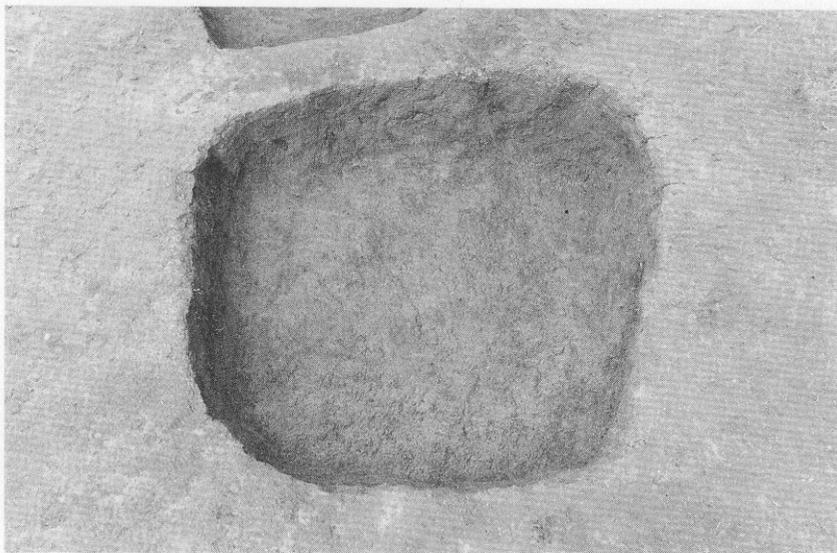
1号住居跡



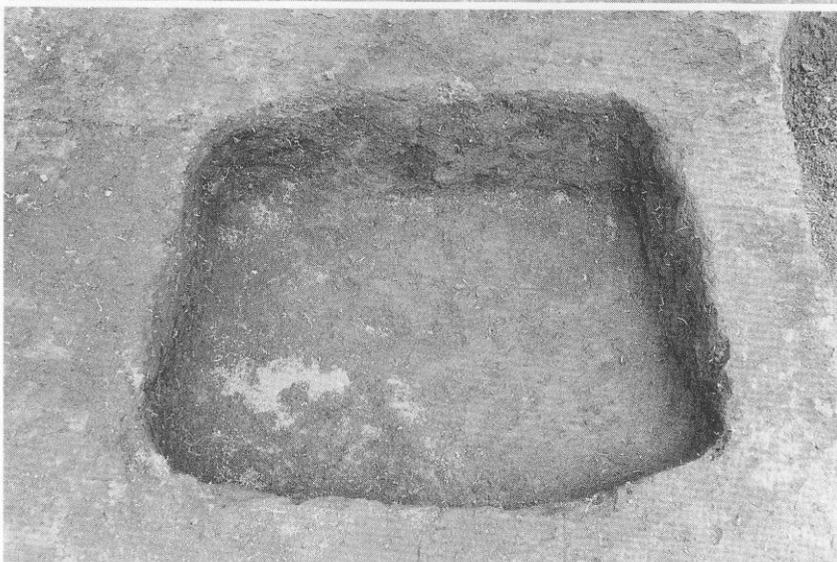
1号井戸



2号井戸



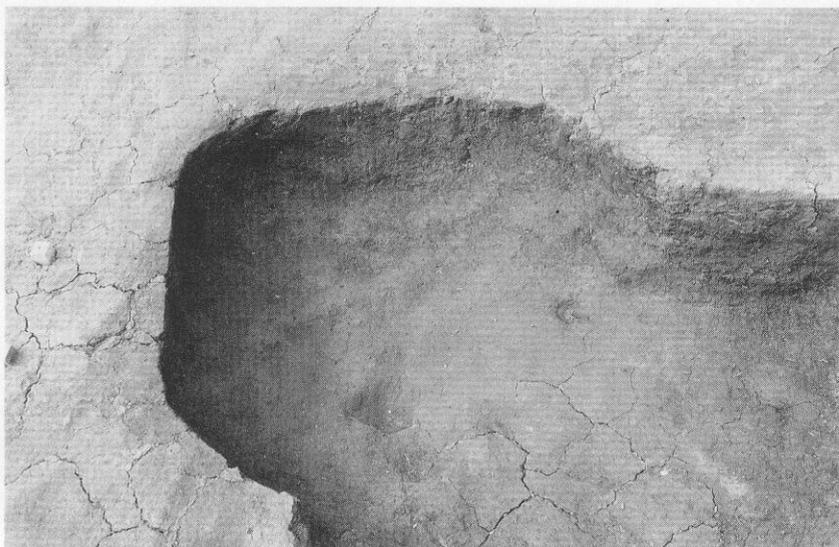
1号土坑墓



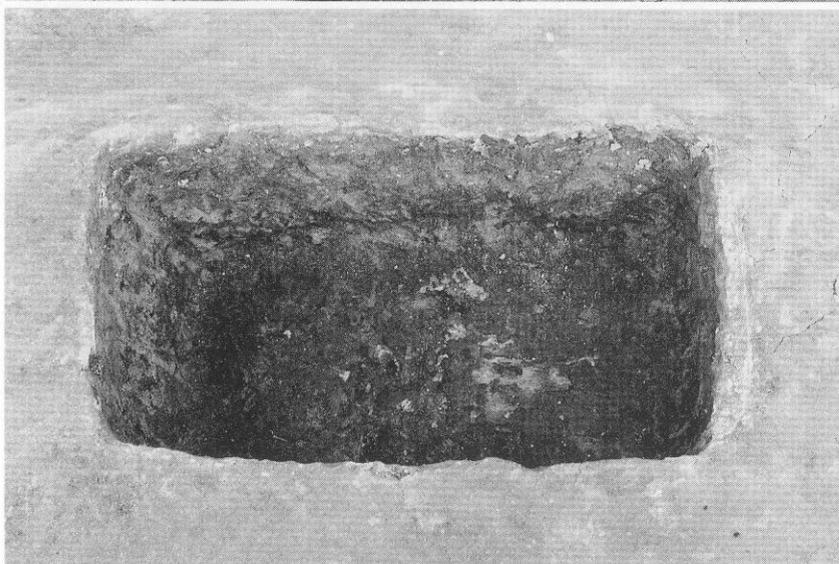
2号土坑墓



3号土坑墓



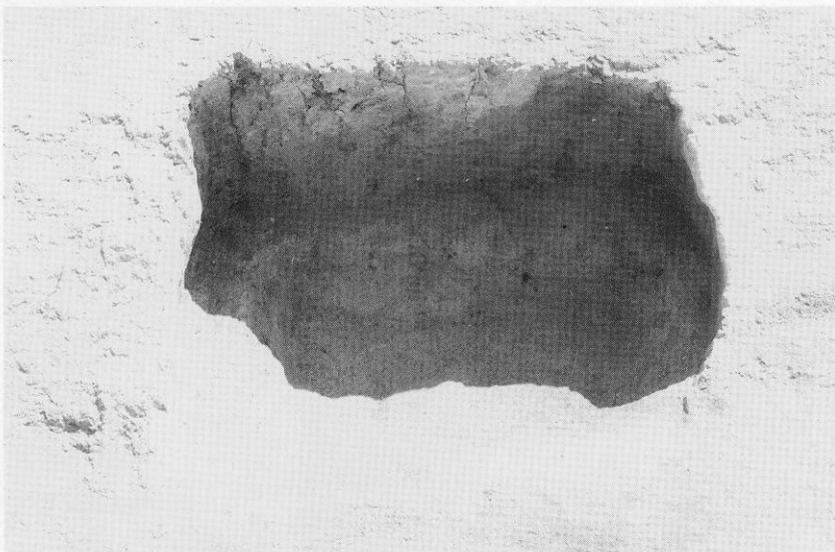
4号土坑墓



1号木棺墓



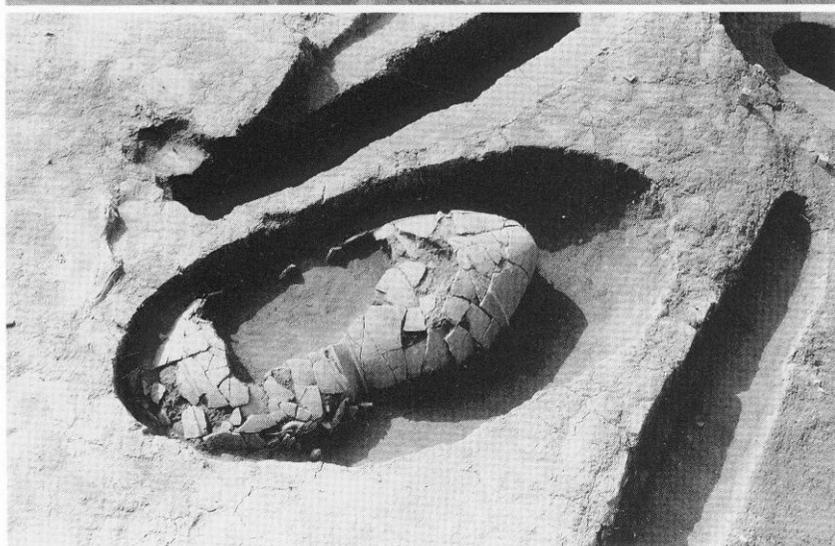
5号土坑墓



2号木棺墓



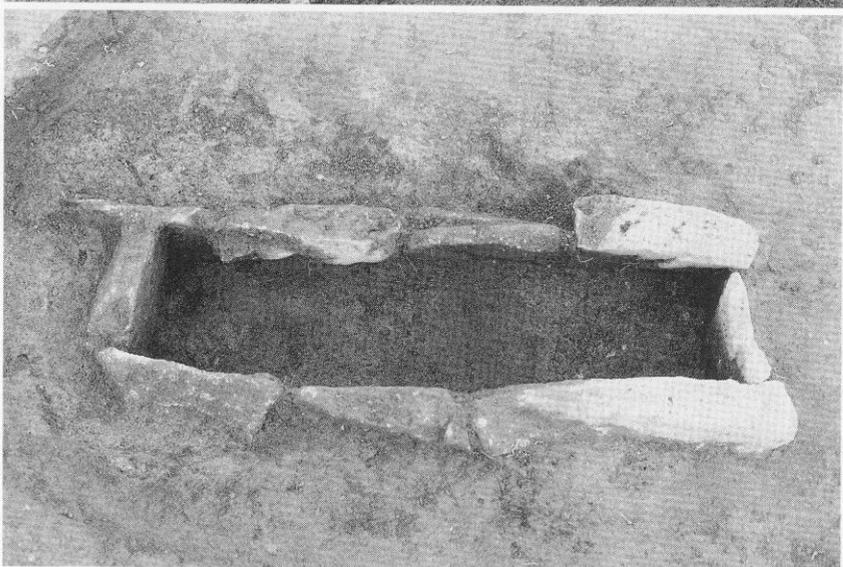
石盖土墩墓群



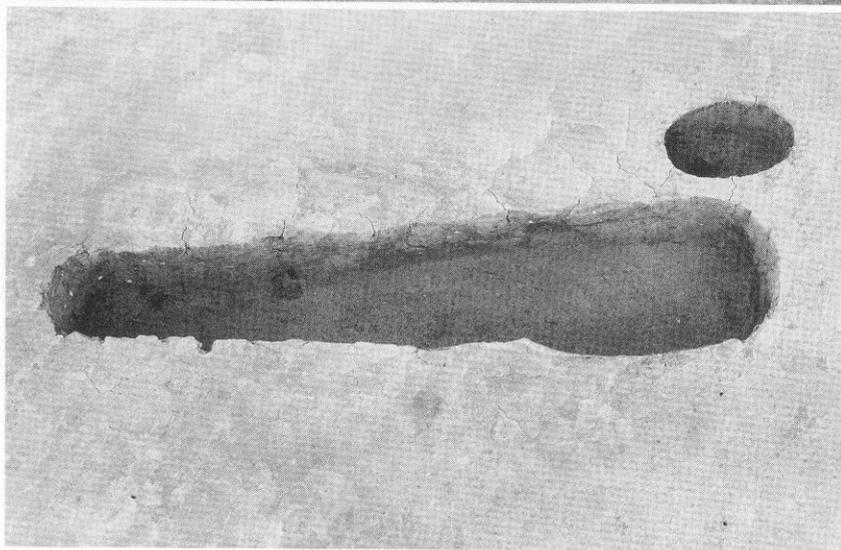
1号甕棺墓



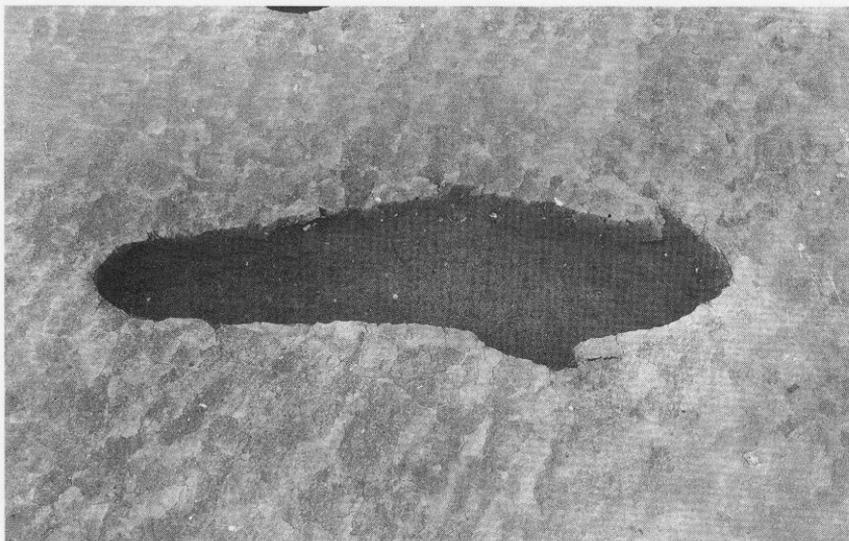
1号箱式石棺墓  
(検出状況)



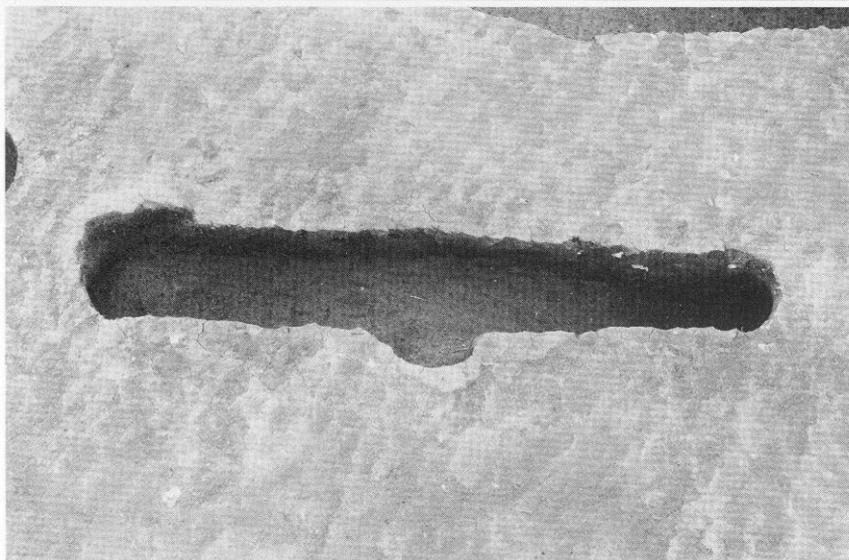
1号箱式石棺墓  
(内部状況)



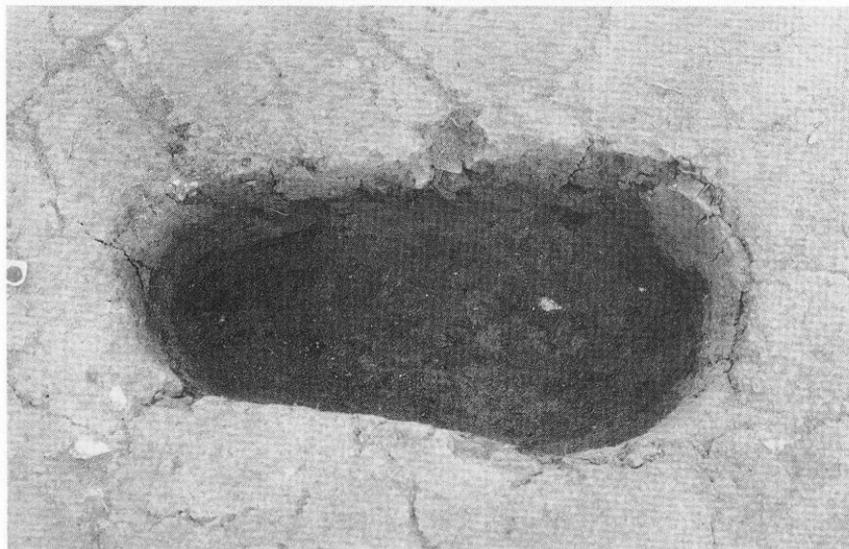
1号石蓋土壌墓



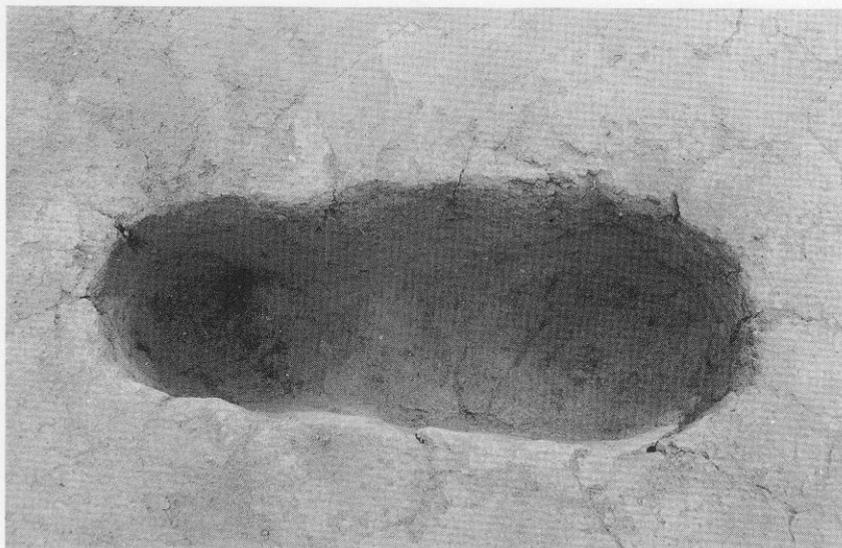
2号石盖土壤墓



3号石盖土壤墓



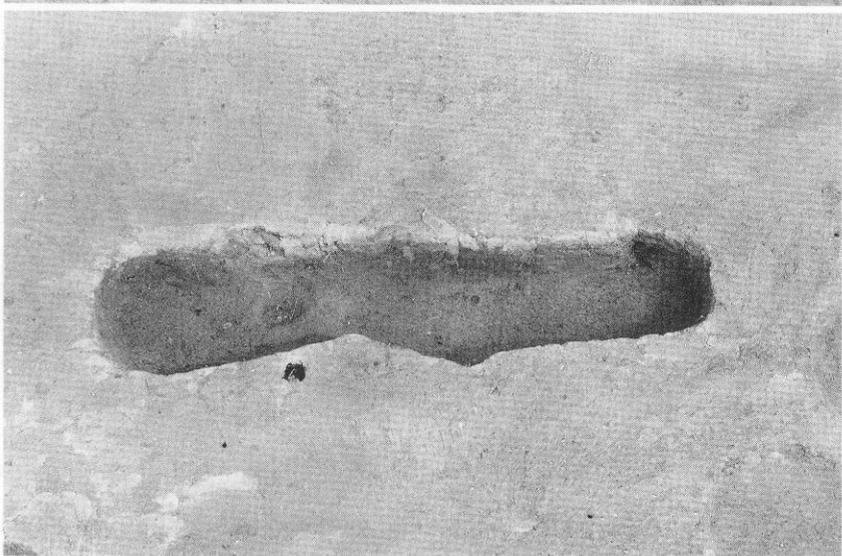
4号石盖土壤墓



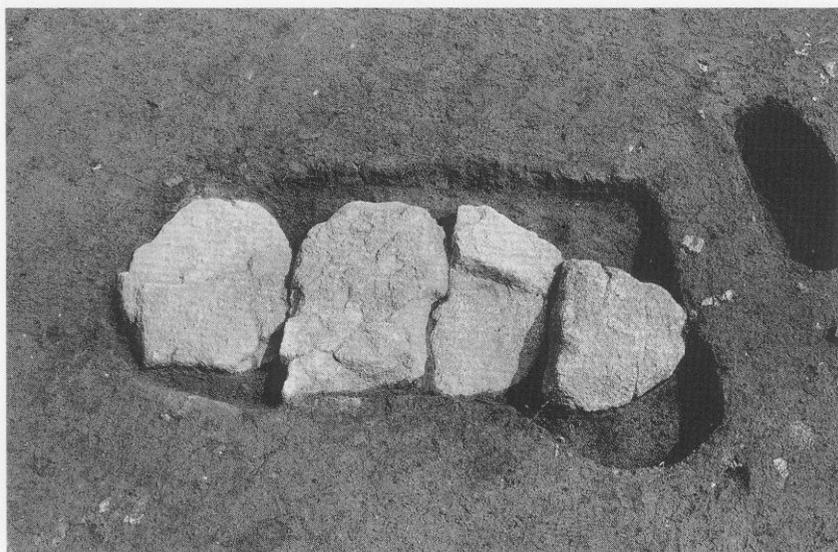
5号石盖土墳墓



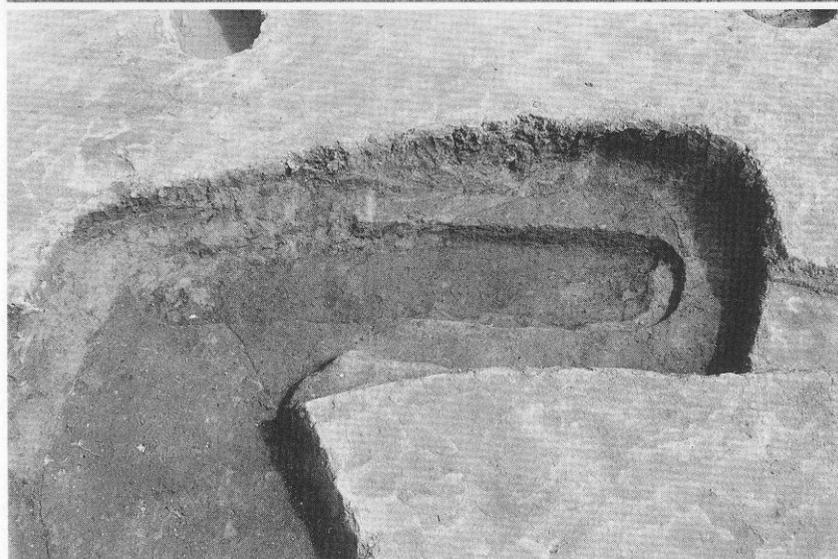
6号石盖土墳墓



7号石盖土墳墓



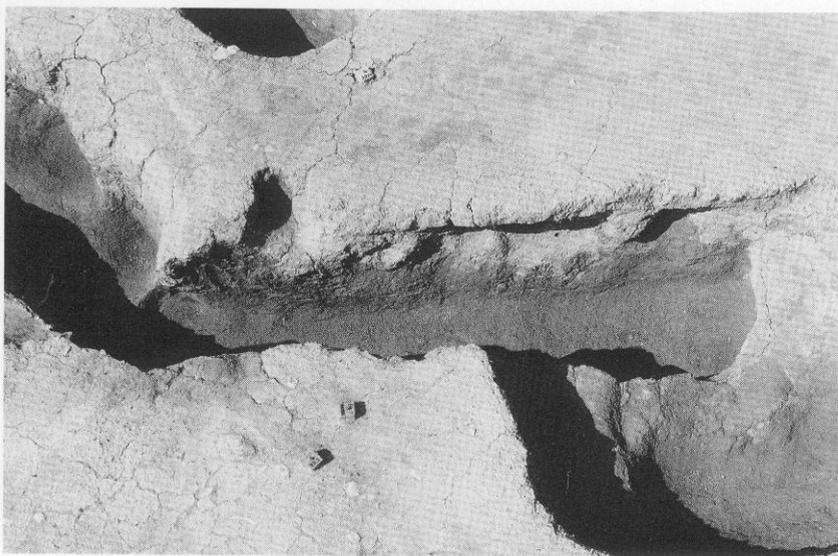
8号石盖土壙墓



9号石盖土壙墓



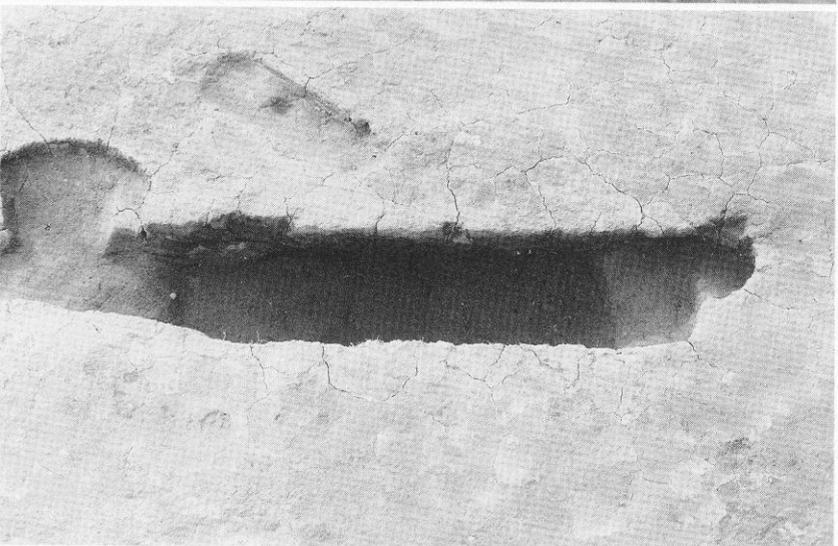
10号石盖土壙墓



11号石盖土壙墓



12号石盖土壙墓



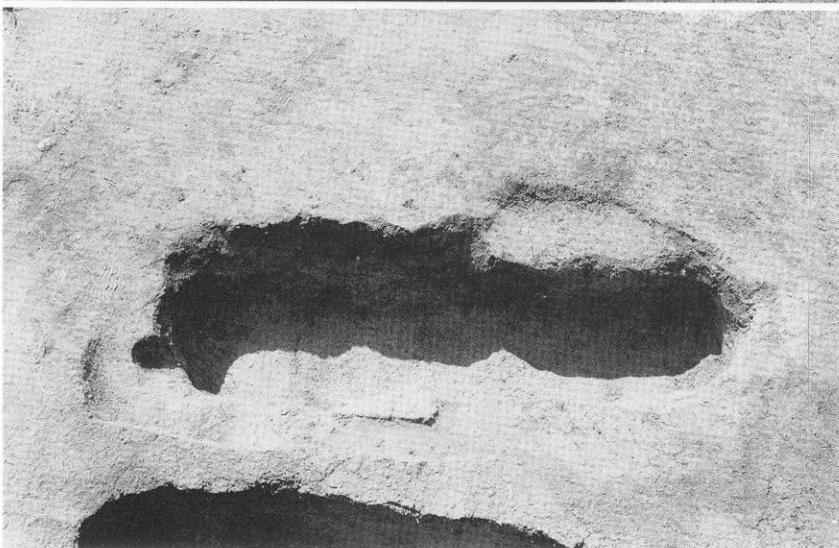
13号石盖土壙墓



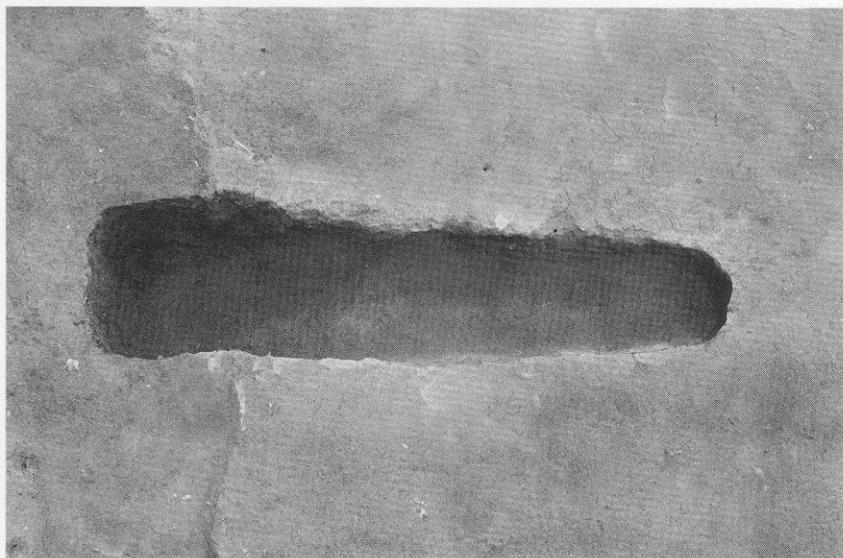
14号石蓋土墳墓



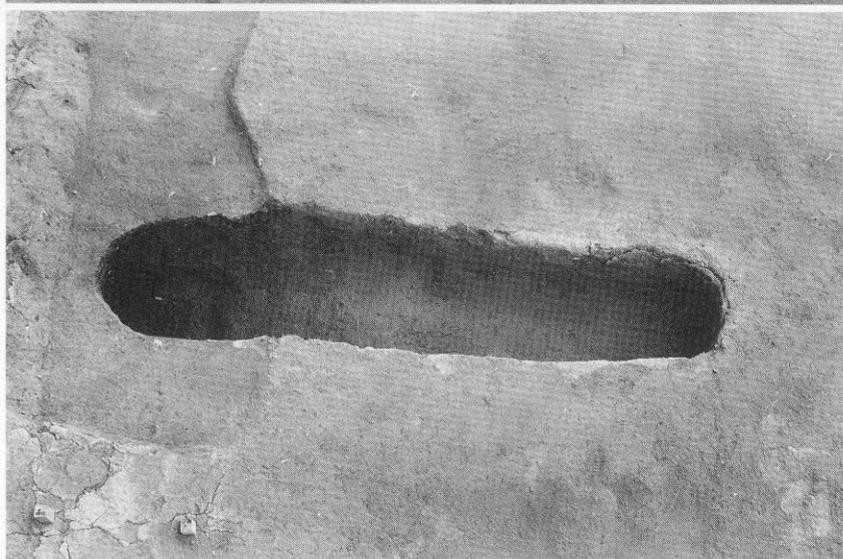
15号石蓋土墳墓  
(検出状況)



15号石蓋土墳墓  
(内部状況)



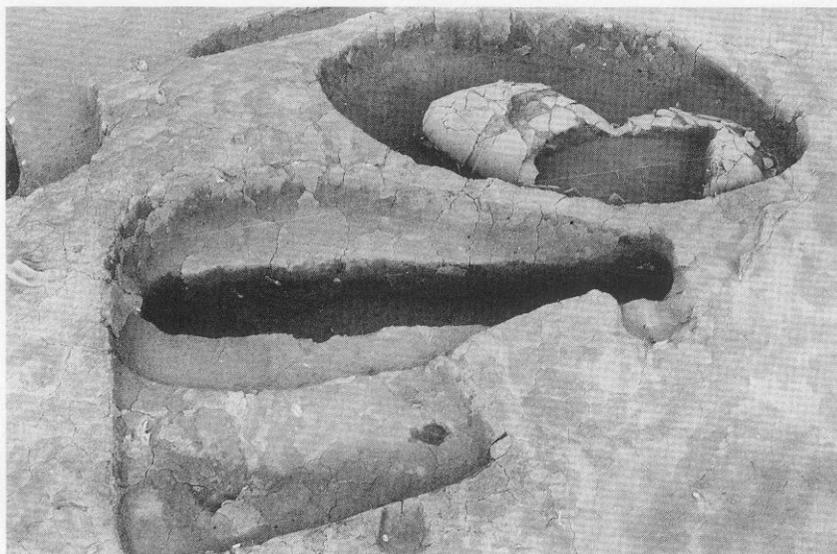
16号石盖土壤墓



17号石盖土壤墓



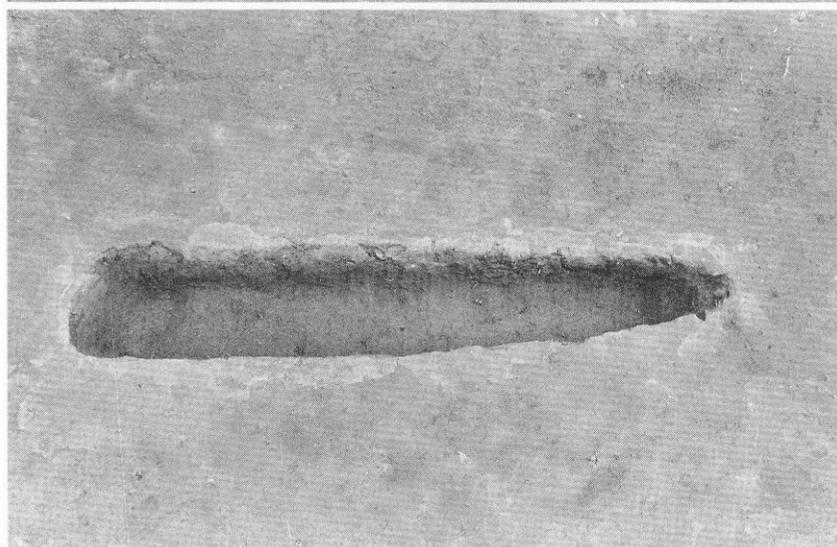
18号石盖土壤墓



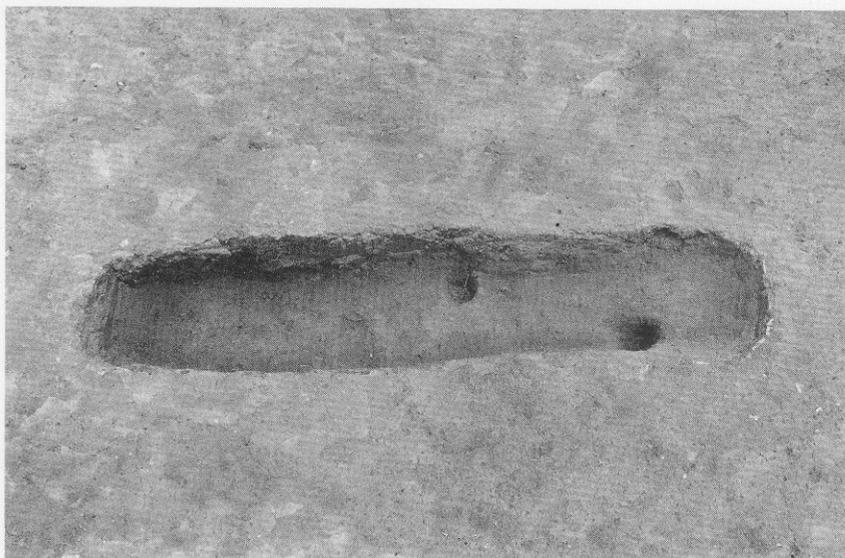
19号石盖土壙墓



20号石盖土壙墓



21号石盖土壙墓



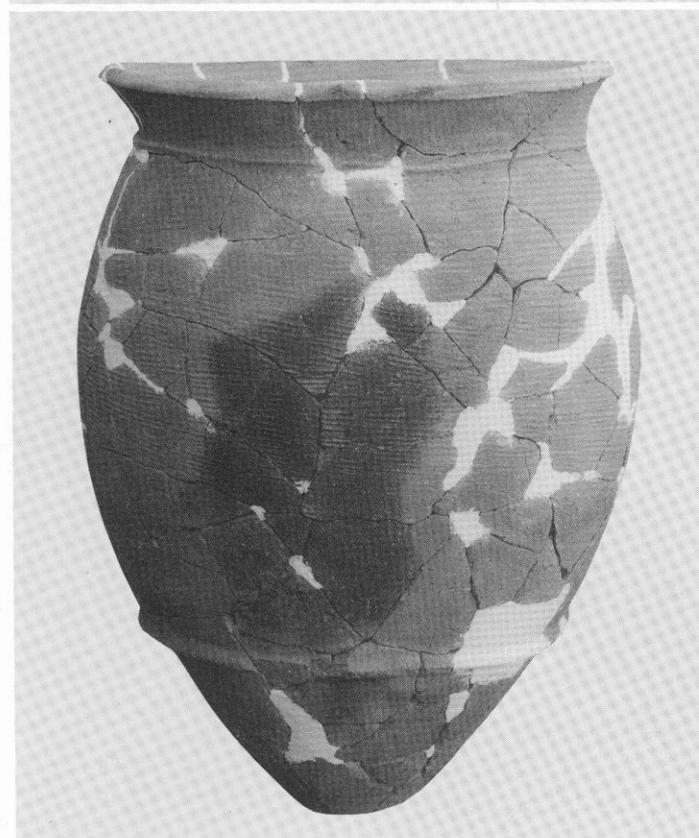
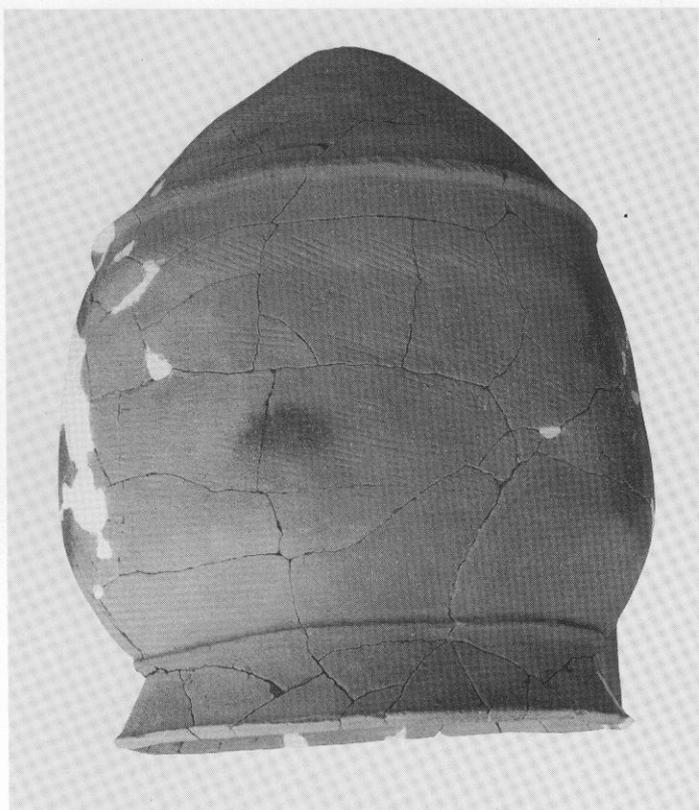
22号石蓋土壙墓



23号石蓋土壙墓  
(検出状況)

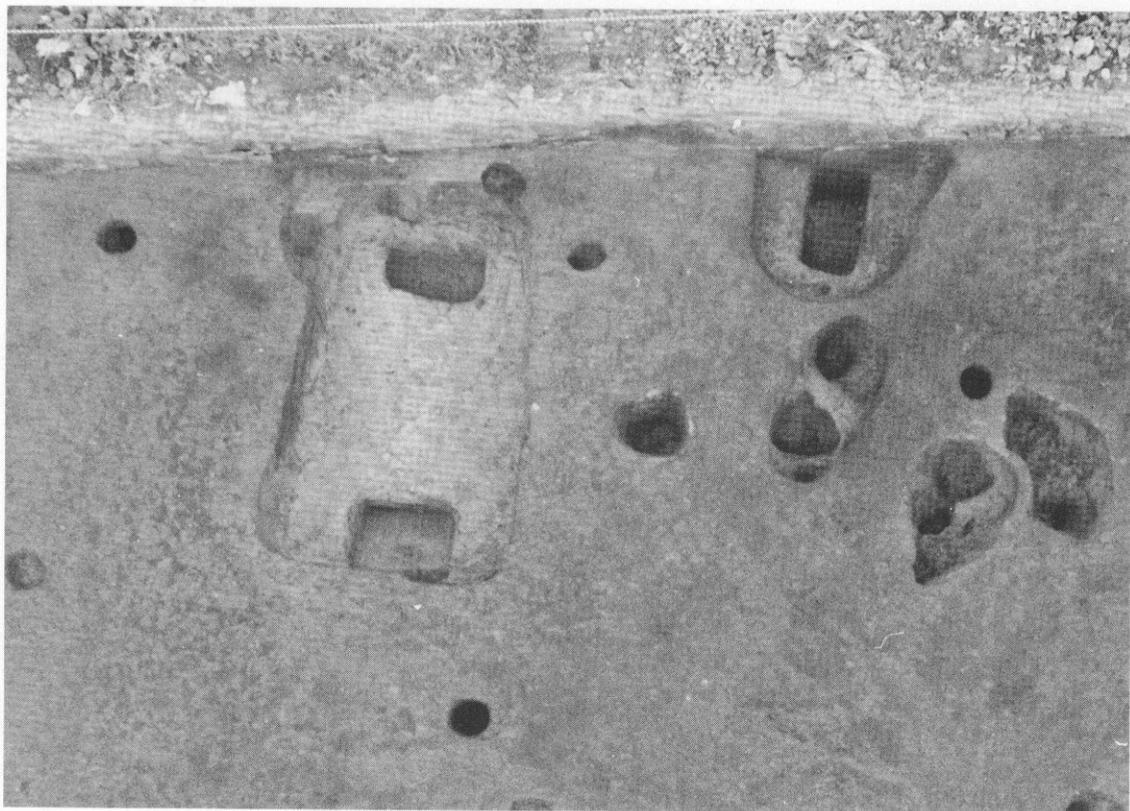


23号石蓋土壙墓  
(内部状況)





人形原遺跡全景



人形原遺跡1号・2号木棺墓

八ヶ坪遺跡(第10地点) 大島遺跡(第3・第4地点)  
中島遺跡(第1・第2地点) 人形原遺跡(第1地点)

筑紫野市文化財調査報告書  
第23集

平成2年3月31日

発行 筑紫野市教育委員会  
福岡県筑紫野市大字二日市753-1

印刷 株式会社 ぎょうせい

八ヶ坪遺跡(第10地点)

大島遺跡(第3・第4地点)

中島遺跡(第1・第2地点)

人形原遺跡(第1地点)

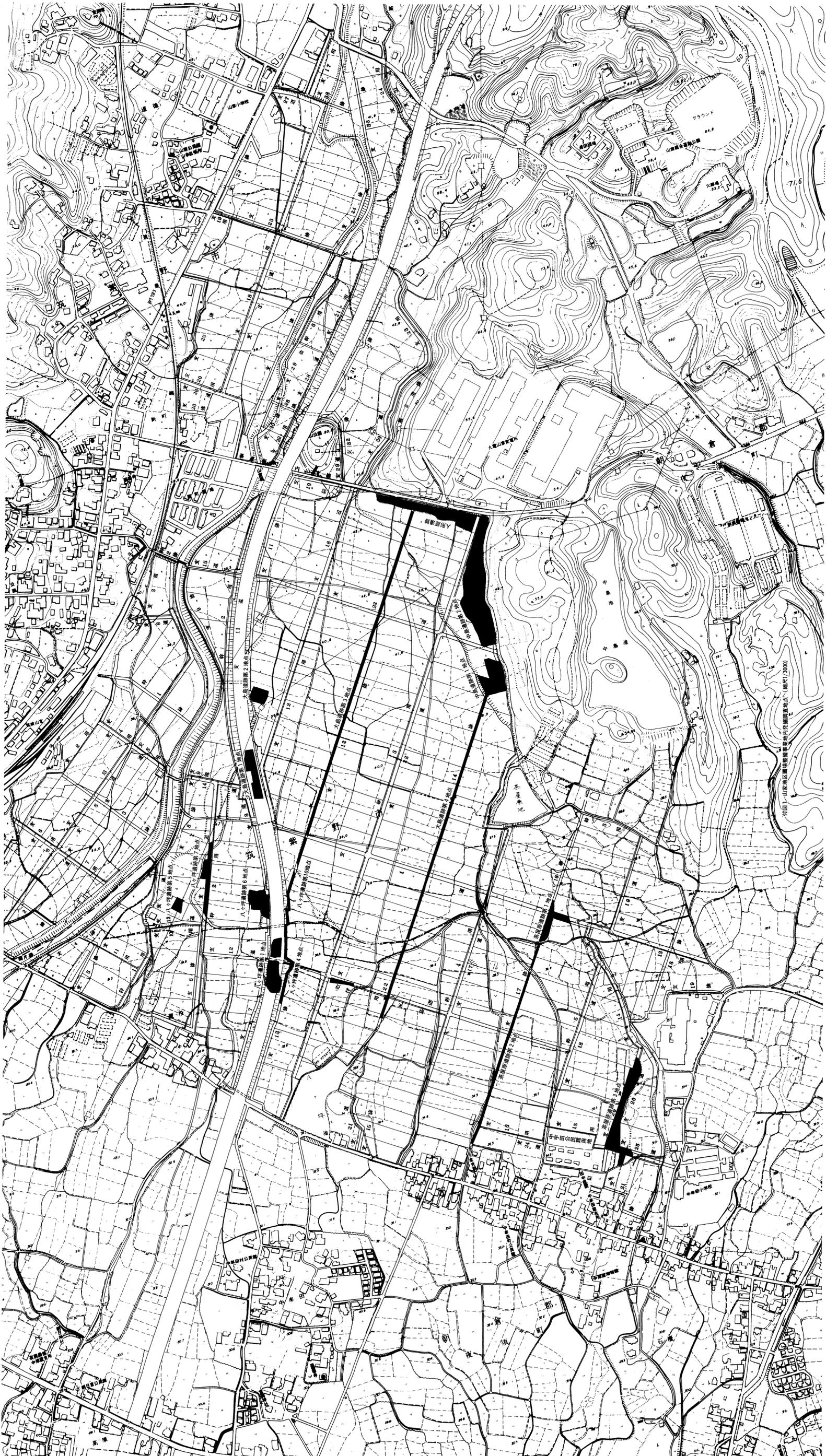
山家地区圃場整備事業関係  
埋蔵文化財調査報告書

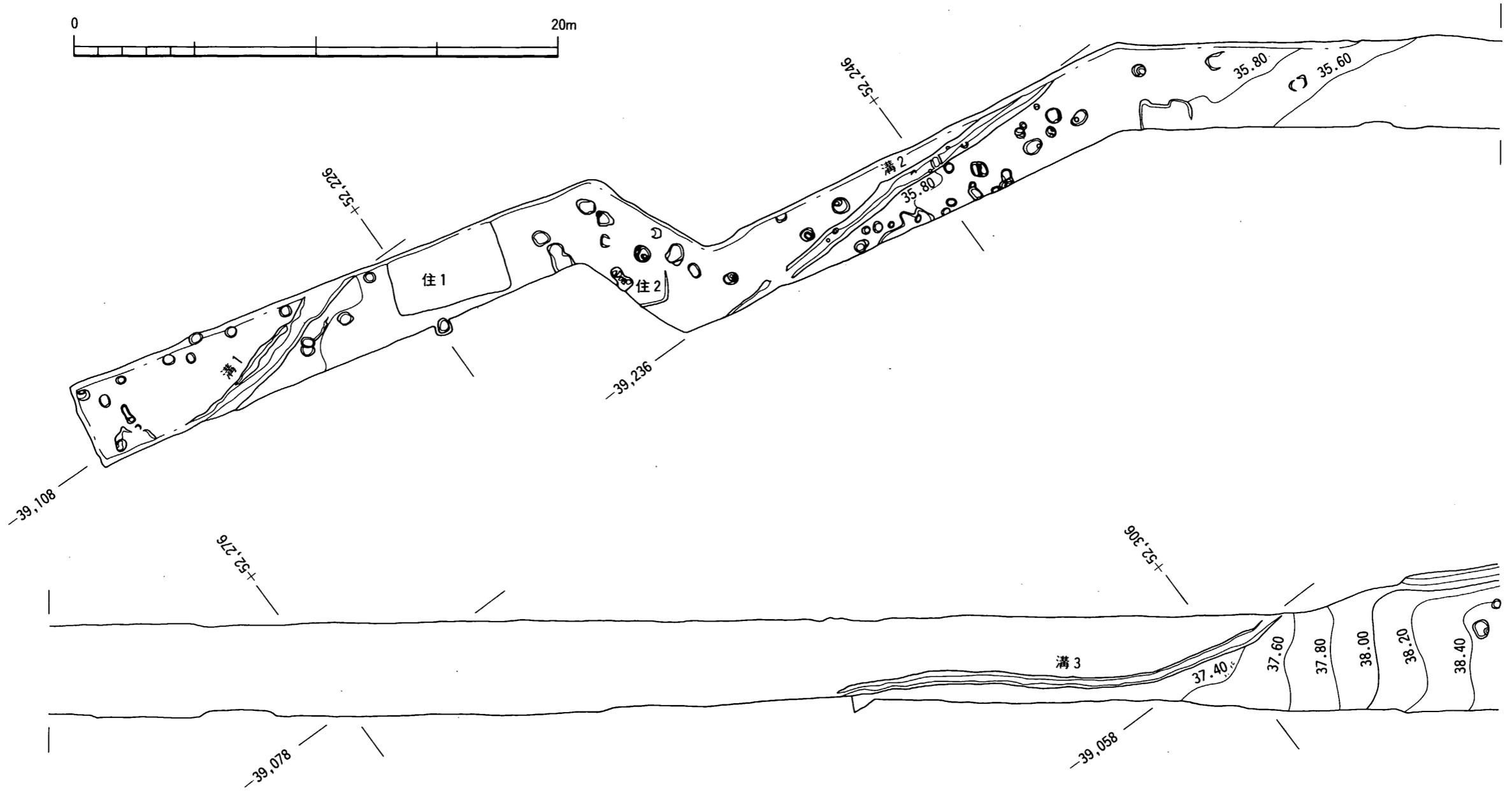
筑紫野市文化財調査報告書第23集

付 図

1990

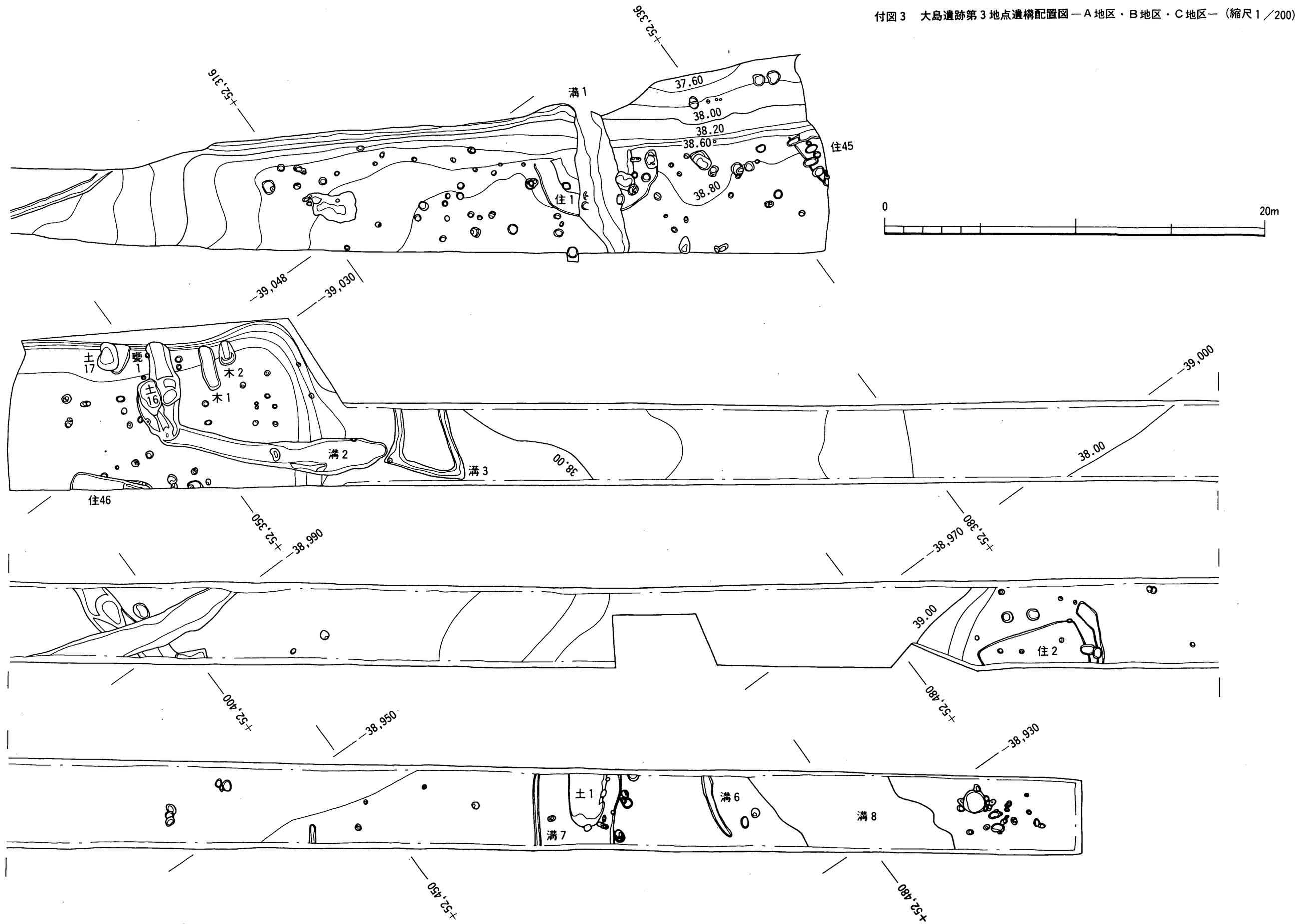
筑紫野市教育委員会

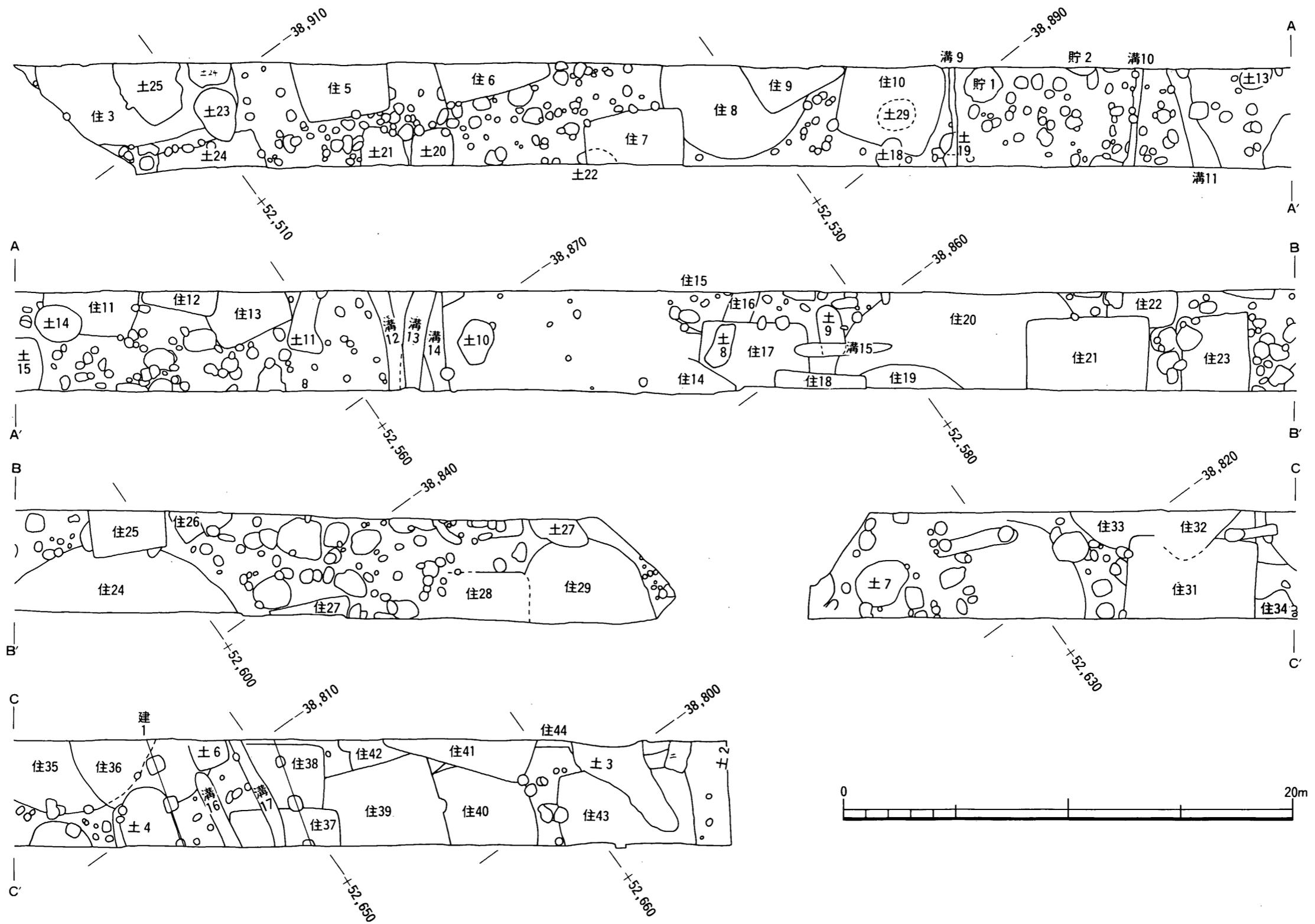




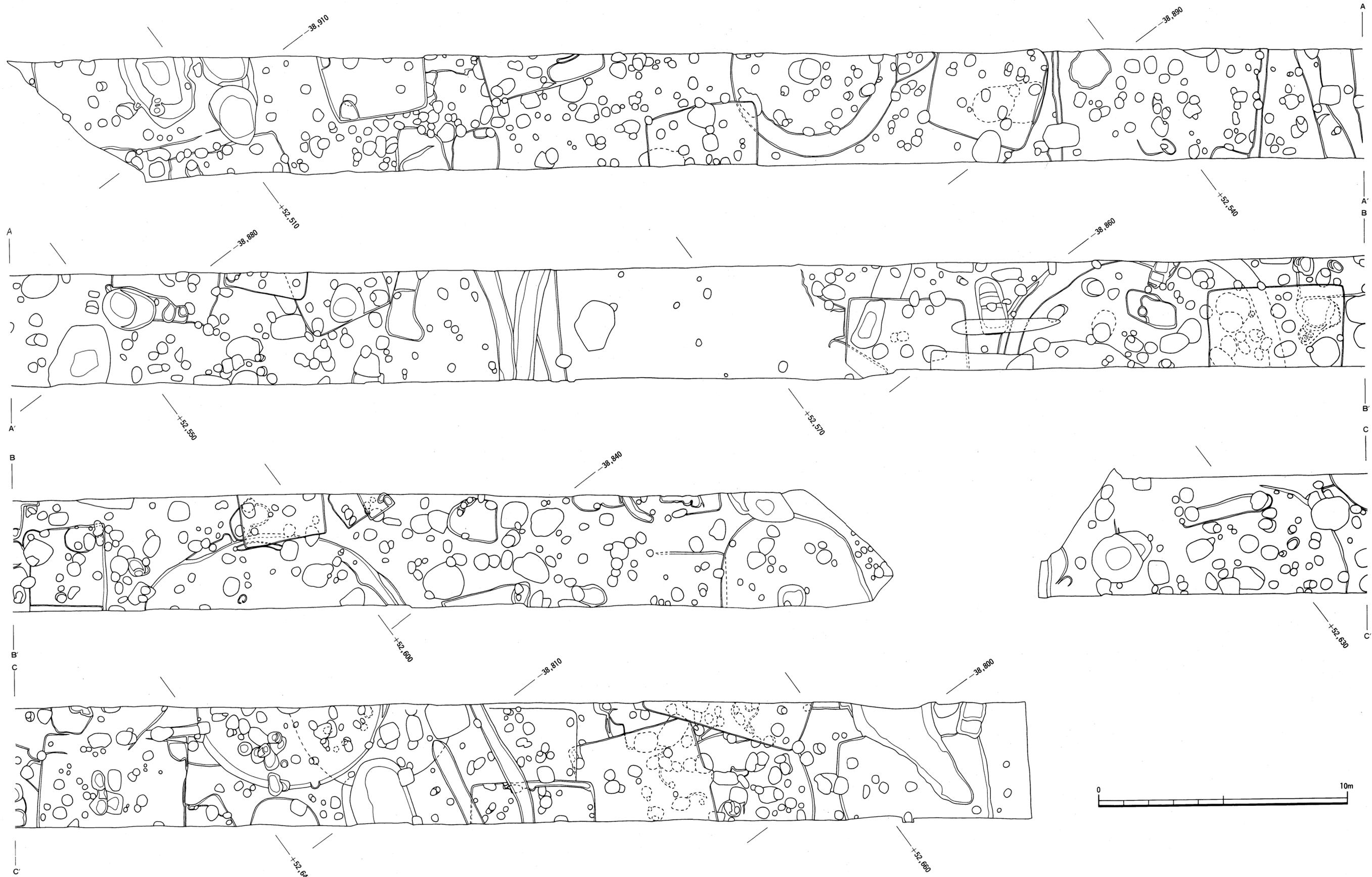
付図2 八ヶ坪遺跡第10地点遺構配置図 (縮尺1/200)

付図3 大島遺跡第3地点遺構配置図—A地区・B地区・C地区—(縮尺1/200)

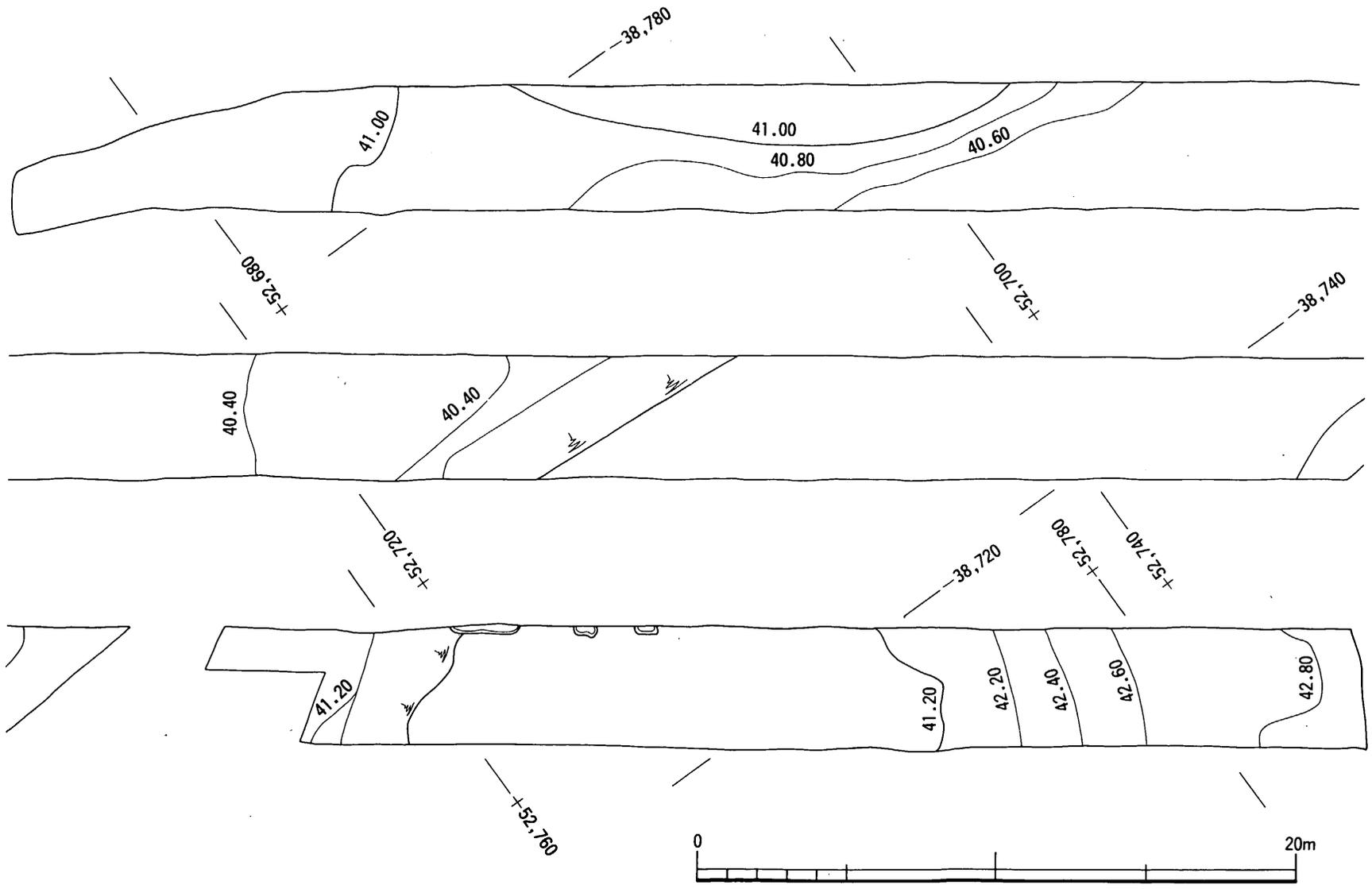




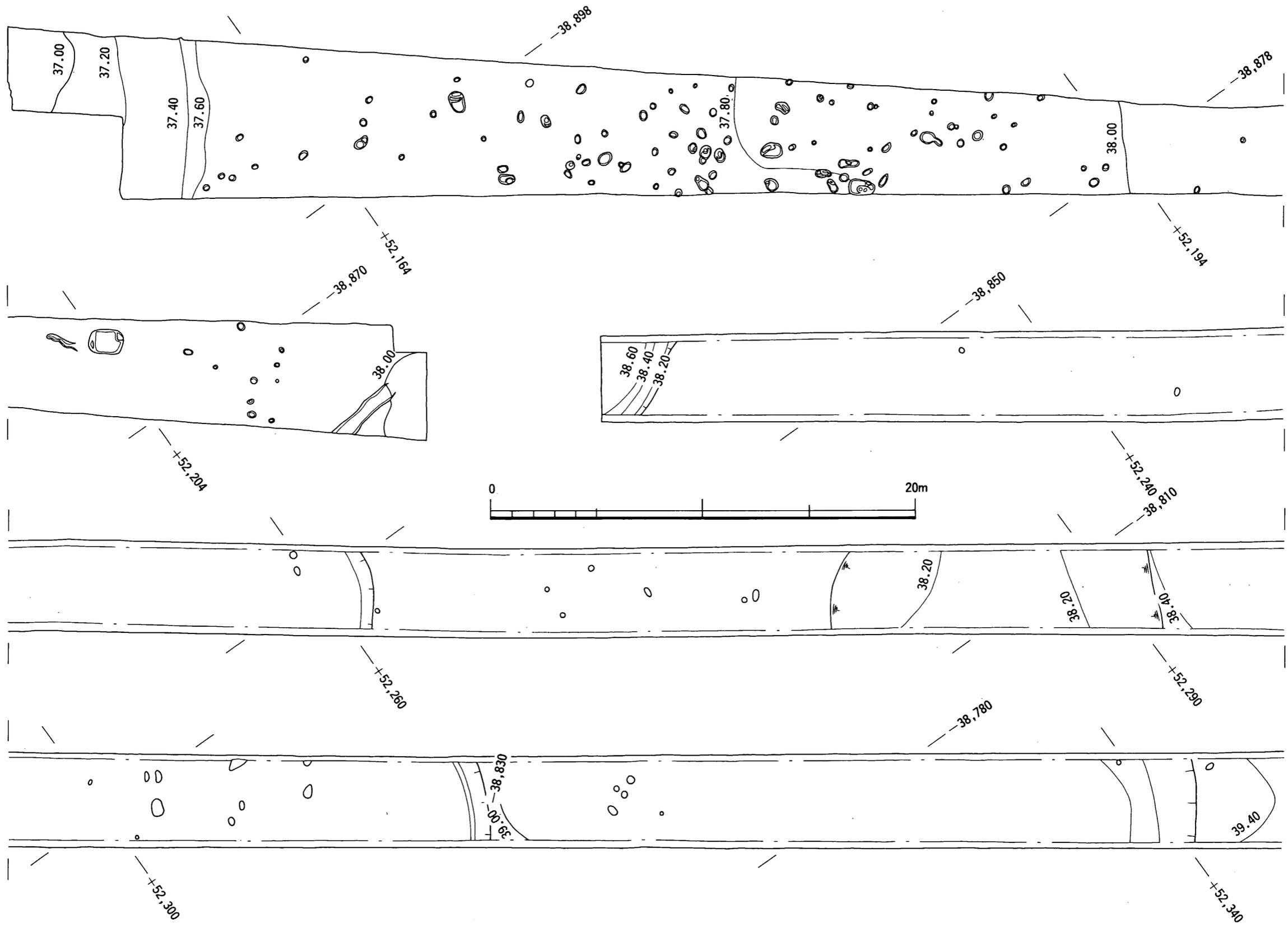
付図4 大島遺跡第3地点遺構配置図—D地区— (縮尺1/200)



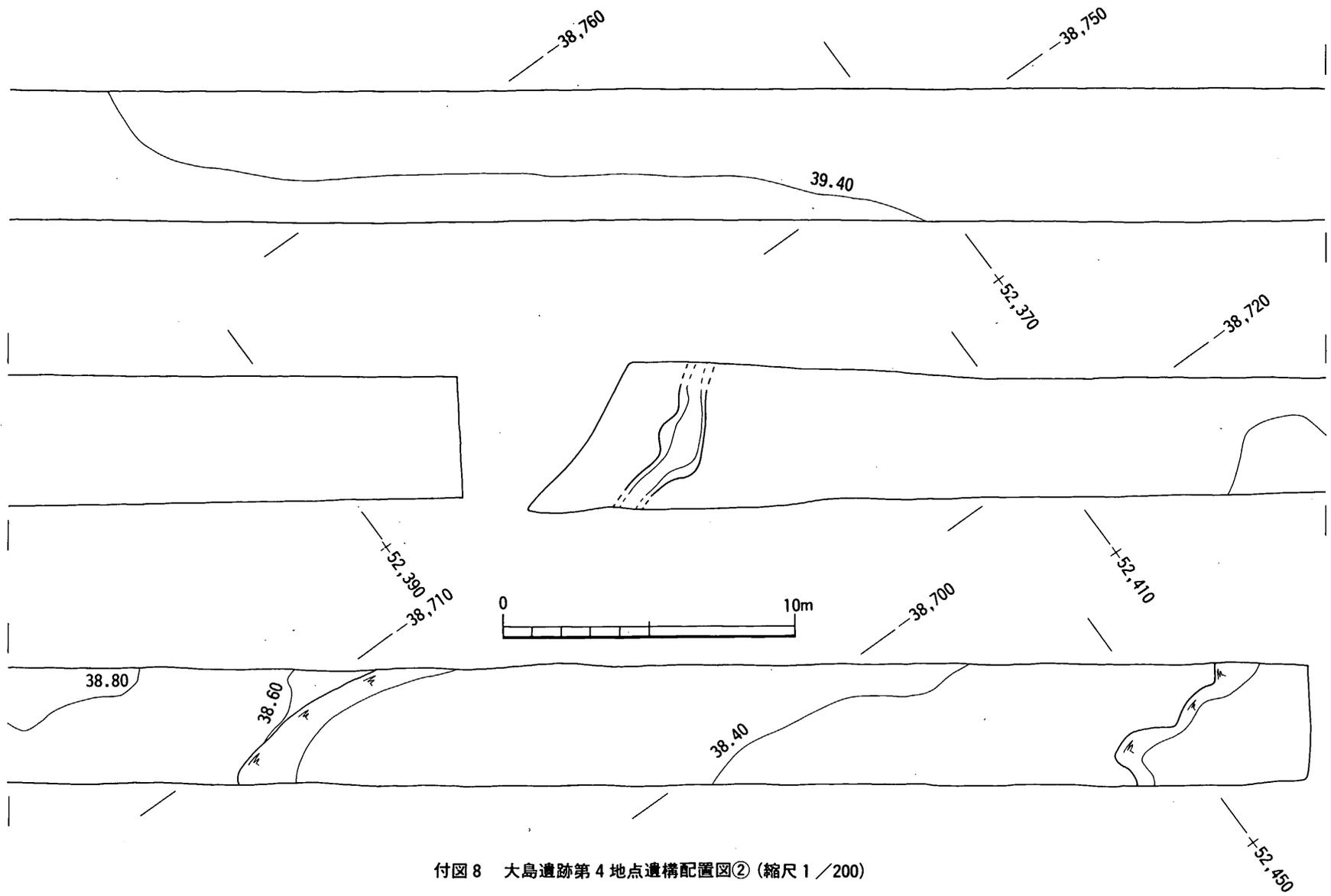
付図5 大島遺跡第3地点遺構図-D地区-(縮尺1/100)



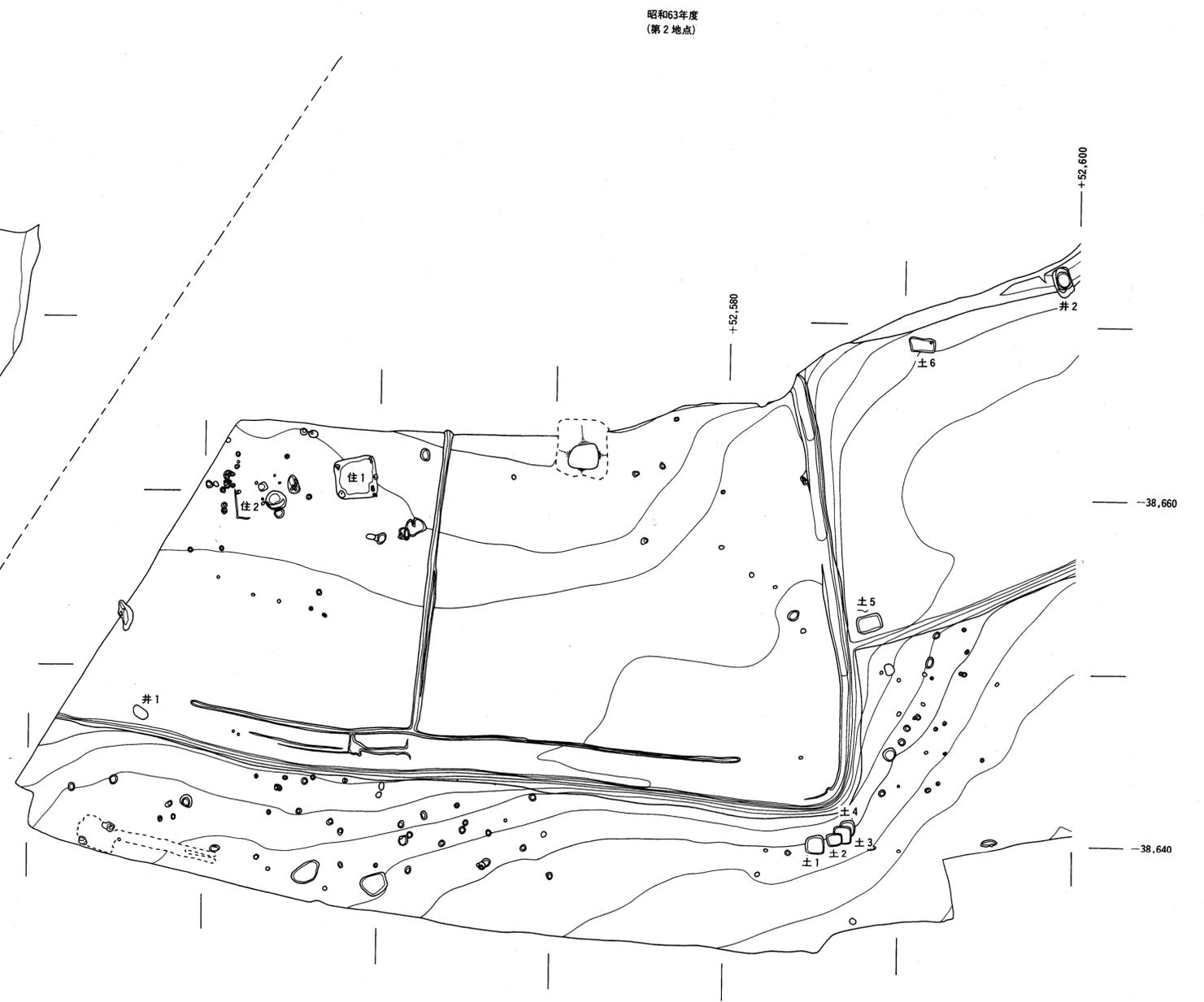
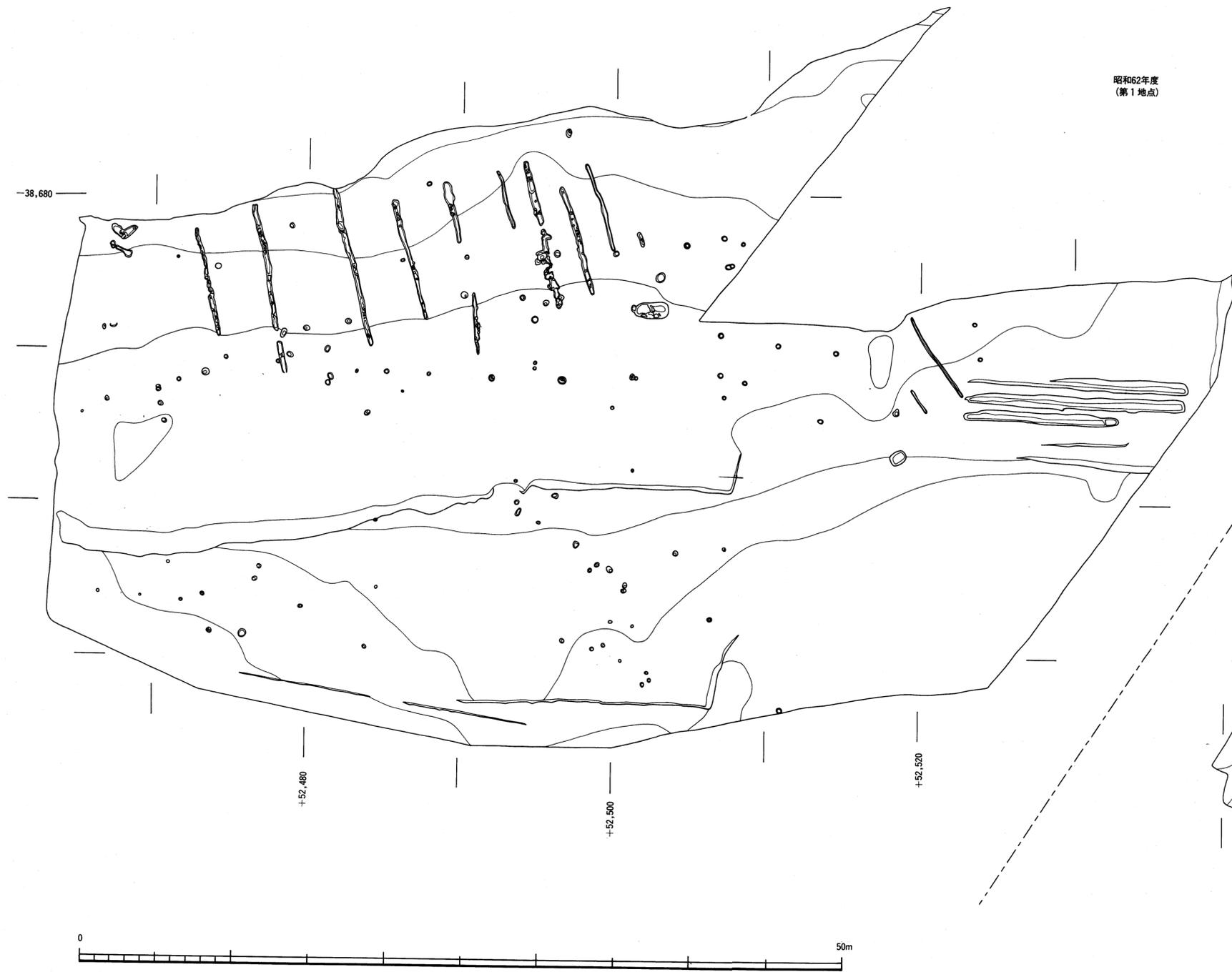
付図6 大島遺跡第3地点遺構配置図-E地区-(縮尺1/200)



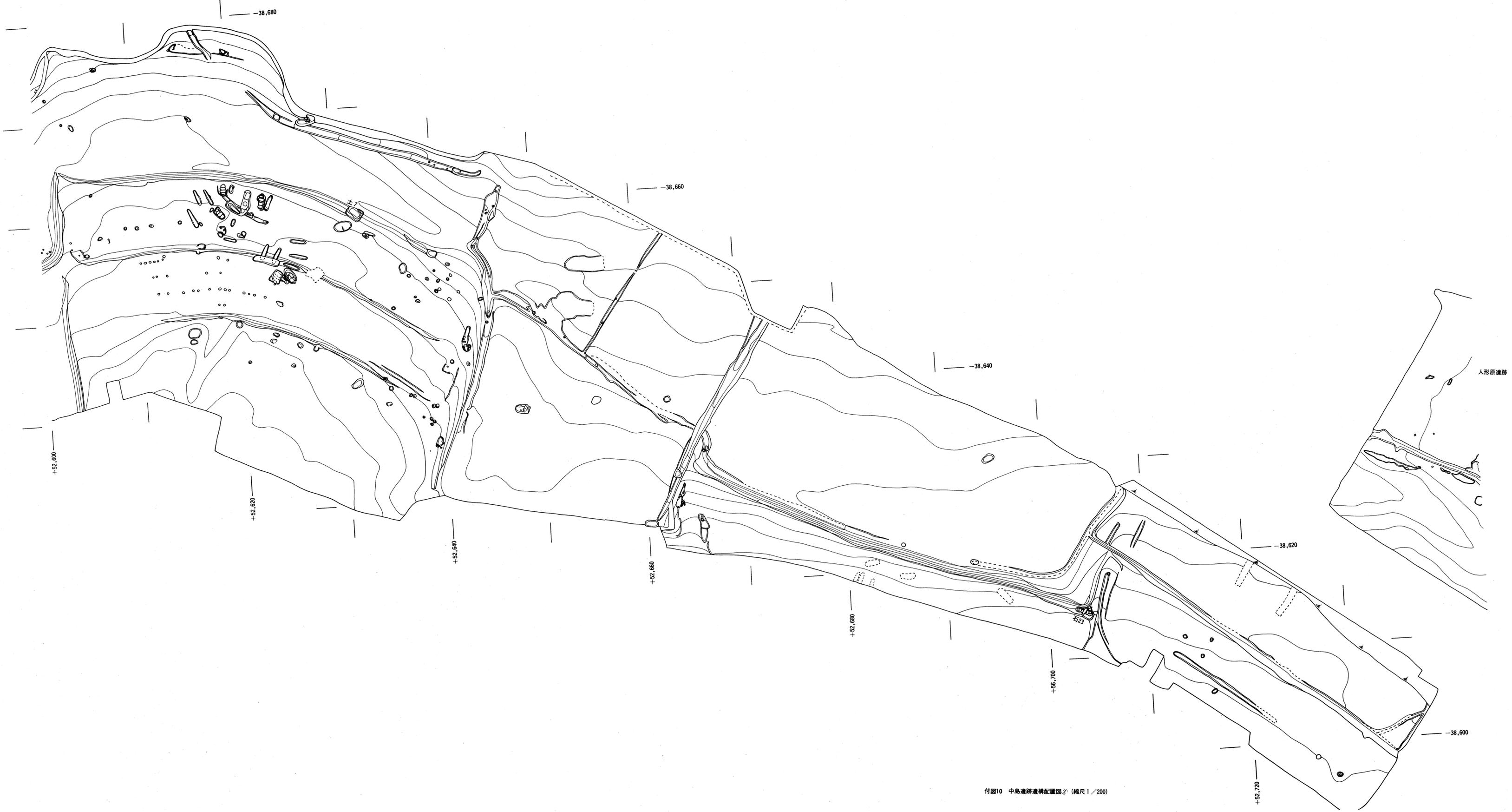
付図7 大島遺跡第4地点遺構配置図① (縮尺1/200)



付図8 大島遺跡第4地点遺構配置図②(縮尺1/200)

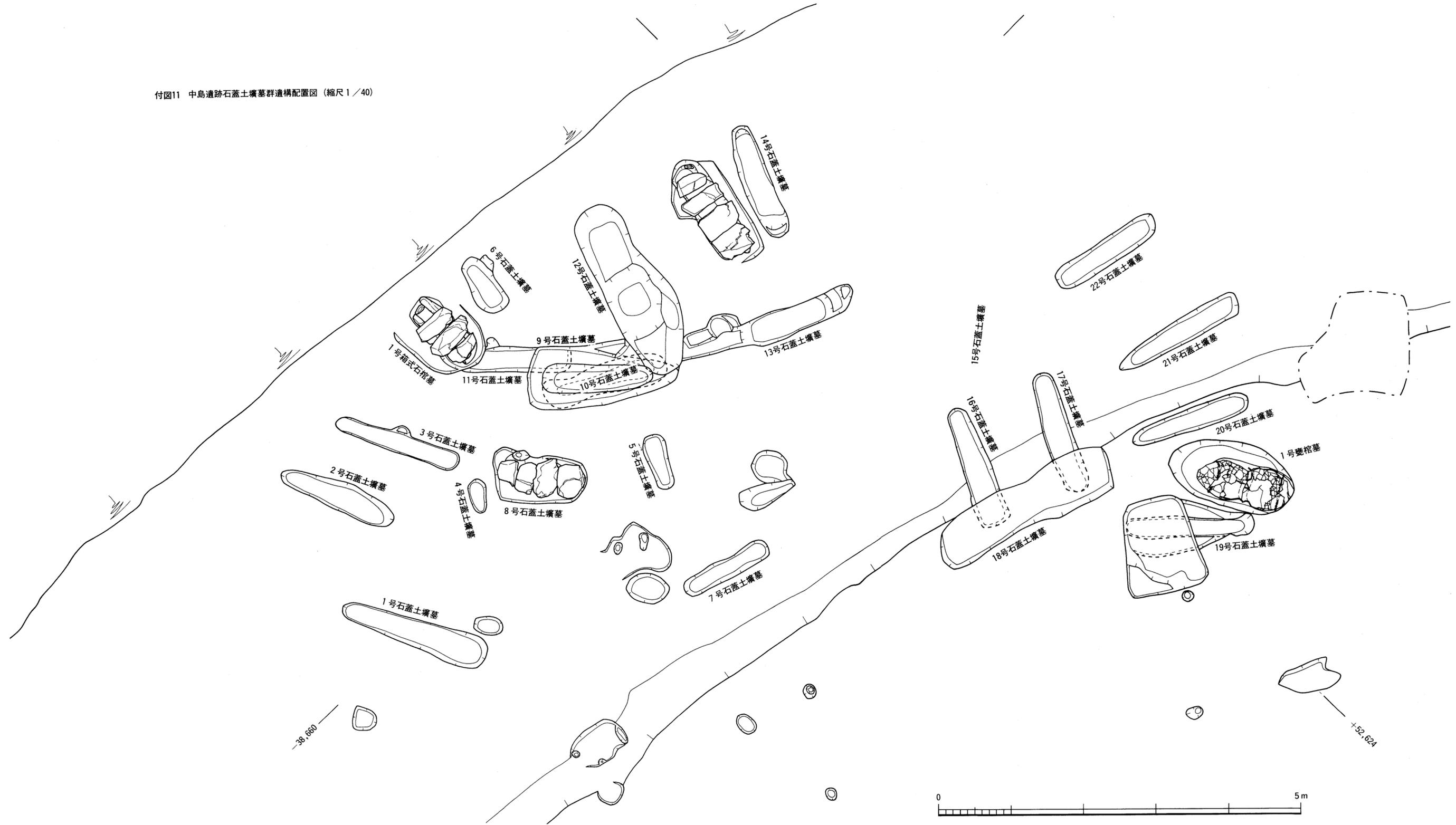


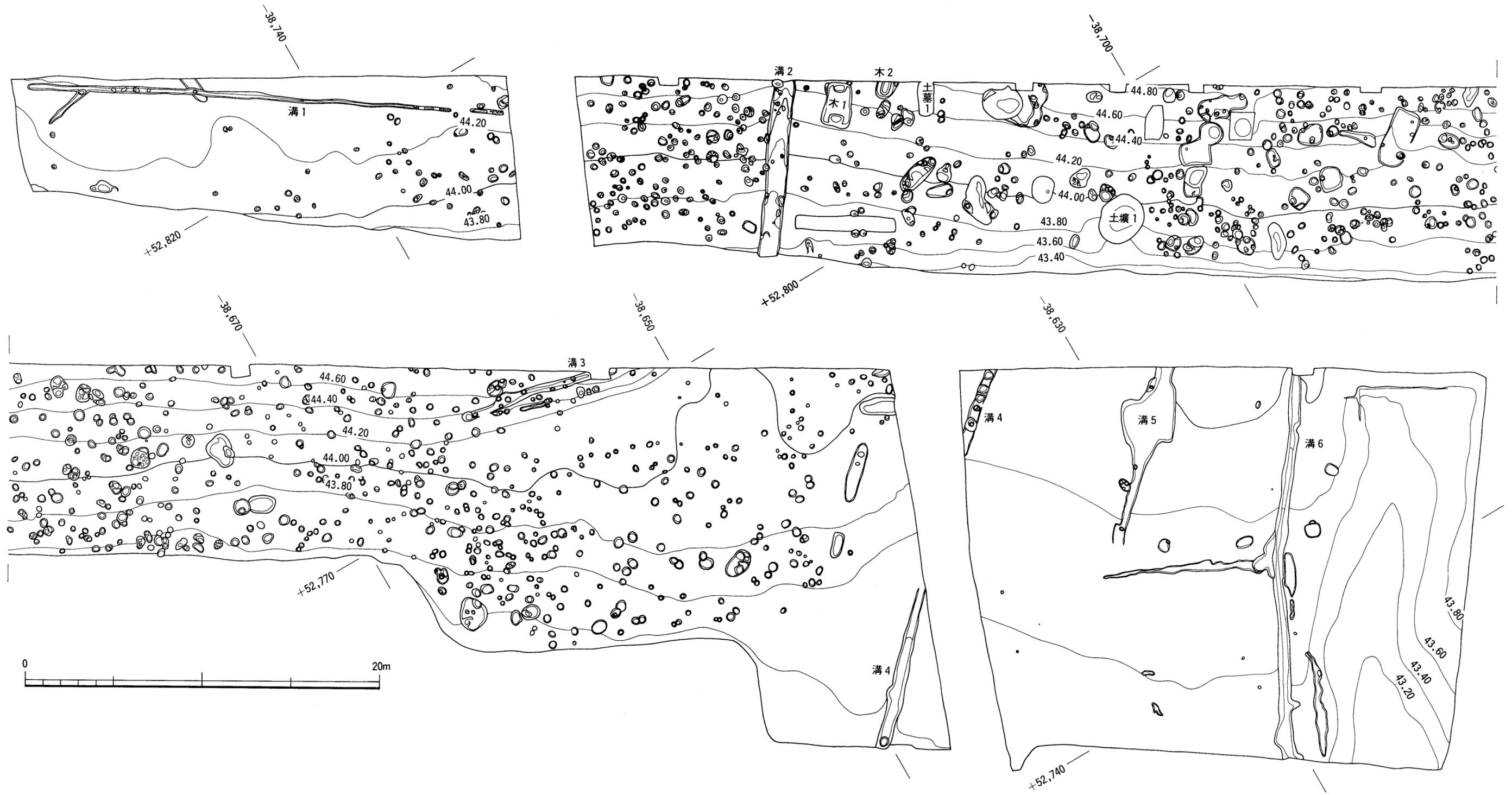
付図9 中島遺跡遺構配置図① (縮尺1/200)



付図10 中島遺跡遺構配置図2 (縮尺1/200)

付図11 中島遺跡石蓋土墳墓群遺構配置図 (縮尺1/40)





付図12 人形原遺跡遺構配置図 (縮尺1/200)